このたびは、スズキ キャリイ を
お買い求めいただきありがとうございます。

ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お車の取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよくお読みいただき、いつまでも快適なカーライフをお楽しみください。

- 本書は、お車の取扱いや万一のときの処置などについて説明しています。
- 「**必読！ 安全なドライブのために**」は、とくに重要な項目です。しっかりお読みください。
- 本書では、次の記号を使用しています。
  ⚠警告 、 ⚠注意 、 注 記 、 アドバイス は、とくにしっかりお読みください。

⚠警告	**取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害につながるおそれがある内容です。**
⚠注意	**取扱いを誤ると、傷害につながるおそれがある内容です。**
注 記	**取扱いを誤ると、物的損害につながるおそれがある内容です。**
アドバイス	お車を使ううえで知っておいていただきたい、または知っておくと便利な内容です。

- イラストの中で「✕」または「⃠」の記号があるときは、図示されている行為の禁止を示しています。

- 保証や点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。本書とあわせてお読みください。
- 本書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管してください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書とメンテナンスノートをお車につけてお渡しください。
- 限定車の装備品や、スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 車の仕様などの変更により、本書の内容やイラストとお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご不明な点は、担当セールススタッフにおたずねください。

本書の見かた

本ページは見本を使って本書の基本的な読みかたを説明しています。

ヘッダー
ページの内容を案内しています。

タイトル
階層により区別しています。

フォグランプ

タイプ別装備

タイプ別装備
お車のグレードなどにより装備の有無が異なる事を示しています。

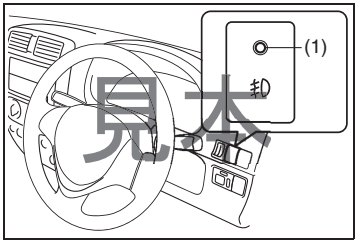
フォグランプスイッチ

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

参照先
関連する内容が記載されているページなどを案内しています。

→ 3-53ページ（ライトスイッチ）

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すと消灯します。



操作要領
装備の取扱いかたなどを説明しています。

3

章番号
各章の番号を案内しています。

注 記

バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

警告・注意・注記・アドバイス
前ページをお読みください。

お知りになりたいことをさがすときは

次のような方法で検索されますと、すばやくさがせます。

■ タイトルからさがす

- ♦ 総合目次
- ♦ 各章のはじめの目次
- ♦ ヘッダー

■ 取り付け位置、警告灯・表示灯からさがす

- ♦ イラスト目次 → **1-2ページ**

■ ブザー音からさがす

- ♦ 警告ブザーが鳴ったときは → **1-18ページ**

■ 名称からさがす

- ♦ さくいん → **9-1ページ**

■ 4WD車特有の記載をさがす

- ♦ 4WD車を運転するときは → **2-28ページ**
- ♦ タイヤチェーン → **6-17ページ**
- ♦ けん引してもらうときは → **7-42ページ**

■ オイルや、交換部品をさがす

- ♦ お車との上手なつきあいかた → **6-1ページ**
- ♦ 万一のとき → **7-1ページ**
- ♦ サービスデータ → **8-1ページ**

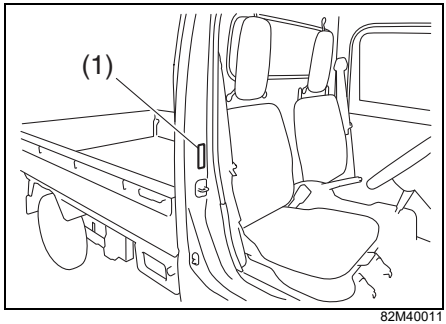
ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、IDプレートをご覧ください。

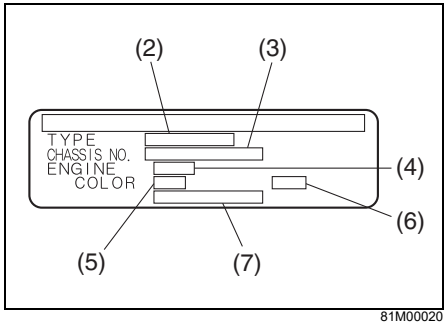
ご　愛　車　の　メ　モ	
車名および車両型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	
車体色記号	
営業機種記号	
トランスミッション	
ナンバープレート（車両番号）	
ご購入年月日	年　月　日

IDプレート（1）

運転席ドアを開いた所に貼付してあります。



82M40011



81M00020

(2) 車両型式　　(3) 車台番号
(4) エンジン型式　(5) 車体色記号
(6) 車体色と内装色の組み合わせコード
(7) 機種記号

データの記録について

この車には、車両の制御や操作に関するデータを記録するコンピュータが装備されており、主に以下のデータを記録します。

データの種類について

- エンジンの回転数など、エンジンの状態
- ギヤポジションなど、変速機の状態
- アクセル、ブレーキ、シフトポジションなど、操作の状態
- 各種コンピュータシステムの故障に関する情報
- SRSエアバッグ作動に関する情報
  (イベントデータレコーダー(EDR)に記録されます。EDR はEvent Data Recorderの略です。)
  → **3-28ページ（SRSエアバッグ）**

アドバイス

- お車のタイプにより、記録されるデータは異なります。
- 会話などの音声は記録しません。
- 使用条件などにより、データが記録されない場合があります。

データの開示について

スズキおよびスズキが委託した第三者は、コンピュータに記録されたデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、スズキおよびスズキが委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令そのほか法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

MEMO

総 合 目 次

1 クイックガイド

イラスト目次 ····· 1-2
警告ブザーが鳴ったときは ····· 1-18
よくあるご質問（Q & A） ····· 1-21

2 必読！ 安全なドライブのために

必読！ 安全なドライブのために ····· 2-2

3 運転する前に

ドアの開閉 ····· 3-2
各部の開閉 ····· 3-6
各部の調節 ····· 3-14
シートの調節 ····· 3-15
シートベルト ····· 3-17
SRSエアバッグ ····· 3-28
メーター ····· 3-36
スイッチの使いかた ····· 3-62

4 運転するときは

エンジン始動・停止 ····· 4-2
アイドリングストップシステム ····· 4-6
パーキングブレーキ ····· 4-12
チェンジレバー ····· 4-12
オートマチック車 ····· 4-14
4WD車 ····· 4-25

ESP® ····· 4-31
ヒルホールドコントロール ····· 4-38
スズキセーフティサポート ····· 4-40

5 装備の取扱い

エアコン、ヒーター ····· 5-2
オーディオ ····· 5-8
そのほかの装備 ····· 5-28

6 お車との上手なつきあいかた

お手入れ ····· 6-2
寒冷時の取扱い ····· 6-11

7 万一のとき

パンク ····· 7-2
バッテリーあがり ····· 7-18
ヒューズ切れ ····· 7-21
電球切れ ····· 7-25
オーバーヒート ····· 7-38
そのほか ····· 7-40

8 サービスデータ

サービスデータ ····· 8-1

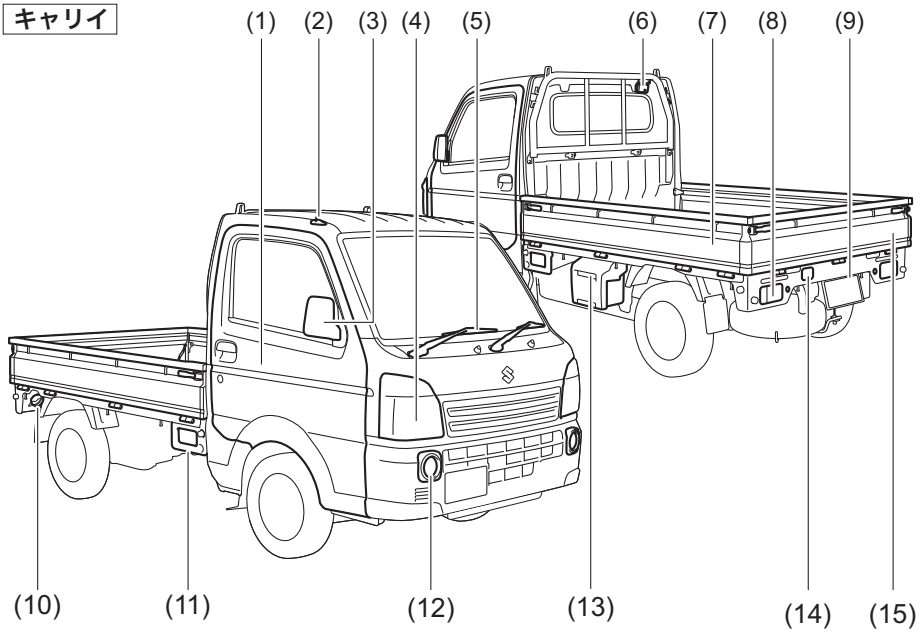
9 さくいん

さくいん ····· 9-1

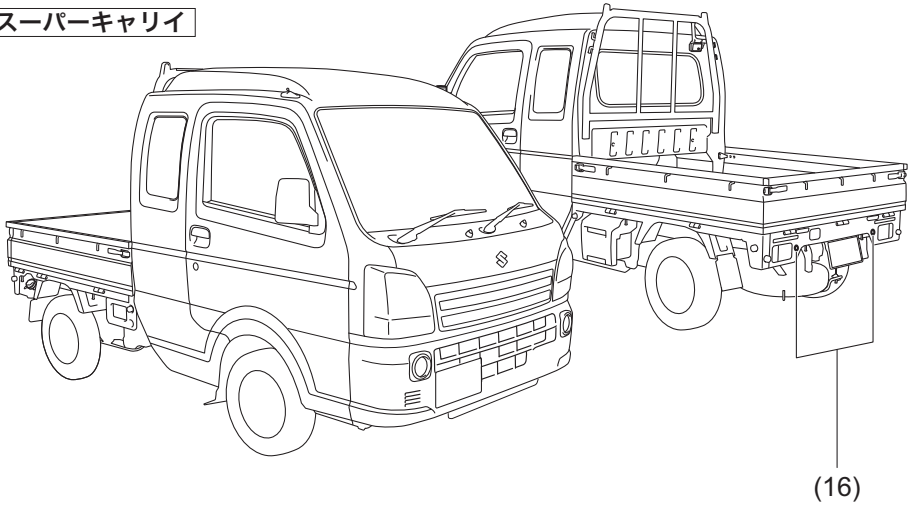
イラスト目次

■ 外観

キャリイ



スーパーキャリイ



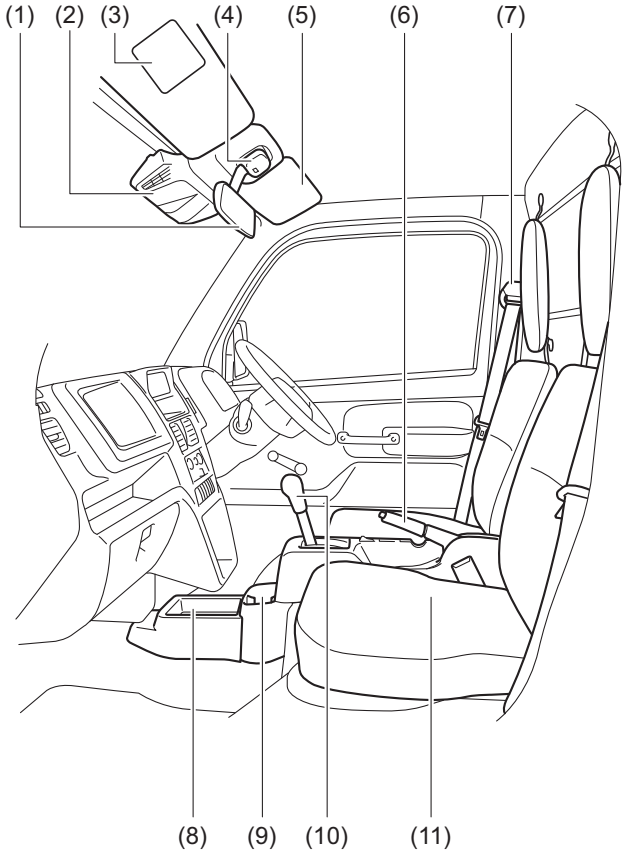
63S10110

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) ドア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-3
(2) アンテナ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-8
(3) ドアミラー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-14
(4) ヘッドライト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-62、7-25
(5) フロントワイパー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-68、6-9
(6) 作業灯スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-69、7-36
(7) サイドゲート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-12
(8) リヤコンビネーションランプ ・・・・・・・・・・・・ 7-34
(9) 番号灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-36
(10) 燃料給油口(フューエルキャップ) ・・・・・・・・・・ 5-28
(11) 荷台ステップ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-35
(12) フォグランプ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-65、7-28
(13) バッテリーカバー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-18
(14) 後退灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-35
(15) リヤゲート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-11
(16) 超音波センサー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-66

1

■ 内装1



63S10021

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

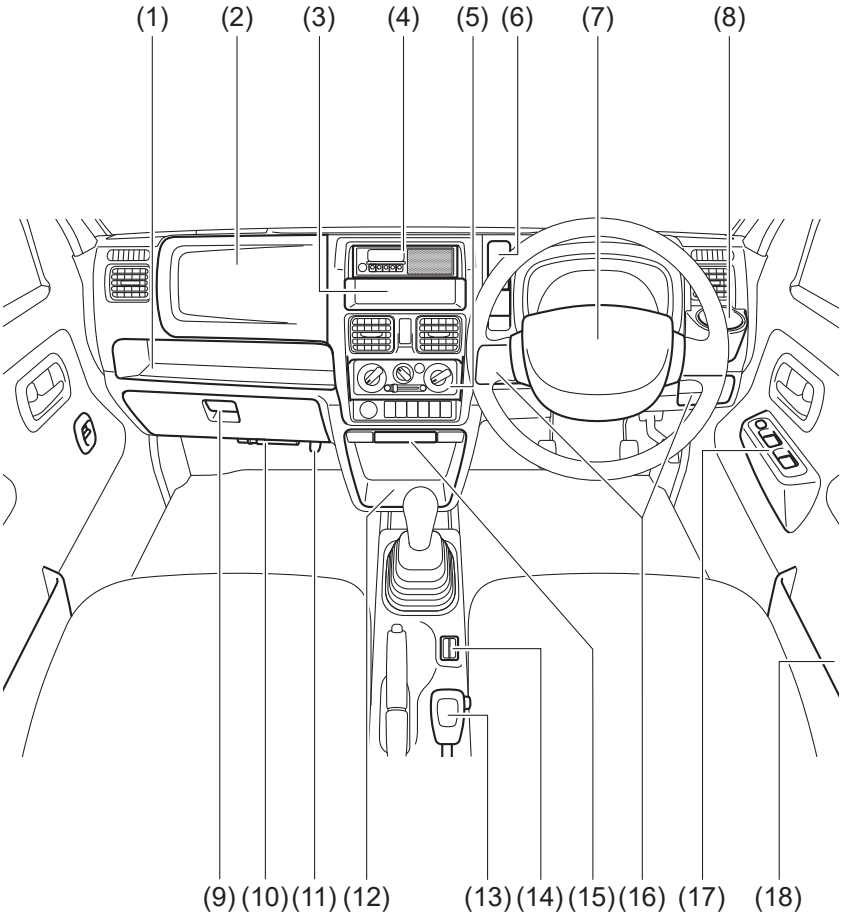
(1) ルームミラー ····· 3-14
(2) ステレオカメラ ····· 4-41
(3) 助手席SRSエアバッグに関する
警告ラベル(※1、※2) ····· 2-27
(4) 室内灯 ····· 5-38
(5) サンバイザー ····· 5-36
(6) パーキングブレーキ ····· 4-12
(7) シートベルト ····· 3-17
(8) フロアトレー ····· 5-42
(9) ドリンクホルダー ····· 5-41
(10) セレクトレバー(オートマチック車) ····· 4-14
チェンジレバー(マニュアル車) ····· 4-12
クラッチスタートシステム(マニュアル車) ····· 4-4
(11) シート ····· 3-15

※1 お子さま用シートをご使用になる前に、必ずお読みください。
※2 前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。



72M00150

■ 内装2

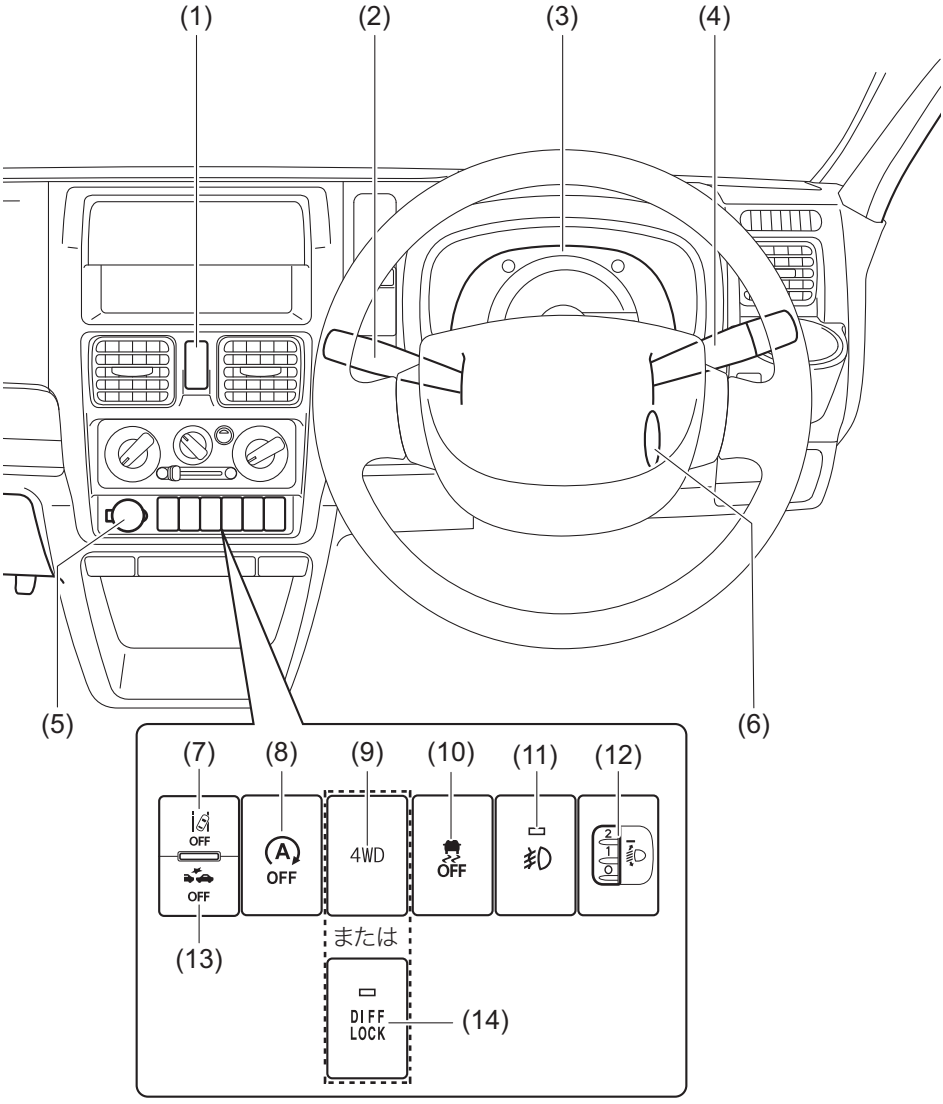


63S10101

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) インパネトレー(助手席) ····· 5-39
(2) 助手席SRSエアバッグ ····· 3-31
(3) インパネボックス ····· 5-39
(4) オーディオ ····· 5-8
(5) エアコン､ヒーター ····· 5-2
(6) ペンホルダー ····· 5-39
(7) 運転席SRSエアバッグ ····· 3-30
ホーンスイッチ ····· 3-69
(8) ドリンクホルダー(運転席) ····· 5-41
(9) グローブボックス ····· 5-40
(10) 発炎筒 ····· 7-40
(11) ショッピングフック ····· 5-44
(12) インパネアンダーポケット ····· 5-39
(13) 4WD切替えレバー ····· 4-25
(14) コインホルダー ····· 5-44
(15) カードケース ····· 5-42
(16) インパネポケット ····· 5-39
(17) パワーウインドースイッチ ····· 3-6
(18) ドアポケット ····· 5-43

■ 運転席まわり

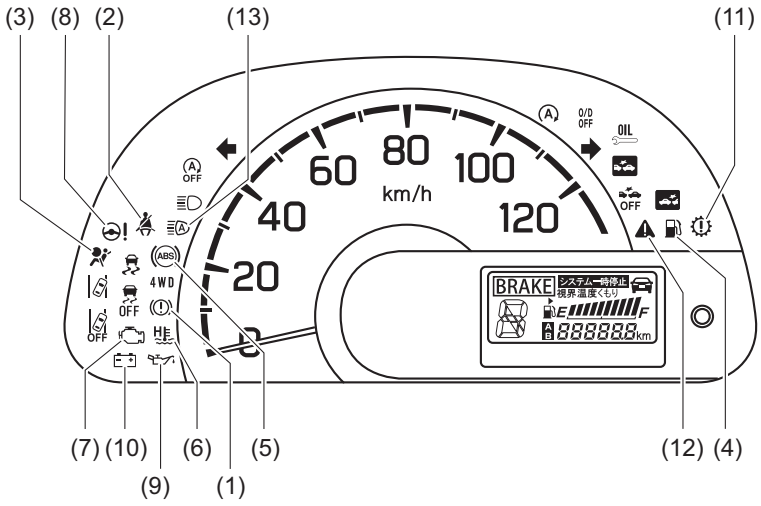


63S10121

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) 非常点滅表示灯スイッチ ····· 3-67
(2) ワイパー／ウォッシャースイッチ ····· 3-67
(3) メーター ····· 3-36
警告灯･表示灯 ····· 3-46
(4) ライトスイッチ ····· 3-62
方向指示器スイッチ ····· 3-66
(5) アクセサリーソケット ····· 5-45
(6) エンジンスイッチ ····· 4-2
(7) 車線逸脱警報OFFスイッチ ····· 4-66
(8) アイドリングストップシステムOFFスイッチ ····· 4-11
(9) 4WDスイッチ ····· 4-29
(10) ESP® OFFスイッチ ····· 4-33
(11) フォグランプスイッチ ····· 3-65
(12) 光軸調整ダイヤル ····· 3-65
(13) デュアルカメラブレーキサポート(DCBS) OFF スイッチ ····· 4-65
(14) デフロックスイッチ ····· 4-29

■ 警告灯



63S10130

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

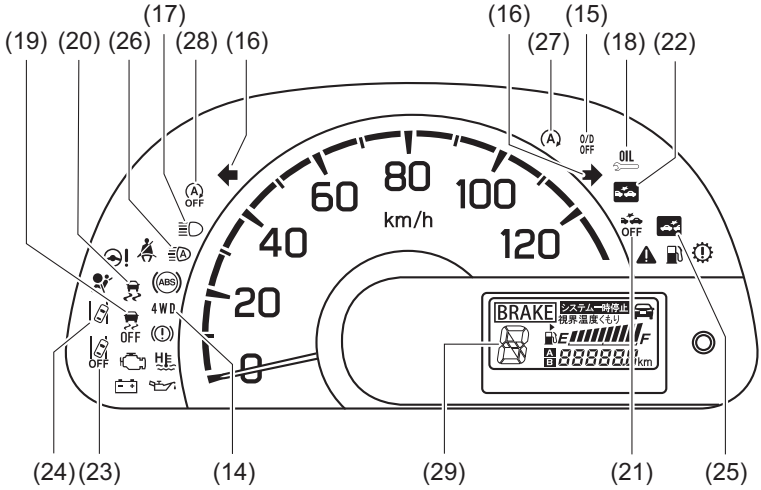
- 警告灯が点灯または点滅し続けた場合は、車両またはシステムの異常が考えられます。次の参照先をよくお読みのうえ、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  → **3-46ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

- ※ 印の警告灯は、エンジンスイッチを ON にしたときに初期点灯するのが正常です。(「ハイビームアシスト警告灯／ハイビームアシスト作動表示灯の初期点灯はオレンジ色に点灯します。）点灯しない場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- 「ハイビームアシスト警告灯（オレンジ色）／ハイビームアシスト作動表示灯（緑色)」は点灯する色で表示を切り替えています。

警告灯			色	警告灯名	参照先
(1)		※	赤	ブレーキ警告灯	**3-46 ページ**
(2)			赤	シートベルト警告灯	**3-47 ページ**
(3)		※	赤	SRSエアバッグ警告灯	**3-47 ページ**
(4)			オレンジ	燃料残量警告灯	**3-48 ページ**
(5)		※	オレンジ	ABS警告灯	**3-48 ページ**
(6)		※	赤	水温警告灯	**3-49 ページ**
(7)		※	オレンジ	エンジン警告灯	**3-49 ページ**
(8)		※	オレンジ	パワーステアリング警告灯	**3-50 ページ**
(9)		※	赤	油圧警告灯	**3-51 ページ**

警告灯			色	警告灯名	参照先
(10)		※	赤	充電警告灯	3-51 ページ
(11)		※	オレンジ	トランスミッション警告灯（オートマチック車）	3-52 ページ
(12)		※	オレンジ	マスターウォーニング（スズキ セーフティ サポート装備車）	3-52 ページ
(13)		※	オレンジ	ハイビームアシスト警告灯（スズキ セーフティ サポート装備車）	3-53 ページ

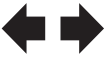
■ 表示灯・表示



63S10140

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

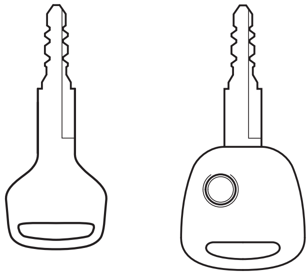
- ※ 印の表示灯は、エンジンスイッチを ON にしたときに初期点灯するのが正常です。(「ハイビームアシスト警告灯／ハイビームアシスト作動表示灯の初期点灯はオレンジ色に点灯します。）点灯しない場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- 「ハイビームアシスト警告灯（オレンジ色）／ハイビームアシスト作動表示灯（緑色)」は点灯する色で表示を切り替えています。
- アイドリングストップシステムには、特有の点灯条件があります。
  → **4-6ページ（アイドリングストップシステム）**

表示灯			色	表示灯名	参照先
(14)			緑	4WD表示灯（4WD車）	**3-54 ページ**
(15)			オレンジ	オーバードライブOFF表示（オートマチック車）	**4-17 ページ**
(16)			緑	方向指示器表示灯	**3-54 ページ**
(17)			青	ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯	**3-54 ページ**
(18)		※	オレンジ	エンジンオイル交換インジケーター	**3-55 ページ**
(19)		※	オレンジ	ESP® OFF表示灯	**3-56 ページ**
(20)		※	オレンジ	ESP® 作動表示灯	**3-56 ページ**
(21)		※	オレンジ	デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF表示灯（スズキ セーフティ サポート装備車）	**3-57 ページ**
(22)		※	オレンジ	デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯（スズキ セーフティ サポート装備車）	**3-57 ページ**
(23)		※	オレンジ	車線逸脱警報OFF表示灯（スズキ セーフティ サポート装備車）	**3-58 ページ**

表示灯			色	表示灯名	参照先
(24)		※	オレンジ	車線逸脱警報作動表示灯 （スズキ セーフティ サポート装備車）	3-58 ページ
(25)		※	オレンジ	後方誤発進抑制機能作動表示灯 （スズキ セーフティ サポート装備車）	3-59 ページ
(26)			緑	ハイビームアシスト作動表示灯 （スズキ セーフティ サポート装備車）	3-59 ページ
(27)		※	緑	アイドリングストップ表示灯 （アイドリングストップシステム装備車）	3-60 ページ
(28)		※	オレンジ	アイドリングストップシステムOFF表示灯（アイドリングストップシステム装備車）	3-60 ページ

表示		色	表示名	参照先
(29)	 （代表例）	黒	セレクトレバー位置表示 （オートマチック車）	3-61 ページ

■ キー



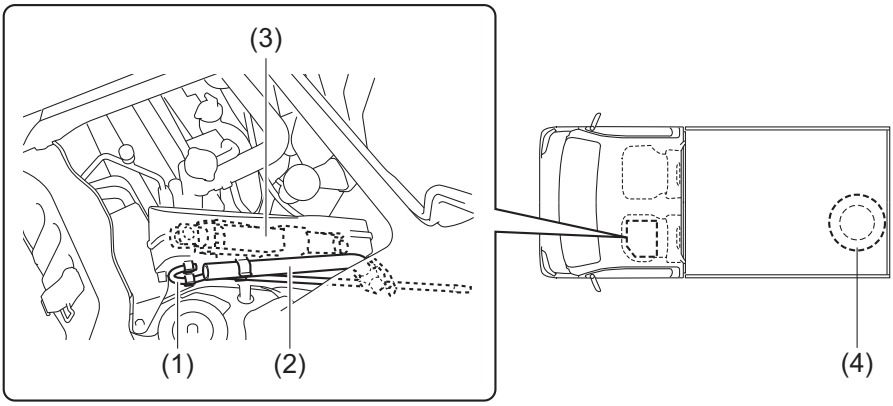
82M10060

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

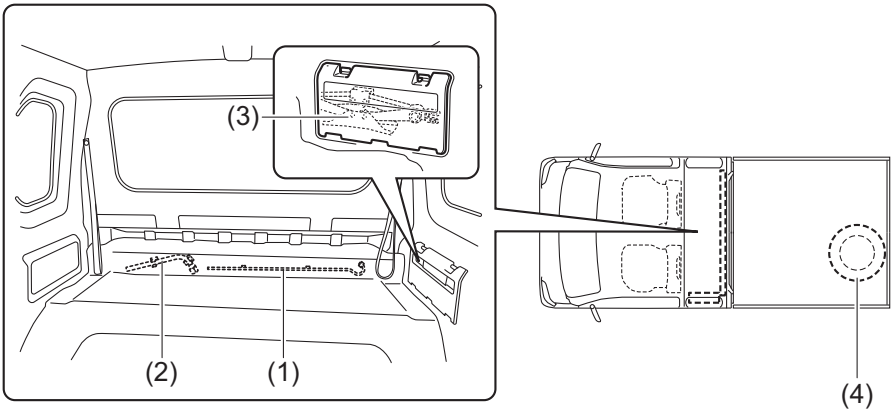
キー …………………………………… 3-2
ドア …………………………………… 3-3
キーレスエントリー …………………………… 3-5
エンジンのかけかた …………………………… 4-3

■ 工具・ジャッキ・スペアタイヤ

キャリイ



スーパーキャリイ



63S10090

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　ジャッキバー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2
(2)　ホイールナットレンチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2
(3)　ジャッキ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2、7-11
(4)　スペアタイヤ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-5

警告ブザー（室内ブザー）が鳴ったときは

■ 全車共通

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
運転席ドアを開けたとき	ピーーー	−	ヘッドライトや車幅灯が点灯しています。これらを消してください。 → **3-64ページ（ライト消し忘れ警告ブザー）**
	ピー、ピー、	−	エンジンスイッチにキーが差さったままです。キーを抜いてください。 → **4-5ページ（キー抜き忘れ警告ブザー）**

■ オートマチック車

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
停車中／後退中	ピー、ピー、	 表示	セレクトレバーがＲに入っています。セレクトレバーの位置を確認してください。 → **4-19ページ（R（リバース）ポジション警告ブザー）**

■ アイドリングストップシステム装備車

いつ	ブザー音	メーター	再始動の理由
アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中	室内ブザー ●**ピー、ピー、**（5回）	 運転席シートベルトを外したとき点灯	次のいずれかの操作をしたため、エンジンが自動で再始動しました。 ●運転席シートベルトを外す ●運転席ドアを開ける 発進する前に、ドアを閉め、シートベルトを着用してください。また、車外に出るときは、事前に次の手順を実施してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れます。 ②長時間停車するときや車から離れるときは、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止します。 → **4-4ページ（エンジンの止めかた）**

前記以外にも警告ブザーが鳴り、エンジンが自動で再始動する場合があります。
→ **4-6ページ（アイドリングストップシステム）**

■ スズキ セーフティ サポート装備車のみ

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
走行中	ピピピピピ または ピーーーー	 点滅	デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）が作動しています。ブレーキペダルを強く踏み込んでください。 → **4-50 ページ（デュアルカメラブレーキ サポート（DCBS））**
停車中/ 徐行中	ピピピピピ		誤発進抑制機能が作動しています。すみやかにアクセルペダルから足を離してください。 → **4-55ページ（誤発進抑制機能）**
停車中/ 徐行中	ピピピピピ	 点滅	後方誤発進抑制機能が作動しています。すみやかにアクセルペダルから足を離してください。 → **4-70ページ（後方誤発進抑制機能）**

よくあるご質問（Q & A）

お問い合わせの多い、よくあるご質問についてご案内します。

ドアの開閉

Q. キーレスエントリー（タイプ別装備）が作動しない。

A. キーレスエントリーが作動しない状況にあるおそれがあります。
3-5ページ（キーレスエントリー）をお読みください。

A. リモコンキーの電池が消耗しているときは、交換してください。
→ **6-7ページ（リモコンキーの電池交換）**

窓ガラス

Q. フロントガラスやドアガラス内側のくもりを取りたい。

A. 吹出し口切替えダイヤル（**5-4 ページ**）で、くもりを取る位置に切替えてください。（マニュアルエアコン）

タイヤ

Q. パンクした。

A. スペアタイヤに交換してください。
→ **7-2ページ（パンク）**

バッテリーあがり

Q. バッテリーがあがり、エンジンが始動できない。

A. 救援車のバッテリーとブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。
→ **7-18ページ（バッテリーあがりのときは）**

アイドリングストップシステム タイプ別装備

Q. アイドリングストップシステムが作動しない。

A. 次の項目をお読みください。
→ **4-6ページ（アイドリングストップシステム）**

スズキ セーフティ サポート タイプ別装備

Q. スズキ セーフティ サポートが作動するとき、作動しないときを知りたい。

A. 次の項目をお読みください。
→ **4-40ページ（スズキ セーフティ サポート）**

エンジンオイル

Q. エンジンオイルを交換したい。

A. 次の項目をお読みください。
→ **2-31ページ（エンジンオイルを交換するときは）**
→ **8-1ページ（サービスデータ）**

電装品

Q. ヘッドライトまたは制動灯が点灯しなくなった。

A. 電球を点検してください。
→ **7-25ページ（電球の点検）**
→ **7-25ページ（電球を交換するときは）**
→ **8-4ページ（電球の容量）**

Q. 電気装置が使用できなくなった。

A. ヒューズを点検してください。
→ **7-21ページ（ヒューズが切れたときは）**

Q. 運転席パワーウインドー（タイプ別装備）がオートで全開／全閉しなくなった。

A. パワーウインドーのはさみ込み防止機構の初期設定が必要です。
次の項目をお読みください。
→ **3-9ページ（初期設定のしかた）**

オーディオ タイプ別装備

Q. 時計をあわせたい。

A. 次の項目をお読みください。
・**AM／FMラジオ → 5-9ページ**
・**CDプレーヤー → 5-14ページ**

2. 必読！ 安全なドライブのために

とくに重要な項目ですのでしっかりお読みください。

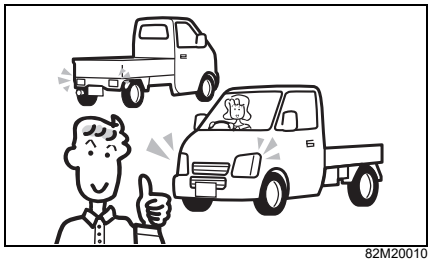
安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、ABS、ESP®(※)、SRS エアバッグシステム、スズキ セーフティ サポートなどの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。
(※ESP® は、Electronic Stability Program（エレクトロニック スタビリティ プログラム）の略で、Daimler AGの登録商標です。)

出発の前に（お車の確認）…… 2-2
荷物を積むときは…… 2-4
お子さまを乗せるときは…… 2-5
運転席にすわって…… 2-9
エンジンをかけるときは…… 2-11
走行するときは…… 2-12
駐車するときは…… 2-19
給油するときは…… 2-22
オートマチック車を運転するときは…… 2-24
SRSエアバッグ車を運転するときは…… 2-26
4WD車を運転するときは …… 2-28
こんなことにも注意して…… 2-29
エコドライブをしましょう…… 2-32

出発の前に（お車の確認）

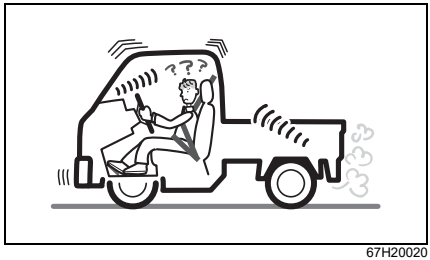
日常点検を確実に



82M20010

車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

こんな症状に気づいたときは



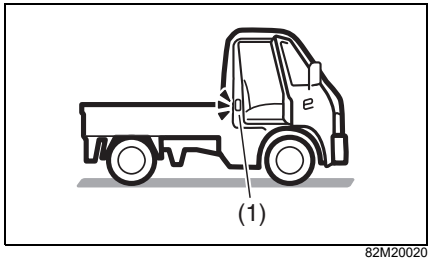
67H20020

⚠注意

次のような場合はスズキサービス工場で点検を受けてください。
- **地面に油や液の漏れたあとが残っている**
- **ブレーキ液が不足している**
- **いつもと違うにおい、音、振動がある**
- **ハンドルやブレーキを操作したときの感じがいつもと違う**

タイヤの空気圧をチェック

- 定期的に点検・調整してください。この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」（1）で確認できます。
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

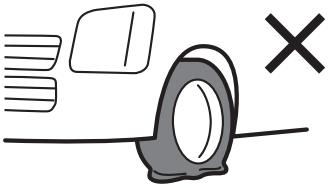


82M20020

- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。

⚠警告

- **空気圧が極端に低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。**



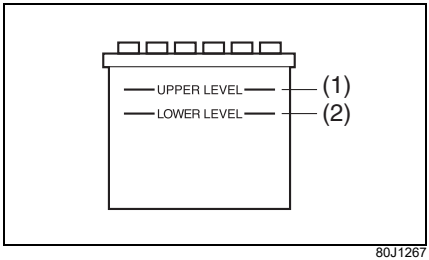
67H20040

- **指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。**
  - **走行安定性が悪化する**
  - **ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる**
  - **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しなくなる**
    - **ABS**
    - **ESP®**
    - **デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）（タイプ別装備）**
    - **誤発進抑制機能（タイプ別装備）**
    - **後方誤発進抑制機能（タイプ別装備）**
  - **4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえる**

バッテリーの液面を点検する

液面が下限（2）より下にあるときは、バッテリー補充液を上限（1）まで補充してください。バッテリー液が不足すると、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。

→ **メンテナンスノート（日常点検）**

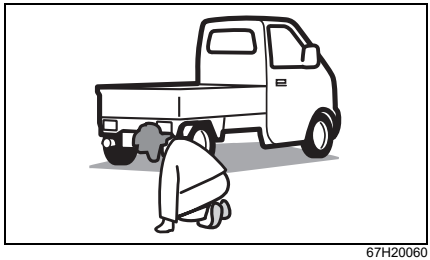


80J1267

⚠ 警告

- **バッテリー液が不足すると、発熱して爆発のおそれがあります。**
- **バッテリー端子を外して再び接続するときは、確実に締め付けてください。ゆるみがあると、火災や故障の原因となります。**

排気管も点検



67H20060

排気管に穴やひび割れがないか、ときどき点検してください。

⚠ 警告

排気管に漏れがあると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒のおそれがあります。異常を感じたときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

荷物を積むときは

荷物の積みすぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

最大積載量（※）
350 kg

※お車のタイプにより異なります。

⚠警告

●燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まないでください。引火や爆発のおそれがあります。



80J021

●重い荷物は、かたよりのないように均等に積んでください。荷物のかたよりがあると、カーブなどで横転するおそれがあります。

●荷物の荷くずれや落下のないよう、ロープなどでしっかり固定してください。

●インパネの上にものを置かないでください。運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、助手席SRSエアバッグ装備車の場合は、万一の事故で助手席 SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、助手席SRSエアバッグがふくらんだときに飛ばされたりして、けがのおそれがあります。



80J070

●チェンジレバーまたはセレクトレバーにものをかけたり、チェンジレバーまたはセレクトレバーをハンドレスト代わりに使用したりしないでください。
チェンジレバーまたはセレクトレバーが正常に作動しなくなり故障の原因や思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

●助手席に荷物を積み重ねないでください。視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



67H20070

●動物を乗せるときは、動きまわらないように注意してください。運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

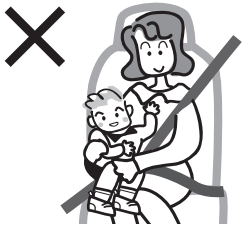
お子さまを乗せるときは

いつもより慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さまもシートベルトを着用

⚠警告

- お子さまをしっかり抱いていても、衝突のときなどに十分にささえることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
  ひざの上にお子さまを抱かないでください。



80J081

- シートベルトを装着しないと、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。
  お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
- 一本のシートベルトを二人以上で使用すると、急ブレーキ時や衝突時などにシートベルトが本来の効果を発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。
  一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。
- この車のシートベルトは成人サイズの乗員に適するように設計されています。シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをご使用ください。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



80J082

シートベルトで遊ばせない



82M20030

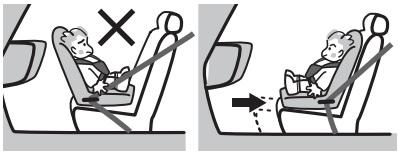
⚠ 警告

お子さまがベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいると、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。
お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。

お子さま用シートの使用について

- 助手席には、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けないでください。

- やむをえず助手席にチャイルドシートやジュニアシートを取り付けるとき、シートスライド機構がある場合は、助手席を一番後ろに下げ、前向きに取り付けてください。



80J027

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
  → **3-23ページ（お子さま用シートの選択について）**

- 助手席には、シートベルトで固定するタイプのお子さま用シートを取り付けることができます。
  → **3-21ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**

- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けられないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。

- お子さま用シートには、スズキ純正品をおすすめします。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- お子さま用シートを使用していても、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにして、安全運転に心がけてください。

⚠警告

●走行する前に、お子さま用シートが確実に固定され、ガタつき、ゆるみなどがないことを確認してください。
●万一の事故でお子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用しないでください。いざというときに性能を十分発揮できないおそれがあります。

⚠注意

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、車から降ろしてください。シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員やものに当たるおそれがあります。

ドアやウインドーの開閉は大人が行なう

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉を行なってください。



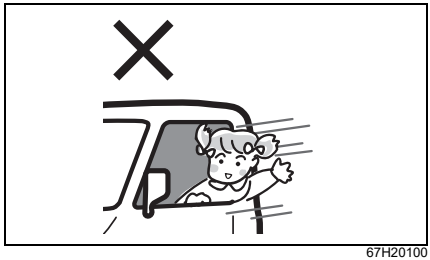
67H20090

⚠警告

●ウィンドーの開閉操作をするとき、誤って手足や首などが挟み込まれるおそれがあります。
- **運転者はご自身だけでなく他の乗員にもウィンドー開閉操作に注意を払わせてください。**
- **お子さまにはウィンドースイッチを操作させないでください。**
- **お子さまを乗せているときは常にウインドーロックスイッチをロック位置にしてください。**
  → 3-7 ページ（ウインドーロックスイッチ）
- **車から離れるときは必ずエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に離れてください。**
- **運転席で他席のウインドーを開閉するときは、開閉操作の前に、他の乗員やお子さまが、手や顔を出していないかを必ず確認し、声かけをしてから操作してください。**

●窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作しないでください。手や首をはさむおそれがあります。

窓から顔や手を出さない



67H20100

⚠ 警告

お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。急ブレーキで重大な傷害を受けたり、転落したりするおそれがあります。また、車外のものなどに当たって重大な傷害を受けるおそれがあります。

車から離れるときは

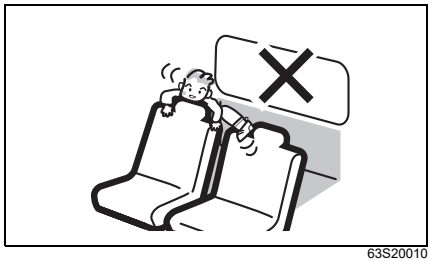
⚠ 警告

車から離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。
- 炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱中症にかかるおそれがあります。エアコン（タイプ別装備）をつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。

お子さまはシートバックスペースに乗せない

スーパーキャリイ



63S20010

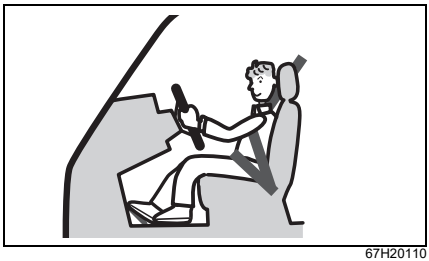
⚠ 警告

シートバックスペースは人が乗る構造になっていません。お子さまを乗せないでください。急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。

道路上での停車中も、お子さまをシートバックスペースで遊ばせないでください。

運転席にすわって

シート、ミラーの調節は走行前に



67H20110

⚠警告

走行中にシートの調節、ルームミラーやドアミラーの調節をしないでください。ハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ 3-15ページ（シート）
→ 3-14ページ（ルームミラー、ドアミラー）

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。

- 背もたれと腰の間にすきまのないようにシートに深くすわります。
- ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。



50T20010

⚠警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

シートベルトは正しく着用



70K216

- シートを正しい位置に調節し、上体を起こして奥深くすわります。
- ベルトがねじれないように着用します。
- 腰ベルトは、腰のできるだけ低い位置にかけます。
- 肩ベルトは、首と肩先の中央にかけます。
- ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

→ **2-9ページ（正しい運転姿勢）**

⚠ 警告

●走行前にシートベルトを正しく着用してください。走行中に着用したりすると、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
●洗たくばさみやクリップなどでベルトをたるませないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

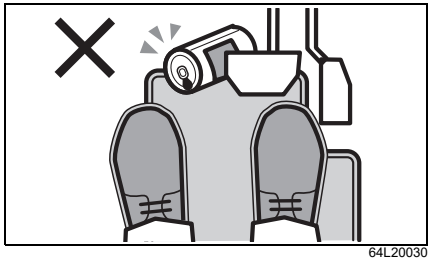
⚠ 警告

●助手席の同乗者にシートベルトを着用させてください。



51K0007

運転席の足元付近にものを置かない

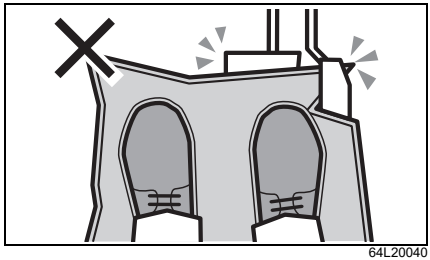


64L20030

⚠ 警告

空き缶などを足元に放置しないでください。ペダル操作ができなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットを適切に使用する



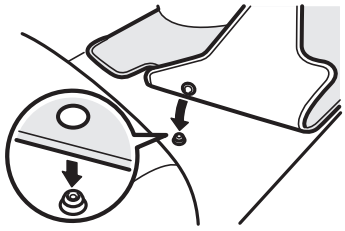
64L20040

⚠警告

ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

- **足元の形にあわないフロアマットを使わない**
- **フロアマットを重ねて敷かない**
- **フロアマットは固定具などで確実に固定する**

スズキ純正フロアマットの例



68H20630

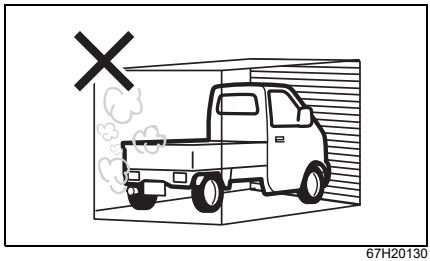
※ 運転席および助手席側のフロア（カーペット下）には、スズキ純正フロアマットを固定するための固定具（ホック）があります。

アドバイス

この車専用のスズキ純正フロアマットのご使用をおすすめします。

エンジンをかけるときは

換気が悪いところでエンジンをかけたままにしない

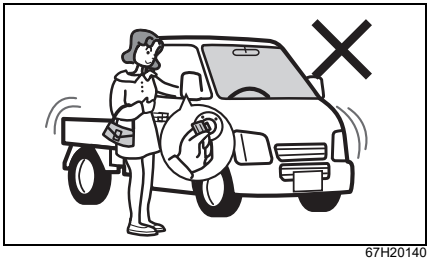


67H20130

⚠警告

- **車庫の中など、換気が悪いところでエンジンをかけたままにすると、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **車内で排気ガスのにおいがしたときは、すべての窓を全開にし、エアコン（タイプ別装備）、ヒーターの内外気切替えを外気導入に切替え、ファンを強にして換気します。換気してもにおいが消えないときは、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。**

窓越しのエンジン始動はしない



67H20140

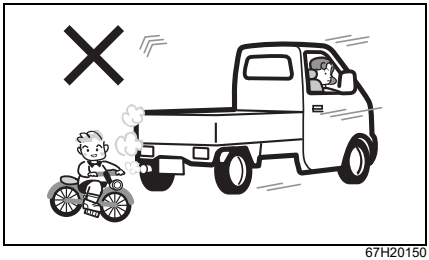
運転席にすわり、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。

⚠警告

窓越しのエンジン始動はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
→ 4-3ページ(エンジンのかけかた)

走行するときは

周囲をよく確認してから発進する

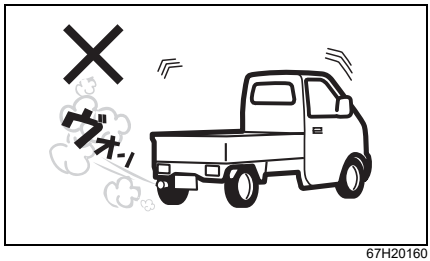


67H20150

⚠注意

- **周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。**
- **バックミラーだけでは後方の安全が十分に確認できません。車を後退させるときは、直接目視で後方の安全を確認してください。**

エンジン始動直後の空ぶかしや急発進、急加速をしない



67H20160

エコドライブのため、空ぶかしや急発進、急加速はしないでください。
→ **2-32ページ**
(エコドライブをしましょう)

注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

携帯電話やナビゲーションなどに気を取られないで

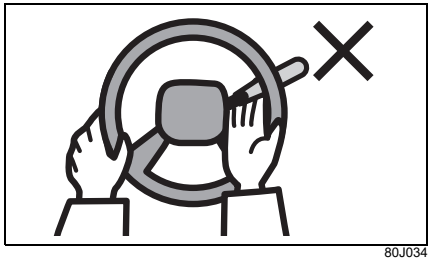


82M20040

⚠警告

- 運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話などを操作しないでください。電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は､走行中にテレビを見たり、ナビゲーションやオーディオなどを操作したりしないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない



80J034

⚠警告

ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

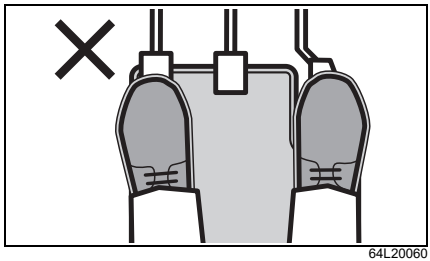
ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しない

⚠注意

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない

マニュアル車



64L20060

⚠注意

クラッチが早く摩耗したり過熱したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行なわないでください。

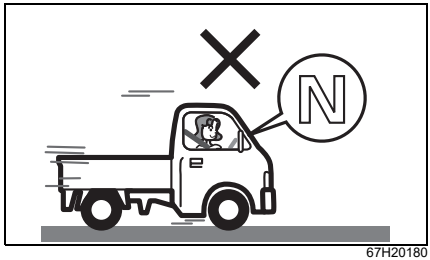
アクセルペダルとブレーキペダルの両方が踏み込まれたとき

オートマチック車

アドバイス

走行中にアクセルペダルとブレーキペダルの両方が踏み込まれたときに、ブレーキ効果を優先させるため、ブレーキオーバーライドシステムによりエンジン出力が抑制される場合があります。

走行中はニュートラルにしない



67H20180

⚠注意

緊急時以外は、走行中にチェンジレバーまたはセレクトレバーをニュートラルに入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

こんなときどうする？

- **警告灯が点灯したら？**
  ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。
  → **1-10ページ（警告灯）**

- **床下に強い衝撃を受けたら？**
  ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料が漏れていないか、排気管などに異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- **タイヤが突然パンクしたら？**
  ハンドルをしっかり握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
  → **7-2ページ（パンク）**

- **ブレーキペダルが重く感じられたら？**
  車には、エンジンの負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減するブレーキ倍力装置がついています。エンジンの負圧が低下していると、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じることがありますが、異常ではありません。そのままペダルを強く踏んでください。

- **ブレーキから金属音（キーキー音）が聞こえたら？**
  すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。ディスクブレーキのパッド（スズキ純正部品）には、走行中に金属音が発生することで使用限度（交換時期）近くまで摩耗したことを警報する機能があります。

⚠警告

金属音が発生したまま走行を続けないでください。ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

- **ブレーキ操作の感じがいつもと違ったら？**

⚠注意

次の様な状況を感じたら、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。
- **ブレーキの効きが悪い**
- **ブレーキの効きに左右差がある**
- **ブレーキペダルの踏込量が大きい**
- **ブレーキのひきずり感がある**

長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する

長い下り坂ではエンジンブレーキ（※）を併用してください。アクセルペダルから足を離し、走行速度にあわせて、次のようにします。

■ マニュアル車

ギヤを1速ずつシフトダウンします。

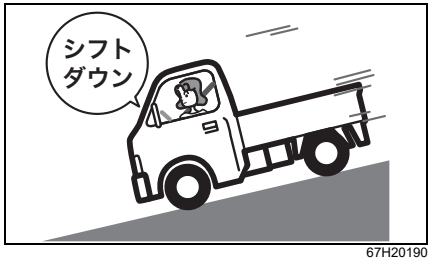
→ **4-12ページ**
（チェンジレバーの操作）

■ オートマチック車

セレクトレバーを 2 または L にシフトダウンします。

→ **4-14ページ**
（セレクトレバーの操作）

※エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルから足を離したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。エンジンブレーキは低速ギヤほどよく効きます。

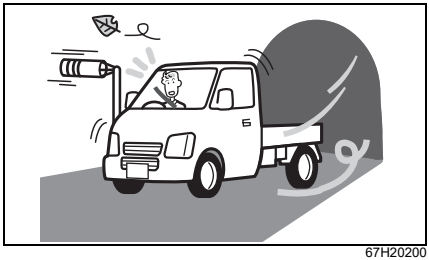


67H20190

⚠警告

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

横風が強いときは



67H20200

トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通り過ぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。

草の生い茂った場所は走行しない



67H20210

⚠警告

草などが駆動系部品や排気管にからまると、駆動装置が損傷したり、火災につながったりするおそれがあります。

滑りやすい路面ではゆっくり走る

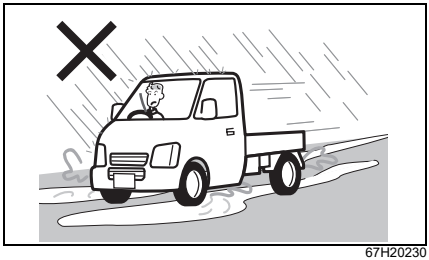


67H20220

⚠注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。スリップ事故につながるおそれがあります。

水たまりを高速で通り抜けない

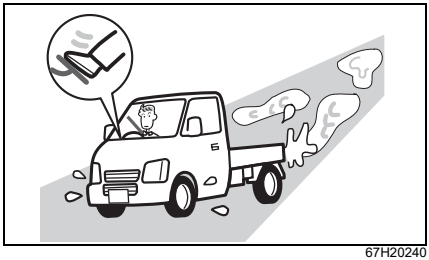


67H20230

⚠注意

水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認



67H20240

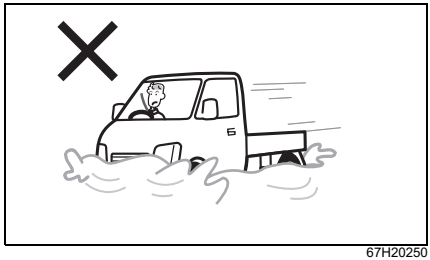
- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冠水した場所は走行しない

注 記

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- **エンストする**
- **電装品がショートする**
- **エンジンやトランスミッションの損傷等**



67H20250

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
- プロペラシャフト、ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良
- ドライブベルト、ドライブベルト関連部品の異物の巻き込み

注 記

- **冠水した場所を走行すると、水中の異物がドライブベルトなどに巻き込まれエンジンに悪影響を及ぼす場合があります。**
- **水深が床面より上で冠水しているとき、エンジンの始動操作を行わないでください。エンジンの始動操作をするとスターターが故障する場合があります。**
- **冠水した場所を走行すると、クラッチなどに悪影響を及ぼし走行できなくなる場合があります。**
- **冠水した場所を走行しているときアイドリングストップシステムでエンジンが停止するとエンジンが損傷する場合があります。アイドリングストップシステムを停止させて走行してください。**
  → 4-6 ページ（アイドリングストップシステム）

スタック（立ち往生）したときは

- ぬかるみや砂地などで、駆動輪が空転して脱出できなくなることをスタックといいます。
- 前進と後退を繰り返すときは、駆動装置などが損傷するおそれがあるため、次のことに注意してください。
  - オートマチック車は、セレクトレバーを確実に入れてからアクセルペダルを軽く踏んでください。
  - 数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してください。
- タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。
- 4WD車は、2WDの状態でスタックしたときに4WDへ切替えると脱出しやすくなります。

  → 4-25ページ（4WD切替えレバー）

  → 4-29ページ（4WDスイッチ）

  また、デフロック装備車は、デフロックスイッチを入れるとさらに脱出しやすくなります。

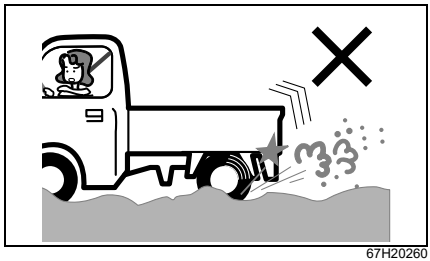
  → 4-29ページ（デフロックスイッチ）

⚠ 警告

脱出しようとする前に、周囲の安全を十分に確認してください。勢いよく発進して事故を起こすおそれがあります。

注 記

タイヤを高速で空転させないでください。タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。



67H20260

駐車するときは

パーキングブレーキをしっかりとかけて

■ 平らな場所に駐車するときは

1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。

→ **4-12ページ（パーキングブレーキの操作）**



80J1037

(1) パーキングブレーキレバー

2 オートマチック車 は、セレクトレバーを P に入れます。

→ **4-14ページ（セレクトレバーの操作）**

マニュアル車 は、チェンジレバーをR（リバース）または1速に入れます。

→ **4-12ページ（チェンジレバーの操作）**

- ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、車が動き出さないことを確認してください。

⚠注意

●平らな場所に少しの間駐車するときでも、安全のため、セレクトレバーを P に入れるか、チェンジレバーをRまたは1速に入れてください。
●寒冷時にパーキングブレーキをかけると、凍結して解除できなくなるおそれがあります。坂道を避け、平らな場所に駐車してください。
→ 6-15ページ（パーキングブレーキ）

■ 坂道に駐車するときは

1、2は、平らな場所で駐車するときと同じ操作です。

- マニュアル車は、下り坂ではチェンジレバーをR（リバース）、上り坂では1速に入れてください。

3 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

⚠警告

●急な坂道には駐車しないでください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●4WD切替えレバー付車の場合、駐車中はレバーを〔N〕（ニュートラル）にしないでください。チェンジレバーをRまたは1速に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。
→ 4-25ページ（4WD切替えレバー）

エンジン作動中、冷却ファン（ラジエーターファン）が突然、回転することがあります

エンジンルーム内の冷却ファン（ラジエーターファン）は、エンジン冷却水の温度条件により、自動で停止したり回転したりします。

⚠警告

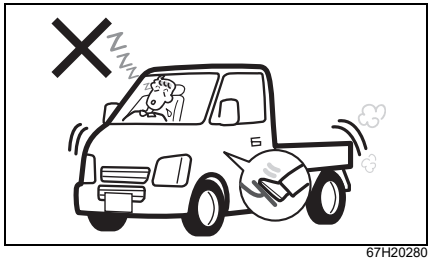
エンジン作動中は、冷却ファン（ラジエーターファン）が停止していても、自動で回転しはじめることがあるため、冷却ファン（ラジエーターファン）に近づかないでください。手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

車を移動するときはエンジンをかけて

⚠注意

坂道を利用して惰性で車を移動しないでください。ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンをかけたまま仮眠しない



67H20280

⚠警告

- **周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **無意識にセレクトレバーやチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。**
- **無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が過熱して火災のおそれがあります。**

燃えやすいものの近くに駐車しない



67H20290

⚠警告

枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの可燃物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスが高温になるため、火災のおそれがあります。

車から離れるときはエンジンを止めてドアを施錠



82M20050

少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

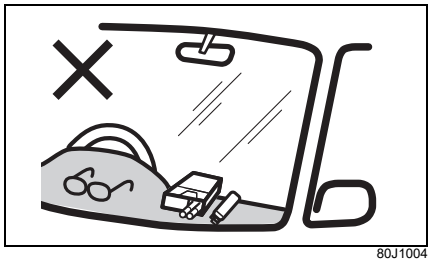
⚠警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

ライターやメガネなどを放置しない



80J1004

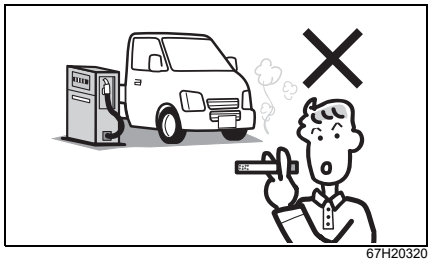
⚠警告

- **炎天下で駐車するときは、車内にライターやスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CD ケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。**
- **操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすきまに落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。**

給油するときは

→ **5-28ページ（燃料給油口）**

火気に気をつけて



67H20320

⚠警告

必ず次のことをお守りください。

- **エンジンを止めてください。**
- **給油中はドアや窓を閉めてください。**
- **ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。**

セルフスタンドで給油するときは

⚠警告

セルフスタンドで給油するときは必ず次のことをお守りください。

- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。
  また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。
- 給油口には、静電気除去を行なった方以外の人を近づけないでください。

  ※ 空気が乾燥すると、身体に多くの静電気が帯電します。また、かさね着をすると、繊維の摩擦により静電気が発生します。とくに乾燥する季節は注意してください。

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気が抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 給油口に給油ノズルを止まるところまで確実に差し込んでください。ノズルを確実に差し込まないと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引いてください。
- 給油ノズルの自動停止（オートストップ）機能が作動したら、給油を終了してください。自動停止後に継ぎ足し給油をすると、燃料があふれ出るおそれがあります。



80J1005

※給油機によっては、早期に自動停止機能が作動して給油できない場合があります。スタンド従業員の指示にしたがってください。

- 燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 給油後は、給油ノズルを確実にもとの位置にもどし、フューエルキャップをカチッという音が2回以上するまで閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
- 燃料は人体に有害な物質を含んでいます。気化した燃料を吸い込まないでください。
- そのほか、スタンドに掲示されている注意事項をお守りください。

無鉛ガソリン以外は使用しない

注 記

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、そのほかの燃料（アルコール系、軽油など）を使用すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。

オートマチック車を運転するときは

オートマチック車には特有の操作上の注意があります。**4-14ページ**の「**オートマチック車**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

- **セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。**
- **エンジン始動直後やエアコン（タイプ別装備）作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。**

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R （リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

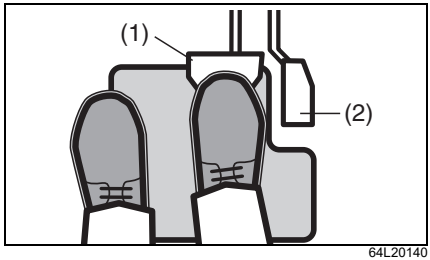
ペダルの踏み間違いに注意

⚠警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながります。

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

ブレーキペダルは右足で踏む



64L20140

(1) ブレーキペダル
(2) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

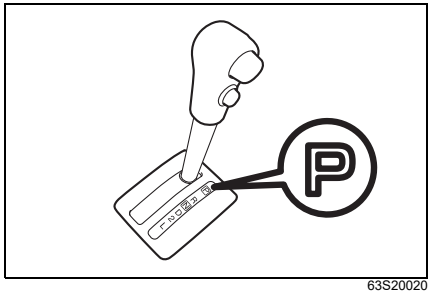
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままでセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R に入っていることを目で確認してください。

車から離れるときは



63S20020

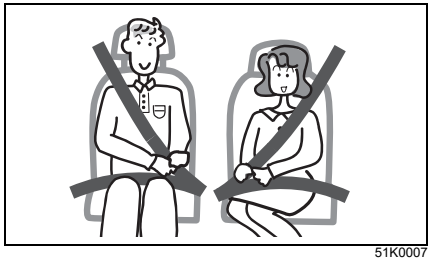
⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRS エアバッグシステムの効果を発揮させるために、**3-28 ページ**の「**SRS エアバッグ**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

シートベルトは必ず着用



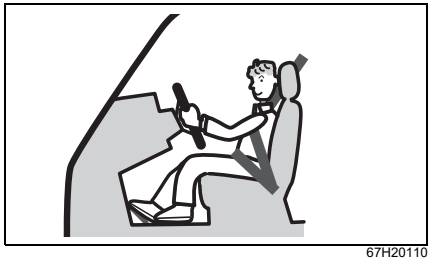
51K0007

⚠ 警告

SRSエアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

着座姿勢

瞬時にふくらむ運転席・助手席 SRS エアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、運転席シートを前方に出しすぎないようにシートの位置を調節してください。

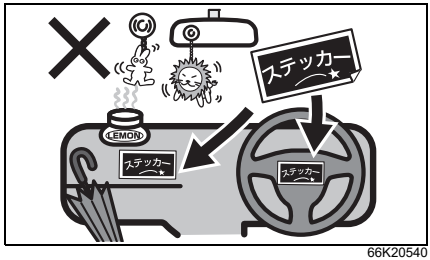


67H20110

⚠ 警告

ハンドルやインパネに、顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。SRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために



66K20540

⚠ 警告

- **ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーで覆うなどの改造をしないでください。**
- **エアバッグ収納部およびその周辺には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。**
- **フロントガラスやルームミラーにアクセサリー(スズキ純正用品を除く)などを取り付けないでください。**

助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル

助手席サンバイザーの両面には、次の警告ラベルが貼られています。このラベルは、助手席 SRS エアバッグが作動したときにお子さま用シートにあたえる影響と、お子さま用シートの取り付けに関する禁止事項を示しています。この車の助手席にお子さま用シートを取り付ける場合は、警告ラベルの説明および参照先の項目をよくご覧になり、適切に取り付けてください。



72M00150

⚠ 警告

前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。

警告ラベルの説明

シンボルマーク	シンボルマークの意味
	助手席SRSエアバッグ装備車の助手席に、後ろ向きのお子さま用シートを取り付けて、お子さまを乗せることを禁止
	助手席SRSエアバッグがふくらむと、後ろ向きお子さま用シートおよびお子さまに強い衝撃が加わることを表示
	詳しくは、取扱説明書（本書）を読むことを指示 → **2-6 ページ（お子さま用シートの使用について）** → **3-23 ページ（お子さま用シートの選択について）**

4WD車を運転するときは

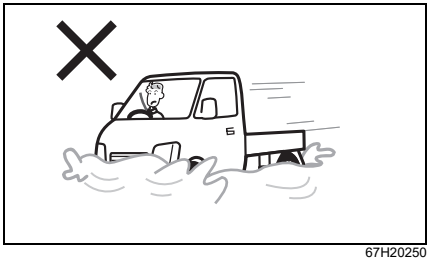
4WD車には特有の操作上の注意があります。**4-25ページ**の「**2WD⇆4WDの切替え操作**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

路面の状況に注意して走行する

⚠注意

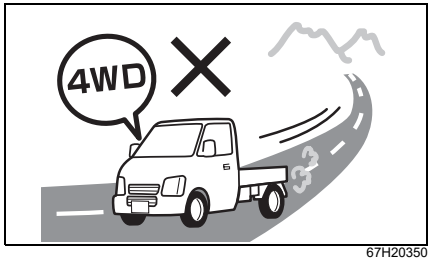
4WD 車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。次のことをお守りください。

- **砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。**
- **ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD車と同様に慎重に行なってください。**
- **渡河走行や冠水した道路を走行しないでください。**



67H20250

乾燥した舗装路では、4WDで走行しない



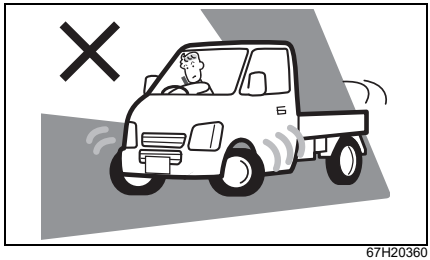
67H20350

注 記

濡れた舗装路でも 4WD で走行することは、できるだけ避けてください。タイヤがスリップしにくい路面では、前輪と後輪の回転の差を吸収しきれず次のような状態が生じます。

- **駆動装置に無理な力がかかって、損傷するおそれがある**
- **タイヤの摩耗が早まる**
- **ハンドルが重くなる**
- **カーブではブレーキがかかったような状態になる**

4WDで急旋回をしない



67H20360

⚠注意

4WDで急カーブや脇道、駐車場で急旋回をすると、ハンドルをまわすときの力が大きくなるとともに、タイトコーナーブレーキング現象(※)が起きて、思いがけない事故を起こすおそれがあります。また、駆動装置が損傷する原因となります。

※ タイトコーナーブレーキング現象とは、4WD での急旋回時に、前輪と後輪の回転の差を吸収しきれない状態が生じ、ブレーキをかけたときと同じ状態になることをいいます。

オフロード走行後は車を点検する

注 記

次のようなときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- **車両の下部に損傷がある**
- **オイル量の変化、オイルやグリスの白濁がある**

こんなことにも注意して

車検を受けるときの注意

ESP® 装備車をテスターに載せる場合は、ESP® を整備モードに切り替える必要があります。
また、スズキ セーフティ サポート装備車につきましては、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF スイッチを操作して、作動停止の状態にしてください。

→ **4-65ページ**
（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）

詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

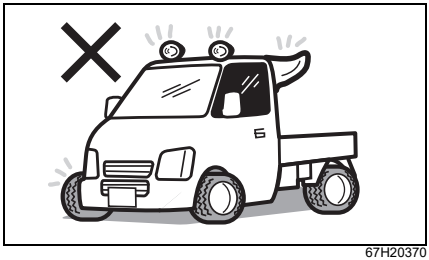
段差などに注意して

注 記

次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。

- **路肩など段差がある場所への乗り入れ**
- **わだちやくぼみなどがある道路の走行**

不正改造はしない



67H20370

⚠ 警告

- この車に適さない部品を取り付ける、あるいは自己流の調整や配線をするなどの改造をしないでください。
  火災や事故につながるおそれがあります。また、取扱い、性能、耐久性に悪影響をあたえたり、法令に違反したりするおそれがあります。
- 無線機、ナビゲーション、オーディオ、ETC車載器などの電気製品の取り付け、取り外しをするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。また、バッテリー端子から直接電気製品の電源をとったり、アース線を直接つなげたりしないでください。電子部品のはたらきをさまたげたり、火災、故障、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。
- ホイール、ホイールナットは指定のスズキ純正品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、燃費や走行安定性が悪化したり、故障の原因となったりします。

注 記

お車の故障診断コネクターには、指定の点検整備用の故障診断装置のみが接続できます。指定以外の機器を接続すると、電子部品のはたらきをさまたげたり、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。

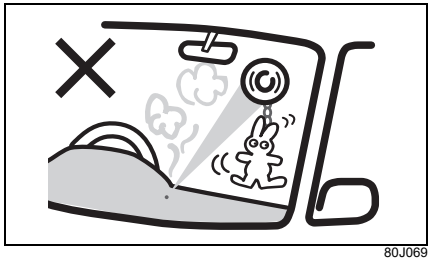
部品の取り付け、取り外し、修理をするときは

⚠ 警告

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなかったりすることがあります。
次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など
- インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取り付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- リヤピラーまわりの修理

アクセサリーの取り付けに気をつけて



80J069

⚠ 警告

窓ガラスにアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーが飛んでけがのおそれがあります。

飲み物などをこぼしたときは

⚠ 警告

車内に水などをかけたり、飲み物などをこぼしたりしないでください。次のような部品が故障したり、火災の原因になったりするおそれがあります。万一、飲み物などをこぼした場合は、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

- **SRSエアバッグシステム**
- **ナビゲーションまたはオーディオ**
- **スイッチ、配線などの電気部品**
- **セレクトレバー、シートベルトバックルなどの可動部分**

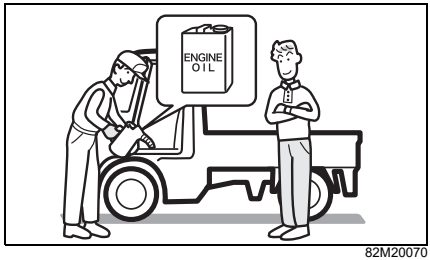
エンジンオイルを交換するときは

■ 定期的に交換する

- 標準的な使用方法では、エンジンオイルは**10,000 km**ごと、または**6か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは**10,000 km**ごとに交換してください。
- 厳しい条件（シビアコンディション）で使用した場合は、標準的な場合より早めの交換が必要です。
  → **メンテナンスノート**

注記

交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。



82M20070

■ エンジンオイルの規格／粘度

使用するエンジンオイルにより燃費などの性能は左右されるため、次の表 1、表 2 をそれぞれみたすオイルを使用してください。オイルは、スズキ純正オイルのご使用をおすすめします。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**

表1

規格		オイル性能
API(※1)/ ILSAC(※2)	SP/GF-6相当	高
	SN/GF-5相当	
	SM/GF-4相当	
	SL/GF-3相当	

表2

規格	全車共通
SAE粘度(※3)	0W-16
	0W-20

※1 API規格とは、American Petroleum Institute が定めた規格でエンジンオイルの品質グレードを表しています。

※2 ILSAC規格とは、International Lubricant Specification Advisory Committee が定めた自動車用エンジンオイルの規格で、API規格をベースに省燃費・耐久性などの性能がさらに優れたオイルであることを示します。

※3 SAE粘度とは、潤滑油の粘度を定めた規格です。
左側の数字(Wの付く数字)は低温時の粘度を意味し、この数字が小さいほど寒さに強くエンジンの始動性が良いことを示します。右側の数字は高温時の粘度を意味し、この数字が大きいほど熱に強く、エンジンの保護性能に優れています。

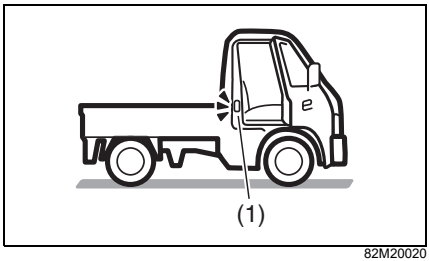
アドバイス

0W-16は燃費性能に優れたオイルです。

エコドライブをしましょう

タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」（1）で確認のうえ、調整してください。



82M20020

不要な荷物は積まない

燃費が悪化したりタイヤが早く摩耗したりするなど、車に悪影響があります。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行なってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（－10℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコドライブのため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

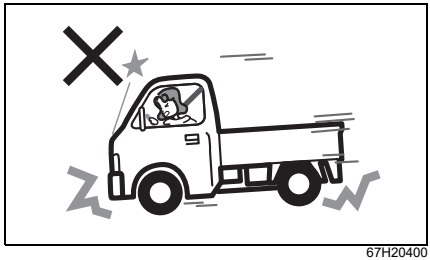
注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

アドバイス

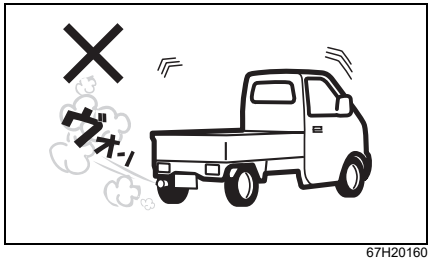
状況によって異なりますが、一般的に暖機運転によって、5 分間で 160 mL程度の燃料を消費するといわれています。

急発進、急加速、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない



67H20400

空ぶかしをしない



67H20160

燃料を消費するだけで、何の効果もありません。

車速に応じたギヤで走行する

低速ギヤを使って高いエンジン回転で走行すると燃費が悪くなります。走行速度に応じた正しいギヤをお使いください。

3. 運転する前に

● **ドアの開閉**
キー ····· 3-2
ドア ····· 3-3
キーレスエントリー ····· 3-5

● **各部の開閉**
パワーウインドー ····· 3-6
手動ウインドー ····· 3-10
リヤゲート、サイドゲート ····· 3-11

● **各部の調節**
ルームミラー ····· 3-14
ドアミラー ····· 3-14
サイドアンダービューミラー ····· 3-15

● **シートの調節**
シート ····· 3-15

● **シートベルト**
シートベルトについて ····· 3-17
シートベルトの着用のしかた ····· 3-18
シートベルトの取扱いとお手入れ ····· 3-19
シートベルトプリテンショナー ····· 3-20
シートベルトフォースリミッター ····· 3-21
お子さま用シートのシートベルトによる固定 ··· 3-21
お子さま用シートの選択について ····· 3-23

● **SRSエアバッグ**
SRSエアバッグ車を運転するときは ····· 3-28
SRSエアバッグシステムの取扱い ····· 3-30
SRSエアバッグシステムの作動 ····· 3-32
SRSエアバッグ警告灯 ····· 3-35
廃棄と廃車 ····· 3-35

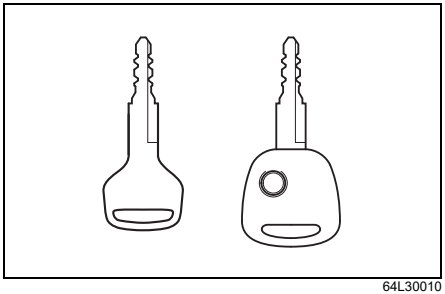
● **メーター**
メーターの見かた ····· 3-36
警告灯・表示灯の見かた ····· 3-46

● **スイッチの使いかた**
ライトスイッチ ····· 3-62
フォグランプスイッチ ····· 3-65
光軸調整ダイヤル ····· 3-65
方向指示器スイッチ ····· 3-66
非常点滅表示灯スイッチ ····· 3-67
ワイパー／ウォッシャースイッチ ····· 3-67
ホーンスイッチ ····· 3-69
作業灯スイッチ ····· 3-69

キー

キーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。

- キーが 2 本ついています。キーの組合せは、お車により異なります。
- キーは、エンジンの始動・停止のほかに、ドアの施錠・解錠に使用します。



64L30010

⚠注意

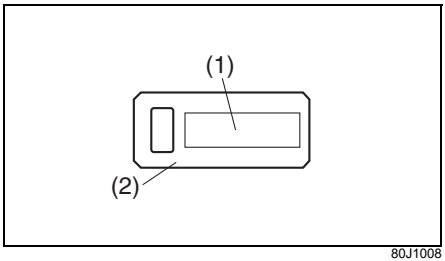
キーホルダーのアクセサリーなどは必要最小限にしてください。アクセサリーを多数付けたり、重いものを付けたりすると、走行中の振動などでエンジンスイッチに差したキーがまわるおそれがあります。
また、大きなアクセサリーを付けていると、ひざや手などが当たってキーをまわしてしまうおそれがあります。
→ 4-2 ページ（エンジンスイッチの各位置のはたらき）

アドバイス

- 盗難などを防ぐため、キーを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- キーのご購入については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

キーナンバープレート

キーナンバープレート（2）には、キー作成時に必要なキーナンバー（1）が打刻されています。



80J1008

アドバイス

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないよう、キーナンバープレートは車両以外の場所に、大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有される方のために、キーナンバープレートをお車のキーとともにお渡しください。

ドア

⚠警告

- **ドアを閉めるときは、シートベルトや荷物などをはさまないようにしてください。半ドア状態になって、走行中にドアが開くおそれがあります。**
- **火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。**

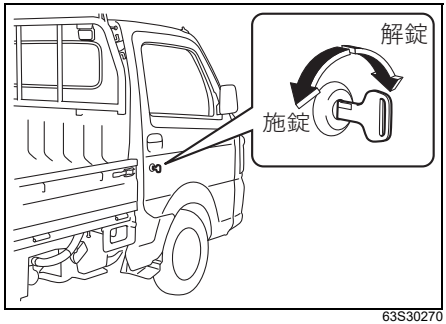
⚠注意

- **ドアの開閉は、お子さまではなく大人が行ない、手、足、頭などをはさまないように気をつけてください。**
- **ドアを開けるときは、後ろからの車に注意してください。とくに風が強い日は注意してください。**

キー操作による車外からの施錠・解錠

→ **3-5ページ（キーレスエントリー）**

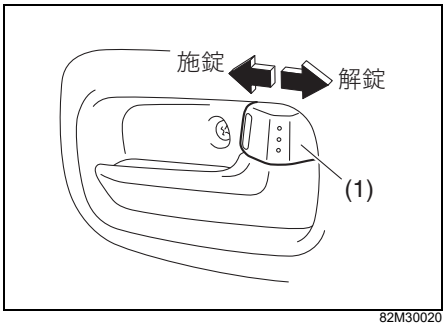
キーを差し込んで車の前方向にまわすと解錠、後ろ方向にまわすと施錠できます。



63S30270

車内からの施錠・解錠

ドアを閉めてロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にすると施錠、解錠側（車の後ろ方向）にすると解錠できます。



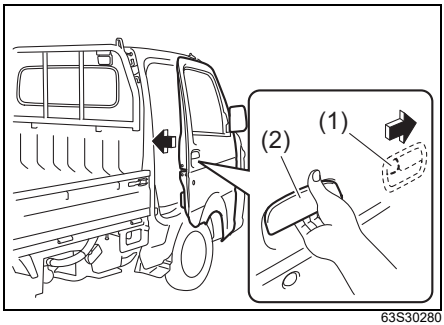
82M30020

アドバイス

解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。

キーを使わない施錠

ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にして、ドアハンドル（2）を引いたままドアを閉めると施錠できます。



63S30280

アドバイス

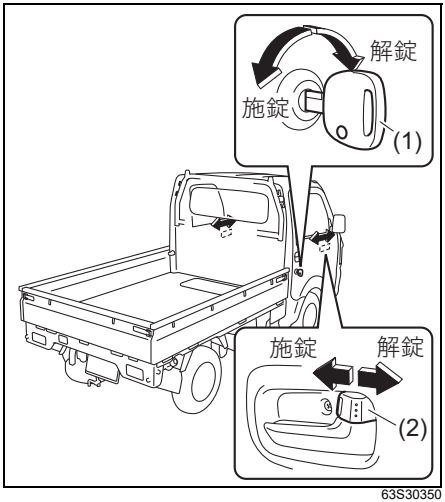
「**キーを使わない施錠**」をするときは、キーが手元にあるか確認してください。キーを閉じ込めてしまうおそれがあります。

キーまたはロックレバー操作によるパワードアロック

タイプ別装備

→ **3-5ページ（キーレスエントリー）**

運転席ドアをキー（1）またはロックレバー（2）操作で施錠・解錠すると、助手席ドアも同時に施錠・解錠します。



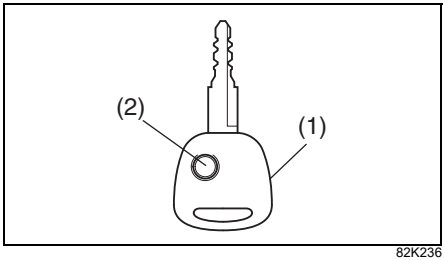
63S30350

キーレスエントリー

タイプ別装備

車から約２ｍ以内の範囲で、リモコンキー（1）の操作部（2）を押すと、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



82K236

⚠警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めてドアを施錠してください。

注 記

リモコンキーには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**

アドバイス

- 次のようなときは、キーレスエントリーが作動しません。
  - いずれかのドアが開いていると、施錠できません。（解錠はできます）
  - エンジンスイッチにキーを差し込んでいる
- キーレスエントリーの作動距離は、周囲の影響で変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しないことがあります。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- リモコンキーでドアの施錠・解錠ができないときは、キーを使って施錠・解錠をしてください。
- キーレスエントリーが正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
  → **6-7ページ（リモコンキーの電池交換）**
- リモコンキーを必要以上に操作すると、電池の消耗が早まります。
- 1 台の車両で、２個のリモコンキーまで登録できます。
- リモコンキーのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

アンサーバック機能

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を知らせる機能です。

アンサーバック機能	初期設定（工場出荷時）		設定切替え時	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
非常点滅表示灯	1回点滅	2回点滅		
室内灯（スイッチがDOOR位置）		約15秒間点灯	2回点滅	約15秒間点灯

- キーレスエントリーの作動と同時に室内灯を点灯または点滅させたい場合は、室内灯スイッチをDOOR位置にします。
- 室内灯が約 15 秒間点灯したあと消灯します。
  → **5-38ページ（室内灯）**

アドバイス

アンサーバック機能の設定切替え（カスタマイズ）については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

タイマーロック機能

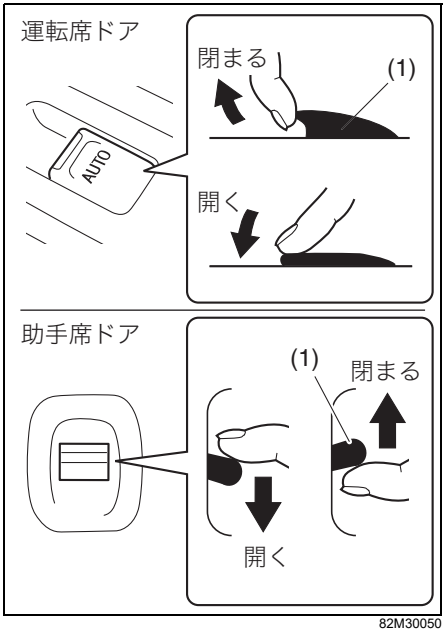
盗難防止のため、自動的にドアを施錠する機能です。

- キーレスエントリーで解錠したあと、約 30 秒以内にいずれのドアも開けなかったときに自動的にドアを施錠します。

パワーウインドー

タイプ別装備

エンジンスイッチが ON のときに、パワーウインドースイッチ（1）を操作すると、ウインドーの開閉ができます。



82M30050

⚠警告

●ウィンドーの開閉操作をするとき、誤って手足や首などが挟み込まれるおそれがあります。
- **運転者はご自身だけでなく他の乗員にもウィンドー開閉操作に注意を払わせてください。**
- **お子さまにはウィンドースイッチを操作させないでください。**
- **お子さまを乗せているときは常にウインドーロックスイッチをロック位置にしてください。**
  → 3-7ページ（ウインドーロックスイッチ）

• 車から離れるときは必ずエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまと一緒に離れてください。
• 運転席で他席のウインドーを開閉するときは、開閉操作の前に、他の乗員やお子さまが、手や顔を出していないかを必ず確認し、声かけをしてから操作してください。
●窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作しないでください。手や首をはさむおそれがあります。

⚠注意

ウインドーガラスを開閉するときは、ガラスに触れないでください。巻き込まれるおそれがあります。

注 記

バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときにウインドーを開閉してください。

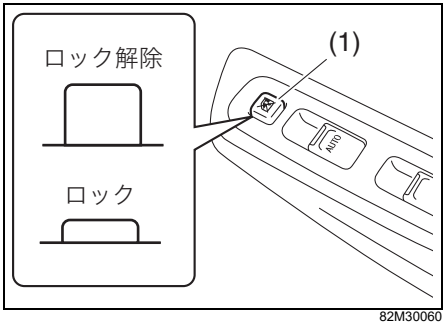
アドバイス

お子さまを乗せているときは、はさみ込み事故を未然に防ぐため、お子さま用シートを使用し、ウインドーロックスイッチを ロック 位置にしてください。

ウインドーロックスイッチ

運転席ドアにあるウインドーロックスイッチ（1）を押し込むと、助手席ウインドーの開閉ができなくなります。

● ロックを解除するときは、スイッチをもう一度押します。



82M30060

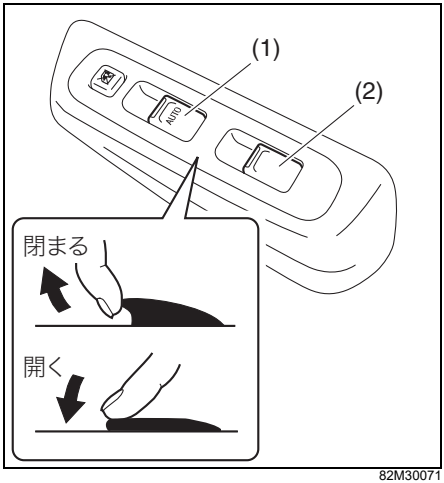
アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときでも、運転席ウインドーは開閉できます。

運転席での開閉

運転席および助手席ウインドーが開閉できます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。（運転席ウインドーのオート機構を除く）



82M30071

(1) 運転席ウインドースイッチ
（オート機構付）
(2) 助手席ウインドースイッチ

■ 運転席ウインドーのオート機構

運転席ウインドースイッチを強く操作すると、オート機構が作動してスイッチから手を離しても自動で全開または全閉します。
途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。

■ 助手席ウインドーの開閉

ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。

■ はさみ込み防止機構

運転席ウインドーには安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で閉めているときに、異物をはさみ込むなどしてウインドーに一定以上の負荷がかかると、ウインドーの動く方向が反転し、少し開いて停止します。（過負荷検知方式）

⚠警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行なってください。

⚠注意

はさみ込み防止機構は、スイッチを引き上げ続けた状態では作動しません。また、閉まりきる直前は、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように気をつけてください。

アドバイス

- ウインドーの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、運転席ウインドースイッチを引き上げ続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中にウインドーを自動で閉めると、衝撃や荷重がウインドーに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ はさみ込み防止機構の初期設定が必要なとき

次のような場合は、運転席ウインドーが自動で開かなくなるとともに自動で閉めたときに、はさみ込み防止機構が作動しなくなってしまいます。
「**初期設定のしかた**」をお読みになり、初期設定を行なってください。
→ **3-9ページ（初期設定のしかた）**

- 鉛バッテリーの端子を外したとき
- 鉛バッテリーあがりがおきたとき
- 鉛バッテリーを交換したとき
- ヒューズを点検・交換したとき

→ **7-21ページ（ヒューズが切れたときは）**

⚠ 警告

はさみ込み防止機構は、必ず初期設定してください。初期設定が完了するまでは、はさみ込み防止機構が作動しません。

アドバイス

運転席ウインドーが自動で開くことも閉めることもできなくなった場合も、初期設定を行なってください。

■ 初期設定のしかた

はさみ込み防止機構の初期設定は次の手順で行なってください。

1 エンジンを始動します。

2 運転席ウインドースイッチを押し続け、ウインドーを完全に開けます。

3 運転席ウインドースイッチを引き上げ続け、ウインドーを完全に閉めます。

4 そのままスイッチを2秒以上引き上げ続けます。

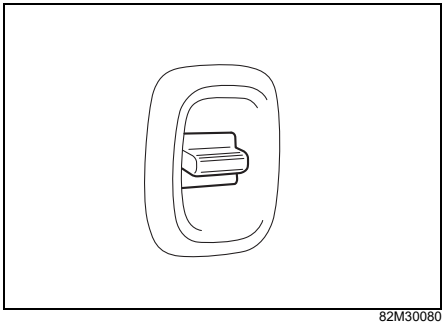
5 運転席ウインドーが自動開閉できるようになったか確認します。

- 手順1～4を何度繰り返しても運転席ウインドーが自動開閉できない場合、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

助手席での開閉

助手席のウインドーだけ開閉できます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すとウインドーはその位置で止まります。
- お子さまを乗せているときは、運転席ドアにあるウインドーロックスイッチを ロック 位置にしてください。
  → **3-7ページ（ウインドーロックスイッチ）**



82M30080

アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときは、助手席ウインドーの開閉ができません。

手動ウインドー

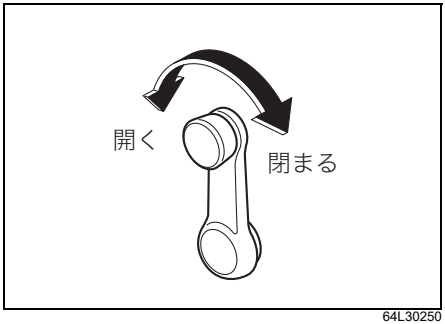
タイプ別装備

■ 運転席、助手席での開閉

ドアにあるハンドルをまわして開閉します。

- 開閉方向は車両の左側と右側で逆になります。

右側ドアの場合



64L30250

⚠警告

ウインドーの開閉は、お子さまではなく大人が行なってください。誤ってお子さまが開閉すると、手足や首などの身体をはさまれ、重大な傷害につながるおそれがあります。

リヤゲート、サイドゲート

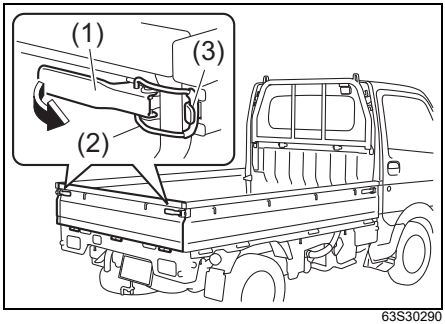
⚠注意

- **ゲートを開閉するときは、指などをはさまないように気をつけてください。**
- **ゲートは途中で手を離すなどして、急激に開けないでください。ゲートを手でささえながらゆっくりと開けてください。けがをしたり、ゲートなどが破損したりするおそれがあります。**
- **ゲートが閉まっているとき、次のような場合は、ゲートに力がかかったときにロックが外れてゲートが倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。すぐにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**
  - **ロックハンドルを起こすときに抵抗なく動いてしまうとき。（通常15 N（1.5 kg）前後の抵抗があります。）**
  - **ゲートを軽くゆすったときにゲートやロックハンドルにガタがあるとき。**
- **作業のために荷台に乗り込むときは、必ずゲートを開いてください。ゲートを閉じたままゲートに手や足をかけて乗り込もうとすると、ゲートが倒れて思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **ゲートに乗ったり足をかけたりして作業しないでください。ゲートが倒れて思わぬ事故につながるおそれがあります。**

リヤゲート

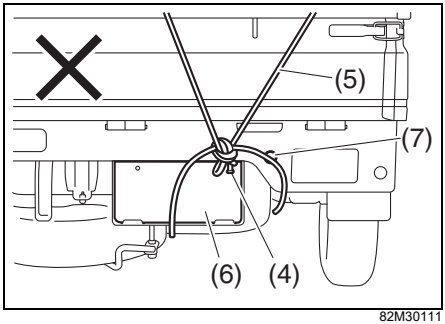
タイプ別装備

開けるときは、両端にあるロックハンドル（1）を起こし、ロックリング（2）をつめ(3)から外してから手前に引きます。



63S30290

- リヤゲート下にあるロープフック（運転席側）（4）にロープ（5）をかけるときは、ロープなどでナンバープレート（6）が隠れないようにしてください。（法令違反となるおそれがあります。）また、同様にロープなどで超音波センサー（7）（タイプ別装備）が隠れないようにしてください。後方誤発進抑制機能（タイプ別装備）が正常に作動しないおそれがあります。



82M30111

⚠警告

●リヤゲートを開けたまま走行しないでください。車両後部の灯火類（制動灯、尾灯、方向指示器/非常点滅表示灯）が後方から見えなくなる場合があり、法令違反となるだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●リヤゲートを開けたまま走行しないでください。超音波センサー（タイプ別装備）がリヤゲートを障害物として検知し、後方誤発進抑制機能（タイプ別装備）が正常に作動しなくなります。やむを得ず走行する場合は、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF スイッチで機能を停止して下さい。

→ 4-65ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF スイッチ）

●車を路肩などに止めて、リヤゲートを開けたままにしないでください。やむをえずゲートを開けたままにするときは、安全のため、停止表示板（別売り）などを後方から見やすいところに設置してください。ゲートを開けた状態では、車両後部の灯火類（制動灯、尾灯、方向指示器/非常点滅表示灯）が後方から見えなくなる場合があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

リヤゲートを勢いよく全開にすることなどでセンサーおよびその周辺に強い衝撃を与えたとき、またはセンサーの故障や衝突などにより取り付け方向がずれているときは、システムが正常に作動しない場合があります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

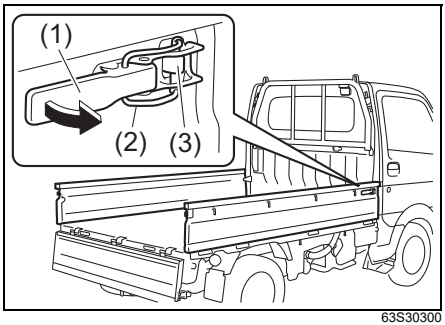
サイドゲート

タイプ別装備

開けるときは、次のようにします。

1 先にリヤゲートを開けます。
→ **3-11ページ（リヤゲート）**

2 サイドゲートの前部にあるロックハンドル（1）を起こし、ロックリング（2）をつめ（3）から外してから手前に引きます。



63S30300

⚠注意

スーパーキャリイにおいて、助手席側のサイドゲートを開けるときは、ロックハンドルが倒れていることを必ず確認してください。ロックハンドルが起きた状態でサイドゲートを全開にすると、バッテリーに当たって破損するおそれがあります。

注 記

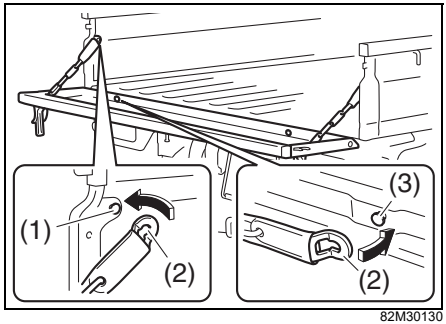
サイドゲートを開けたまま走行しないでください。取り付け部のヒンジが破損するおそれがあります。

リヤゲートチェーン

タイプ別装備

リヤゲートの両端にあるチェーンを使うと、リヤゲートを半分まで開けて固定できます。

- 使うときは、サイドゲート側のフック（1）にチェーン端部のブラケット（2）を固定します。
- 使わないときやリヤゲートを全開にするときは、リヤゲート側のフック（3）にチェーン端部のブラケットを固定します。



82M30130

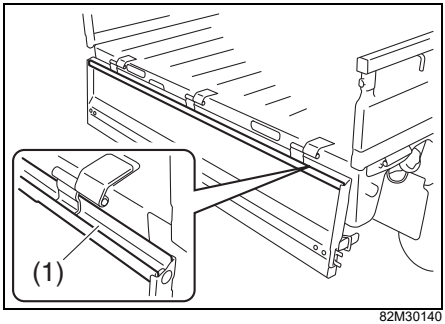
⚠注意

リヤゲートチェーンを使っているときに、リヤゲートの上に乗ったり重いものを載せたりしないでください。けがをしたり、チェーンおよびフックが破損したりするおそれがあります。

リヤゲートガター

タイプ別装備

リヤゲートを全開にすると、みち板（オートブリッジ）（別売り）のつめをひっかける溝(1)があります（リヤゲートガター）。溝の位置は、リヤゲートの内側となります。



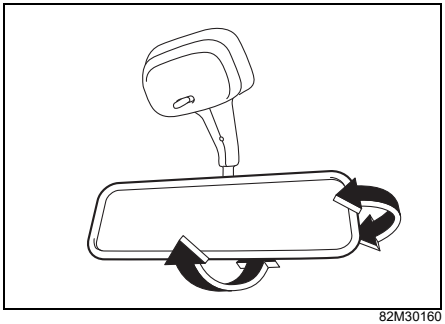
82M30140

注 記

リヤゲートガターにかかる荷重は、みち板（オートブリッジ）（別売り）の数に関わらず、合計で100 kg以下としてください。ヒンジ部が破損するおそれがあります。
また、みち板（オートブリッジ）（別売り）の耐荷重にも気をつけてください。

ルームミラー

ミラー全体を動かして角度を調節します。



82M30160

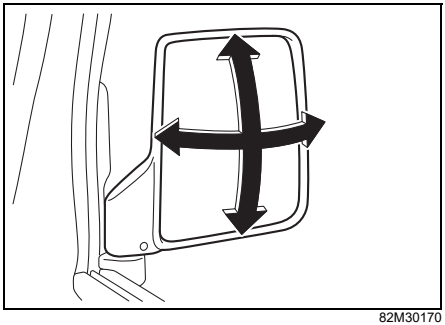
⚠警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアミラー

角度の調節

ミラー全体を動かして調節します。



82M30170

⚠警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

格納

狭い場所で駐車するときなどに、ドアミラーを車の後ろ方向に倒すことができます。

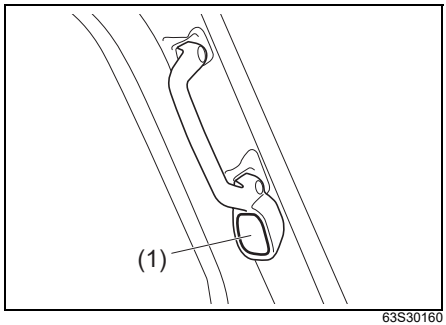
⚠注意

- **ドアミラーを倒したまま走行しないでください。後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。**
- **ドアミラーは車体より張り出しています。ドアミラーを車外の人やものに当てないように気をつけてください。**

サイドアンダービューミラー

助手席側のフロントピラーにあります。

- 停車時およびごく低速時に、車両左側下部を確認するときに使用します。



63S30160

(1) サイドアンダービューミラー

⚠注意

- **ミラーだけにたよらず車から降りて自分の目で直接確かめるなど、周囲の安全をよく確認してから車を発進させてください。**
- **サイドアンダービューミラーをつかむなど、ミラーが隠れた状態まま走行しないでください。車両左側下部の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。**

アドバイス

サイドアンダービューミラーの鏡面は固定式です。鏡面の角度調節はできません。

シート

→ **2-9ページ（正しい運転姿勢）**

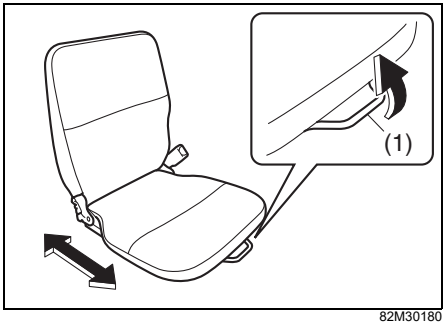
⚠注意

- **シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。**
  → **2-9 ページ（シート、ミラーの調節は走行前に）**
- **シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。**

前後位置の調節

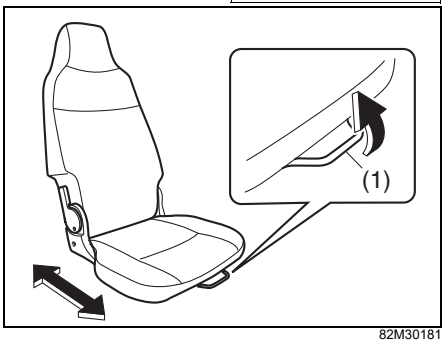
スライドレバー（1）を引き上げたまま、シートを前後に動かします。

キャリイ(運転席のみ)



82M30180

スーパーキャリイ



82M30181

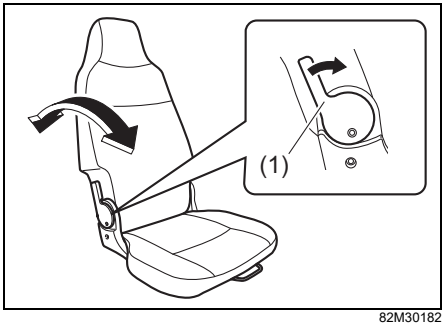
⚠注意

スーパーキャリイの助手席は最も前の位置では固定されません。固定される位置まで後ろに戻してください。

背もたれの角度調整

スーパーキャリイ

- 後方に倒すときは、リクライニングレバー(1) を前方に倒したまま、背中で軽く押します。
- 前方に起こすときは、背中を少し浮かせて、リクライニングレバー（1）を前方に倒します。



82M30182

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトや SRS エアバッグシステムが本来の効果を発揮できません。

⚠注意

- **背もたれから離れてリクライニングレバーを操作すると、背もたれが急に起きあがって前方に倒れることがあります。手など添えて操作してください。**
- **背もたれを後方に倒すときは背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。**

シートベルトについて

正しい姿勢でシートにすわり、正しくシートベルトを着用しないと、シートベルトが本来の効果を発揮できません。シートベルトは、**2-10 ページ**の「**シートベルトは正しく着用**」を参照のうえ、正しく着用するとともに、同乗者がいる場合は、安全のため全員に着用させましょう。

⚠ 警告

シートベルトを正しく着用してください。正しく着用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されず、重大な傷害につながるおそれがあるため、次のことに注意してください。

- **シートベルトにねじれやたるみがあると、衝撃を受けたときに局部的に圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが腰部でなく腹部にかかっていると、衝撃を受けたときに内臓が強く圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが肩にしっかりとかかっていないと、衝撃を受けたときに前方に投げ出されるおそれがあります。**

お子さまもシートベルトを着用

→ **2-5ページ(お子さまを乗せるときは)**

⚠ 警告

お子さまがベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいると、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。
お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。



82M20030

妊娠中や疾患のある方は

⚠ 警告

- **妊娠中の方、疾患がある方もシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときに局部的に強く圧迫されるおそれがありますので、医師に相談して注意事項を確認してください。**
- **妊娠中の方は、腰ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけます。肩ベルトは、首と肩先の中央から腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。**



80J075

シートベルトの長さ調節

シートベルトは、長さ調節が必要ありません。身体の動きにあわせてベルトが伸縮し、強い衝撃を受けたときは自動的にベルトがロックされて身体を固定します。

シートベルトの着用のしかた

■ 着用のしかた

1 タングプレート（1）とシートベルトをつかみ、ベルトをゆっくりと引き出します。
ベルトのねじれを取ります。

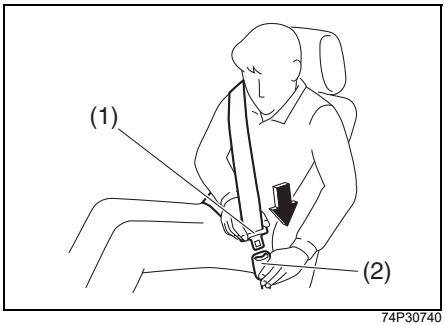


80J1147

アドバイス

ベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

2 タングプレート（1）をバックル（2）の差し込み口にまっすぐになるようにあわせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。



74P30740

3 ベルトを引っ張るなどして、タングプレートがバックルに確実に固定されていることを確認します。

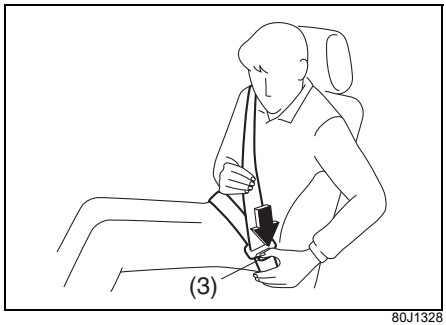
4 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。

5 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。

6 ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

■ 外すときは

バックルのボタン（3）を押します。シートベルトが自動的に巻きもどされますので、ベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。



80J1328

アドバイス

ベルトがねじれていると、ベルトを外したときに巻き取られないことがあります。ベルトにたるみがなく巻きもどされていることを確認してください。

シートベルトの取扱いとお手入れ

取扱い

⚠ 警告

- **シートベルトにほつれや擦り傷、切り傷があるときは、ベルトを交換してください。**
- **バックルが正常に動かないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **衝突などでベルトに強い力がかかったときは、外観に異常がなくても、機能が損なわれていることがあります。ベルトを交換してください。**
- **バックルの内部に異物が入ったり、飲み物をこぼしたりしたときは、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがありますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **ベルトをドアにはさまないでください。ドアを閉める前に、ベルトがたるみなく巻きもどされているか確認してください。**
- **ベルトを改造したり、取り外したりしないでください。**

お手入れ

お手入れの方法は、布地などと同様です。

→ **6-5ページ（布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ）**

⚠ 警告

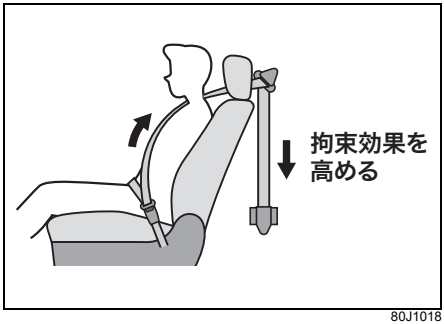
漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となり、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーとは

エンジンスイッチが ON のときに、次のような状況になると、肩ベルトを瞬時に巻き取ります。

- 車の前方向から強い衝撃を受けたとき。運転席・助手席SRSエアバッグシステムと連動しています。
  → **3-32ページ（SRSエアバッグシステムの作動）**



80J1018

アドバイス

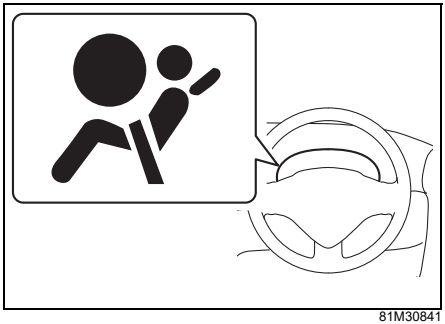
作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

正常に機能させるために

シートベルトプリテンショナーの機能に影響をあたえる部品に手を加えないでください。シートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られなくなったりすることがあります。

→ **2-30 ページ（部品の取り付け、取り外し、修理をするときは）**

SRSエアバッグ警告灯



81M30841

メーターパネル内にあります。

- シートベルトプリテンショナー、SRSエアバッグが作動したときまたは電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-10ページ（警告灯）**

廃棄や廃車

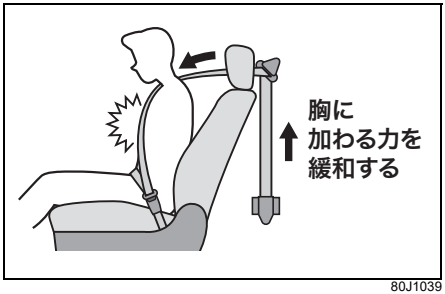
作動していないシートベルトプリテンショナーは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

⚠注意

プリテンショナーを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

シートベルト フォースリミッター

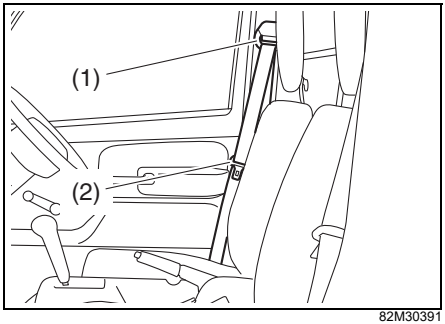
車の前方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻取り装置内のシートベルトフォースリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを繰り出して、衝撃を緩和します。



80J1039

⚠ 警告

強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部（1）およびタングプレート部（2）の樹脂が強い摩擦で溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。スズキサービス工場で交換してください。



82M30391

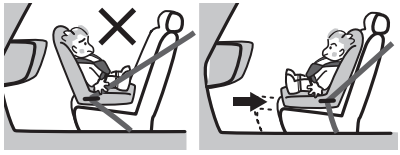
お子さま用シートの シートベルトによる固定

お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。

→ **3-23ページ**
（お子さま用シートの選択について）

⚠ 警告

- **助手席には、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらむと、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命に関わる重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **やむをえず助手席にチャイルドシートやジュニアシートを取り付けるとき、シートスライド機構がある場合は助手席を一番後ろに下げ、前向きに取り付けてください。**



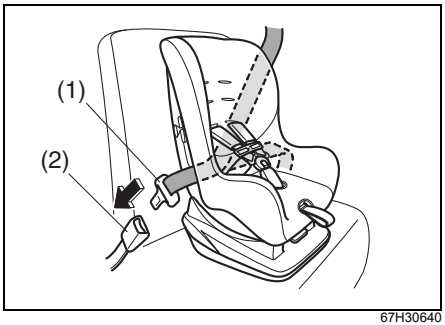
80J027

固定のしかた

1 座席が確実に固定されているか確認します。

2 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、所定の部位にシートベルトを通します。

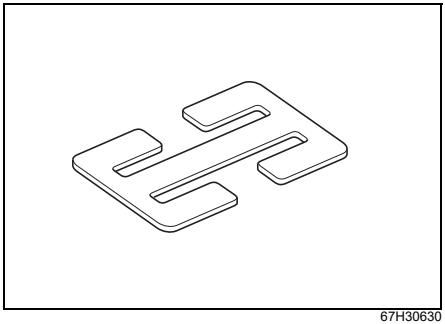
3 カチッと音がするまで、タングプレート（1）をバックル（2）にしっかりと差し込みます。



67H30640

- 前図のお子さま用シートは代表例です。

4 お子さま用シートにシートベルト固定機構もロッキングクリップも備わっていない場合は、ロッキングクリップ（市販品）を使用してしっかりと固定します。



67H30630

- 前図のロッキングクリップ（市販品）は代表例です。

⚠警告

シートベルト固定機構またはロッキングクリップでお子さま用シートを確実に固定しないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

5 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に固定されているか確認します。

- 確実に固定できない場合は、お子さま用シートに付属の取扱説明書をご確認いただくか、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

⚠警告

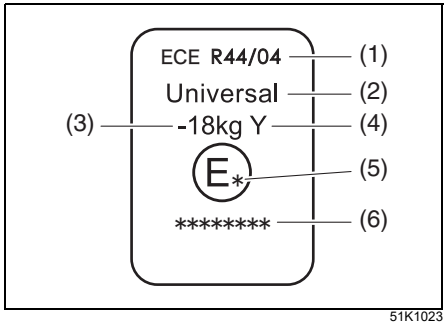
お子さま用シートは、確実に固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さま用シートの選択について

- お子さま用シートはこの項目をよく読んだうえで、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
- この車には、助手席SRSエアバッグの有無にかかわらず、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けることはできません。
- **2-5 ページ**の「**お子さまを乗せるときは**」もよくお読みください。
- この車は、2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具（ISOFIXアンカーおよびテザーアンカー）を装備していません。

UN R44 の基準に適合するお子さま用シートの認証マークについて

UN R44（※1）の基準に適合するお子さま用シートには、次のような認証マークが表示されています。



51K1023

(1) 法規番号(※2)
(2) お子さま用シートのカテゴリー(※3)
(3) 対象となるお子さまの体重範囲
(4) 装置の仕様
(5) お子さま用シートを認可した国番号
(6) お子さま用シートの認可番号

- 前図の認証マークは代表例です。

※1 UN R44とは、お子さま用シートに関する国際法規です。
※2 お子さま用シート本体の認証マークにECEとありますが、内容はUNと同じです。
※3 前図の「**Universal**」は、汎用カテゴリーの認可であることを表します。

アドバイス

この車のスズキ純正お子さま用シートは、UN R44 の基準に適合しています。

UN R44 の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表の見かた

→ **3-25 ページ（座席位置別のお子さま用シート適合性について）**

■ 質量グループについて

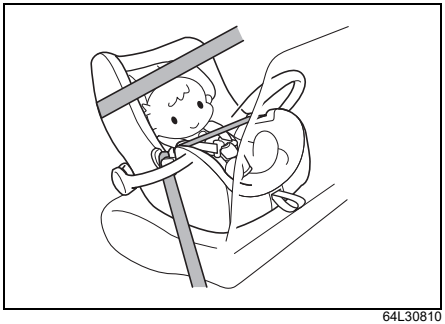
- UN R44 の基準に適合するお子さま用シートは、次の5種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0＋	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

● 代表的なお子さま用シートには、次のようなものがあります。

ベビーシート

後ろ向き、または横向き装着のお子さま用シートで、首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまに使用します。UN R44 基準のグループ**0**、**0+**に相当します。



64L30810

※この車には、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けることはできません。

チャイルドシート

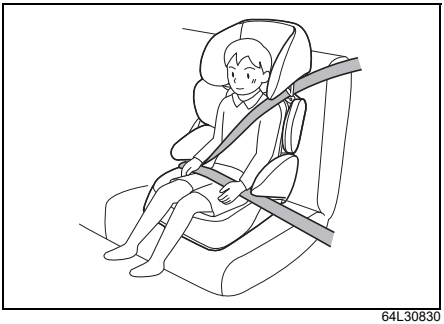
前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。UN R44 基準のグループ**I**に相当します。



64L30820

ジュニアシート

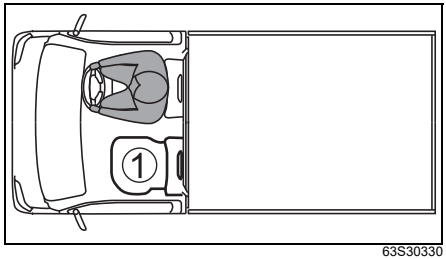
前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。UN R44 基準のグループ**II**、**III**に相当します。



64L30830

座席位置別のお子さま用シート適合性について

■ 座席位置別のお子さま用シート適合性（キャリイ）



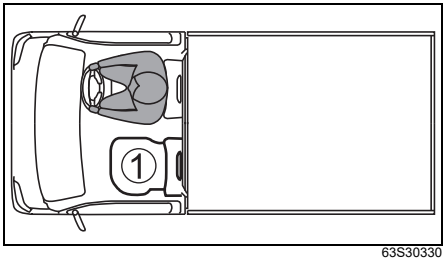
63S30330

シート位置番号	マーク
①	U

U　車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのお子さま用シートに適しています。

前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを絶対に使用しないでください。

■ 座席位置別のお子さま用シート適合性（スーパーキャリイ）



63S30330

シート位置番号	マーク
① (※1、※2)	U

U　車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのお子さま用シートに適しています。

前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを絶対に使用しないでください。

※1　お子さま用シートを取り付けるときは、シートは一番後ろに下げてください。

※2　前向きお子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートの背面が、助手席背もたれの上部及び下部両方に接触するよう背もたれの角度を調整してください。

■ 座席位置別のお子さま用シート適合性の詳細情報（キャリイ）

	着席位置
シート位置番号	①
シートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのお子さま用シートに適する着席位置（有 / 無）	有 （※1）
i-Sizeお子さま用シートに適する着席位置（有 / 無）	無
横向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：L1/L2）	無
後ろ向きお子さま用シートに適する着席位置 （治具：R1/R2X/R2/R3）	無
前向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：F2X/F2/F3）	無
ジュニアシートに適する着席位置（治具：B2/B3）	無

※1　前向きお子さま用シートのみ取り付けができます。

＜上表に記入する文字の説明＞

有　：お子さま用シートを取り付けることができます。
無　：お子さま用シートを取り付けることができません。
X　：この治具に対応するISOFIX対応お子さま用シートの取り付けには適していません。

■ 座席位置別のお子さま用シート適合性の詳細情報（スーパーキャリイ)

	着席位置
シート位置番号	① （※2）
シートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのお子さま用シートに適する着席位置（有 / 無）	有 （※1）
i-Sizeお子さま用シートに適する着席位置（有 / 無）	無
横向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：L1/L2）	無
後ろ向きお子さま用シートに適する着席位置 （治具：R1/R2X/R2/R3）	無
前向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：F2X/F2/F3）	無
ジュニアシートに適する着席位置（治具：B2/B3）	無

※1　前向きお子さま用シートのみ取り付けができます。取り付けるときはシートを一番後ろに下げてください。

※2　前向きお子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートの背面が、助手席背もたれの上部及び下部両方に接触するよう背もたれの角度を調整してください。

＜上表に記入する文字の説明＞

有　：お子さま用シートを取り付けることができます。

無　：お子さま用シートを取り付けることができません。

X　：この治具に対応するISOFIX対応お子さま用シートの取り付けには適していません。

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRSエアバッグシステムとは

SRS とは Supplemental Restraint System（サプリメンタル　レストレイント　システム）の略で、補助拘束装置の意味です。

アドバイス

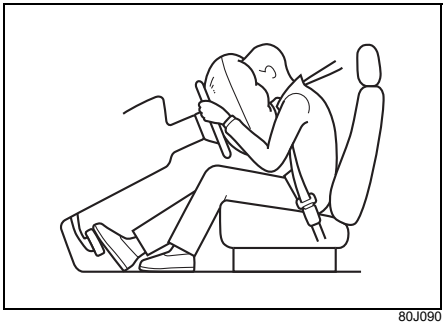
この車は、イベントデータレコーダー（EDR）システムにより、SRS エアバッグが作動したときのデータを記録・蓄積します。

→　**データの記録について**

■ 運転席・助手席 SRS エアバッグシステム

エンジンスイッチが ON の場合に、車の前方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していてもハンドルや助手席側インパネに顔面が当たるような強い衝突のときに、運転席・助手席 SRS エアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

- 運転席・助手席SRSエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS エアバッグがクッションの役割をして、顔面への衝撃を軽減する効果があります。



80J090

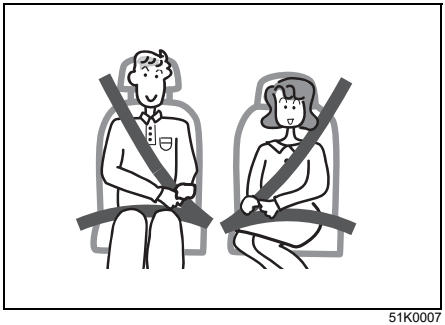
- シートベルトは必ず着用してください。

→　**3-18ページ（シートベルトの着用のしかた）**

⚠警告

●SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

●シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。シートベルトを正しく着用しないと、SRS エアバッグの効果が十分発揮できません。



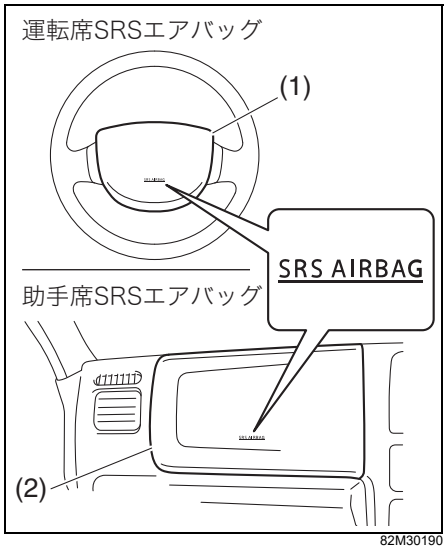
51K0007

アドバイス

助手席SRSエアバッグは、助手席に同乗者がいなくても、運転席 SRS エアバッグと同時にふくらみます。

表示と収納場所

“SRS AIRBAG” の表示がある部分に収納されています。



(1) 運転席SRSエアバッグ
(2) 助手席SRSエアバッグ

⚠ 警告

●エアバッグの収納部分に傷がついていたり、ひび割れがあったりするときは、スズキサービス工場で交換してください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
●エアバッグの収納場所を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり誤ってふくらんだりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

着座姿勢

運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、運転席シートを前方に出しすぎないようにシートの位置を調節してください。

→ **2-9ページ（正しい運転姿勢）**

お子さま用シートの取り付け

→ **2-6 ページ（お子さま用シートの使用について）**
→ **3-21 ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**
→ **3-23 ページ（お子さま用シートの選択について）**

SRSエアバッグシステムの取扱い

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために

SRSエアバッグがふくらむ範囲にものがあると、ものが飛ばされたりSRS エアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。

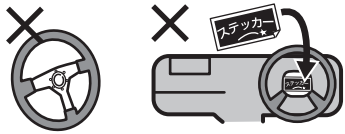
⚠ 警告

- **サスペンションを改造しないでください（スズキ純正用品を除く）。車高やサスペンションの硬さが変わると、SRS エアバッグの誤作動の原因になります。**
- **車両前部にグリルガードなどを装着するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。車両前部を改造すると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。**
- **無線機などを取り付けるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。無線機の電波などがSRS エアバッグのコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあります。**
- **SRSエアバッグが作動しない程度の事故であっても､事故後はスズキサービス工場で点検を受けてください｡システム本来の機能が損なわれていると、万一のときにSRSエアバッグの効果が十分に発揮できないおそれがあります。**
- **SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなくなったりすることがあります。次のような場合は、システムに悪影響をおよぼしますので、事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**
  - **ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など**
  - **インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理**
  - **オーディオ用品などの取り付け**
  - **ダッシュボード周辺の板金塗装および修理**
  - **リヤピラーまわりの修理**

■ 運転席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

- **ハンドルにもたれかかるなどして、SRS エアバッグ収納部に手や顔、胸などを近づけないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーで覆うなどの改造をしないでください。万一のときにSRS エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。**



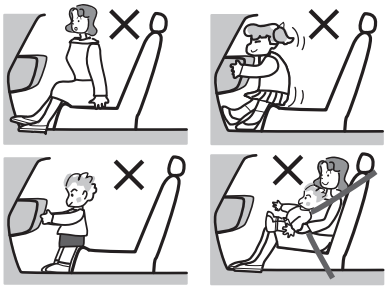
63S30100

■ 助手席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

●助手席に乗車するときや、お子さまを乗せるときは、必ず次のことをお守りください。守らないと SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。

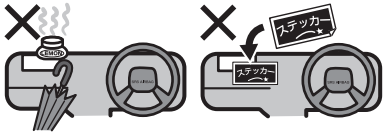
- インパネの SRS エアバッグ収納部に手足を置いたり、顔や胸などを近づけたりしないでください。
- お子さまを SRS エアバッグ収納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわったりしないでください。お子さまにもシートベルトを着用させてください。



80J095

- シートベルトを正しく着用できないお子さまは、お子さま用シートをご使用のうえ、助手席に乗せてください。
  → 2-6 ページ（お子さま用シートの使用について）
  → 3-23ページ（お子さま用シートの選択について）

●エアバッグ収納部およびその周辺には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。



80J096

●フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（スズキ純正用品を除く）などを取り付けないでください。

3

SRSエアバッグシステムの作動

作動したとき

- エアバッグは、高温のガスで瞬時にふくらみます。事故の発生状況や乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだエアバッグは、すぐにしぼむ構造になっています。

⚠警告

エアバッグが作動したあとは、エアバッグの構成部品に触れないでください。作動直後は構成部品が熱くなり、やけどのおそれがあります。

⚠注意

エアバッグが作動すると大きな音がして白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

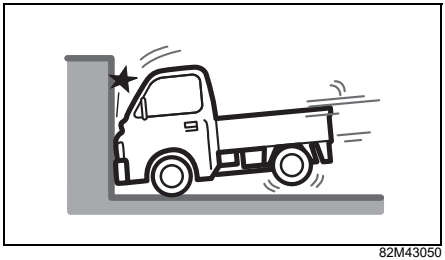
アドバイス

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

運転席・助手席SRSエアバッグ

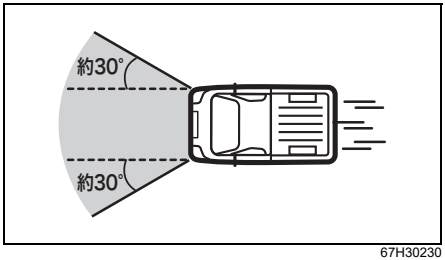
■ こんなとき作動します

- 衝突しても変形や移動をしない構造物（コンクリートの壁など）に、約25 km/h以上の速度で正面衝突したとき



82M43050

- 車両前方左右約 30° 以内の方向から、上図の正面衝突と同等の強い衝撃を受けたとき

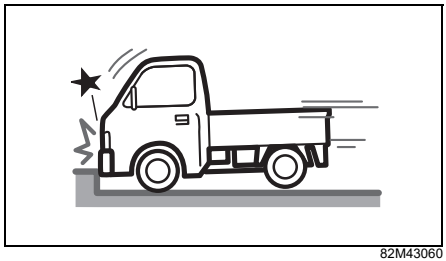


67H30230

■ こんなとき作動することがあります

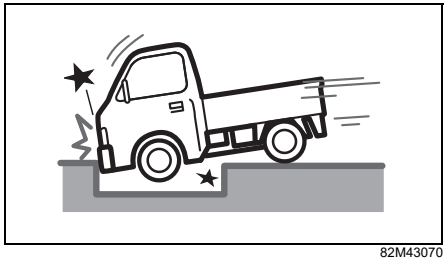
車体下部に強い衝撃を受けると、作動することがあります。

- 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



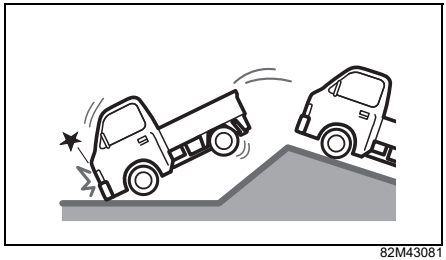
82M43060

- 深い穴や溝などに落ちたとき



82M43070

- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき

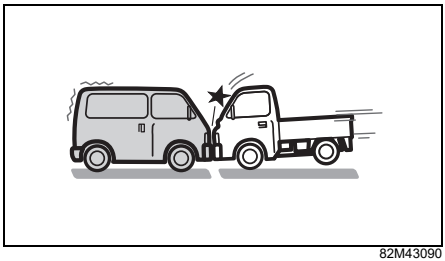


82M43081

■ こんなとき作動しないことがあります

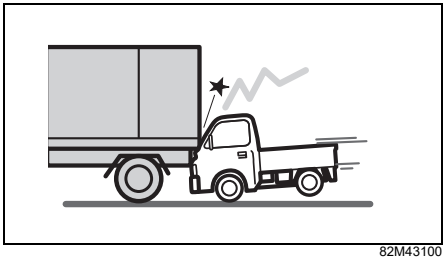
衝突の相手が変形または移動しやすかったり、自車の衝突部位が変形しやすかったりして強い衝撃が発生しない場合は作動しません。
また、衝突の角度が車両前方左右約 30°を超えるとき、多くの場合は作動しません。

- 停車している同程度の重さの車に、50 km/h程度、もしくはそれ以下の速度で前面衝突したとき



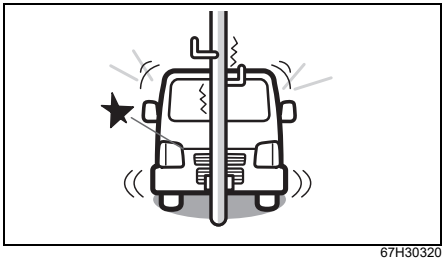
82M43090

- トラックの荷台の下などへもぐり込んだとき



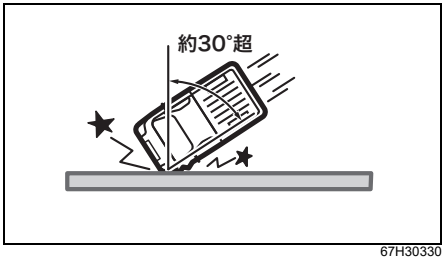
82M43100

● 電柱や立木などに衝突したとき



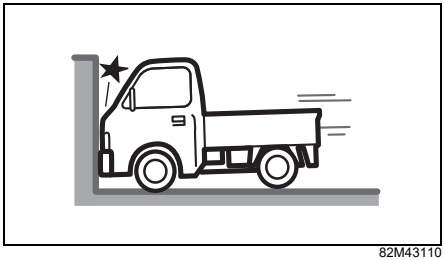
67H30320

● 車両前方左右約30°を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



67H30330

● 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約25 km/hよりも低いとき

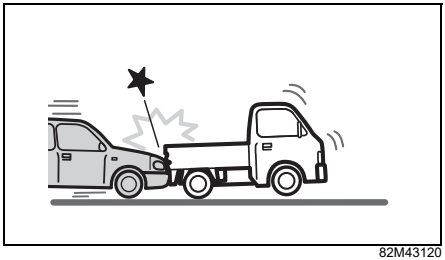


82M43110

■ こんなときは作動しません

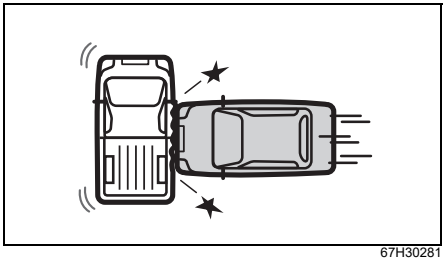
後方、横方向からの衝突、横転などでは作動しません。衝撃が強いとまれに作動する場合があります。

● 後方からの衝突



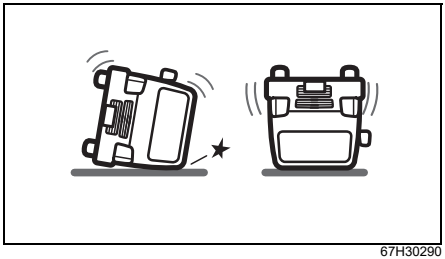
82M43120

● 横方向からの衝突



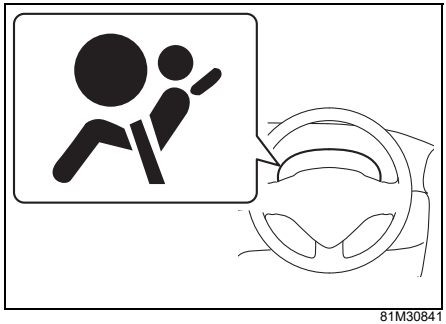
67H30281

● 横転や転覆をしたとき



67H30290

SRSエアバッグ警告灯



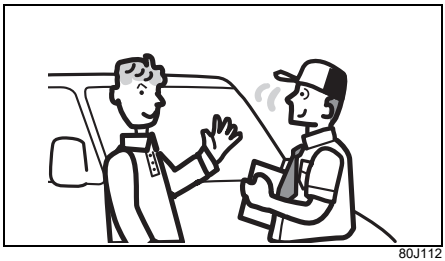
81M30841

メーターパネル内にあります。

- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動したときまたは電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-10ページ（警告灯）**

廃棄と廃車

作動していないエアバッグを廃棄するときは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。



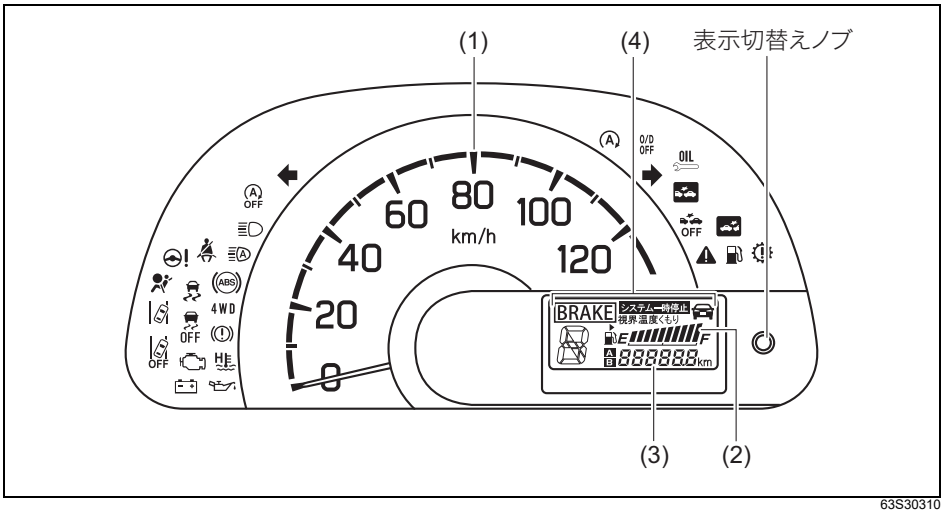
80J112

⚠注意

エアバッグを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。正しく取り扱わないと、エアバッグが思いがけないときにふくらんで、けがをすることがあります。

メーターの見かた

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



63S30310

(1) スピードメーター（速度計）
(2) 燃料計
(3) オドメーター／トリップメーター
(4) マルチインフォメーションディスプレイ表示

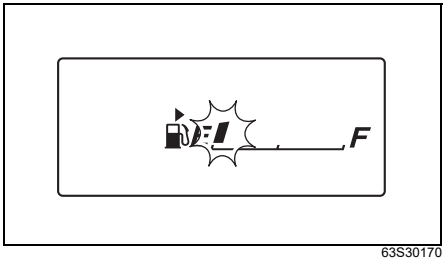
(1) スピードメーター(速度計)

走行速度がkm/hで示されます。

(2) 燃料計

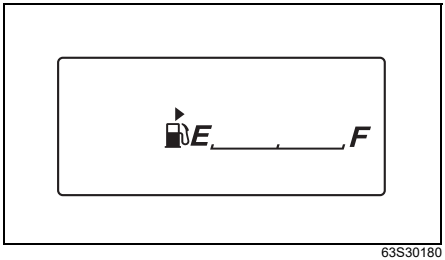
エンジンスイッチが ON のとき、燃料残量の目安が表示されます。

- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。
  → **3-48ページ（燃料残量警告灯）**
- 燃料残量警告灯が点灯するとともに、燃料計の目盛り（1 つ）が点滅したときは、燃料残量がほとんどありません。ただちに給油してください。



63S30170

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。
- 燃料計の目盛り表示が全消灯するとともに、燃料残量警告灯が点滅したときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。



63S30180

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

- 給油後は、エンジンスイッチを ON にしてから正しい量を示すまでに、少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が変わることがあります。
- ⛽ の上にある ▶ 印は、給油口（フューエルキャップ）が運転席側にあることを示します。

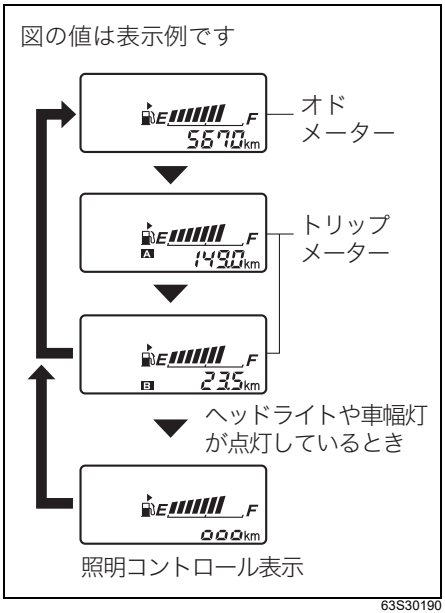
(3) オドメーター／トリップメーター

エンジンスイッチを ON にすると、次のいずれかが表示されます。

- オドメーター（積算距離計）
- トリップメーター（区間距離計）

メーター内の表示切替えノブを押すと、次の図のように表示が切り替わります。

- 照明コントロール表示については、次の参照先をお読みください。
  → **3-39ページ（メーターの明るさ調節）**



- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠ 警告

走行中は、表示の切り替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

表示は、ノブを離したときに切り替わります。

オドメーター（積算距離計）

新車時（またはメーター交換時）からの走行距離の累計が km 単位で表示されます。（リセットはできません）

トリップメーター（区間距離計）

リセット後の走行距離が km 単位で表示されます。（次にリセットするまで距離計測は継続されます）

- A および B の2種類の走行距離を同時に計測できます。

＜使いかたの例＞

A：出発時にリセットして、出発後の距離を計測

B：給油時にリセットして、給油後の距離を計測

- リセットするときは、表示が「0.0」になるまで表示切替えノブを長押しします。

アドバイス

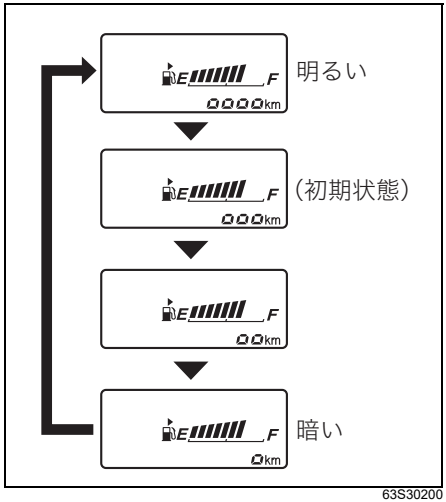
トリップメーターの最大値は 9999.9 で、そのあと 0.0 にもどります。（距離計測は継続されます）

メーターの照明

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。

メーターの明るさ調節
4段階に調節できます。

- ヘッドライトや車幅灯を点灯し、照明コントロール表示（**3-37ページ**参照）にしたうえで、表示切替えノブを長押しします。明るさが 1 段階ずつ変化します。



- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

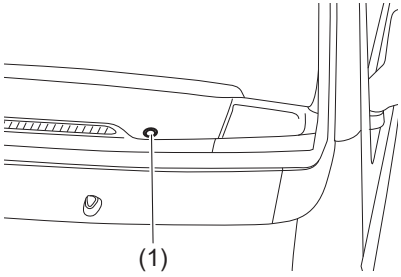
⚠ 警告

走行中は明るさ調節をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 調節中に、表示切替えノブを短押しするか 5 秒以上押さないでいると、オドメーターの表示に切り替わります。
- バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、明るさ調節をやり直す必要があります。
- オートライトセンサー（1）が車外が暗いと感知し、ヘッドライトまたは車幅灯と同時にメーターの照明が点灯して、マルチインフォメーションディスプレイが減光されたときに、明るさ調整ができます。
  メータの照明が点灯していてもマルチインフォメーションディスプレイが減光していないときは調整できません。

インパネ助手席側



セッティングモード

セッティングモードでは、次の設定切替え（カスタマイズ）ができます。

● お車のタイプにより、設定できる項目は異なります。

項目	設定切替え		参照先
oCI エンジンオイル交換インジケーター	rESEt 走行距離および時間をリセットする		3-42ページ
FuEhCL 先行車発進お知らせ機能	Fu-Md1 停止	Fu-Md2 作動（※）	4-60ページ
dEFAUL 設定の初期化	dE- on すべての設定を初期状態にもどす		—

※初期状態（工場出荷時）

設定の切り替えは、エンジンスイッチが ON で安全な場所に停車しているときに、次の手順で行ないます。

1 セッティングモードへ切り替えます。

●表示切替えノブを短押ししてオドメーター表示に切り替えます。
→ **3-37ページ（オドメーター/トリップメーター）**

●オドメーター表示中に、セッティングモードの表示に切り替わるまで、ノブを長押しします。

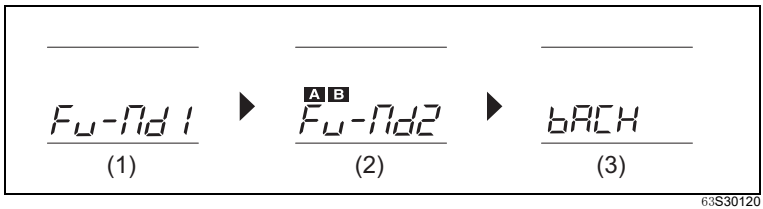
2 設定を切り替えたい表示を選択します。

●表示切替えノブを短押ししてを表示を切り替えます。

3 設定切替え表示に移動します。

●表示切替えノブを長押しします。室内ブザーが“ピッ”と鳴り、下図（表示例）の作動設定表示（2）に切り替わります。

表示例（先行車発進お知らせ機能）の場合



(1) 非作動設定表示　(2) 作動設定表示（現在設定中）(3) BACK表示

アドバイス

上図の（2）のように、A B が表示されている状態が、現在設定中であることを示します。

4 設定を切り替えます。

- 設定を切り替えるときは、表示切替えノブを短押しして ON または OFF を選択します。そのあとノブを長押しします。室内ブザーが“ピッ ”と鳴り、「SUCCES」と表示されると設定が切り替わり、手順 2 の表示にもどります。
- 設定切替えを行なわずに手順 2 にもどるときは、BACK 表示（3）を選択してから、室内ブザーが“ピッ ”と鳴るまでノブを長押しします。

5 続けて設定の切り替えをしたいときは、手順 2 ～ 4 を繰り返します。

- セッティングモードを終了する場合は、手順 6 に進みます。

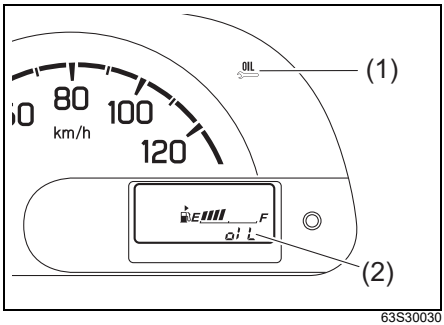
6 セッティングモードを終了します。次のいずれかの操作で終了できます。

- 手順 2 の表示のときに「End」を選択してから、オドメーター表示に切り替わるまで表示切替えノブを長押しする
- エンジンスイッチを ACC または LOCK(OFF）にする
- 走行を開始する

エンジンオイル交換のお知らせ機能

設定された走行距離または時間（工場出荷時は10,000 kmまたは6か月）のどちらか一方をみたすと、メーター内のエンジンオイル交換インジケーター（1）とメーターディスプレイ（2）の「oil」表示が点灯して、エンジンオイルが交換時期であることをお知らせします。

→ **2-31ページ（エンジンオイルを交換するときは）**



63S30030

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

注記

エンジンオイルの交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。

- エンジンオイルを交換したときは、走行距離および時間をリセットしてください。（自動でリセットされる機能はありません。）
  - エンジンオイル交換インジケーターが点灯中の場合は、次のリセット操作を行なってください。
    → **3-43 ページ（リセットのしかた（エンジンオイル交換インジケーターが点灯中））**
  - エンジンオイル交換インジケーターが点灯する前にオイルを交換した場合もリセットの操作を行なってください。
    → **3-43 ページ（リセットのしかた（エンジンオイル交換インジケーターが点灯する前））**

- 設定された走行距離または時間をみたしていない場合、エンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

アドバイス

次回の交換時期までの走行距離や時間を途中で確認することはできません。

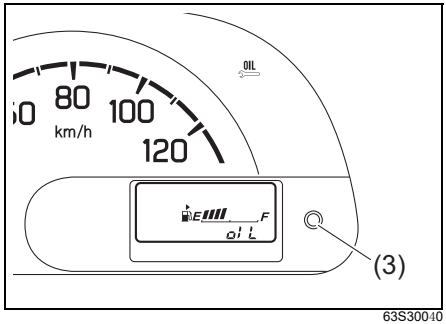
■ リセットのしかた（エンジンオイル交換インジケーターが点灯中）

メーターのセッティングモードでもリセットできます。

- エンジンオイル交換インジケーターが点灯していないときは、セッティングモードでしかリセットできません。
  → **3-40ページ（セッティングモード）**

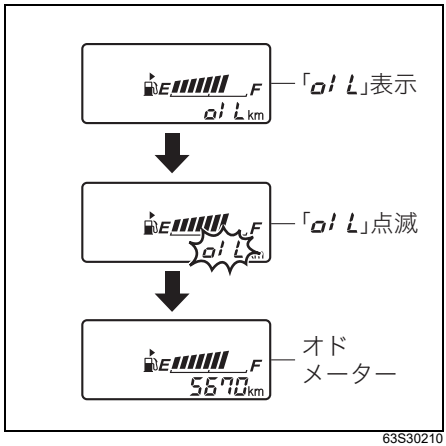
1 エンジンスイッチを ON にします。

2 エンジンオイル交換インジケーターとメーターディスプレイが次のように表示されている状態で、「oil」表示の点滅が終わるまで表示切替えノブ（3）を長押しします。



63S30040

- ノブを押し続けると、次のように表示が切り替わります。オドメーターが表示され、エンジンオイル交換インジケーターが消灯するとリセットが完了します。



63S30210

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ リセットのしかた（エンジンオイル交換インジケーターが点灯する前）

エンジンオイル交換インジケーターが点灯していないときは、セッティングモードでしかリセットできません。
→ **3-40ページ（セッティングモード）**

(4) マルチインフォメーションディスプレイ表示

スズキ セーフティ サポート装備車

各システムの異常などお知らせしたい情報があると、マルチインフォメーションディスプレイ（右側表示部）に表示されます。

● エンジンスイッチが ON のとき

表示	マスターウォーニング	ブザー音	原因（対処方法）
	消灯	●ピピッ ●1回 ●室内ブザー	先行車発進お知らせ機能が作動しています。 → **4-60ページ（先行車発進お知らせ機能）**
システム一時停止	点滅	なし	ステレオカメラの機能が一時停止しています。 → **4-44ページ（ステレオカメラのシステム一時停止）**
温度			カメラ本体の高温により、ステレオカメラの機能が一時停止しています。 → **4-44ページ（ステレオカメラのシステム一時停止）**
視界			ステレオカメラが視界不良により、機能を一時停止しています。 → **4-44 ページ（ステレオカメラのシステム一時停止）**
くもり			ステレオカメラがくもりにより、機能を一時停止しています。 → **4-44ページ（ステレオカメラのシステム一時停止）**
	消灯	なし	ステレオカメラがくもりを検知したときは、「くもり」だけが表示されます。エアコンを作動させ、デフロスターを使用して曇りを取り除いてください。 → **4-44 ページ（ステレオカメラのシステム一時停止）** → **5-3 ページ（エアコン（タイプ別装備）、ヒーター）**

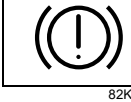
表示	マスター ウォーニング	ブザー音	原因（対処方法）
BRAKE	消灯	● ピピピピピ ● 断続的 ● 室内ブザー	前方衝突警報が作動しています。 → **4-52ページ（①前方衝突警報）**
			前方衝突被害軽減ブレーキアシストが作動しています。 → **4-52ページ（③-1 前方衝突被害軽減ブレーキアシスト）**
		● ピーーー ● 連続 ● 室内ブザー	前方衝突警報ブレーキ、自動ブレーキが作動しています。 → **4-52ページ（②前方衝突警報ブレーキ）** → **4-53ページ（③-2 自動ブレーキ）**

お車のタイプにより内容が異なります。

警告灯・表示灯の見かた

次に示す警告灯・表示灯のメーター内の位置については、**1-10 ページ**をご覧ください。

警告灯


82K170

(1) ブレーキ警告灯

- 次のような状況になると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  - ブレーキ液が不足している
  - パーキングブレーキをかけている
  - ブレーキシステムに異常がある

- システムが正常で、パーキングブレーキを完全に解除しているときは、エンジンスイッチを ON にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ正常です。

⚠ 警告

●次のようなときはただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
• パーキングブレーキを完全に解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したときは、ブレーキの効きが悪くなっていることがあります。ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。

●パーキングブレーキの解除忘れにご注意ください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。


80J221

(2) シートベルト警告灯

運転者がシートベルトを着用していないと、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

- 運転者がシートベルトを着用しても、点灯したままのときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

運転者がシートベルトを着用すると消灯します。


80J111

(3) SRSエアバッグ警告灯

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動したときまたは電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 6 秒間点灯したあと消灯します。

⚠警告

次のような場合、ただちに使用を止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。万一、衝突したとき SRS エアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが正常に作動せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。
●エンジンスイッチを ON にしても点灯しない
●エンジンスイッチを ON にしたあと、約6秒間たっても消灯しない
●運転中に点灯


80J225

(4) 燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。すみやかに給油してください。

- 燃料残量警告灯が点滅するとともに、燃料計の目盛り表示が全消灯したときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  → **3-37ページ（燃料計）**

アドバイス

- 坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため、早めに点灯することがあります。
- 走りかたによって、点灯・消灯が繰り返されることがあります。



80J127

(5) ABS警告灯

ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中はABSが作動しません。
スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約２秒間点灯したあと消灯します。

アドバイス

点灯中はABSは作動しませんが、通常のブレーキとして使用することができます。


82K082

(6) 水温警告灯

エンジン回転中に、エンジン冷却水温が高くなると赤色に点滅または点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約 2 秒間点灯したあと消灯します。
- 赤色に点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。
  → **7-39ページ（オーバーヒートしたときは）**

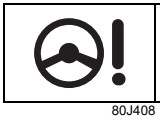

80J222

(7) エンジン警告灯

- エンジンの電子制御システムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。
- エンジンの失火を検知すると、エンジン回転中に点灯または点滅します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯・点滅したときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警告

点滅したときは、すみやかに停車しエンジンを止めてください。触媒装置が溶損するおそれがありますので、次のことに注意してください。
- **枯れ草などの燃えやすいものがない安全な場所に停車する**
- **やむをえず走行する場合はアクセルペダルを大きく踏み込む走行をしないで、低速で走行する**


80J408

(8) パワーステアリング警告灯

パワーステアリング装備車

電動パワーステアリングシステムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

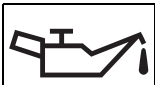
- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

⚠注意

電動パワーステアリングシステムに異常があると、電動パワーステアリングシステムの機能が停止し、ハンドル操作が重くなります。通常より大きな力で操作することは可能ですが、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 駐車するときや停車中に、ハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいにまわした状態で長く保持したりすると、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。これはシステムの過熱防止のための保護機能であり異常ではありません。しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がり操作力はもとにもどりますが、このようなハンドル操作を繰り返すと故障の原因となります。
- すばやいハンドル操作を行なうと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。


80J223

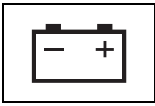
(9) 油圧警告灯

エンジン回転中に、エンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジンオイルの量は、オイルレベルゲージで点検してください。点検方法は、「**メンテナンスノート**」を参照してください。
- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

注 記

点灯したまま走行を続けないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



80J226

(10) 充電警告灯

充電系統に異常があると、エンジン回転中に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯したときは、ベルト切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、バッテリー保護のためエンジンを止めて、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。



80J219

(11) トランスミッション警告灯

オートマチック車

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約 2 秒間点灯したあと消灯します。
- ATのシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。なお、警告灯が消灯した後、再度警告灯が点灯または点滅した場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。



82P0382

(12) マスターウォーニング

スズキ セーフティ サポート装備車

- ステレオカメラのシステムが一時停止したとき点滅します。
  → **4-44ページ（ステレオカメラのシステム一時停止）**

- 超音波センサーのシステムが一時停止したとき点滅します。
  → **4-67ページ（超音波センサーの一時停止）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。



(13) ハイビームアシスト警告灯

57S0061

スズキ セーフティ サポート装備車

ハイビームアシストのシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときにオレンジ色に点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 6 秒間点灯したあと消灯します。

アドバイス

- エンジンスイッチを ON にしたときの初期点灯が、ほかの表示灯より長いですが異常ではありません。
- 鉛バッテリーの性能が弱っている場合、 ON にしたときの初期点灯が、一度消灯した後に再度約6秒間点灯することがあります。

表示灯

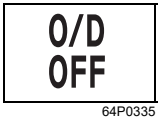


82M30250

(14) 4WD表示灯

4WD車

→ 4-25ページ（2WD⇆4WDの切替え操作）



64P0335

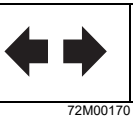
(15) オーバードライブOFF表示

4AT装備車

オーバードライブ（O/D）スイッチがOFFのときに表示されます。

→ 4-17ページ（オーバードライブ（O/D） スイッチ）

- 点滅したときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。


72M00170

(16) 方向指示器表示灯

- 方向指示器／非常点滅表示灯を作動させると点滅します。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

→ 7-25ページ（電球を交換するときは）


80J212

(17) ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。



82M30270

(18) エンジンオイル交換インジケーター

設定された走行距離または時間（工場出荷時は10,000 kmまたは6か月）のどちらか一方をみたすと、エンジンスイッチが ON のときに点灯し続け、エンジンオイルが交換時期であることをお知らせします。

- 点灯した場合はエンジンオイルを交換し、表示のリセットを行なってください。
  （自動でリセットされる機能はありません。）
  → **3-42ページ（エンジンオイル交換のお知らせ機能）**

- 設定された走行距離または時間をみたしていない場合、エンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

注 記

エンジンオイルの交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。

アドバイス

- エンジンオイル交換インジケーターが点灯する前に、オイルを交換した場合もリセットの操作を行なう必要があります。
  → **3-43ページ**
  （リセットのしかた（エンジンオイル交換インジケーターが点灯する前））
- エンジンスイッチを ON にしたとき、表示灯が点滅した場合はスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



57L30045

(19)ESP® OFF表示灯

ESP® OFFスイッチを長押しすると点灯します。
→ **4-34ページ（ESP® OFF表示灯）**


79K019

(20)ESP®作動表示灯

- トラクションコントロールまたはスタビリティコントロールが作動すると、小刻みに点滅します。
- ESP®のシステムに異常があると点灯します。
→ **4-31ページ（ESP®装備車の取扱い）**



72M20303

(21)デュアルカメラブレーキサポート(DCBS) OFF表示灯

スズキ セーフティ サポート装備車

- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF　スイッチを長押しすると点灯します。
  → **4-65ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約3 秒間点灯したあと消灯します。



72M20304

(22)デュアルカメラブレーキサポート(DCBS) 作動表示灯

スズキ セーフティ サポート装備車

- DCBSまたは誤発進抑制機能が作動中に点滅します。
  → **4-50ページ（デュアルカメラブレーキ サポート（DCBS））**
  → **4-55ページ（誤発進抑制機能）**

- ステレオカメラのシステムが一時停止のときに点灯します。
- 次のような電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  • DCBS
  → **4-50ページ（デュアルカメラブレーキ サポート（DCBS））**

  • 誤発進抑制機能
  → **4-55ページ（誤発進抑制機能）**

  • 先行車発進お知らせ機能
  → **4-60ページ（先行車発進お知らせ機能）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約6 秒間点灯したあと消灯します。

アドバイス

- エンジンスイッチを ON にしたときの初期点灯が、ほかの表示灯より長いですが異常ではありません。
- 鉛バッテリーの性能が弱っている場合、エンジンスイッチを ON にしたときの初期点灯が、一度消灯した後に再度約6秒間点灯することがあります。



81M31070

(23)車線逸脱警報OFF表示灯

スズキ セーフティ サポート装備車

- 車線逸脱警報OFFスイッチを長押しすると点灯します。
  → **4-66ページ（車線逸脱警報OFFスイッチ）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約3 秒間点灯したあと消灯します。



81M31080

(24)車線逸脱警報作動表示灯

スズキ セーフティ サポート装備車

- 車線逸脱警報が作動中に点滅します。
  → **4-58ページ（車線逸脱警報）**

- ステレオカメラのシステムが一時停止のときに点灯します。
- 次のような電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  • 車線逸脱警報
  → **4-58ページ（車線逸脱警報）**

  • ふらつき警報
  → **4-59ページ（ふらつき警報）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約6 秒間点灯したあと消灯します。

アドバイス

- エンジンスイッチを ON にしたときの初期点灯が、ほかの表示灯より長いですが異常ではありません。
- 鉛バッテリーの性能が弱っている場合、エンジンスイッチを ON にしたときの初期点灯が、一度消灯した後に再度約6秒間点灯することがあります。



57S0063

(25)後方誤発進抑制機能作動表示灯

スズキ セーフティ サポート装備車

- 後方誤発進抑制機能が作動中に点滅します。
  → **4-70ページ（後方誤発進抑制機能）**

- 後方誤発進抑制機能のシステムが一時停止のときに点灯します。
  超音波センサーが一時停止のときも点灯します。
  → **4-66ページ（超音波センサー）**

- 次のような超音波センサーによる電子制御システムに異常があると点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

  • 後方誤発進抑制機能
  → **4-70ページ（後方誤発進抑制機能）**

  また、超音波センサーが故障のときも点灯します。
  • 超音波センサー
  → **4-66ページ（超音波センサー）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約4 秒間点灯したあと消灯します。

- リヤゲートが開いた状態（超音波センサーの直前に障害物がある状態）で、セレクトレバーがR位置で停車～5km/h未満の状態のときはゆっくり点滅（3秒に1回点灯）します。

アドバイス

- リヤゲートを閉じた状態で、障害物がない状態でゆっくり点滅する場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

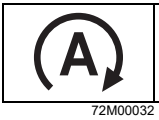


57S0061

(26)ハイビームアシスト作動表示灯

スズキ セーフティ サポート装備車

ハイビームアシストのシステムが作動すると緑色に点灯します。
→ **4-61ページ（ハイビームアシスト）**



(27)アイドリングストップ表示灯

72M00032

アイドリングストップシステム装備車

- 停車時にエンジン自動停止する条件を満たすと点灯します。
  → **4-10ページ（エンジン自動停止の条件）**

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに、約２秒間点灯したあと消灯します。



(28)アイドリングストップシステムOFF表示灯

62R0352

アイドリングストップシステム装備車

- アイドリングストップシステムOFFスイッチを押すと点灯します。
  → **4-11ページ（アイドリングストップシステムOFFスイッチ）**

- 次のような状況になると点滅します。
  - アイドリングストップシステムに異常があるとき
  → **4-6ページ（アイドリングストップシステム）**
  - エンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期であるとき

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに、約２秒間点灯したあと消灯します。

表示

	(29) セレクトレバー位置表示

64P30390

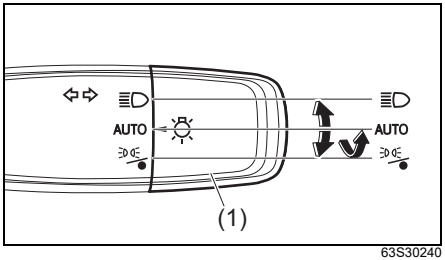
オートマチック車

● セレクトレバーの位置を示し、P、R、N、D、2、Lのいずれかが表示されます。
→ **4-14ページ（セレクトレバーの各位置のはたらき）（オートマチック車）**

ライトスイッチ

ライトの点灯・消灯

ヘッドライトなどを自動で点灯・消灯できます。自動で点灯または消灯しているとき手動で消灯または点灯できます。



63S30240

≡D
ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯を点灯できます。

AUTO
オートライトシステムによりヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯を自動で点灯・消灯します。

≡D
ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯を消灯します。車幅灯、尾灯、番号灯を点灯します。ライトスイッチのツマミ（1）から手を離すと AUTO の位置に戻ります。

注記

●エンジン停止中に長時間点灯させると、鉛バッテリーあがりの原因となります。
エンジン停止中は、ライトを長時間点灯させないでください。
●AUTO 位置のままエンジンスイッチを ON にしていると、エンジンがかかっていなくても、車外が暗くなるとともにライトや車幅灯が点灯するため、そのまま長時間点灯させると、鉛バッテリーあがりの原因となります。
AUTO 位置で、エンジンスイッチを ON にしたままにしないでください。

アドバイス

スズキ セーフティ サポート装備車の場合、ハイビームアシストによりヘッドライトの上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を自動的に切替えることができます。
→ **4-61ページ**
（ハイビームアシスト）

■ ≡D の位置

ライトスイッチのツマミ（1）を ≡D にするとヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

- エンジンスイッチが ON から ACC または LOCK（OFF）にしても点灯したままです。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）でも点灯します。

■ AUTOの位置（オートライトシステム）

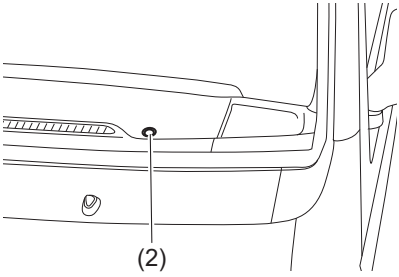
オートライトシステムにより車外の明るさに応じて自動的に点灯・消灯します。

- ライトスイッチのツマミ（1）がAUTOの位置でエンジンスイッチがON のときに機能します。
- ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が同時に点灯・消灯します。
- 薄暗くなったときやトンネルなど急に暗くなったときに自動で点灯します。
- 自動で点灯しているとき
  - 走行時は消灯できません。
  - エンジンスイッチがACC または LOCK（OFF）にすると消灯します。

アドバイス

オートライトセンサー（2）の上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。センサーの感度が低下し、正常に点灯・消灯しなくなります。

インパネ助手席側



63S30061

■ の位置

ライトスイッチのツマミ（1）を まであわす、またはまわして保持すると点灯・消灯します。

- 自動でヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯していて、停車しているとき

の操作	ヘッドライト	車幅灯、尾灯、番号灯
まわす	消灯	点灯
まわして保持※	消灯（先に消灯）	消灯（後に消灯）

※ヘッドライト点灯時

- ヘッドライトが消灯しているとき まで操作するたびに点灯、消灯が切り替わります。

の操作	車幅灯、尾灯、番号灯
まわす	消灯 ⇔ 点灯
まわして保持	消灯 ⇔ 点灯

  - エンジンスイッチがACC または LOCK（OFF）でも点灯・消灯します。

- 車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯していたとき、エンジンスイッチをONからACC または LOCK（OFF）にしても点灯したままになります。
- 車外がヘッドライトなどが自動で点灯する明るさの場合、走行をはじめると停車中に消灯させた全てのライトが再び点灯します。

ライト自動消灯システム

鉛バッテリあがりを防ぐため、次の場合点灯しているライトは自動で消灯します。

- エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）したときにヘッドライトまたは車幅灯、尾灯、番号灯が点灯している場合、運転席ドアを開けるまたは約10分経過すると、ライトは自動で消灯します。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のときにヘッドライトまたは車幅灯、尾灯、番号灯を点灯した場合、約10分経過すると、ライトは自動で消灯します。
  ヘッドライトが自動消灯した後、ライトスイッチのツマミ（1）が ≡D のままで運転席ドアを開けるとヘッドライトなどが再点灯します。

自動で消灯したあと再びライトを点灯させる場合は、ライトスイッチのツマミ（1）を AUTO の位置にしてから、 または ≡D へ操作してください。

→ **3-62ページ（≡D の位置）**
→ **3-63ページ（ の位置）**

ライト自動消灯システムは、エンジンスイッチを ON にすると停止し、自動または手動で点灯・消灯します。

ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライトや車幅灯の消し忘れを防止するため、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にしたあとに、ヘッドライトや車幅灯を点灯したまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピーーー”と連続して鳴ります。

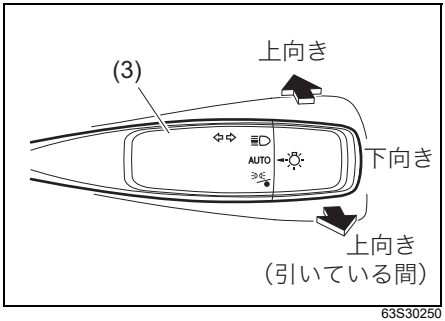
ヘッドライトおよび車幅灯を消すと、室内ブザーは止まります。

ライトの上向き、下向きの切替え

ヘッドライトを上向き（ハイビーム）に切替えると、遠くまで照らすことができます。

- ライトが点灯しているときに、レバー（3）を車の前方向に押すと上向きになります。もとの位置にもどすと、下向きになります。
- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きにライトが点灯します。
- ライトを上向きにすると、メーター内のヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。

→ **3-54ページ（ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯）**



63S30250

- 上図のスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

- 対向車や先行車があるときは、ライトを下向きにしてください。
- スズキ セーフティ サポート装着車は、ライトスイッチのツマミがAUTO の位置でレバーを前方向に押すと、ハイビームアシストが作動します。

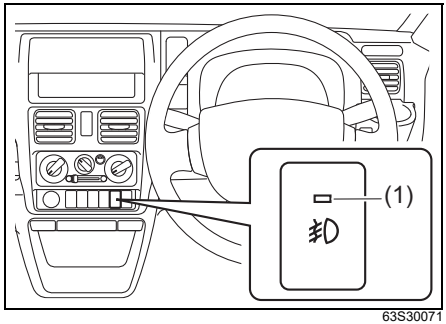
→ **4-61ページ（ハイビームアシスト）**

フォグランプスイッチ

タイプ別装備

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯（1）も点灯します。
  もう一度押すと消灯します。



63S30071

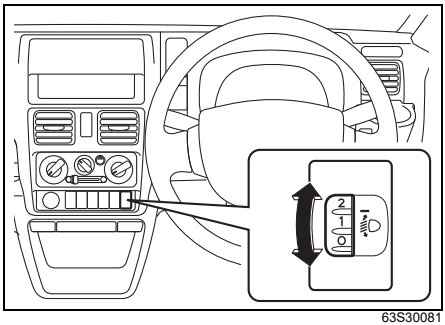
注 記

バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

光軸調整ダイヤル

ライトを点灯して光軸調整ダイヤルをまわすと、ライトの光軸が調整できます。荷台への積載によって、ライトの光軸が上向きになると、対向車や先行車の迷惑となります。ダイヤルを操作して、光軸を下向きに調整してください。

- ダイヤル操作は、ライトが下向き（ロービーム）に点灯しているときに行なってください。ライトが上向き（ハイビーム）に点灯している、または点灯していないときは、光軸が適切に調整できているか判断できません。
- ダイヤルの目盛りは **0** ～ **4** まであり、光軸が9段階（0.5きざみ）に調整できます。
- ダイヤルの目盛りを大きくすると、光軸が下向きになります。



63S30081

- 荷台への積載方法などによって変わりますが、次表の数値を参考に適切な位置に調整してください。

〈ダイヤル位置の目安〉

条件	ダイヤル位置
運転席のみ乗車	**0**
運転席のみ乗車で荷台定積載	**2～3**

⚠警告

走行中はダイヤル操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

車検などで基本の光軸を調整するときは、ダイヤルを0の位置にしてください。0以外の位置で基本光軸を調整すると、ライトの光軸が基準より上向きになるなど、安全上問題となるおそれがあります。

アドバイス

ダイヤルを操作すると、ライトの下向き（ロービーム）と上向き（ハイビーム）の光軸が同時に調整されます。

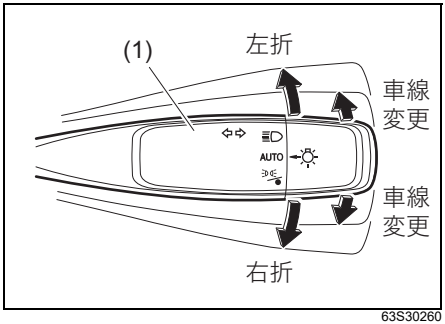
方向指示器スイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

右折・左折をするとき

左折時：レバー（1）を押し上げます。
右折時：レバーを押し下げます。

- 同時に方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとにもどすと、レバーが自動的にもどり、方向指示器と表示灯が消灯します。



63S30260

アドバイス

ハンドルを切る角度が小さいと、レバーが自動的にもどらないことがあります。レバーを手でもどしてください。

車線変更をするとき

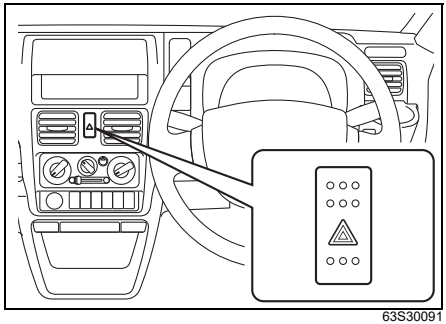
レバーを車線変更しようとする方向に軽く押さえます。

- 押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。故障などでやむをえず路上駐車するときや非常時に使用します。

- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- もう一度押すと消灯します。



63S30091

注 記

エンジン停止中に長時間点滅させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー／ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

⚠注意

寒冷時は、ガラス面に吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなることがあります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。
→ 5-2ページ（デフロスター）

注 記

- **ウインドーが乾いているときは、ウインドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつくおそれがあります。**
- **ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。**
- **ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャーポンプが故障する原因となります。**

■ ワイパーが作動中に停止したときは

積雪などでワイパーに大きな負荷がかかる状態が続きワイパーモーターの温度が上がると、ワイパーモーターを保護するためにブレーカーが作動してワイパーが停止します。次の手順で対処してください。

1 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを ACC または LOCK (OFF) にします。

2 ワイパースイッチをOFFにします。

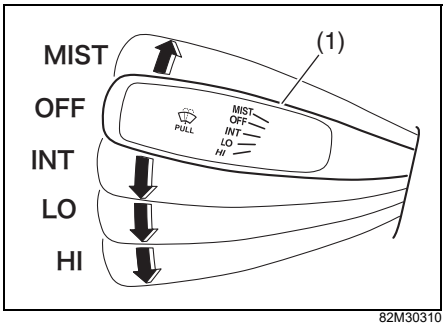
3 ワイパーの作動をさまたげる積雪などの障害物を取り除きます。

4 しばらくしてワイパーモーターの温度が下がると、ブレーカーが自動復帰してワイパーの使用が可能となります。

- しばらく待ってもワイパーが使用できない場合は、別の原因が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

ワイパースイッチ

レバー (1) を上下に操作すると、ワイパーが次表のように作動します。

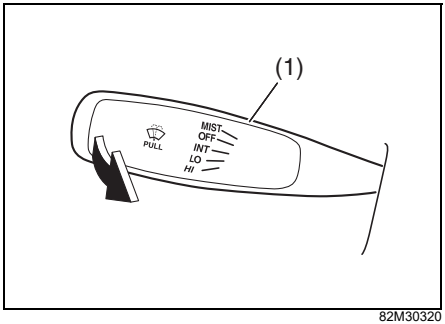


82M30310

MIST	レバーを押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

ウォッシャースイッチ

レバー(1)を手前に引くと、ウォッシャー液が噴射されワイパーが数回動きます。



82M30320

ホーンスイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。ハンドルのホーンマークがついている部分を押すと、ホーンが鳴ります。



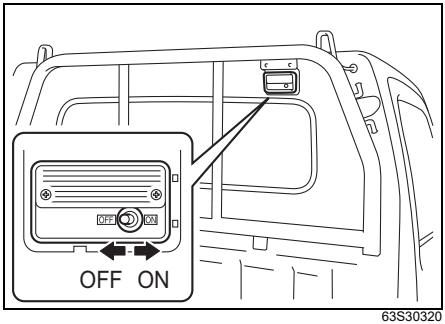
70K188

作業灯スイッチ

タイプ別装備

次の条件をみたしていると、作業灯が点灯します。

- 作業灯スイッチが ON
- エンジンスイッチが ACC または ON
- パーキングブレーキがかかっている



63S30320

注 記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

4. 運転するときは

● **エンジン始動・停止**
エンジンスイッチの各位置のはたらき ····· 4-2
エンジンのかけかた ····· 4-3
エンジンの止めかた ····· 4-4

● **アイドリングストップシステム**
アイドリングストップシステム ····· 4-6

● **パーキングブレーキ**
パーキングブレーキの操作 ····· 4-12

● **チェンジレバー**
チェンジレバーの操作 ····· 4-12

● **オートマチック車**
セレクトレバーの操作 ····· 4-14
オートマチック車の特性 ····· 4-18
オートマチック車を運転するとき ····· 4-19
オートマチック車の運転のしかた ····· 4-20

● **4WD車**
2WD⇆4WDの切替え操作 ····· 4-25

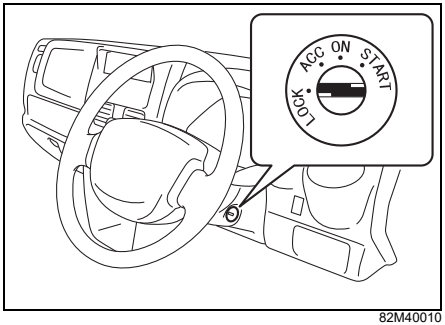
● **ESP®**
ESP®装備車の取扱い ····· 4-31
ABS ····· 4-35

● **ヒルホールドコントロール**
ヒルホールドコントロール ····· 4-38

● スズキセーフティサポート

スズキ セーフティ サポート ····· 4-40
前方 ····· 4-41
ステレオカメラ ····· 4-41
デュアルカメラブレーキサポート（DCBS） ····· 4-50
誤発進抑制機能 ····· 4-55
車線逸脱警報 ····· 4-58
ふらつき警報 ····· 4-59
先行車発進お知らせ機能 ····· 4-60
ハイビームアシスト ····· 4-61
デュアルカメラブレーキサポート（DCBS） OFF スイッチ ····· 4-65
車線逸脱警報 OFF スイッチ ····· 4-66
後方 ····· 4-66
超音波センサー ····· 4-66
後方誤発進抑制機能 ····· 4-70
後方誤発進抑制機能を OFF にするには ····· 4-73

エンジンスイッチの各位置のはたらき



82M40010

エンジンスイッチの位置	エンジンの状態	はたらき
LOCK (OFF)	停止	駐車するとき、キーを抜き差しするときの位置です。キーを抜くと、ハンドルロックがかかります。
ACC	停止	エンジンをかけずにオーディオまたはナビゲーションや作業灯スイッチ、アクセサリーソケットなどの電装品（タイプ別装備）を使用するときの位置です。
ON	停止	エンジンをかけずにパワーウインドーやワイパー、作業灯スイッチなどの電装品（タイプ別装備）を使用するときの位置です。
	回転中	すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。
START	始動	エンジンをかけるときの位置です。始動したら、キーから手を離してください。キーは自動的に ON にもどります。

注 記

エンジンを止めているときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたままにしないでください。また、その状態で長時間ナビゲーション、またはオーディオなどを使用しないでください。バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

ハンドルロックは、エンジンスイッチを LOCK（OFF）から ACC または ON にしたときに解除されます。

ハンドルロックが解除できないときは

キーが LOCK（OFF）から ACC にまわせません。ハンドルを左右に軽く動かしながら、キーをまわしてください。



67H40020

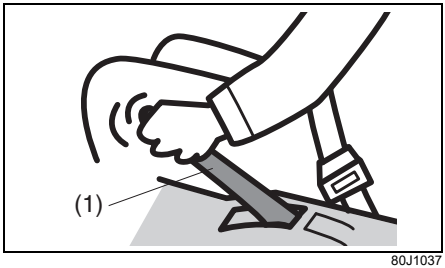
エンジンのかけかた

2-11 ページの「**エンジンをかけるときは**」もあわせてお読みください。

アドバイス

- ヘッドライトやエアコン（タイプ別装備）などのスイッチを切った方が、エンジンはかかりやすくなります。
- ハンドルロックが解除できなくて、エンジンの始動ができない場合があります。
  → **4-3 ページ（ハンドルロックが解除できないときは）**

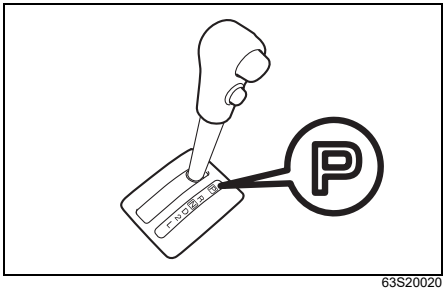
1 パーキングブレーキ（1）がしっかりかかっていることを確認します。



80J1037

2 マニュアル車 は、チェンジレバーがN（ニュートラル）になっていることを確認します。

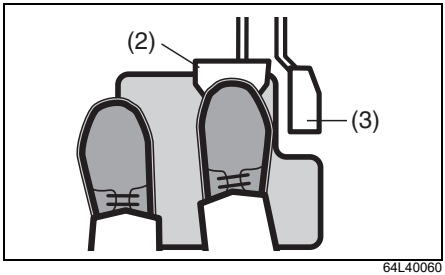
オートマチック車 は、セレクトレバーが P になっていることを確認します。



63S20020

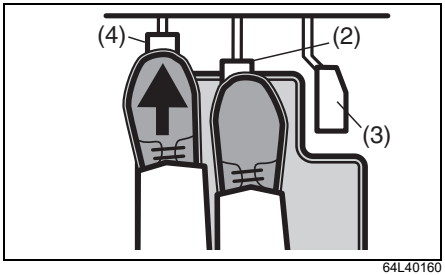
3 右足でブレーキペダル（2）をしっかり踏み続けます。

- アクセルペダル（3）は踏まないでください。



64L40060

4 マニュアル車 は、左足でクラッチペダル（4）をいっぱいまで踏み込みます。

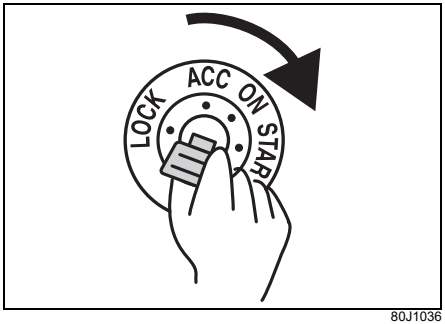


64L40160

(2) ブレーキペダル
(3) アクセルペダル

■クラッチスタートシステム
マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとスターターがまわらず、エンジンを始動できません。

5 キーを START までまわします。



80J1036

- エンジンがかかったら、すみやかにキーから手を離します。

注記

鉛バッテリーおよびスターター保護のため、キーを START にまわした状態を 12 秒以上続けないでください。エンジンがかからないときは、キーを一度 LOCK （OFF）にもどし、30 秒以上待ってから再びかけてください。前記の手順を数回繰り返してもエンジンがかからない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

エンジンの止めかた

エンジンを止めるときは

エンジンスイッチを ACC にもどします。

⚠警告

●緊急時以外は、走行中にエンジンを止めないでください。
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になります。**
- **パワーステアリング装置（タイプ別装備）が働かないため、ハンドルが重くなります。**
- **次の機能が作動しません。**
  - **ABS**
  - **ESP®**
  - **デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）（タイプ別装備）**
  - **誤発進抑制機能 (タイプ別装備)**
  - **車線逸脱警報（タイプ別装備）**
  - **ふらつき警報（タイプ別装備）**
  - **先行車発進お知らせ機能（タイプ別装備）**

• ハイビームアシスト（タイプ別装備）
• 後方誤発進抑制機能（タイプ別装備）

● マニュアル車 は走行中、絶対にエンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどさないでください。キーが万一抜けると、ハンドルがロックされてまわせなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

オートマチック車 は、走行中にエンジンを止めると、オートマチックトランスミッションが損傷するおそれがあります。

キーを抜くときは

キーを抜くと、ハンドルロックがかかります。

■ オートマチック車

1 セレクトレバーを P に入れ、セレクトレバーのボタンをもどします。
→ **4-14ページ（セレクトレバーの操作）**

2 キーを LOCK（OFF）にもどしてキーを抜きます。

● 誤操作防止のため、次の条件をみたしているときだけキーが抜けます。
• セレクトレバーが P 位置
• セレクトレバーのボタンをもどしている
→ **4-18ページ（キーインターロック）**
→ **4-23ページ（駐車）**

■ マニュアル車

キーを LOCK（OFF）にもどしてキーを抜きます。

■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーの抜き忘れを防止するためのブザーです。

● キーを ACC または LOCK（OFF）にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
● キーを抜くと、室内ブザーが止まります。

アイドリングストップシステム

アイドリングストップシステム装備車

アイドリングストップシステムは、信号待ちなどの一時的な停車時に、自動的にエンジンを停止・再始動させるシステムです。排出ガスの低減、燃費向上、エンジン騒音低下に役立ちます。

- 本システムは一定の条件のもとで、一時的にエンジンを停止させるものです。長時間停車するときや車から離れるときは、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止してください。
  → **4-4ページ（エンジンの止めかた）**

⚠ 警告

- **アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中に車から離れると、車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中は、車外に出ないでください。
- **エンジンが再始動しない状態で車を動かすと、ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。**
  アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止後、自動で再始動しない場合は、エンジンスイッチを操作してエンジンを始動してください。

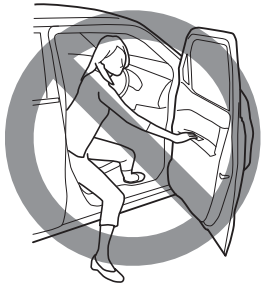
注記

アイドリングストップシステムは、高性能な専用の鉛バッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。守らないと本システムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。

- **バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）**
  → **8-1ページ（サービスデータ）**
- **バッテリー端子から電気製品の電源をとらない**

アドバイス

ブレーキペダルを踏んでいても運転席シートベルトを外す、または運転席ドアを開くとエンジンが再始動し、アイドリングストップシステムによるエンジン自動停止中であったことをお知らせします。

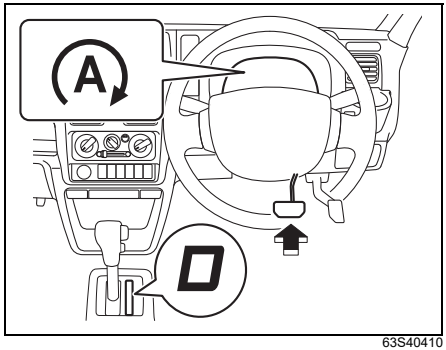


72M2042

エンジンの自動停止・再始動のしかた

1 セレクトレバーが D N のままブレーキペダルを踏んで停車すると、停車時にエンジンが自動停止します。このとき、アイドリングストップ表示灯（緑色）は点灯したままです。

- 自動停止中に安全確保のため、室内ブザーが鳴ってエンスト状態にさせたり、エンジンを再始動させたりする場合があります。
  → **4-8ページ（エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて）**



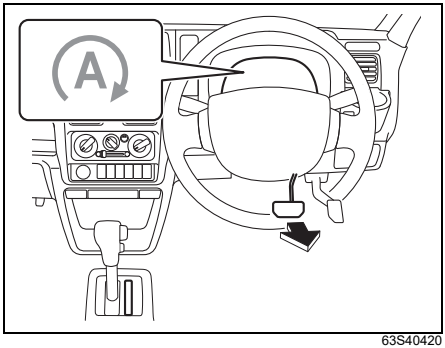
63S40410

アドバイス

- ブレーキペダルを踏まずに、エンジンブレーキなどを使用して減速しても、エンジンは自動停止しません。
- 自動停止中でもナビゲーション、またはオーディオなどの電装品は使用できますが、エアコンは送風に切り替わります。

2 停車時に、ブレーキペダルから足を離すとエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯（緑色）が消灯します。

- ブレーキペダルを踏んでいても、エンジン自動再始動の条件をみたすと自動的に再始動します。
  → **4-10ページ（エンジン自動再始動の条件）**
- エンジン再始動時にブレーキ踏力を一時的に保持することで車両のクリープ力による飛び出しや上り坂での車両の後退を防ぎます。
  → **4-38 ページ（ヒルホールドコントロール）**



63S40420

アドバイス

- エンジン自動再始動のとき、ヒルホールドコントロールが作動します。
  → **4-38ページ（ヒルホールドコントロール）**
- オーディオの音が大きいと、エンジンの再始動時に音が途切れることがありますが、異常ではありません。

エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて

⚠ 警告

自動停止中は、次表の操作は行なわないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

操作／車両の状態	対処方法
運転席シートベルトを外す、または運転席ドアを開ける ●室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。（5回） ●エンジンが自動で再始動します。 ●アイドリングストップ表示灯（緑色）は消灯します。	発進する前に、ドアを閉め、シートベルトを着用してください。また、車外に出るときは、事前に次の手順を実施してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れます。 ②長時間停車するときや車から離れるときは、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止します。 → **4-4ページ（エンジンの止めかた）**

アドバイス

メーターパネル内の次の警告灯は、エンジンの自動停止中は点灯しませんが、エンスト状態になると点灯します。

●エンジン警告灯
●パワーステアリング警告灯
●油圧警告灯
●充電警告灯

→ **1-10ページ（警告灯）**

アイドリングストップシステムの作動条件

■ スタンバイ条件

次の条件をすべてみたすと、停車時にアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯し、エンジンの自動停止が可能な状態になります。

エンジン始動時（※1）	エンジンを始動する
走行時	●アイドリングストップシステムが停止状態（OFF）になっていない → **4-11ページ** **（アイドリングストップシステムOFFスイッチ）** ●バッテリーが十分に充電されていて、バッテリー内部が所定温度内にある（※2） ●冷却水が所定温度内にある ●運転席シートベルトを着用している ●運転席ドアが完全に閉まっている ●セレクトレバーの位置が D または N である ●アイドリングストップシステム以外の電子制御システムから、エンジン停止を禁止する信号が出ていない（※3） ●オーバードライブ（O/D）スイッチがOFFではない

※1 **7-18 ページ**の「**バッテリーあがりのときは**」に記載されている手順にてエンジンを始動した場合は、スタンバイ条件が成立しません。

※2 車を長期間使用しなかったときや、エンジン停止中にナビゲーション、またはオーディオなどの電装品を長時間使用したときなど、バッテリーが放電している状況では、スタンバイ状態になるまでに時間がかかることがあります。

※3 アイドリングストップシステムに影響をあたえる警告灯や表示灯のいずれかが点灯したときは、エンジンは自動停止しません。

■ エンジン自動停止の条件

次の条件をすべてみたすと、停車時にエンジンが自動停止します。

停車時	●ブレーキペダルを適切に踏んでいる（※） ●アクセルペダルを踏んでいない ●急な坂道で停車していない ●ABSやESP® が作動していない ●ブレーキ倍力装置の負圧が正常である

※ブレーキペダルの踏みかたが弱い、または強いと、自動停止しない場合があります。

■ エンジン自動再始動の条件

自動停止中に次のいずれかの操作をすると、または車両がいずれかの状態になると、エンジンが自動で再始動し、アイドリングストップ表示灯（緑色）が消灯します。

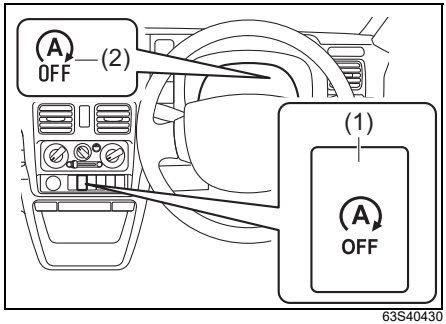
- ●ブレーキペダルから足を離す（※）
- ●アクセルペダルを踏む
- ●アイドリングストップシステムを停止状態（OFF）にする
  → **4-11ページ**
  （アイドリングストップシステムOFFスイッチ）
- ●バッテリーの放電が進んだとき
- ●本システムに関わる異常を検出したとき
- ●ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- ●セレクトレバーを P 、R 、L または2 に入れる、または オーバードライブ（O/D）スイッチをOFFにする
- ●セレクトレバーを N に入れたあと D にもどす
- ●運転席シートベルトを外したとき
- ●運転席ドアを開けたとき
- ●坂道などで車両が動き出したとき
- ●自動停止してから、しばらく経過したとき（2分程度）

※ブレーキペダルの踏み込みが弱いと、自動再始動する場合があります。

アイドリングストップシステムOFFスイッチ

アイドリングストップシステムを停止状態（OFF）にできます。

- システムを停止状態にするときは、メーターパネル内のアイドリングストップシステム OFF 表示灯（2）が点灯するまで、アイドリングストップシステム OFF スイッチ（1）を押します。
- システムを作動可能な状態にもどすときは、表示灯が消灯するまでスイッチ（1）を押します。
- 手動でエンジンを停止するたびに、システムは作動可能な状態にもどり、アイドリングストップシステムOFF表示灯は消灯します。



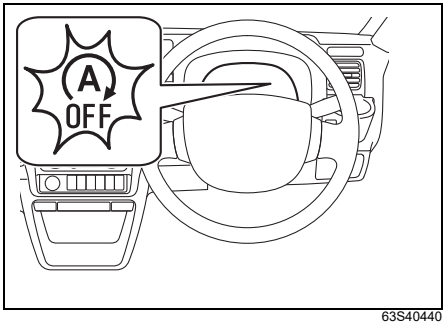
63S40430

アドバイス

エンジンの自動停止中にアイドリングストップシステム OFF スイッチ（1）を押すとエンジンが自動再始動し、アイドリングストップシステムOFF表示灯（2）が点灯します。

- メーターパネル内のアイドリングストップシステムOFF表示灯（オレンジ色）はアイドリングストップシステムが停止していることをお知らせするだけではなく、次のような場合、点灯または点滅します。点滅した場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - システムが正常な場合、エンジンスイッチを ON にしたときに約2秒間点灯したあと消灯します。
  - システムに異常がある、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期の場合、エンジンスイッチを ON にしたときに点滅します。（アイドリングストップシステムは正しく作動しません。）

→ **3-60ページ（アイドリングストップシステムOFF表示灯）**



63S40440

アドバイス

アイドリングストップによるエンジン自動停止中に点滅すると、エンスト状態になる場合があります。

パーキングブレーキの操作

パーキングブレーキは後輪にかかります。駐車するときはパーキングブレーキをしっかりとかけてください。

⚠注意

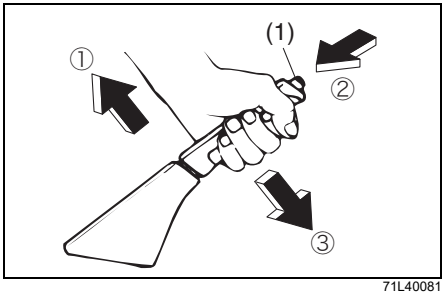
ヒルホールドコントロール装備車の場合、パーキングブレーキをかけるとヒルホールドコントロールが作動しません。
→ 4-38ページ（ヒルホールドコントロール）

駐車するときは

ボタン (1) を押さずにパーキングブレーキレバーをいっぱいに引き上げます。

解除するときは

- レバーを少し引き上げながら（①）レバー先端のボタン(1)を押し込み(②)、そのまま下まで完全におろします(③)。
- 坂道発進するときは、パーキングブレーキをかけたまま右足でアクセルペダルを慎重に踏み、車が動き出す感触を確認しながらパーキングブレーキを解除してください。



71L40081

⚠警告

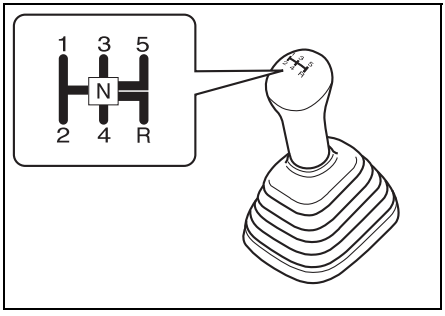
パーキングブレーキを解除したときは、メーター内のブレーキ警告灯が消灯しているか確認してください。万一、パーキングブレーキをかけたまま走行した場合、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。
→ 3-46ページ（ブレーキ警告灯）

チェンジレバーの操作

マニュアル車

チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏みます。

- 誤操作防止のため、5速からR（リバース）に直接入れることはできません。一度 N（ニュートラル）に入れてからRへ操作してください。



82M40020

注 記

チェンジレバーをR（リバース）に入れるときは、車を完全に停止させてから操作してください。完全に停止していない状態で操作すると、トランスミッションが破損する原因となります。

バックブザー

タイプ別装備

チェンジレバーをR（リバース）に入れると、車外の人に車の後退を知らせるため、警告ブザーが鳴ります。

⚠注意

バックブザー付の車であってもブザーだけでは、車が後退していることを車外の人へ確実に知らせることはできません。車を後退させるときは、直接目視で後方の安全を確認してください。

シフトダウンの上限速度

エンジンの過回転を防ぐため、次の表に示す上限速度以下でシフトダウンしてください。

■ 2WD車

（単位:km/h）

シフトダウン	上限速度
2速 → 1速	10
3速 → 2速	45
4速 → 3速	75
5速 → 4速	110

■ 4WD車

（単位:km/h）

シフトダウン	上限速度	
	4WD切替えレバーの位置	
	2H、4H	4L
2速 → 1速	10	5
3速 → 2速	45	25
4速 → 3速	75	45
5速 → 4速	110	65

※走行条件やお車のタイプにより、この上限速度に達しない場合があります。

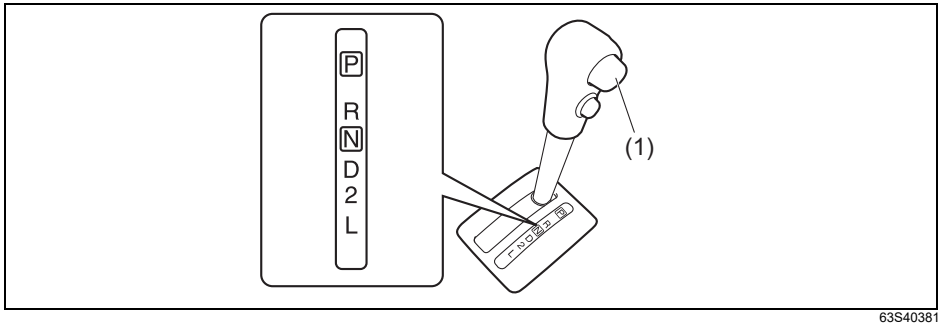
注 記

上限速度を超えた速度でシフトダウンしないでください。エンジンの回転が上がりすぎて、エンジンが故障する原因となります。

セレクトレバーの操作

オートマチック車

セレクトレバーの各位置のはたらき

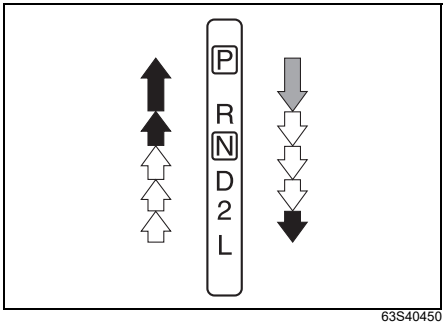


63S40381

(1) ボタン

P パーキング	駐車するとき、エンジンを始動・停止するとき、キーを抜くときの位置 ●駆動輪（後輪）が固定されます。
R リバース	車を後退させるときの位置 ●室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。
N ニュートラル	エンジンの動力が伝わらない状態の位置 ●エンジンを始動できますが、安全のため P の位置で始動してください。
D ドライブ	通常走行の位置 ●車の速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。
2 セカンド	エンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●ギヤは１速と２速の間で自動的に切り替わります。坂道を走行するときなどに使用します。
L ロー	強力なエンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●急な下り坂を走行するときなどに使用します。

セレクトレバーの動かしかた



63S40450

⇩	ブレーキペダルを踏み、ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。
⇧ ⇩	ボタンを押さずにセレクトレバーを動かします。
⇧ ⇩	ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。

⚠注意

運転席および助手席にお乗りの方の乗車姿勢によってはひざなどが当たって、セレクトレバーを動かしてしまうことがあります。

注 記

完全に停車させてから、セレクトレバーを R に入れてください。車が動いていると、トランスミッションが故障する原因となります。

アドバイス

⇧⇩ の操作は、セレクトレバーのボタンを押さない習慣をつけてください。常にボタンを押して操作していると、間違って P R L へ入れてしまうおそれがあります。

■ シフトロックシステム

発進するときなどに、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んでいるときだけ、セレクトレバーを P からほかの位置に動かせます。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のときは、ブレーキペダルを踏んでいても、セレクトレバーを P からほかの位置に動かせません。
- セレクトレバーのボタンを押してから、ブレーキペダルを踏まないでください。シフトロックが解除されないことがあります。
- 万一、エンジンスイッチを ON にして、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを P からほかの位置へ動かせない場合、次のページの手順でシフトロックを解除してください。
  この場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにスズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

セレクトレバー可動部に飲み物などをこぼしたり、内部に異物が入ったりした場合、そのまま使用を続けるとシフトロックシステムが正常に機能しなくなるおそれがありますので、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠注意

発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままセレクトレバーを操作してください。

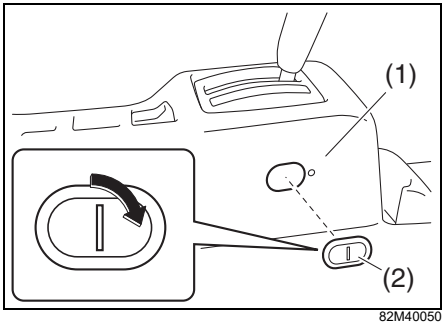
■ シフトロックの解除のしかた

シフトロックシステムの故障やバッテリーあがりなどで、セレクトレバーを P からほかの位置へ動かせないときは、次の手順でシフトロックを解除します。

1 安全のため、エンジンスイッチを ACC にしてパーキングブレーキをしっかりとかけます。

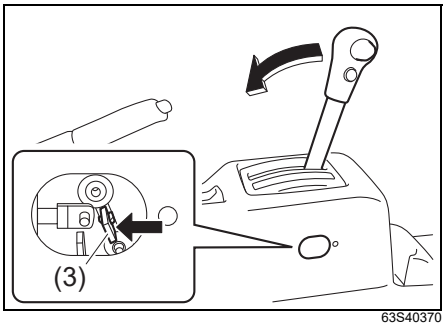
2 コンソール (1) 右側面のカバー (2) を外します。

- カバー中央部を、ジャッキバーの柄の先端などの先が平たくとがったもので、時計方向に 90° まわします。



82M40050

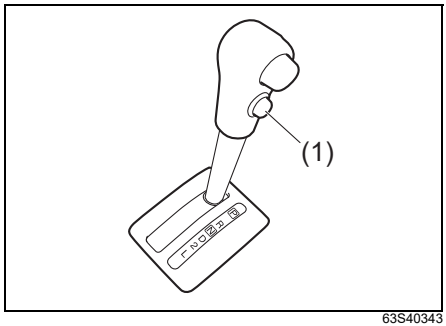
3 コンソール穴内にあるシフトロック解除レバー（白色）(3) を車の後ろ方向に押しながら、セレクトレバーを操作します。



63S40370

オーバードライブ（O/D）スイッチ

- スイッチを押すごとに、ONとOFFが交互に切り替わります。
- OFFのときに、マルチインフォメーションディスプレイ内のオーバードライブOFF表示が表示されます。
- オーバードライブスイッチは、エンジン始動時には自動的にON状態へもどります。



63S40343

(1) オーバードライブ(O/D)スイッチ

■ スイッチがONのときは

通常走行に適しています。

- セレクトレバーが D のときに、1速から４速の間で自動変速し、燃費性能と静粛性を高めます。

アドバイス

スイッチがONでも、AT油温、エンジン水温が低いと、４速に入らない場合があります。

■ スイッチがOFFのときは

坂道や山間路の走行に適しています。

- セレクトレバーが D のときに、1速から3速の間で自動変速します。
- 下り坂では、軽いエンジンブレーキがかかります。
- 上り坂や山間路ではエンジン回転の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

■ オーバードライブOFF表示

O/D
OFF

64P0335

メーターパネル内にあります。
→ **1-10ページ（警告灯）**

- オーバードライブ（O/ D）スイッチがOFFのときに表示されます。

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤチェンジから解放されて運転操作が楽になりますが、オートマチック車特有の現象や操作上の注意があります。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

●セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
●エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。

キックダウン

走行中（低車速時を除く）にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的にシフトダウンしてエンジン回転が上昇して、力強い加速ができます。これをキックダウンといいます。

- 追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンして力強い加速が得られます。

⚠注意

通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。いっぱいに踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速のおそれがあります。

登坂変速制御

セレクトレバーが D 位置で作動する制御です。

- 登坂中と判断するとシフトダウンしてエンジン回転数を高く保ち、少ないアクセル操作でなめらかな走行ができます。

キーインターロック

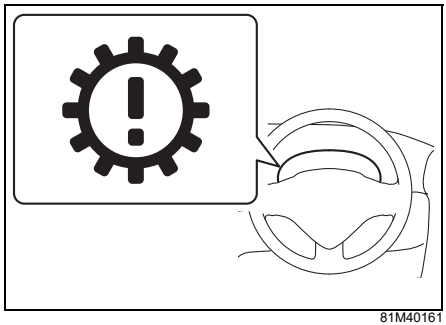
誤操作防止のため、次の条件をみたしているときだけキーが抜けます。これをキーインターロックといいます。

- セレクトレバーが P 位置
- セレクトレバーのボタンから手を離している

→ **4-5ページ（キーを抜くときは）**

オートマチック車を運転するとき

トランスミッション警告灯



81M40161

メーターパネル内にあります。

- ATのシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-10ページ（警告灯）**

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

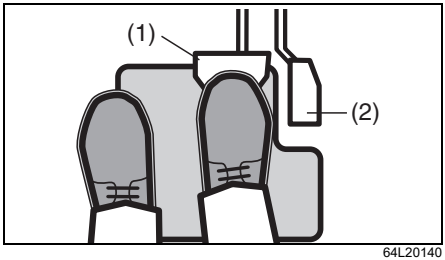
ペダルの踏み間違いに注意

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

⚠ 警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキペダルは右足で踏む



64L20140

(1) ブレーキペダル
(2) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

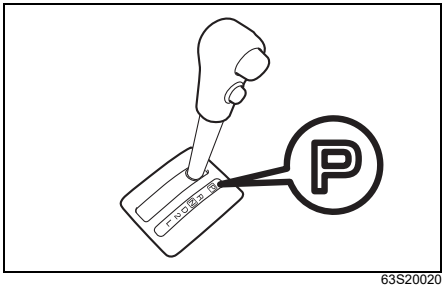
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



63S20020

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

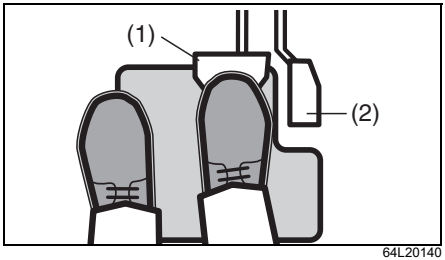
オートマチック車の運転のしかた

4-14 ページの「**セレクトレバーの操作**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

運転席にすわって

1 ペダルが確実に踏めて、ハンドル操作が楽に行なえる位置にシートを調節します。
→ **3-15ページ（シート）**

2 アクセルペダル（2）とブレーキペダル（1）の位置を右足で確認します。



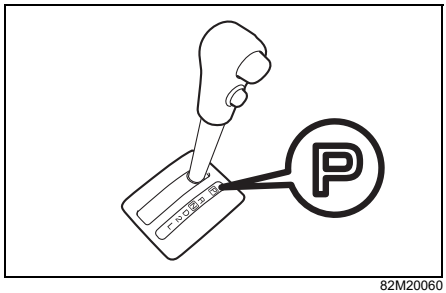
64L20140

エンジンの始動

エンジンのかけかたの詳細は、**4-3 ページ**の「**エンジンのかけかた**」をお読みください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

2 セレクトレバーが P にあるか確認します。



82M20060

アドバイス

セレクトレバーが N 位置でもエンジンがかかりますが、安全のため P でエンジンをかけてください。

3 ブレーキペダルを右足で踏みます。

4 エンジンを始動します。

発進

■ 通常の発進

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。

2 前進時は D 、後退時は R にセレクトレバーを入れ、レバーの位置を目で確かめます。

3 パーキングブレーキを解除し、メーター内のブレーキ警告灯の消灯を確認します。

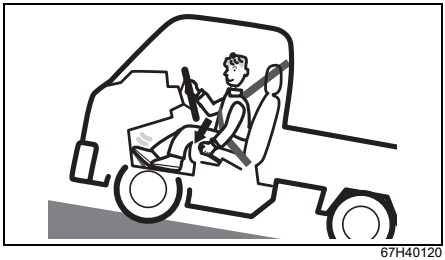
4 ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、アクセルペダルをゆっくり慎重に踏んで発進します。

■ 急な上り坂での発進

1 、2 は「**通常の発進**」と同じ操作です。

3 ブレーキペダルからゆっくりと右足を離し、アクセルペダルを慎重に踏みます。

4 車が動き出す感触を確認しながら、パーキングブレーキレバーを解除して発進します。



67H40120

⚠注意

ヒルホールドコントロール装備車の場合、パーキングブレーキをかけるとヒルホールドコントロールが作動しません。
→ 4-38ページ（ヒルホールドコントロール）

アドバイス

ヒルホールドコントロール装備車の場合、上り坂での発進時に車が後退することを一定時間防ぐ機能があります。
→ 4-38ページ（ヒルホールドコントロール）

走行

■ 通常走行

セレクトレバーを D に入れて発進すると、走行速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。

⚠警告

高速走行中はセレクトレバーを 2 や L に入れないでください。急激なエンジンブレーキがかかって、スリップ事故を起こすおそれがあります。また、エンジンの回転が上がりすぎて故障の原因となります。

⚠注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

■ 急加速走行

追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
キックダウンして力強い加速が得られます。

■ 上り坂走行

上り坂を D で走行しているときに、スピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジンの回転が急に上がることがあります。

- 坂の勾配に応じて、あらかじめセレクトレバーを 2 に入れておくと、エンジン回転の変化が少ない、なめらかな走行ができます。
- 急な上り坂で、1速と2速の変速を繰り返すようなときには L に入れます。

■ 下り坂走行

下り坂を D のままで走行すると、エンジンブレーキの効きが弱くてスピードが出すぎてしまうことがあります。

- 坂の勾配に応じて、セレクトレバーを 2 に入れてエンジンブレーキを併用します。
- 急な下り坂で、強力なエンジンブレーキが必要なときには L に入れます。

⚠警告

急な下り坂や長い下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。
→ 2-15 ページ（長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する）

アドバイス

D で走行しているときに、オーバードライブ（O/D）スイッチをOFFにすると、上り坂ではエンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができ、下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。

→ **4-17 ページ（オーバードライブ（O/D） スイッチ）**

一時停止

1 セレクトレバーは走行位置のままで停車し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

- 急な坂道で一時停止するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
- 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N に入れます。

2 再発進するときに間違えないよう、セレクトレバーの位置とパーキングブレーキの解除を目で確かめます。

⚠ 警告

一時停止しているときに、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

上り坂などで、アクセル操作でバランスをとるなどして車を停止させようとしないでください。トランスミッションフルードが過熱し、故障の原因となります。

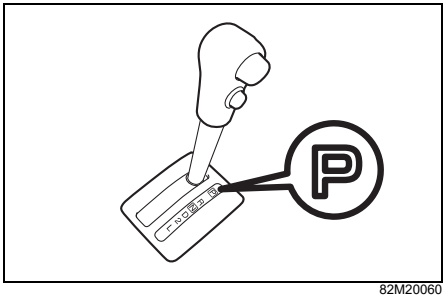
駐車

1 車を完全に止めます。

2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。

3 セレクトレバーを P に入れてからエンジンを止め、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

- セレクトレバーが P の位置になっているか目で確かめます。



82M20060

⚠ 警告

駐車するときは、セレクトレバーを P に入れてからエンジンを止めてください。P 以外の位置ではシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

パーキングブレーキをかける前にセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めた場合、エンジンを再始動後にレバーを P 以外の位置へ操作しようとすると、レバー操作が重い、あるいはいつもと違う音やショックが発生することがありますが、異常ではありません。

4 エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどし、キーを抜きます。
→ **4-5ページ**
（キーを抜くときは）

後退

■ 正しい運転姿勢

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

■ 前進や後退を繰り返すとき

車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、完全に停車させてから、次の前進あるいは後退の操作を行なってください。

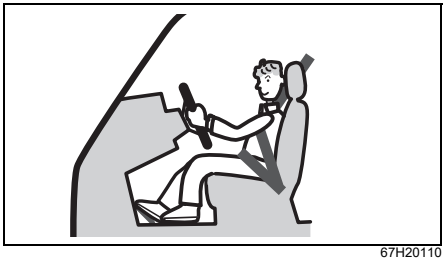
アドバイス

前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れていたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。

こんなことにも気をつけて

■ 車を少し移動させるとき

少しだけ移動するときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。



67H20110

⚠注意

坂道などで、セレクトレバーを前進の位置（ D 2 L ）にしたまま惰性で後退したり、後退の位置（ R ）にしたまま惰性で前進したりしないでください。エンストしてブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因になります。

■ 停車するとき

注 記

車が少しでも動いているときは、セレクトレバーを P に入れないでください。トランスミッションが故障する原因となります。

2WD⇆4WDの切替え操作

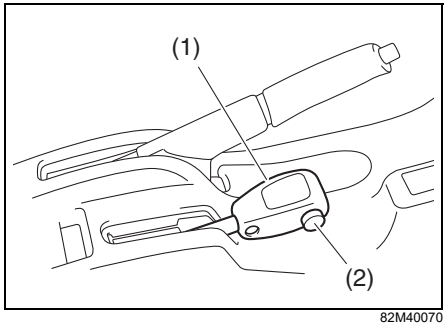
2-28ページの「**4WD車を運転するときは**」もあわせてお読みいただき、パートタイム 4WD 車の特性や操作上の注意を十分理解して正しい取扱いをしてください。

- パートタイム4WDとは、4WD切替えレバーまたは4WD スイッチの操作で、2WD（2輪駆動）または4WD（4輪駆動）に切り替えることができる4WDシステムです。

4WD切替えレバー

タイプ別装備

駆動状態の切り替えに使用します。



82M40070

(1) 4WD切替えレバー
(2) ボタン

■ 4WD切替えレバーの各位置のはたらき

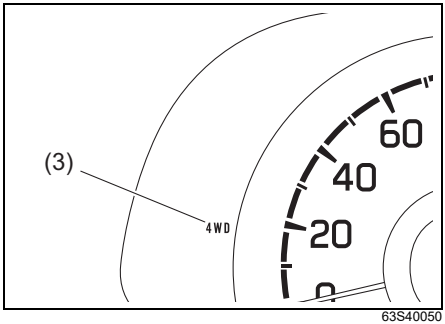
〔2H〕（2WD）
一般道路、高速道路などを通常走行するときの位置です。通常はこの位置で走行します。

〔4H〕（ハイレンジ4WD）
悪路、砂地、積雪路などの滑りやすい路面を走行するときの位置です。

〔N〕（ニュートラル）
エンジンの動力が伝わらない位置です。この位置での走行はできません。

〔4L〕（ローレンジ4WD）
急な坂路、砂地、ぬかるみなど、とくに大きな駆動力を必要とするときの位置です。

- 駆動状態が〔4H〕または〔4L〕に切り替わると、メーター内の 4WD 表示灯（3）が点灯します。



63S40050

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

●駆動力補助のため、駆動状態を “4L” に切り替える際、メーター内のESP® OFF 表示灯が点灯し、スタビリティコントロール（横滑り防止機能）およびトラクションコントロールのエンジン出力制御が作動しなくなります。

→ **4-31ページ**
（ESP®装備車の取扱い）

ただし、ABS およびブレーキLSD トラクションコントロール（※）は作動します。発進時や加速時にブレーキLSD トラクションコントロールが作動すると、メーター内のESP®作動表示灯が小刻みに点滅します。

なお、ブレーキLSD トラクションコントロールが作動すると、ブレーキの作動により音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

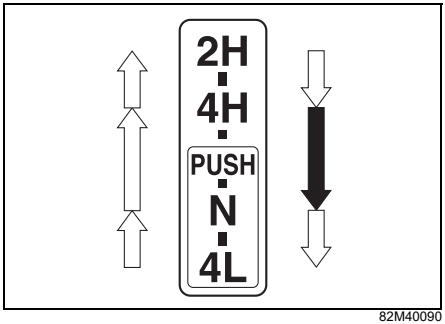
※ ブレーキLSD トラクションコントロールとは、滑りやすい路面で駆動輪の片側が空転した場合、その空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、反対側の駆動輪の駆動力を確保しようとする補助機能です。

●スズキ セーフティ サポート装備車は、駆動状態を “4L” に切り替えると、室内ブザーが “ ピッ” と鳴り、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF 表示灯、車線逸脱警報OFF 表示灯が点灯し、スズキ セーフティ サポート（タイプ別装備）が停止します。

駆動状態を “4L” から “4H” に切り替えると、室内ブザーが “ ピッ” と鳴り、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF 表示灯、車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、スズキ セーフティ サポート（タイプ別装備）が自動復帰します。

■ 4WD切替えレバーの操作

ハンドルが直進状態のとき操作します。



82M40090

⬇	ボタンを押した状態で4WD切替えレバーを動かします。
⇳	ボタンを押さずに4WD切替えレバーを動かします。

⚠警告

旋回走行中または雪道などで、タイヤを空転させたまま切り替え操作をしないでください。車が思わぬ方向に飛び出すおそれがあります。また、駆動装置が損傷する原因となります。

アドバイス

- 切り替え操作を行なったときに、駆動装置のモーター音がしますが、これは切り替え音ですので異常ではありません。
- 低温時、駆動切替えシステムが暖まっていないときは、操作が重くなったり、ギヤ鳴りが発生したりすることがあります。

〔2H〕⇆〔4H〕

停車中、または車速が80 km/h 以下の走行中に操作します。

- 停車中に〔2H〕⇆〔4H〕の操作をする場合に、操作が重くて入りにくいときは、低速走行しながら操作をしてください。
- 停車中に〔2H〕→〔4H〕の操作をしても4WD表示灯が点灯しないことがあります。その場合は、車を少し前進または後退させてください。
- 走行中に〔2H〕→〔4H〕の操作をする場合に、操作が重くて入りにくいときやギヤ鳴りが発生するときは、速度を落とすか停車してから操作をやり直してください。

⚠注意

走行中の切り替え操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行なってください。

アドバイス

走行中に〔2H〕⇆〔4H〕の操作をしたとき、軽い衝撃を感じることがありますが異常ではありません。

〔4H〕⇆〔N〕⇆〔4L〕
停車中にのみ操作します。

- 〔4H〕から〔N〕にするときは、4WD切替えレバーのボタンを押したまま操作します。
- 停車中に〔4H〕⇆〔4L〕の操作をする場合に、操作が重くて入りにくいときは、車を少し前進または後退させてから操作をやり直してください。

⚠ 警告

●駐車中は、4WD切替えレバーを〔N〕にしないでください。チェンジレバーをRまたは1速に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。
●走行中は〔4H〕⇆〔N〕⇆〔4L〕の操作をしないでください。思わぬ事故につながったり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。

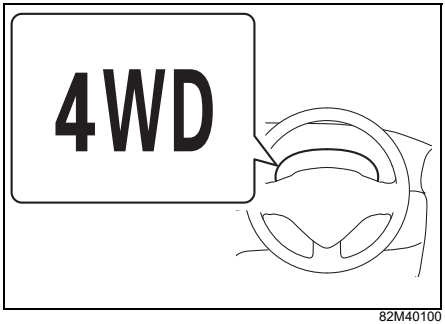
アドバイス

“4H” から “4L” へ切替える際、室内ブザーが“ピッ”と鳴り次の機能が停止します。

- ESP®（トラクションコントロールおよびスタビリティコントロール（横滑り防止機能））のエンジン出力制御が作動しなくなります。
  → **4-25ページ（4WD 切替えレバーの各位置のはたらき）**

“4L” への切替え完了の合図ではないため、室内ブザーが鳴ってもトランスファーレバーは “4L” 位置まで確実に操作してください。

■ 4WD表示灯



82M40100

4WD 表示灯はメーターパネル内にあります。
→ **1-10ページ（警告灯）**

- 4WD切替えレバーを〔4H〕または〔4L〕に操作して、駆動状態が4WDに切り替わると点灯します。
- 4WD切替えレバーを〔4H〕または〔4L〕に操作して走行したときに、4WD表示灯が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。〔2H〕に切り替えてスズキサービス工場に行き、点検を受けてください。

アドバイス

停車中に 4WD 切替えレバーを〔4H〕または〔4L〕に操作したときは、4WD表示灯が消灯していても、走行したときに点灯すれば正常です。

デフロックスイッチ

タイプ別装備

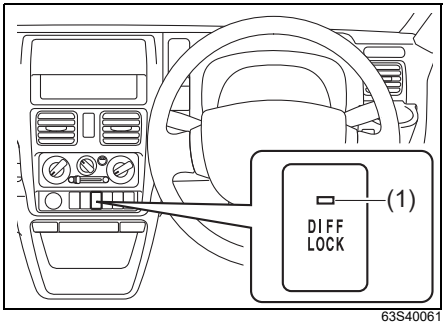
後輪の差動装置を連結状態（デフロック）にしたり、差動状態にもどしたりするときに使用します。

- デフロック状態のときは、後輪の片方のタイヤが空まわりするような状況の場合に、もう一方のタイヤに駆動力をフルに伝えます。そのため、4WD 走行中にタイヤが砂や泥に埋もれてスタック（立ち往生）した場合に、デフロックを併用すると脱出しやすくなります。
- デフロック状態のときに車速が30 km/h を超えると、デフロックスイッチが自動的に切れ、右後輪と左後輪の連結は解除されます。

■ デフロックスイッチの操作

エンジン回転中の停車時に操作します。

- スイッチを入れると、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
- スイッチを切るときは、もう一度押します。



63S40061

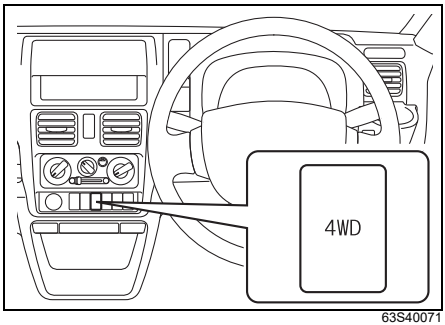
⚠警告

デフロックスイッチを入れて一般走行をしないでください。後輪の差動装置が作動しないため、旋回時に車が思わぬ方向に飛び出すおそれがあります。

4WDスイッチ

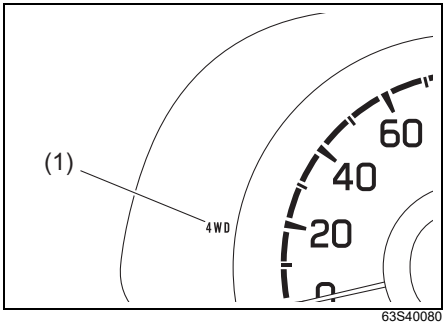
タイプ別装備

駆動状態の切り替えに使用します。



63S40071

- 駆動状態が4WDに切り替わると、メーター内の4WD表示灯（1）が点灯します。



63S40080

■ 4WDスイッチの各位置のはたらき

〔2WD〕
一般道路、高速道路などを通常走行するときの位置です。通常はこの位置で走行します。

〔4WD〕
悪路、砂地、積雪路などの滑りやすい路面を走行するときの位置です。

■ 4WDスイッチの操作

ハンドルが直進状態のときに操作します。

- スイッチを押すごとに、2WD と 4WD が切り替わります。

	スイッチの状態	メーター内の表示灯
OFF（2WD）		消 灯
ON（4WD）		 点 灯

〔2WD〕⇆〔4WD〕
停車中、または車速が 80 km/h 以下の走行中に操作します。

- 停車中に〔2WD〕→〔4WD〕の操作をしても 4WD 表示灯が点灯しないことがあります。その場合は、車を少し前進または後退させてください。

⚠警告

旋回走行中または雪道などで、タイヤを空転させたまま切り替え操作をしないでください。車が思わぬ方向に飛び出すおそれがあります。また、駆動装置が損傷する原因となります。

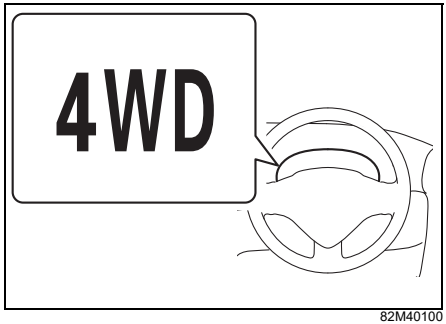
⚠注意

走行中の切り替え操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行なってください。

アドバイス

- 切り替え操作を行なったときに、駆動装置のモーター音がしますが、これは切り替え音ですので異常ではありません。
- 車速が80 km/h以上のときは、スイッチを押しても〔2WD〕→〔4WD〕の切り替えは行なわれません。
- 走行中に〔2WD〕⇆〔4WD〕の操作をしたとき、軽い衝撃を感じることがありますが異常ではありません。

■ 4WD表示灯



82M40100

4WD 表示灯はメーターパネル内にあります。
→ **1-13ページ（表示灯・表示）**

- 4WDスイッチをON（4WD）に操作して、駆動状態が4WDに切り替わると点灯します。
- 4WDスイッチをONにして走行したときに、4WD表示灯が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。スイッチをOFF（2WD）に切り替えてスズキサービス工場に行き、点検を受けてください。

アドバイス

停車中に4WDスイッチをONにしたときは、4WD表示灯が消灯していても、走行したときに点灯すれば正常です。

ESP®装備車の取扱い

ESP®（※）は、ABS、ブレーキアシスト、トラクションコントロール、スタビリティコントロール（横滑り防止機能）などを総合的に制御して、車両の走行安定性を補助しようとするシステムです。

※ESP®は、Electronic Stability Program（エレクトロニック スタビリティ プログラム）の略で、Daimler AGの登録商標です。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

4-35ページをお読みください。

■ ブレーキアシスト

ブレーキ踏力を補助する装置です。急ブレーキをかけたときに、ABSの効果が十分に発揮されるまでの時間を短縮します。

- しっかりとブレーキペダルを踏まないと、ブレーキアシストは作動しません。
- ブレーキアシストは、本来のブレーキ性能を超えた制御をする装置ではありません。

■ トラクションコントロール

滑りやすい路面での発進時や加速時に起こる駆動輪の過度の空転を、ブレーキ制御およびエンジン出力制御により防ぎ、適切な駆動力を確保しようとする補助機能です。

■ スタビリティコントロール（横滑り防止機能）

急激なハンドル操作をしたり、滑りやすい路面で旋回したりするときの車の横滑りなどを抑制することで、車両の走行安定性を補助しようとする機能です。

⚠ 警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ESP® による制御には限界があります。

⚠ 注意

●次のことをお守りください。
守らないと ESP® が正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。
- **タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する**
  → 8-5ページ（タイヤの空気圧）
- **タイヤ交換時は指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着する**
- **著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない**
- **サスペンションやブレーキを改造しない（車高やサスペンションの硬さ変更など）**
- **サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない**
- **エンジンを改造しない（マフラーの改造など）**
- **LSD（リミテッドスリップデフ）を装着するなどの改造をしない**

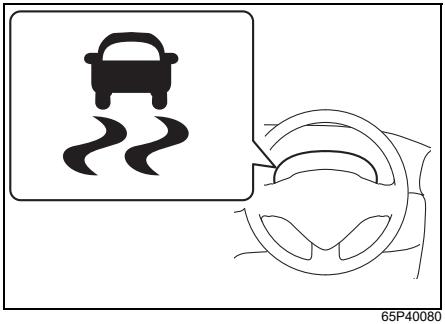
●タイヤチェーンを装着したときなどには、ESP®が正常に作動しない場合があります。

アドバイス

●次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。
- エンジンスイッチを ON にしたとき
- ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを ON にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
- エンジンをかけたとき
- エンジンをかけ、最初の発進時

●エンジン回転が高いときにESP®が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。

ESP®作動表示灯



65P40080

メーターパネル内にあります。
→ 1-13ページ（表示灯・表示）

- ESP®の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中は次のようになりますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - 次の機能が作動しません。
    - ・トラクションコントロール
    - ・スタビリティコントロール
    - ・スズキ セーフティ サポート（タイプ別装備）
      → **4-40ページ（スズキ セーフティ サポート）**
    - ・アイドリングストップシステム
      → **4-6ページ（アイドリングストップシステム）**
  - ヒルホールドコントロールも作動しない場合があります。
    → **4-38ページ（ヒルホールドコントロール）**
  - ABSは作動します。
  - ブレーキアシストは、故障状況によっては作動しない場合があります。

- 次のような状況になると、0.2秒間隔で小刻みに点滅します。
  - 発進時や加速時にトラクションコントロールが作動している
  - 急ハンドル時や旋回時にスタビリティコントロールが作動している

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠注意

小刻みに点滅したときは、滑りやすい路面で、車がスタックまたは横滑りしやすい状態になっています。とくに慎重に運転してください。

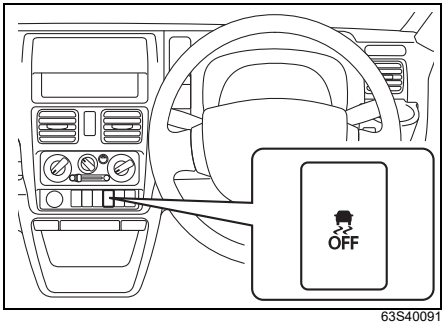
アドバイス

点灯中はトラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しませんが、ABSは使用することができます。

ESP® OFFスイッチ

- 次のようなときは、メーター内のESP® OFF表示灯が点灯するまでESP® OFFスイッチを押し続けてください。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動しなくなります。
  - 車検を受けるときなどテスターに載せる場合。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールを作動停止の状態にする必要があります。
  - スタックからの脱出などの場合。トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。

- 次のような操作をすると、ESP® OFF表示灯が消灯し、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動可能な状態にもどります。
  - もう一度ESP® OFFスイッチを押す
  - 車速が約30 km/hを超えたとき
  - 一度エンジンを止め、再始動する



63S40091

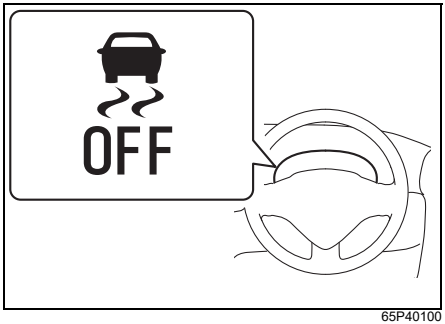
- 上図のインパネは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- スタックからの脱出などのあとに通常走行するときは、ESP® OFF スイッチを再度押してESP® OFF 表示灯を消灯させ、もとの状態にもどしてください。

アドバイス

- 安全のため、ESP® OFFスイッチを操作しても、ABSおよびブレーキアシストは作動停止の状態になりません。
- 車速が30 km/hを超えるとトラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動可能な状態に自動復帰するため、スイッチを操作しても一時的な停止しかできません。
- ステレオカメラ装備車はESP® OFFスイッチの位置が作動停止（OFF）のとき、次の機能も停止します。（※）
  - スズキ セーフティ サポート（タイプ別装備）

※作動（ON）／作動停止（OFF）切り替え時、ブザーが鳴ります。
→ **4-40 ページ（スズキ セーフティ サポート）**

ESP® OFF表示灯



65P40100

メーターパネル内にあります。
→ **1-13ページ（表示灯・表示）**

- エンジンスイッチが ON のときに、ESP® OFF スイッチを長押しすると点灯します。
  - 点灯中は、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しません。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

アドバイス

●駆動力補助のため、駆動状態を “4L” に切り替える際、メーター内のESP® OFF 表示灯が点灯し、トラクションコントロールのエンジン出力制御が作動しなくなります。
→ **4-31ページ (ESP®装備車の取扱い)**

なお、ブレーキLSDトラクションコントロール（※）が作動すると、ブレーキの作動により音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

※ ブレーキLSD トラクションコントロールとは、滑りやすい路面で駆動輪の片側が空転した場合、その空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、反対側の駆動輪の駆動力を確保しようとする補助機能です。

●スズキ セーフティ サポート装備車は、駆動状態を“4L”に切り替えると、室内ブザーが“ピッ”と鳴り、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF 表示灯、車線逸脱警報OFF 表示灯が点灯し、スズキ セーフティ サポート（タイプ別装備）が停止します。
駆動状態を“4L”から“4H”に切り替えると、室内ブザーが“ピッ”と鳴り、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF 表示灯、車線逸脱警報OFF 表示灯が消灯し、スズキ セーフティ サポート（タイプ別装備）が自動復帰します。

ABS

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ブレーキをかけたときのタイヤのロックを自動的に防止することで、走行安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

ABS とは、Antilock Brake System（アンチロック ブレーキ システム）の略です。

⚠警告

●常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ABS による制御には限界があります。
●ABS は、タイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（※）が起こったりした場合は効果を発揮できません。

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

制動距離について

ABSは制動距離を短くするものではありません。

⚠注意

●急ブレーキをかけたときや、滑りやすい路面でブレーキをかけたときの制動距離は、ABS がついていない車と同等です。

●次のようなときは、ABS のついていない車より制動距離が長くなることがあります。スピードを控えめにして、車間距離を十分にとってください。

- **凸凹道や石だたみなどの悪路**
- **じゃり道、新雪路**
- **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき**
- **マンホールなど鉄板の上を通過するとき**
- **タイヤチェーンの装着時**

●急ブレーキ時には、ポンピングブレーキ（※）をせずに、ブレーキペダルを思い切り強く踏み込んでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。

※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけかた

●路面の状況によりますが、約10 km/h以下ではABSが作動しません。

ABS作動時の振動や音

ブレーキペダルを強く踏むと、ブレーキペダル、ハンドル、車体の小刻みな振動を感じることがあります。これはABSの作動によるもので、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

アドバイス

エンジンをかけて発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で、異常ではありません。

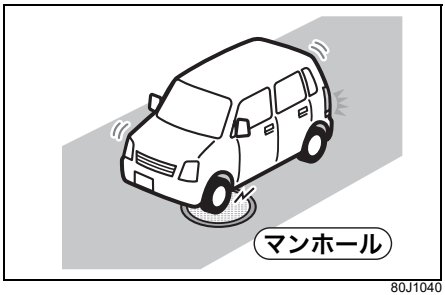
タイヤについて

⚠警告

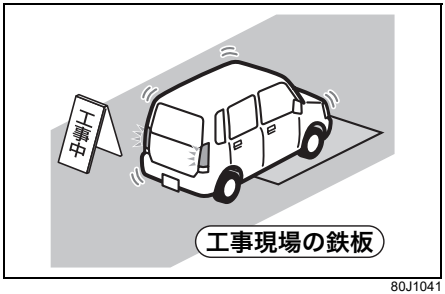
ABS は、各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着してください。また、著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しないでください。正確な回転速度が検出できなくなって ABS が正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABS は、こんな場合にもブレーキをかけると作動することがあります

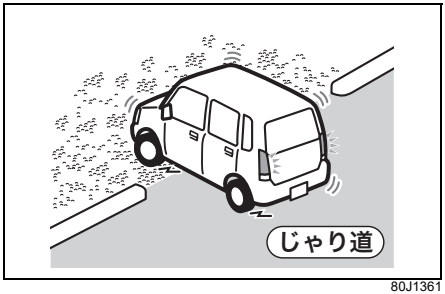
● 滑りやすい路面を走行しているとき



80J1040

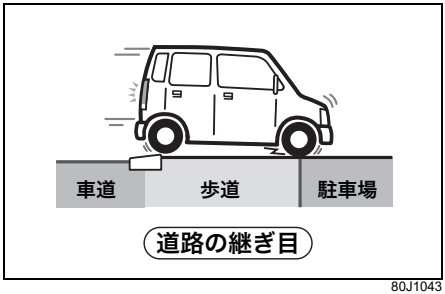


80J1041

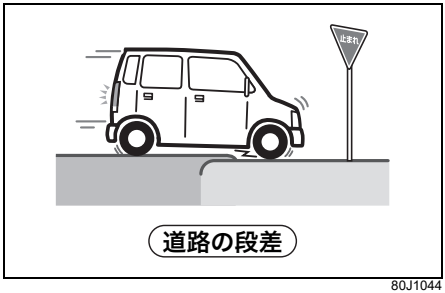


80J1361

● 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

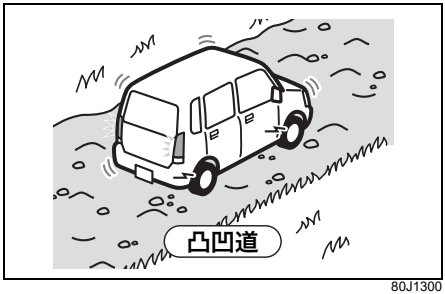


80J1043



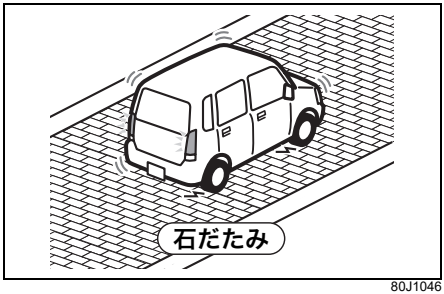
80J1044

● 悪路を走行しているとき



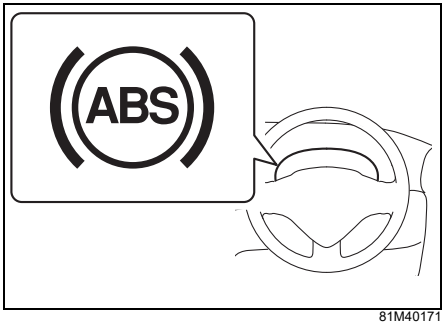
80J1300

4



80J1046

ABS警告灯



81M40171

メーターパネル内にあります。

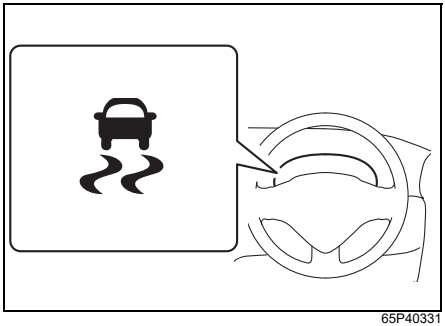
- ABSの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-10ページ（警告灯）**

ヒルホールドコントロール

タイプ別装備

ヒルホールドコントロールは、上り坂での発進時に、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間にブレーキ力を保持することで車が後退することを一時的に（約２秒間）防ぎ、スムーズな発進を補助するシステムです。

- ヒルホールドコントロールは、坂道で車を停止させるシステムではありません。
- 本システムに異常があると、メーター内の次の警告灯が点灯し、ヒルホールドコントロールが作動しない場合があります。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  • ESP®作動表示灯
  → **3-46ページ（警告灯・表示灯の見かた）**


65P40331

⚠ 警告

- **常に周囲の状況を確認して、必要に応じてブレーキペダルを操作して安全運転に努めてください。ヒルホールドコントロールによる制御には限界があります。**
- **極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るときや、積載重量によっては、発進時に車両が後退する場合があります。**
- **極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るとき、ヒルホールドコントロールが作動するとタイヤがロックし、車両がコントロールできない場合があります。**
- **ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行なってください。ブレーキペダルから足を離したまま 2 秒以上たつとヒルホールドコントロールが解除されるため、勾配によっては自重で坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、エンストしてブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。**

アドバイス

- 本システムに異常があると、メーター内の ESP® 作動表示灯が点灯し、ヒルホールドコントロールが作動しない場合があります。また、アイドリングストップシステムが作動しません。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  → **4-32ページ（ESP®作動表示灯）**
- ブレーキペダルの踏み込みが不十分な場合、ヒルホールドコントロールが作動せず車両が後退することがあります。

■ ヒルホールドコントロールの作動条件

ヒルホールドコントロールは、次の条件をすべてみたしているときに、ブレーキペダルから足を離すと約２秒間、車が後退することを防ぎます。

- 進行方向が坂の上りである
- セレクトレバーが前進または後退の位置に入っている
- パーキングブレーキを解除している
- ブレーキペダルをしっかり踏んでいる

アイドリングストップシステム装備車の場合、前記条件をみたしていなくても、エンジン自動停止後の再始動時ならヒルホールドコントロールが作動します。

→ **4-6ページ**
（アイドリングストップシステム）

⚠注意

上記以外の場合は、ヒルホールドコントロールは作動しません。

アドバイス

作動中に以下のような状態になることがありますが、異常ではありません。

- エンジンルームから音が聞こえる
- ブレーキペダルが硬くなり踏み込めないことがある

スズキ セーフティ サポート

タイプ別装備

スズキ セーフティ サポートの各機能により事故の予防、回避、または被害の軽減を図ります。

スズキ セーフティ サポートの各機能

- ステレオカメラ
  → **4-41ページ**
- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）
  → **4-50ページ**
- 誤発進抑制機能
  → **4-55ページ**
- 車線逸脱警報
  → **4-58ページ**
- ふらつき警報
  → **4-59ページ**
- 先行車発進お知らせ機能
  → **4-60ページ**
- ハイビームアシスト
  → **4-61ページ**
- 超音波センサー
  → **4-66ページ**
- 後方誤発進抑制機能
  → **4-70ページ**

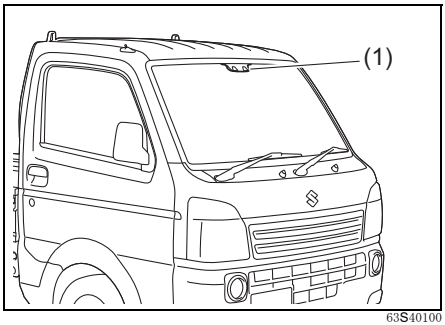
次の項目もあわせてお読みください。

→ **2-29ページ**
（車検を受けるときの注意）
→ **7-42ページ**
（けん引してもらうときは）

前方

ステレオカメラ

タイプ別装備



63S40100

(1) ステレオカメラ

⚠ 警告

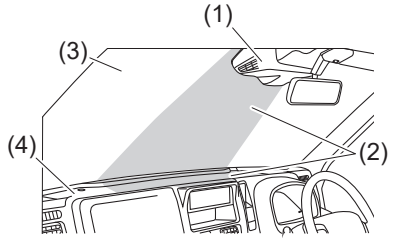
ステレオカメラによる検知機能には限界があり、すべての車両や障害物、区画線を検知できるわけではありません。走行中は常に周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキペダルなどを操作して安全運転に努めてください。

- **ステレオカメラを正しく作動させるために、次のことをお守りください。取扱いを誤ると、前方障害物や区画線を正しく検知できなくなり、誤作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  - **ステレオカメラのレンズ部には触れない**
  - **ステレオカメラのレンズ部は清掃しない**
  - **ステレオカメラ本体、およびその周辺部に強い衝撃や力を加えない**
  - **ステレオカメラを取り外したり、分解したりしない**
  - **ステレオカメラのレンズ部にフィルムやステッカーなどを貼らない（透明なものを含む）**
  - **煙タイプの消臭剤等は使用しない**

- **接触事故などでステレオカメラ周辺部が変形・損傷した場合や、ステレオカメラ前面のフロントガラスにひび割れなどの傷がある状態で走行すると、ステレオカメラが前方障害物や区画線を正しく検知できなくなり、誤作動して思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチを操作して、DCBSおよび誤発進抑制機能を停止させ、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

●次の場所にアクセサリー（スズキ純正用品を除く）などの取付けや設置、フィルムやステッカーなどの貼付けをしないでください。ステレオカメラの視野に影響したり、安定した検知ができずに、システムが正常に作動しない場合があります。また、禁止エリア（2）以外に置いた場合でも、光の反射やガラスへの映りこみなどにより、ステレオカメラの動作に異常があるときは移動させてください。
・フロントガラス（3）
・インパネ上面（4）



63S40111

(1)ステレオカメラ

※検査標章（車検ステッカー）は、前図の禁止エリア（2）内に貼らないでください。また、ETC アンテナや無線機などを取り付けるときはスズキ販売店またはスズキ代理店に相談ください。ステレオカメラに悪影響をあたえるおそれがあります。

⚠注意

次のとき、ステレオカメラが安定して検知できず、システムが正常に作動しない場合があります。
●ワイパーのふき残しが発生したとき
●スズキ純正品以外のフロントガラスを使用したとき
●スズキ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき

注 記

レンズ部が汚れてカメラの交換が必要になるおそれがあるため、次のことをお守りください。
●ステレオカメラのレンズ部には触れない
●ステレオカメラのレンズ部は清掃しない

アドバイス

●ステレオカメラは人の目と似た特性を持っているため、霧や大雨などで前方の視界が悪いときには、ステレオカメラも同様に前方車両や障害物、区画線を検知しづらくなります。
●ステレオカメラによる前方車両や障害物、区画線の検知は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御、警報の対象となるまでには数秒間かかります。

■ ステレオカメラの一時停止・故障

次の表のようになったとき、ステレオカメラが一時停止または故障しています。

	ステレオカメラ	
	システム一時停止	故障
(1) 	点灯	
(2) 	点灯	
(3) 	点灯	
(4) 	点灯	
(5) システム一時停止	点灯	消灯
(6) 	点滅	消灯

(1) デュアルカメラブレーキサポート(DCBS)作動表示灯
(2) 後方誤発進抑制機能作動表示灯
(3) 車線逸脱警報作動表示灯
(4) ハイビームアシスト警告灯
(5) マルチインフォメーションディスプレイの表示
(6) マスターウォーニング

以下のような場合にも表示することがあります。

- 街灯のない暗い道路を走行しているとき
- 勾配の変化がきつい坂を走行しているとき
- ガレージの中で停車しようとしているとき
- 単色の壁に前向きにゆっくり接近しているとき
- シャッターや横縞の壁に前向きにゆっくり接近しているとき

アドバイス

- システム一時停止または故障のときは次の機能が停止します。
  - デュアルカメラブレーキサポート(DCBS)
  - 誤発進抑制機能
  - 車線逸脱警報
  - ふらつき警報
  - 先行車発進お知らせ機能
  - ハイビームアシスト
  - 後方誤発進抑制機能

ステレオカメラのシステム一時停止

次のようなときステレオカメラが一時停止します。
状況が改善されれば、システムの一時停止は解除されます。

表示される内容	原因	対処方法
システム一時停止	次の状態のため、ステレオカメラの機能が一時停止しています。 • スズキ セーフティ サポートに関連するシステムが一時停止した • 鉛バッテリーの電圧が一時的に異常になった • ステレオカメラの自動調整が一時的に不十分になった	原因が解消するまで、周囲に十分注意して走行してください。 表示がしばらく経過しても消えない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
システム一時停止 温度	ステレオカメラ本体が低温または高温になったことで、ステレオカメラの機能が一時停止しています。	
システム一時停止 視界	ステレオカメラの視界不良により、ステレオカメラの機能が一時停止しています。以下の原因が考えられます。 • 大雨、吹雪、霧などの悪天候 • ステレオカメラの前部のフロントガラスの外に汚れ、油膜、雨滴などが付着している • 前方から強い光（逆光、対向車のヘッドライトの光など）を受けた	● 悪天候のときはフロントワイパーを使用してください。フロントワイパーを使用してもシステム一時停止が解除されない場合は、天候が回復するのをお待ちください。 ● ワイパーとウォッシャー、またはやわらかい布などでフロントガラスの外の汚れ、油膜、雨滴などをふき取ってください。 ● 前方から強い光が無くなるのをお待ちください。 → **3-67ページ（ワイパー／ウォッシャースイッチ）**

表示される内容	原因	対処方法
システム一時停止 視界くもり	ステレオカメラの前部のフロントガラスが曇っている、または凍り付いています。	エアコンを作動させ、デフロスターを以下の条件で使用して曇りなどを取り除いてください。 • 外気導入に切替える • 設定温度を上げる • 風量を最大にする → **5-3ページ（エアコン（タイプ別装備）、ヒーター）**

アドバイス

- 車内の湿度が高いときや車内と外気の温度差が大きいときなどはフロントガラスが曇りやすくなります。
- ステレオカメラがフロントガラスの曇りを検知した直後は「くもり」だけが表示され、ステレオカメラの機能は一時停止しません。デフロスターを使用して曇りなどを取り除いてください。状況が改善されれば「くもり」表示は解除されます。

ステレオカメラの故障

故障したときは、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にするまでシステムが停止します。

安全な場所に停車して、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にし、エンジンを止めてください。再度、エンジンを始動したとき、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯、車線逸脱警報作動表示灯およびハイビームアシスト警告灯が消灯していることを確認します。

- エンジンを再始動しても表示灯が点灯している場合、ステレオカメラの故障が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

故障の原因として次のようなことが考えられます。

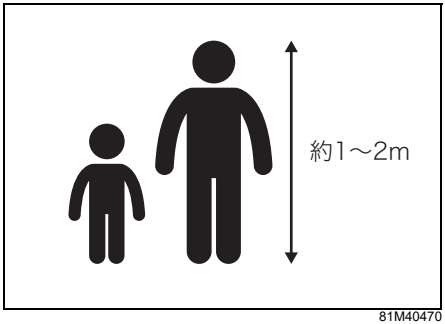
- ステレオカメラが異常のとき
- ステレオカメラ本体の温度が異常に低い、または異常に高いとき
- ステレオカメラの取付けが大きくずれたとき
- エンジン、トランスミッション、ブレーキのコントローラおよびコントローラ間の通信が異常になったとき
- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチが異常のとき
- 車線逸脱警報OFFスイッチが異常のとき
- ハンドルの舵角センサーが異常のとき
- ステレオカメラの電源が遮断された

アドバイス

- エンジンを始動したあと、次のようなときにもデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯、車線逸脱警報作動表示灯およびハイビームアシスト警告灯が点灯しますが、これは故障ではありません。エンジンスイッチを LOCK（OFF）にし、エンジンを再始動すれば表示灯が消灯します。
  - 自動ブレーキが3回作動したとき
  - 自動ブレーキが長時間作動したとき
- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯、車線逸脱警報作動表示灯およびハイビームアシスト警告灯が点灯し、故障が考えられる場合、システムが停止しますが、通常の走行には支障ありません。

■ 歩行者の検知

対象物の大きさや形状、動きから歩行者の検知を行なっています。



81M40470

⚠警告

検知条件をみたしていても、必ず歩行者を検知できるわけではありません。次のような状況では､検知ができない､または検知が遅れる可能性が高くなります｡常に安全運転に努めてください。

- **集団で歩いている**
- **壁際や別の障害物のそばにいる**
- **傘をさしている**
- **背景と似た色合いで風景に溶け込んでいる**
- **大きな荷物をもっている**
- **前かがみやしゃがんだ姿勢でいる**
- **横たわっている**
- **横から急に、目の前に飛び出してきた**
- **背景、周囲の明るさが一様ではない（薄暮、街灯、対向車のヘッドライトの光など）**
- **歩行者との距離が極端に近い**

■ こんな場合検知できないことがあります

- 次のようなとき、ステレオカメラが前方の障害物や区画線を検知できない可能性が高くなります。
  また、スズキ セーフティ サポートが一時停止になる場合があります。状況が改善されると再び機能は作動します。
  - 大雨、濃霧および吹雪などの悪天候のとき
  - 前方から強い光（逆光、対向車のヘッドライトの光など）を受けたとき
  - 雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき
  - 真っ暗で周囲にものがないとき
  - 前方車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
  - 夕方、朝方の薄暗いときや、屋内駐車場などの暗い場所で対象物に接近するとき
  - フロントガラスがくもったり、雪、氷、土埃などが付着して汚れているとき
  - フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分にふき取れてないとき
  - フロントウォッシャーの使用中
  - スズキ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）

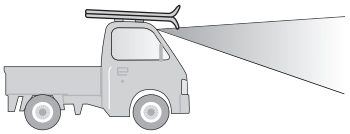
例



81M40380

- スズキ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
- インパネ上面をケミカル剤などで光沢をもたせたとき
- フロントガラスへの映り込みがあるとき
- レンズ前を手などでふさいだとき
- レンズを汚したり傷をつけたとき
- 次のように、ステレオカメラの視界をさまたげたとき
  - ・フロントガラスにステッカーやフィルムを貼った
  - ・フロントガラスに傷、ひびなどが生じた
  - ・ルーフキャリアやスキー板などの長尺物を搭載した

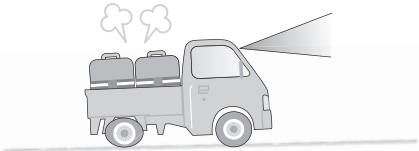
例



63S40260

- 重い荷物を積んで、車両が傾いているとき

例



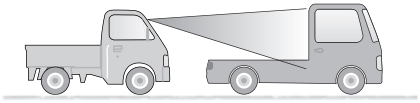
63S40270

- タイヤの空気圧が適正でない、または摩耗したタイヤのとき
- タイヤチェーンを装着したり、指定サイズ以外のタイヤを装着したりしたとき
- ホイールアライメントがずれているとき
- パンクを応急修理したとき
- サスペンションを改造したとき
- トンネルの出入り口を通過するなど、明るさが極端に変化するとき
- 夜間やトンネル内でヘッドライトを点灯せずに走行しているとき
- 急な坂道や急なカーブ、道路の継ぎ目を走行しているとき
- ヘッドライトの光軸がずれているとき
- ヘッドライトやフォグランプを改造したとき
- ヘッドライトに汚れ、氷雪、泥などが付着しているとき

● 次のような車両や障害物、状況は、ステレオカメラが前方の障害物を検知できなかったり、検知に時間がかかる場合があります。

- 前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
  - ・荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなど
  - ・後端から積荷が飛び出している車両など
  - ・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
  - ・車高の低い車両など

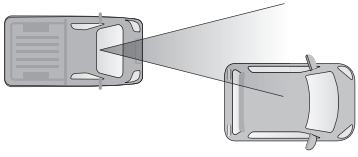
例



63S40280

- ふらつき運転をしているとき
- 先行車が太陽光などを強く反射しているとき
- 対向車両やバックしてくる車両
- 横向きの車両
- 夜間またはトンネル内で、テールランプが点灯していない先行車
- 停車している車両の前に壁などがあるとき
- 車両の近くに別の障害物があるとき
- フェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様のまったくない壁、シャッターなどの障害物
- 標識や街灯などのポール状のもの
- 高さの低い障害物
- 鏡の壁や扉、ガラスなどの障害物
- 小動物や幼児などの高さの低い対象物
- ガードレール
- 電柱、木
- 自車バンパーの近い位置に対象物が存在するとき
- 前方車両の一部しかステレオカメラの検知範囲内に入っていないとき

例



63S40290

- カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからしばらくの間
- 前方車両との速度差が大きい場合
- 前方車両と近距離の場合
- 前方車両が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- ヘッドライト照射範囲外に対象物がある場合
- 横からすぐ目の前に飛び出してきたとき
- 自車が車線変更を行ない、先行車のすぐ後ろに接近したとき

● 次のような区画線や状況は、ステレオカメラが区画線を検知できなかったり、検知に時間がかかる場合があります。
- 車線の幅が狭いとき
- 車線が検知しづらいとき
  - ・区画線がない、または消えている
  - ・区画線の色が路面の色と似ている
  - ・区画線の幅が狭い
  - ・区画線がかすれている、または道路鋲や置き石などがある
  - ・区画線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっている
  - ・雨天、雨上がり、水たまりなどぬれた路面を走行している
  - ・区画線が縁石等の上に引かれている
  - ・照り返しなどにより明るくなった路面を走行している
- 前方車両と近距離の場合
- 車線変更した直後、または交差点を通過した直後

デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）

タイプ別装備

DCBSとはDual Camera Brake Support（デュアル　カメラ　ブレーキ　サポート）の略です。DCBS は走行中、ステレオカメラにより前方車両や障害物、歩行者などを検知し、警報によって衝突の回避をうながしたり、ブレーキ制御によって衝突時の被害軽減を図ったりします。

- DCBS が作動したとき、アクセルペダルの操作をしても作動を継続します。ただし、アクセルペダルを強く踏み込むと作動を解除します。
- ブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドル操作をしていたりすると、操作状態によっては回避操作と判断され、DCBSが作動しない場合があります。
- DCBS は、主に車両や歩行者への衝突の回避、あるいは衝突の被害を軽減することを目的としていますが、すべての状況において車両や歩行者を検知できるわけではありません。
- DCBS は作動停止状態にすることができます。

→ **4-65ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**

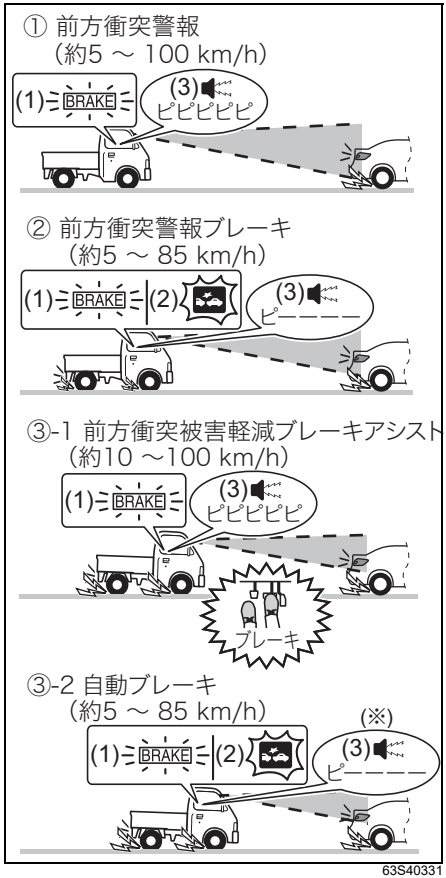
⚠警告

- **DCBSの検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。DCBSにたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。**
- **お客様自身で DCBS の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては DCBS が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **自動ブレーキ機能作動時は、強いブレーキがかかりますので、運転前に全ての乗員が適切にシートベルトを着用していることを確認してください。**

アドバイス

- DCBS作動中に、前方障害物が検知範囲外に移動するなど、検知できなくなったときは、途中で作動が解除されることがあります。
- DCBS　作動中にブレーキペダルを踏んでいなくてもブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ 作動イメージ



63S40331

(1) 前方衝突警告表示
(2) デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯
(3) 室内ブザー

※自動ブレーキによる車両停止後、自動ブレーキが解除されるまでの間、ブザー音は継続されます。また、前方衝突警告表示およびデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯は、ブレーキ制御終了後、約３秒後に消灯します。

⚠注意

オートマチック車は、自動ブレーキによる車両停止後は、すみやかにブレーキをかけてください。自動ブレーキが解除されるとクリープ現象により車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

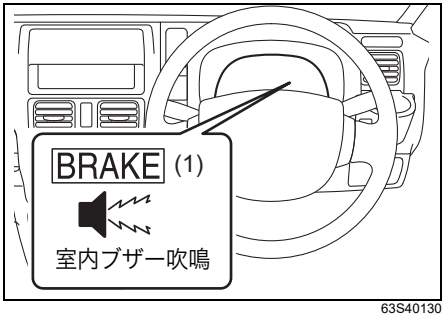
アドバイス

前方衝突警報ブレーキ、前方衝突被害軽減ブレーキアシスト、自動ブレーキが作動した場合、同時に前方衝突警報も作動します。

①前方衝突警報

約5～100 km/hで走行中に、前方車両などに衝突する可能性があると、室内ブザーとメーター内の表示で運転者に警報を発します。

- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴り、マルチインフォメーションディスプレイ内の前方衝突警告表示（1）が点灯します。



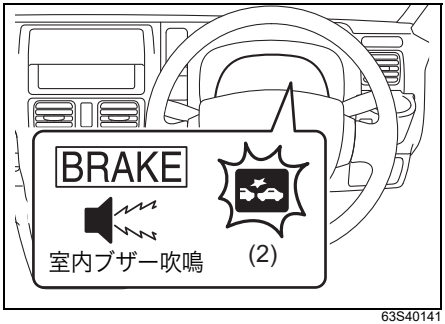
63S40130

- 前方衝突警報が鳴ったときは、前方や周囲の状況に応じて、ブレーキ、ハンドル操作などの回避行動をしてください。

②前方衝突警報ブレーキ

約5～85 km/hで走行中に、前方車両などに衝突する可能性が高いと、自動的に弱いブレーキをかけることによって運転者に回避操作をうながします。前方衝突警報ブレーキが作動した場合、同時に前方衝突警報も作動します。

- 前方衝突警報ブレーキの作動中は、室内ブザーが“ピーーーー”と鳴り、メーター内のデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯（2）が点滅し、制動灯が点灯します。
- この機能が作動した場合は、前方や周囲を確認の上、ブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。

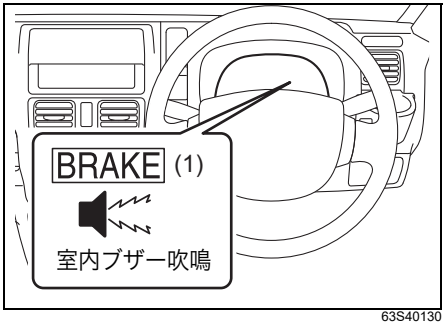


63S40141

③-1 前方衝突被害軽減ブレーキアシスト

約10～100 km/hで走行中に、前方車両などに衝突する可能性が高いときにブレーキペダルを強く踏むと、制動力を増強します。前方衝突被害軽減ブレーキアシストが作動した場合、同時に前方衝突警報も作動します。

- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴り、マルチインフォメーションディスプレイ内の前方衝突警告表示（1）が点灯します。

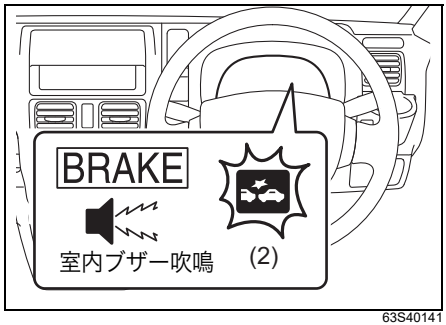


63S40130

③-2 自動ブレーキ

約5～85 km/hで走行中に、前方車両などとの衝突を避けられないとシステムが判断した場合、自動的に強いブレーキがかかります。自動ブレーキが作動した場合、同時に前方衝突警報も作動します。

- 自動ブレーキの作動中は、室内ブザーが“ピーーーー”と鳴り、メーター内のデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯（2）が点滅し、制動灯が点灯します。



63S40141

アドバイス

前方衝突警告表示の点灯およびデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯の点滅は、機能が解除してから約3秒後に消灯します。

■ こんな場合は作動しません

次のようなとき、DCBSは作動しません。

- エンジンがかかっていないとき（アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中を除く）
- エンジンスイッチを ON にした直後の、DCBS作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-57ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**
  → **3-58ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- マニュアル車は、チェンジレバーが R 位置のとき
- オートマチック車は、セレクトレバーが P R 位置のとき
- ESP®が作動しているとき（前方衝突警報を除く）
- 次のスイッチを操作して、DCBS を停止させているとき
  - デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ
    → **4-65ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**
  - ESP® OFFスイッチ
    → **4-33ページ（ESP® OFFスイッチ）**
- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-43ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**

■ こんな場合は作動しないことがあります

次のようなとき、DCBS が作動しない場合があります。

- 前方障害物を正しく検知できないとき
  → **4-47ページ（歩行者の検知）**
  → **4-47ページ（こんな場合検知できないことがあります）**

- アクセルペダルやハンドルの操作などから、回避操作をしたと判断したとき

■ こんな場合は作動しても十分に減速できないことがあります

次のようなとき、DCBS が作動しても十分に減速できない場合があります。

- 外気温が低いときや走行開始直後でブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱され、ブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れて効きが悪くなっているとき
- 次のような路面を走行しているとき
  - 急カーブや、凸凹の激しい路面
  - 急な勾配

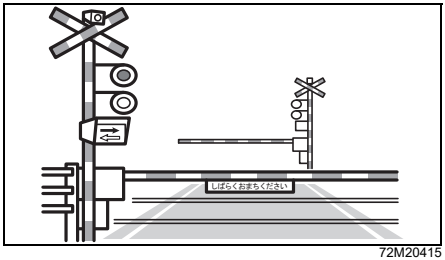
- 次のような滑りやすい路面を走行しているとき
  - 凍結路や積雪路
  - マンホールや工事用の鉄板の上
  - 砂利道

- 降雨時に走行しているとき

■ こんな場合にも作動することがあります

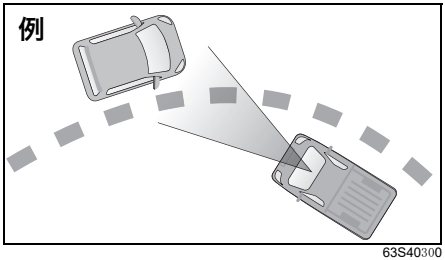
次のようなとき、ステレオカメラが前方障害物と判断してDCBSが作動する場合があります。あわてず注意して走行してください。

- 規定速度を超えて ETC ゲートを通過するとき
- 駐車場や遮断機のバーが上がりきる前のとき



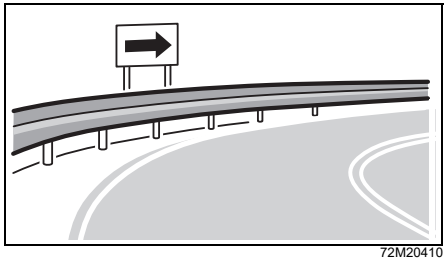
72M20415

- 路面の勾配が急に変化するような坂道を走行するとき
- 前方車両や隣車線の先行車に急接近したとき
- 前方および対向車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
- 前方障害物のすぐ近くに停車するとき
- 車両や障害物のすぐ横を通過するとき
- カーブ路で対向車とすれ違うとき



63S40300

- カーブ入口にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき



72M20410

誤発進抑制機能

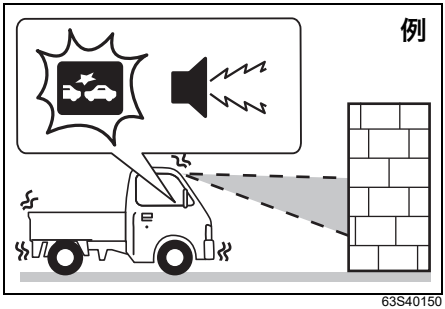
タイプ別装備

誤発進抑制機能は停車または徐行（車速約10 km/h以下）中に、車体前端から前方約4 m以内に車両や障害物を検知すると、アクセルペダルを軽く踏み込んだときには、ブザーと表示灯による警報を出し、アクセルペダルを急激に強く踏み込んだときは、警報とエンジン出力の上昇を自動的に最大約５秒間抑制することで衝突時の被害軽減を図る機能です。抑制されていたエンジン出力は、機能が解除されると徐々に戻ります。
作動中は、次の方法でお知らせします。

- メーター内のデュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯が点滅
  → **3-46ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る

デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯の点滅は、機能が解除されてから約3秒後に消灯します。



63S40150

⚠警告

●誤発進抑制機能は、運転者による安全運転をサポートし、衝突時の被害軽減を図ることを目的としていますが、その検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。誤発進抑制機能にたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。
●お客様自身で誤発進抑制機能の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては誤発進抑制機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●誤発進抑制機能は停車状態を保つものではありません。急な上り坂などで機能が作動すると、自重により後退し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

前輪を輪止めや縁石などに接触させておくと、より衝突を回避しやすくなります。

■ こんな場合は作動しません

- エンジンがかかっていないとき（アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中を除く）
- エンジンスイッチを ON にした直後の、DCBS作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-57ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**
  → **3-58ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- マニュアル車は、チェンジレバーが R 位置のとき
- オートマチック車は、セレクトレバーが P R N 位置のとき
- ハンドルを操作しているとき
- 次のスイッチを操作して、誤発進抑制機能を停止させているとき
  - デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ
    → **4-65ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**
  - ESP® OFFスイッチ
    → **4-33ページ（ESP® OFFスイッチ）**
- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-43ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**

アドバイス

- マニュアル車は、チェンジレバーがN（ニュートラル）位置でも誤発進抑制機能は作動します。
- マニュアル車において、クラッチの踏み込みの有り無しにかかわらず、システムは作動します。（エンストの可能性があります。）

■ こんな場合は作動しないことがあります

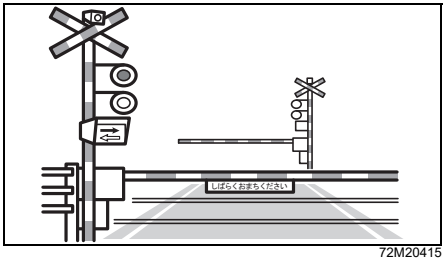
前方障害物を正しく検知できないとき、誤発進抑制機能が作動しない場合があります。

→ **4-47ページ（歩行者の検知）**
→ **4-47ページ（こんな場合検知できないことがあります）**

■ こんな場合にも作動することがあります

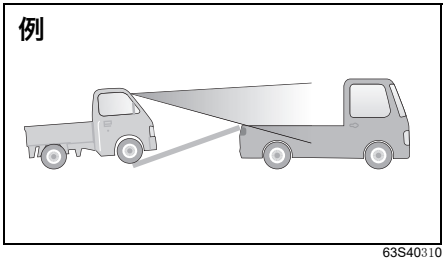
次のようなとき、ステレオカメラが前方障害物と判断して誤発進抑制機能が作動する場合があります。

- 駐車場や遮断機のバーが上がりきる前のとき



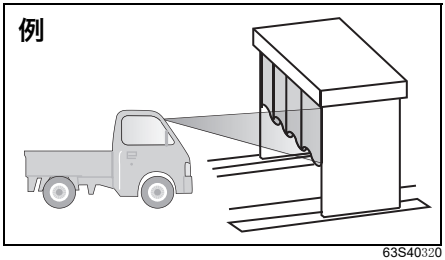
72M20415

- キャリアカーに積載するとき



63S40310

- ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき



63S40320

- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
- 路面の勾配が急に変化するような坂道を走行するとき
- 前方車両および対向車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などを通過するとき
- カーブ入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- 車両や障害物のすぐ横を通過するとき
- 前方障害物のすぐ近くに停車するとき

■ 踏切内などで作動した場合は

誤発進抑制機能が遮断機を障害物と判断して、踏切内に閉じ込められた場合は、次のいずれかの操作を行ない、機能を解除または停止させて、踏切内からすみやかに脱出してください。

- アクセルペダルを5秒以上踏み続ける
- いったんアクセルペダルを離し、再度すばやく踏み込む
- ハンドルを大きくまわす
- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチを長押しする

→ **4-65ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**

⚠警告

遮断機が下がる直前に無理に踏切内に進入しないでください。踏切内でDCBSや誤発進抑制機能が作動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

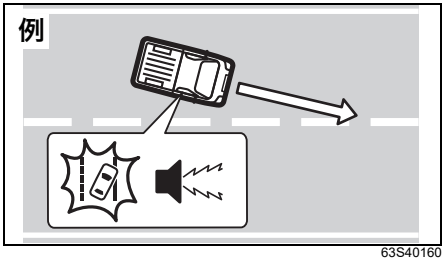
→ **7-41 ページ（踏切内で動けなくなったときは）**

車線逸脱警報

タイプ別装備

走行時（約 60 ～ 100 km/h）、ステレオカメラが車線の左右区画線を検知し、車線を逸脱すると判断した場合、次の方法により注意をうながします。

- メーター内の車線逸脱警報作動表示灯が点滅
  → **3-46ページ（警告灯・表示灯の見かた）**
- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る



63S40160

⚠警告

●車線逸脱警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものではありません。また、逸脱を自動的に回避するものではありません。車線逸脱警報にたよった運転はせず、走行中は常に安全運転に努めてください。
●お客様自身で車線逸脱警報の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては車線逸脱警報が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ こんな場合は作動しません

次のときは、車線逸脱警報が作動しません。

- エンジンスイッチを ON にした直後の、DCBS作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-57ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**
  → **3-58ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- 次のスイッチを操作して、車線逸脱警報を停止させているとき
  - 車線逸脱警報OFFスイッチ
    → **4-66ページ（車線逸脱警報OFFスイッチ）**
  - ESP® OFFスイッチ
    → **4-33ページ（ESP® OFFスイッチ）**
- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-43ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**
- 方向指示器作動中および作動後などの意図的な車線変更と判断したとき

■ こんな場合は作動しないことがあります

次のようなときは、車線逸脱警報が作動しない場合があります。

- ハンドルを大きく、または早くまわしたとき
- 区画線に急に接近する場合
- 急なカーブを走行しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んで加速しているとき
- 車線逸脱警報が作動したあと、車線の内側にもどっていないとき

※上記以外にもステレオカメラが区画線を検知できないとき、作動しない場合があります。

→ **4-47ページ（こんな場合検知できないことがあります）**

■ こんな場合は作動することがあります

次のときは、車線逸脱警報が作動する場合があります。

- ガードレールの影のような区画線に並行する影があるときや区画線が影の中にあるとき
- 区画線が2重に描かれているとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
- 積雪路や濡れた路面で、タイヤの跡などがあるとき
- 車線内に複数の線が引かれているとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など白線または黄線がない場所を走行するとき
- 分岐路または合流路などを走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき

ふらつき警報

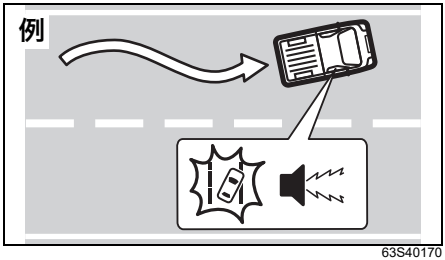
タイプ別装備

走行時（約60 ～100 km/h）、システムが車線内での車両の蛇行パターンまたは短時間に連続で車線逸脱警報が作動したことにより、ふらつきと判断した場合、次の方法により注意をうながします。

- メーター内の車線逸脱警報作動表示灯が点滅

→ **3-46ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る



63S40170

⚠ 警告

●ふらつき警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものでありません。また、運転者に注意をうながす機能であり、ふらつきを自動的に回避するものではありません。ふらつき警報にたよった運転はせず、走行中は常に安全運転に努めてください。

●お客様自身でふらつき警報の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によってはふらつき警報が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

車線内でのお車の蛇行パターンによるふらつき警報は、過去数十分程度の走行データをもとにふらつきと判断しています。ふらつきはじめてもすぐに判断されません。

■ こんな場合は作動しません

次のときは、ふらつき警報が作動しません。

- エンジンスイッチを ON にした直後の、DCBS作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-57ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**
  → **3-58ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**

- 次のスイッチを操作して、ふらつき警報を停止させているとき
  - 車線逸脱警報OFFスイッチ
    → **4-66ページ（車線逸脱警報OFFスイッチ）**
  - ESP® OFFスイッチ
    → **4-33ページ（ESP® OFFスイッチ）**

- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-43ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**

■ こんな場合は作動しないことがあります

次のようなときは、ふらつき警報が作動しない場合あります。

- 連続するカーブを走行しているとき
- 車速が大きく変化したとき
- 車線変更をした直後のとき

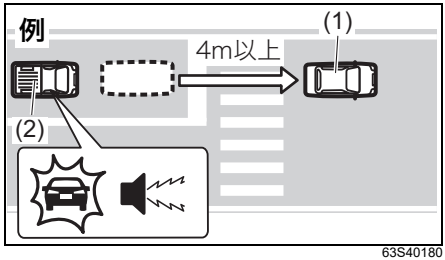
※上記以外にもステレオカメラが区画線を検知できないとき、作動しない場合があります。
→ **4-47ページ（こんな場合検知できないことがあります）**

先行車発進お知らせ機能

タイプ別装備

先行車（1）から約10 m以内に停車し、そのあと先行車が発進して約4 m以上離れても、自車（2）が停止し続けた場合、次の方法により先行車が発進したことをお知らせします。

- 室内ブザーが“ピピ”と鳴る



63S40180

アドバイス

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、先行車発進お知らせ機能を停止することができます。

→ **3-40ページ（セッティングモード）**

■ こんな場合は作動しません

次のときは、先行車発進お知らせ機能が作動しません。

- エンジンがかかっていないとき（アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中を除く）
- エンジンスイッチを ON にした直後の、DCBS作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき

  → **3-57ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）作動表示灯）**
  → **3-58ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**

- マニュアル車は、チェンジレバーが R 位置のとき
- オートマチック車は、セレクトレバーが P R 位置のとき
- ステレオカメラが一時停止または故障しているとき

  → **4-43ページ（ステレオカメラの一時停止・故障）**

- ESP® OFFスイッチを操作して、ESP®を停止させているとき

  → **4-33ページ（ESP® OFFスイッチ）**

- 設定の切替え（カスタマイズ）により先行車発進お知らせ機能を停止させているとき

  → **3-40ページ（セッティングモード）**

- パーキングブレーキが解除され、ブレーキペダルを踏んでいないとき

■ こんな場合は作動しないことがあります

次のようなときは、先行車発進お知らせ機能が作動しない場合があります。

- 先行車が検知範囲外に移動したとき
- 停止した先行車との間に二輪車などが割り込んできたとき

ハイビームアシスト

タイプ別装備

ステレオカメラにより先行車のライト、街路灯の明るさなど車両前方の状況を判断しヘッドライトの上向き（ハイビーム）、下向き（ロービーム）を自動的に切り替えることができます。

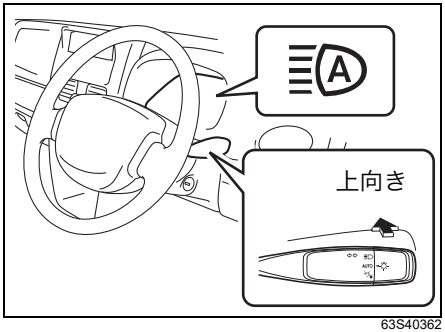
⚠警告

ハイビームアシストのシステムを過信せず常に周囲の状況を把握して注意を払い安全運転に心がけてください。必要に応じて手動でハイビームとロービームに切り替えてください。

- エンジンスイッチが ON のときにライトスイッチのツマミをAUTOの位置に回し、ヘッドライトが点灯した状態でレバーを車の前方向に押すと、メーター内のハイビームアシスト作動表示灯（緑色）が点灯します。もとの位置にもどすとオートライトの状態でヘッドライトが下向きにもどります。オートライトセンサーの感度でヘッドランプが点灯する条件の時に作動します。

  → **3-62ページ（ライトスイッチ）**

- 約30 km/h以上で走行時、前方に先行車や対向車がいない時はヘッドライトが自動的に上向きに切り替わります。



63S40362

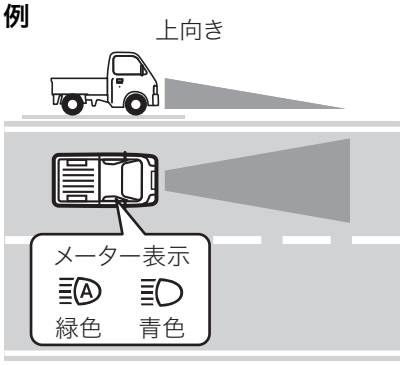
次の条件のいずれかのときはロービームに切り替わります。
- 車速が約 25 km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

次の条件をすべてみたすと、ハイビームに切り替わります。
- 車速が約30 km/h以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

- 作動イメージ

①先行車や対向車がいないとき
ヘッドライトがハイビームになります。メーター内のハイビームアシスト作動表示灯とヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。

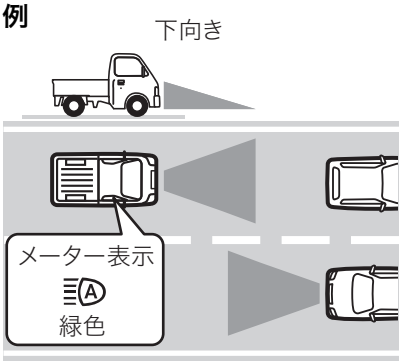
例



63S40200

②先行車や対向車がいるとき
ヘッドライトがロービーム（下向き）になります。
メーター内のハイビームアシスト作動表示灯のみ点灯します。

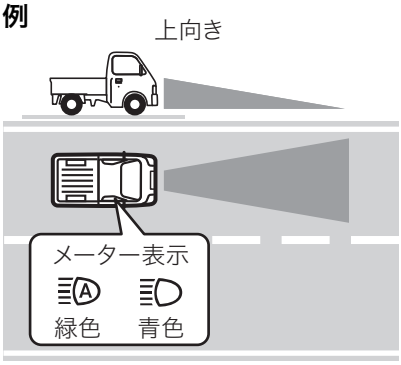
例



63S40210

③先行車や対向車がいなくなったとき
再びヘッドライトが自動でハイビームになります。メーター内のハイビームアシスト作動表示灯とヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。

例



63S40200

- 次の状況ではハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
  - 見通しの悪いカーブで対向車と急にすれ違った時
  - 他車が自車の前方を横切ったとき
  - 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
  - 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
  - 前方車両が無灯火のとき

- 次の状況によりハイビームとロービームの切り替えタイミングが変化する場合があります。
  - 前方車両のランプの明るさ
  - 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
  - 前方車両の動きや向き
  - 前方車両が二輪車のとき
  - 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
  - 乗車人数や荷物の量

- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ロービームが継続する場合や、ハイビームが歩行者や先行車などの迷惑になる場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
  - 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
  - 前方車両のランプが無灯火のとき
  - 前方車両のランプに汚れや変色があるとき
  - 対向車のヘッドランプの光軸がずれているとき
  - 急激な明るさの変化が連続するとき
  - 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
  - カーブが多い道路を走行しているとき

- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- コンテナなど前方車両の後部が光を強く反射するとき
- 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- パンクや牽引などにより自車が傾いているとき

上記以外でもステレオカメラが前方車両や光源を認識できず、ハイビームアシスト機能が正しく作動しない場合があります。

→ **4-41ページ（ステレオカメラ）**

- 以下のような場合は、ハイビームアシストを使用せず、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
  - ハイビームとロービームが頻繁に切り替わってしまうとき
  - ハイビームの使用に問題があるとき
  - 他の運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

- 車両前方のフォグランプなどにより、ハイビームがロービームに切り替わる場合があります。
- 街路灯や信号や広告などの照明または標識や看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。

⚠警告

- **サスペンションやヘッドライトの改造、ステレオカメラの取り外しを行なわないでください。ハイビームアシストが正常に作動しないおそれがあります。**
- **ハイビームアシスト警告灯（オレンジ色）が点灯し続けたときはシステムの異常が考えられますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。**

アドバイス

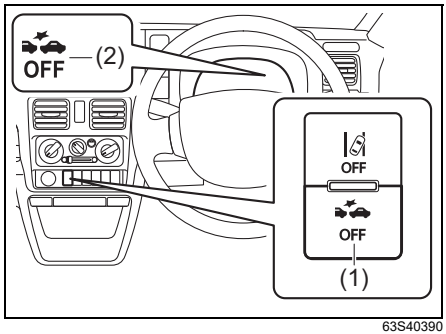
- ハイビームアシスト機能の「あり」、「なし」の設定切替え（カスタマイズ）ができます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 急加速時には、車速が約 30 km/h を超えても数秒間ハイビームアシスト機能が作動しない場合があります。
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。

デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ

タイプ別装備

DCBS、誤発進抑制機能、および後方誤発進抑制機能を停止できます。

- 機能を停止させるときは、メーター内のDCBS OFF表示灯（2）が点灯するまでDCBS OFFスイッチ（1）を長押しします。
- 機能を復帰させるときは、もう一度DCBS OFFスイッチを長押しして DCBS OFF表示灯を消灯させます。
- 手動でエンジンを停止するたびに機能は復帰し、DCBS OFF表示灯は消灯します。
- DCBS　OFFスイッチを押すたびに、室内のブザーが“ピッ”と鳴り、作動が切り替わったことをお知らせします。



63S40390

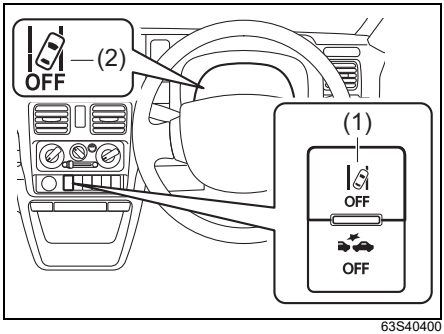
- 次のような状況では、DCBS および誤発進抑制機能が予期せず作動するおそれがあるため、事前に DCBS OFF スイッチを操作して作動停止の状態にしてください。
  - 車検などでテスターに載せるとき
  - 車をリフトで上げて、タイヤを空転させるとき
  - けん引されるとき
  - キャリアカーなどに積載するとき
  - サーキット場などでスポーツ走行するとき
  - ビニールカーテンや垂れ下がった枝があるとき
  - 生い茂った草むらなどを走行するとき
  - 洗車機を使用するとき
  - スペアタイヤ（市販品）やタイヤチェーンを装着したとき
  - パンクを応急修理したとき
  - 事故にあったときや、故障などで走行が不安定なとき
  - 自動ブレーキが何回も予期せず作動したとき
  - タイヤの空気圧が適正でないとき
  - タイヤが著しく摩耗しているとき
  - 指定サイズ以外のタイヤやホイールを装着したとき
  - サスペンションを改造したとき
  - ステレオカメラの視界をさまたげるようなものを取り付けたとき
  - ヘッドライトの汚れなどで、前方を正しく照射できないとき
  - ヘッドライトの光軸がずれているとき
  - ヘッドライトやフォグランプを改造したとき
  - 重い荷物を積んで、車両が傾いているとき

車線逸脱警報OFFスイッチ

タイプ別装備

車線逸脱警報およびふらつき警報を停止できます。

- 機能を停止させるときは、メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯（2）が点灯するまで車線逸脱警報 OFF スイッチ（1）を長押しします。
- 機能を復帰させるときは、もう一度車線逸脱警報 OFF スイッチを長押しして車線逸脱警報OFF表示灯を消灯させます。
- 車線逸脱警報 OFF スイッチを押すたびに、室内にブザーが“ピッ”と鳴り、作動が切り替わったことをお知らせします。



63S40400

アドバイス

一度エンジンを止め、再始動しても作動可能な状態にもどりません。エンジンスイッチを LOCK（OFF）にする前の作動状態を維持します。

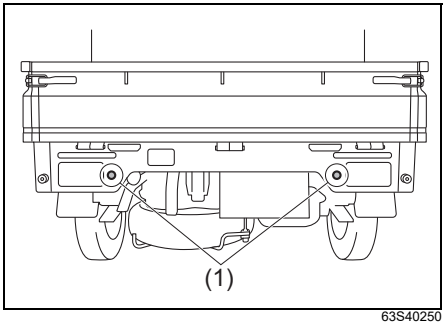
後方

超音波センサー

タイプ別装備

超音波センサーは、送信した超音波が障害物にあたって反射してきたものを再度受信し、その送受信で得られた距離から障害物の位置を検出します。

■ リヤバンパー



63S40250

(1) 超音波センサー

注意

●リヤゲートを勢いよく全開にすることなどでセンサーおよびその周辺に強い衝撃を与えたとき、またはセンサーの故障や衝突などにより取り付け方向がずれているときは、システムが正常に作動しない場合があります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください

●高圧洗浄機を使うときは、センサーに直接ノズルを向けないでください。センサーが正常に作動しなくなったり破損のおそれがあります。

●スチームを使用した洗浄機を使うときは、センサーにスチームを近づけすぎないようにしてください。センサーが正常に作動しなくなったり破損のおそれがあります。
●センサーの分解、改造、塗装などをしないでください。
●スズキ純正品以外のセンサーを使用しないでください。
●センサーに傷などをつけないようにして、常にきれいな状態にしてください。

■ 超音波センサーの一時停止・故障

次の表のようになったとき、センサーが一時停止または故障しています。

		超音波センサー		
		(4)	(5)	(6)
(1)		点灯		
(2)	システム一時停止	表示		消灯
(3)		点滅		消灯

(1) 後方誤発進抑制機能作動表示灯
(2) システム一時機能停止表示
(3) マスターウォーニング
(4) センサーの一時停止(※)
(5) センサーシステムの一時停止
(6) センサーの故障

※(4) センサーの一時停止については、**4-68 ページ**の「**超音波センサーが異物を検知したとき**」もお読みください。

アドバイス

超音波センサーの一時停止または超音波センサー故障のときは下記の機能が停止します。
●後方誤発進抑制機能

超音波センサーの一時停止

次のようなときセンサーが一時停止します。状況が改善されれば、センサーの一時停止は解除されます。

- センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき
- バッテリーの電圧が一時的に異常になったとき
- チェンジレバーをNからRの間の位置で止めているとき（マニュアル車）

状況が改善されてもセンサーが復帰しない（後方誤発進抑制機能作動表示灯が点灯している）場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

超音波センサーの故障

故障したときは後方誤発進抑制機能作動表示灯が点灯し、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にするまでシステムが停止します。
安全な場所に停車して、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にし、エンジンを止めてください。再度、エンジンを始動したとき、後方誤発進抑制機能作動表示灯が消灯していることを確認します。

- エンジンを再始動して後方誤発進抑制機能作動表示灯が点灯している場合、センサーの故障が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

アドバイス

- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）が一時停止や故障すると、超音波センサーも一時停止や故障の状態になります。
- 後方誤発進抑制機能作動表示灯が点灯し、一時停止や故障が考えられる場合、システムが停止しますが、通常の走行には支障ありません。

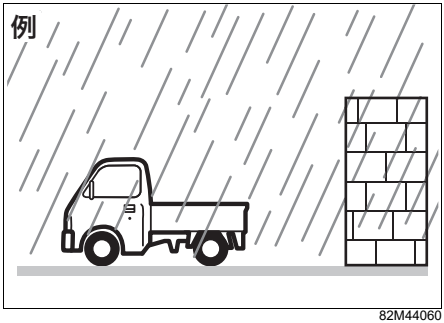
超音波センサーが異物を検知したとき

超音波センサーが泥、雪、氷などのセンサーに付着した異物を検知するとマルチインフォメーションディスプレイ内のシステム一時停止表示が点灯します。付着した異物を取り除けば正常に復帰します。異物を検知している間は超音波センサーは一時停止しています。異物が付着していないのに表示される場合は、センサーの異常の可能性があります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ こんな場合は正常に作動しないことがあります

次のようなとき、超音波センサーが正常に作動しない場合があります。

- センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき（異物を取り除いてください）
- 大雨、濃霧、吹雪などの悪天候時



82M44060

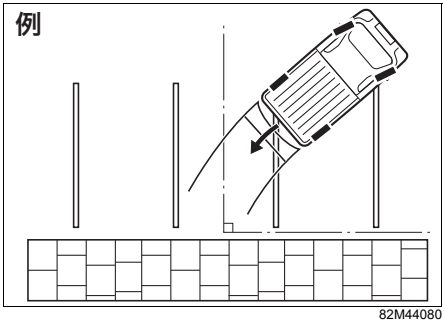
- 車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで前方または後方の視界が悪いとき
- センサーをステッカー、アクセサリーなどで覆ったとき
- けん引フック、字光式ナンバープレート、フォグランプ、コーナーポール、または無線機アンテナなど市販の電装品を装着したとき
- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 衝突などにより超音波センサーの取り付け方向がずれているとき
- タイヤチェーンまたは指定サイズ以外のタイヤを装着したとき
- 段差を乗り越えるなどで車両が傾いているとき
- 炎天下や寒冷時にセンサー付近が熱いときや冷たいとき
- 湿度が極端に高いまたは低いとき
- 凸凹道、坂道、じゃり道、草むらで停車あるいは駐車中のとき

- 車が大きく傾いたとき



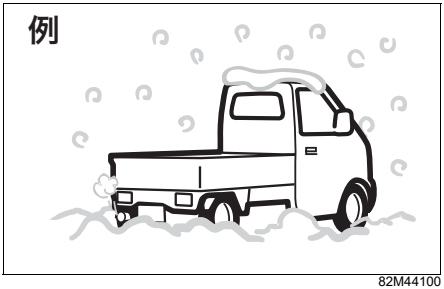
82M44070

- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- センサーに障害物が近づきすぎたとき
- 検知できる障害物と車両の間に検知できない障害物があるとき
- 障害物に対して斜め方向や壁などの端（角）に向かったとき（反射波がもどってこない）
- 車両に対して壁などの障害物が垂直の位置にないとき



82M44080

- 地面に対して垂直でない壁、凸凹な壁、波状のような連続模様のある壁やシャッター
- 壁から飛び出している柱やパイプなどの配管
- 縦列駐車時
- 人、スポンジ状のもの、雪壁などの音波を吸収しやすいもの



82M44100

- 歩行者、自転車、動物などの動いているもの
- 突然進行方向に出てきた障害物
- 次のような障害物はセンサーが検知できない場合があります。
  - 標識や街灯などポール状の障害物
  - ガードレールなど高さの低い障害物
  - 小さい障害物またはチェーンやロープなどの細い障害物
  - 細い網目状のフェンス

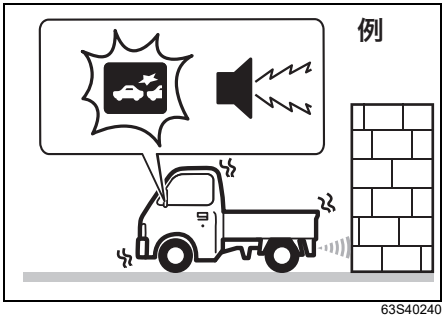
後方誤発進抑制機能

タイプ別装備

後方誤発進抑制機能は停車または徐行（車速約10 km/h以下）中に、車体後端から後方約3 m以内に壁などの障害物を検知すると、アクセルペダルを軽く踏み込んだときには、ブザーと表示灯による警報を出し、アクセルペダルを急激に強く踏み込んだときには、警報とエンジン出力の上昇を自動的に最大約５秒間抑制することで衝突時の被害を軽減したり、運転者に注意をうながしたりする機能です。抑制されていたエンジン出力は、機能が解除されると徐々にもどります。
作動中は、次の方法でお知らせします。

- メーター内の後方誤発進抑制機能作動表示灯が点滅
  → **3-59 ページ（後方誤発進抑制機能作動表示灯）**
- 室内ブザーが“ ピピピピピ” と断続的に鳴る

後方誤発進抑制機能作動表示灯の点滅は、機能が解除されてから約３秒後に消灯します。



63S40240

⚠警告

●後方誤発進抑制機能は、運転者による安全運転をサポートし、衝突時の被害を軽減することを目的としていますが、その検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。後方誤発進抑制機能にたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。
●お客様自身で後方誤発進抑制機能の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては後方誤発進抑制機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●後方誤発進抑制機能は停車状態を保つものではありません。急な上り坂などを上がっている場合に機能が作動すると、自重によりずり下がり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

後方誤発進抑制機能には自動ブレーキの機能はありません。後方誤発進抑制機能が作動した時はアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んで車を停止させてください。惰性で障害物などに接触するおそれがあります。

アドバイス

●車輪を輪止めや縁石などに接触させておくと、より衝突を回避しやすくなります。

■ こんな場合は作動しません

次のようなとき、後方誤発進抑制機能は作動しません。

- エンジン停止中のとき
- エンジンスイッチを ON にした直後の、後方誤発進抑制機能作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-59 ページ（後方誤発進抑制機能作動表示灯）**
- 次のスイッチを操作して、後方誤発進抑制機能を停止させているとき
  - デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ
    → **4-65 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**
- 急な坂道のとき
- 後方の障害物を検知できないとき
- センサーが一時停止または故障しているとき
  → **4-67 ページ（超音波センサーの一時停止・故障）**
- 後方誤発進抑制機能は、
  - マニュアル車
    チェンジレバーがR位置以外のとき
  - オートマチック車
    セレクトレバーが P N D 2 L 位置のとき

アドバイス

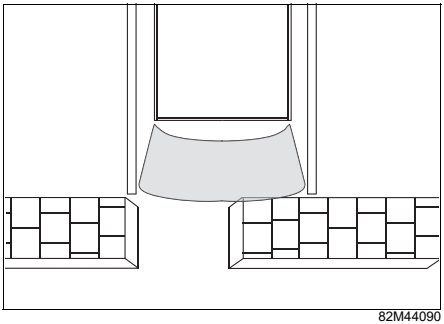
- マニュアル車において、クラッチの踏み込みの有り無しにかかわらず、システムは作動します。（エンストの可能性があります。）

■ こんな場合は正常に作動しないことがあります

次のようなとき、後方誤発進抑制機能が正常に作動しない場合があります。

超音波センサーが正常に作動しないとき
→ **4-68 ページ（こんな場合は正常に作動しないことがあります）**

- 水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れて効きが悪くなっているとき
- ハンドル操作をしているとき
- 標識などの背が高く上部が張り出している障害物
- 縁石などの背が低い障害物
- 地面が傾斜している場所に駐車しているとき
- 壁などの障害物の一部しかセンサーの検知範囲内に入っていないとき

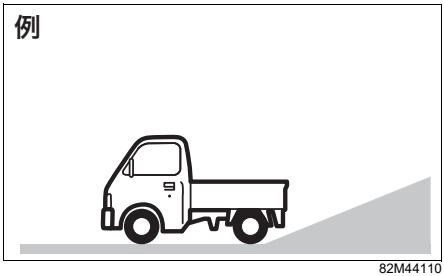


82M44090

■ こんな場合にも作動することがあります

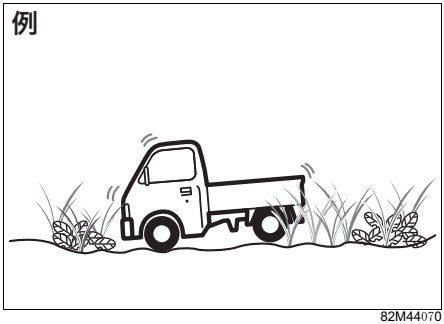
次のようなとき、センサーが衝突の可能性のある障害物と判断して後方誤発進抑制機能が作動する場合があります。

- 路面の勾配が急に変化するような場所を走行するとき



82M44110

- 進行方向に駐車場のバーや遮断機、看板などがあるとき
- エレベーター、機械式駐車場に進入するとき
- 垂れ幕、コンビニエンスストアなどに設置してあるのぼりや街路樹などがあるとき
- 縁石などの背が低い障害物
- 進行方向に穴やわだちがあるとき
- 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき



82M44070

- サスペンションの改造などで車両姿勢やバンパーの高さを変更したとき
- 幅の狭い場所に進入するとき
- 後方障害物のすぐ近くに停車するとき
- シャシダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- 重い荷物を積んで、車両後方が著しく傾いているとき
- 船舶またはキャリアカーなどへ積載する際に、車両前方または後方が著しく傾いているとき
- センサー部に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき（異物を取り除いてください）
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、ブレーキ音、車両感知器、他車の超音波センサーなどの超音波を発生するものがあるとき
- 車両後方に障害物がある状態で、起伏や段差などを乗り越えるとき
- 路面に段差、縁石、突起物などがあるとき
- 側溝のグレーチングなどの金属製のフタの上や砂利道を走行するとき
- リヤゲートを水平に開けた状態で走行したとき
- リヤゲートを全開にした状態で走行したとき
- 荷台に積んだ荷物を固定したロープが後方に垂れ下がった状態で走行したとき
- 平シートなどで荷台を覆った状態で走行したとき
- 積載物が荷台からはみ出した状態で走行したとき

■ 踏切内などで作動した場合は

後方誤発進抑制機能が遮断機を障害物と判断して、踏切内に閉じ込められた場合は、次のいずれかの操作を行ない、機能を解除または停止させて、踏切内からすみやかに脱出してください。

- アクセルペダルを5秒以上踏み続ける
- いったんアクセルペダルを離し、再度すばやく踏み込む
- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチを長押しする

→ **4-65 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**

⚠ 警告

遮断機が下がる直前に無理に踏切内に進入しないでください。踏切内で後方誤発進抑制機能が作動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ **7-41 ページ（踏切内で動けなくなったときは）**

後方誤発進抑制機能を OFF にするには

後方誤発進抑制装置の機能を一時停止状態（OFF）にするには、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF スイッチを長押しします。

→ **4-65 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF スイッチ）**

MEMO

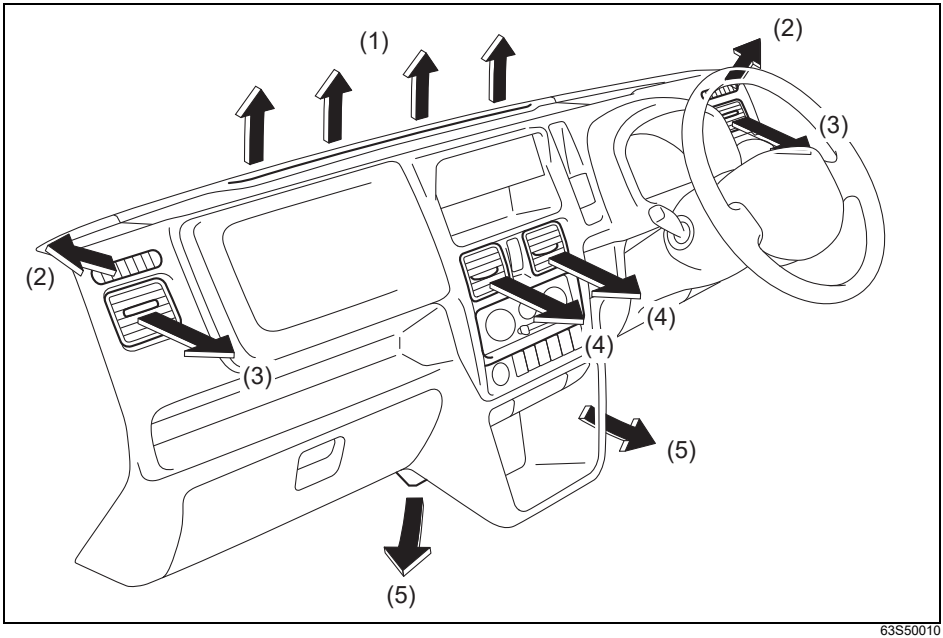
5. 装備の取扱い

● **エアコン、ヒーター**
吹出し口 ····· 5-2
エアコン（タイプ別装備）、ヒーター ····· 5-3
エアコン（タイプ別装備）の上手な使いかた ··· 5-6

● **オーディオ**
オーディオ機能について ····· 5-8
アンテナ ····· 5-8
AM/FMラジオ ····· 5-9
CDプレーヤー ····· 5-14

● **そのほかの装備**
燃料給油口 ····· 5-28
エンジンルーム ····· 5-30
荷台ステップ ····· 5-35
サンバイザー ····· 5-36
室内灯 ····· 5-38
インパネ収納スペース ····· 5-39
ドリンクホルダー ····· 5-41
そのほかの装備 ····· 5-42

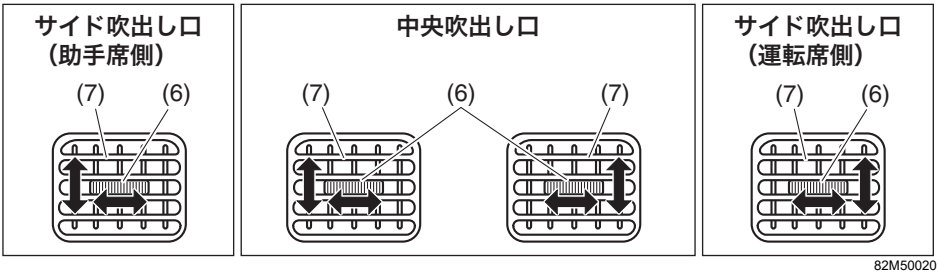
吹出し口



63S50010

(1) デフロスター　(2) サイドデミスター　(3) サイド吹出し口
(4) 中央吹出し口　(5) 足元吹出し口

- 中央吹出し口、サイド吹出し口は、ノブを上下左右に動かすと、風の向きが調節できます。



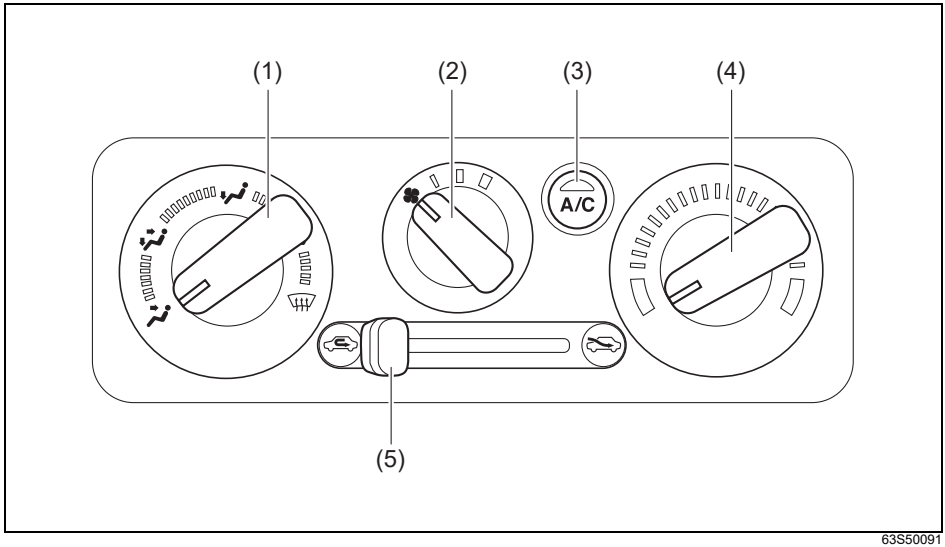
82M50020

(6) ノブ　(7) ルーバー

⚠注意

エアコン（タイプ別装備）やヒーターからの温風に長時間さらされると、低温やけどのおそれがあります。とくに、お子さま、お年寄り、皮膚の弱い方が乗車される場合や、同乗者が仮眠される場合には、足元の吹出し口からの温風に長時間さらされないように注意してください。

エアコン（タイプ別装備）、ヒーター



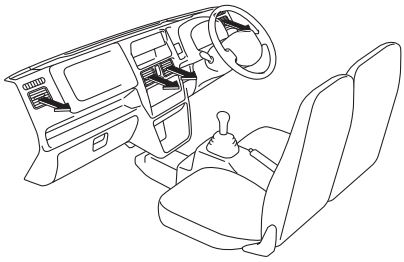
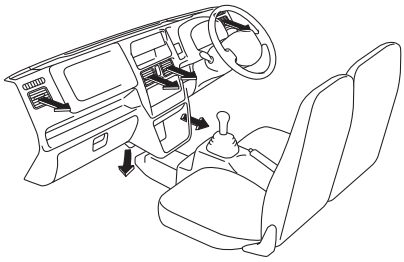
63S50091

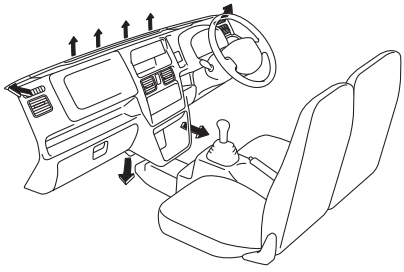
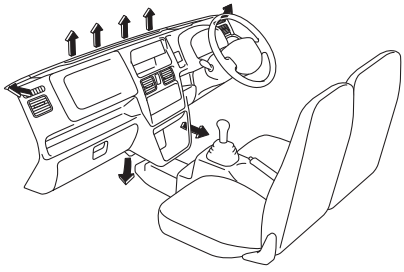
(1) 吹出し口切替えダイヤル ····· 5-4
(2) ファン(風量)調節ダイヤル ····· 5-5
(3) エアコンスイッチ(タイプ別装備) ····· 5-5
(4) 温度調節ダイヤル ····· 5-6
(5) 内外気切替えレバー ····· 5-6

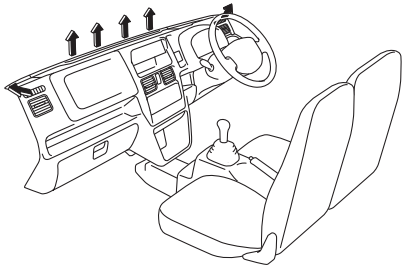
各ダイヤル、スイッチ、レバーの使いかた

■ 吹出し口切替えダイヤル

使用目的にあわせて、吹出し口切替えダイヤルを左右にまわして切替えます。

目的	上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき
ダイヤル		
吹出し口	 82M50040	 82M50050

目的	足元に送風したいとき	足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき
ダイヤル		
吹出し口	 82M50060	 82M50070

目的	窓ガラスのくもりを取りたいとき
ダイヤル	
吹出し口	 82M50080

■ ファン（風量）調節ダイヤル

ファン（風量）調節ダイヤルを左右にまわすと、風量が調節できます。

ダイヤル位置		
風量	停止	弱⟷強

注 記

長時間の停車や渋滞では、バッテリー保護のため風量を弱くしてください。

■ エアコンスイッチ（タイプ別装備）

エンジンをかけ、ファン（風量）調節ダイヤルを停止の位置から右にまわし、エアコンスイッチを押します。除湿された風が吹き出すとともに、スイッチ内の表示灯が点灯します。
止めるときは、スイッチをもう一度押します。

除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出して、ここち良い暖房になります。

アドバイス

- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が0℃近くまで下がると、エアコンが切れます。このため、外気温が0℃近くまで下がっているときに外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを入れると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これはしめった空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

■ 温度調節ダイヤル

温度調節ダイヤルを右にまわすと、温度が高くなります。左にまわすと、温度が低くなります。

頭寒足熱暖房

吹出し口切替えダイヤルの位置が のときに、温度調節ダイヤルを中間の位置に操作すると、頭寒足熱暖房になります。

- 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風が吹き出します。
- エアコン（タイプ別装備）を作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

■ 内外気切替えレバー

レバーを左に操作すると内気循環、右に操作すると外気導入になります。

位　置	状　態
（外気導入）	外気を導入しています。 ● 通常はこの位置でお使いください。
（内気循環）	外気をしゃ断しています。 ● トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

アドバイス

- 長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。
- エアコンシステムへの不快な臭いの吸着・発生を抑えるために、長時間駐車するときは「外気導入」にしておくことをおすすめします。

エアコン（タイプ別装備）の上手な使いかた

エアコンガスを充填するときは

エアコンガスは、冷媒HFC134a(R134a)を使用してください。

- エアコンガスを充填するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 地球環境を守るため、エアコンガスを大気中に放出しないでください。エアコンの修理や廃車時の処理は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 冷房性能が低下してきたと感じた場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

長期間使用しないときは

月に 1 回程度はエアコンを作動させ、エアコン装置の各部にエアコンガスを循環させてください。エアコンガスには各部の潤滑に必要なオイルが含まれていますので油ぎれを防ぐことにより性能を維持します。

炎天下に駐車したときは

長時間、炎天下に駐車すると、室内が高温になります。ドアや窓を開けて室内を換気しながら、冷房をしてください。

エアフィルターを清掃、交換するときは

エアコンを快適に使用するために、エアフィルターを取り付けています。エアフィルターは定期的に清掃、交換してください。

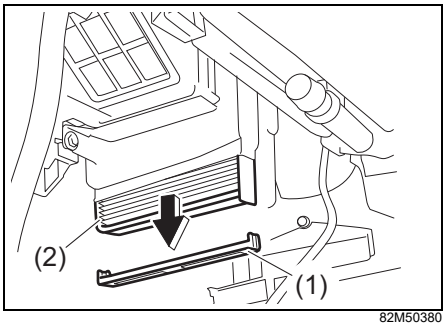
地域	清掃時期の目安	交換時期の目安
寒冷地、粉じんの多い地域	5,000 kmごと、または6か月ごと	車検ごと
上記以外の地域	10,000 kmごと、または12か月ごと	車検ごと

アドバイス

- エアフィルターを清掃または交換の際は、車内部品を破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での清掃／交換（有料）をおすすめします。
- 新しいエアフィルターはスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

■ エアフィルターの取り外し

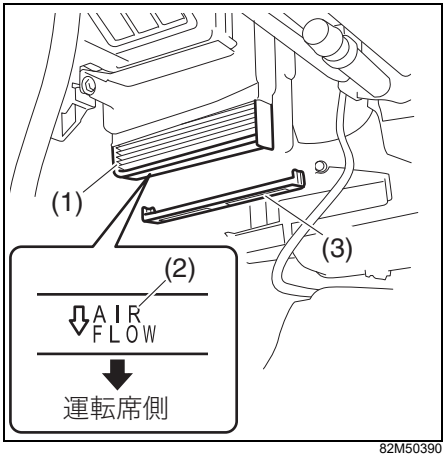
グローブボックスの下からのぞいて、ホルダー（1）を外し、エアフィルター（2）を取り出します。



82M50380

■ エアフィルターの取り付け

- エアフィルター（1）は、取り付け方向マーク（2）の矢印を運転席側に向けて挿入します。
- ホルダー（3）は、“カチッ”と音がするまで押し込み、確実に取り付けます。



82M50390

オーディオ機能について

安全運転のさまたげにならない音量でお聞きください

- 音楽などを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用すると、スピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがあります。これは故障ではありません。
- ナビゲーションまたはオーディオが不法電波の影響を受けると、正常に作動しないことがあります。
- ナビゲーションまたはオーディオの機能については、次の参照先、別冊のオーディオマニュアルまたは付属の取扱説明書をお読みください。
  → **5-9ページ（AM/FMラジオ）**
  → **5-14ページ（CDプレーヤー）**

⚠ 警告

走行中はナビゲーション、またはオーディオを操作しないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

注 記

エンジンを停止したまま長時間ナビゲーション、またはオーディオを使うと、バッテリーあがりの原因となります。

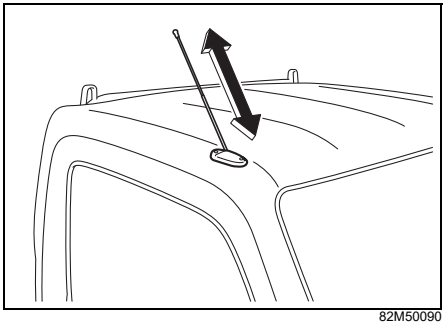
アンテナ

アドバイス

運転中にアンテナで受信できるラジオの電波は刻々と変わるため、ビルの谷間などでは良好な受信状態を保てないことがあります。

ピラーアンテナ

ラジオを聞くときは、ピラーアンテナをいっぱいまで伸ばします。



82M50090

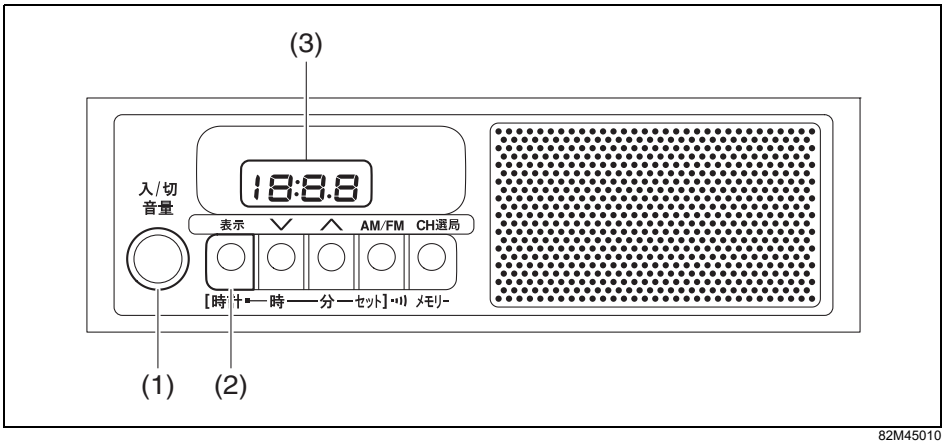
注 記

自動洗車機にかけるときや屋根の低い車庫に入るときなどは、アンテナを収納してください。アンテナが破損したり、曲がって収納できなくなったりします。

AM/FMラジオ

タイプ別装備

基本操作

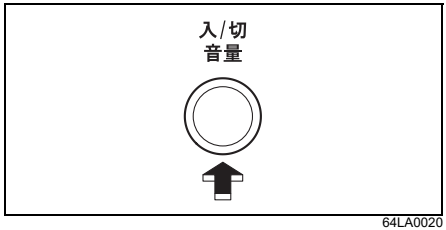


82M45010

(1) 電源／音量ノブ
(2) ディスプレイボタン
(3) ディスプレイ

■ 電源を入れる

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、電源／音量ノブ（1）を押します。

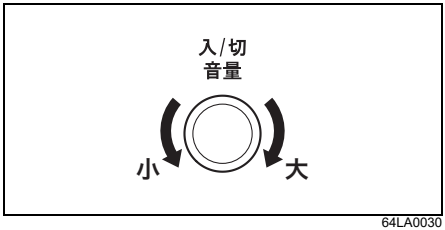


64LA0020

- もう一度押すと、電源が切れます。

■ 音量を調節する

電源／音量ノブ（1）をまわします。



64LA0030

- 時計方向にまわすと、音量が大きくなります。反時計方向にまわすと、小さくなります。

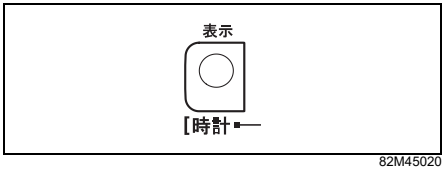
⚠注意

●車外の音が聞こえる音量で使用してください。
●電源を切るときは、音量を小さくしてください。電源を入れたときに突然大きな音が出ると、聴力障害などの原因となります。

■ 聞いている放送局の周波数を確認する

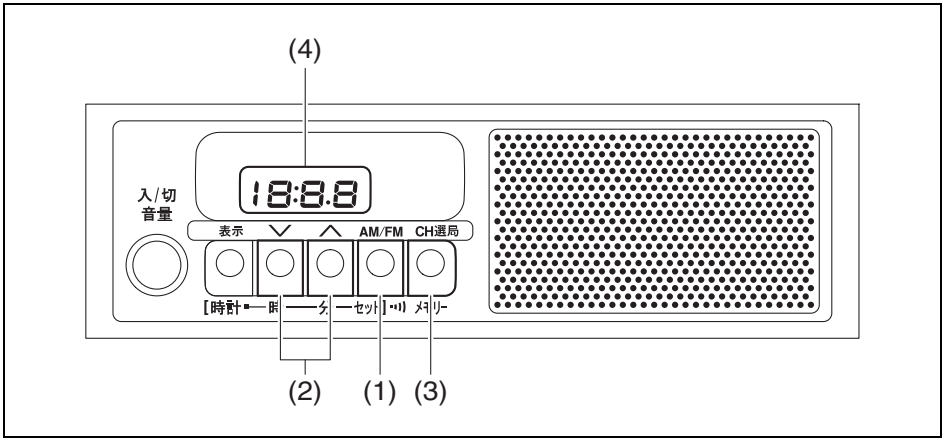
ディスプレイボタン（2）を押します。

- 周波数は約 6 秒間表示され、そのあと時計表示にもどります。
- 周波数を表示しているときに早く時計表示に切替えたい場合は、ディスプレイボタン（2）をもう一度押します。



82M45020

選局をする

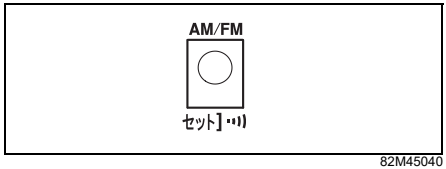


82M45030

(1) AM/FMボタン、交通情報ボタン
(2) チューニングボタン
(3) 選局ボタン
(4) ディスプレイ

■ AM/FMを選ぶ

ラジオを聞いているときに、AM/FM ボタン (1) を押すと、「AM→FM」の順に切り替わります。



82M45040

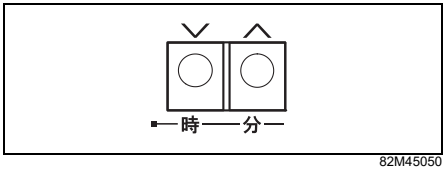
アドバイス

- AM放送を選択し、周波数表示をしている場合、ディスプレイには『点』が表示されません。例えば、999 の表示になります。
- FM 放送を選択し、周波数表示をしている場合、ディスプレイには『点』が表示されます。例えば、83.0 の表示になります。

■ 自動選局をする

チューニングボタン (2) の ∧ 側または ∨ 側を「ピッ」と音がするまで長押しします。

- 周波数の高い方へ選局するときは、∧ 側を押します。
- 周波数の低い方へ選局するときは、∨ 側を押します。
- 放送局のあるところで、自動的に選局が止まります。
- 受信電波が弱いところでは、自動選局ができないことがあります。
- 自動選局を取り消したいときは、選局ボタンをもう一度押してください。



82M45050

■ 手動選局をする

チューニングボタン (2) の ∧ 側または ∨ 側を押して、希望の周波数にあわせます。

- 周波数の高い方へ選局するときは、∧ 側を押します。
- 周波数の低い方へ選局するときは、∨ 側を押します。
- ボタンを押すごとに FM は 0.1 MHz、AM は 9 kHz ずつ変化し、ディスプレイに周波数が表示されます。

放送局の記憶

よく聞く放送局をあらかじめ記憶させておくことにより、選局ボタン（3）でその放送局を選択することができます。

- 選局ボタンを押すたびに 1CH → 2CH → 3CH → 4CH → 5CH → 6CH → 1CH とチャンネルが変わります。
- AM/FM 各 6 局まで放送局を記憶させることができます。

■ 放送局を記憶させる

1 AM/FMボタン（1）を押して、希望するバンド（AM、FM）に切替えます。

2 選局ボタンで記憶させるチャンネルを選択します。

3 記憶させたい放送局を選局します。

4 選局ボタンを「ピッ」と音がするまで長押しします。

アドバイス

- 選局ボタンの記憶は、直前に選局ボタンで選択したチャンネルに記憶されます。記憶させるチャンネルを選んだあとの選局は、チューニングボタン（2）で行なってください。
- バッテリーを外すと記憶が消去されます。設定をもう一度やり直してください。

■ 放送局を呼び出す

選局ボタン（3）を押すたびに、記憶されている放送局が選択されます。

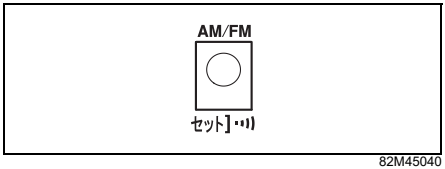
交通情報

交通情報放送を行なっている地域で、あらかじめ記憶されている交通情報放送局を受信することができます。

■ 交通情報を聞く

交通情報ボタン（1）を「ピッ」と音がするまで長押しします。

- もう一度ボタンを押すと、解除されます。

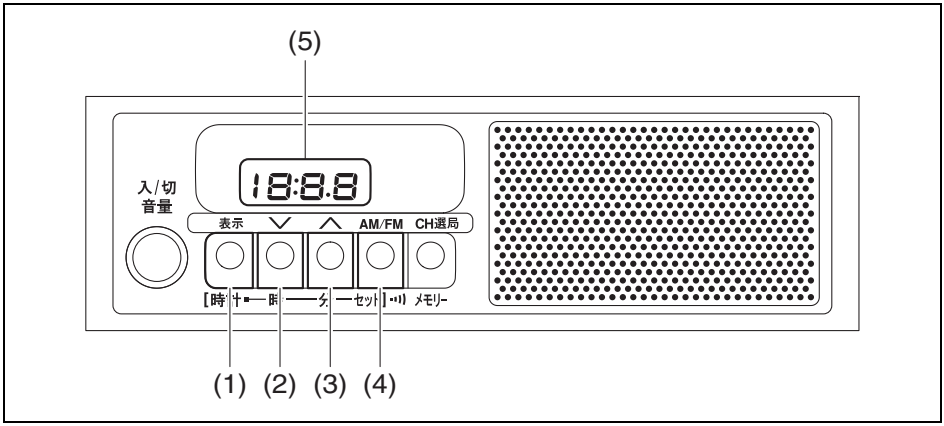


82M45040

アドバイス

交通情報ボタンで受信できる周波数は 1620 kHz のみです。ほかの周波数での交通情報は、このボタンでは受信することができません。

時計をあわせる



82M45060

(1) ディスプレイボタン
(2) “時”調整ボタン
(3) “分”調整ボタン
(4) 時刻あわせボタン
(5) ディスプレイ

ディスプレイが時計表示のときに、あわせることができます。

- オーディオの操作を行なう（またはディスプレイボタン（1）を押す）と、オーディオモードの表示になりますが、約6秒後に時計表示にもどります。

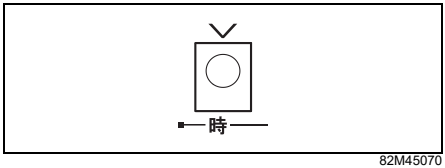
アドバイス

バッテリーを外すと記憶が消去されます。時計あわせをやり直してください。

■ 時のあわせかた

ディスプレイボタン（1）を押しながら“時”調整ボタン（2）を押します。

- “時”調整ボタンを長押しすると、連続して数字が大きくなります。

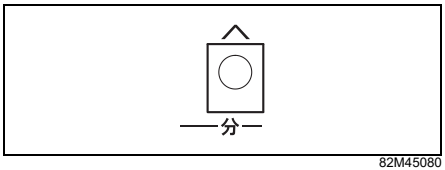


82M45070

■ 分のあわせかた

ディスプレイボタン（1）を押しながら“分”調整ボタン（3）を押します。

- “分”調整ボタンを長押しすると、連続して数字が大きくなります。

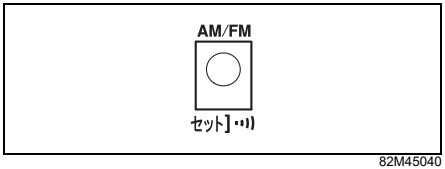


82M45080

■ 時刻あわせボタン

ディスプレイボタン（1）を押しながら時刻あわせボタン（4）を押すと、“分”表示を「：00」にすることができます。

- 分が00～29のときは、分を00にもどします。
  例：10：20→10：00
- 分が30～59のときは、時を進め、分を00にします。
  例：11：48→12：00



82M45040

CDプレーヤー

タイプ別装備

CDの演奏について

- 車内が極度に冷えた状態で、ヒーターを入れてすぐに本機を使用すると、CD や本機内部の光学部品がくもって正常に再生できない場合があります。CD がくもっているときは、やわらかい布でふいてください。光学部品がくもったときは、電源を入れた状態で 1 時間ほど放置すると自然にくもりがとれ、正常な状態にもどります。
- 悪路などで車体が激しく振動すると、CDが音飛びを起こすことがあります。

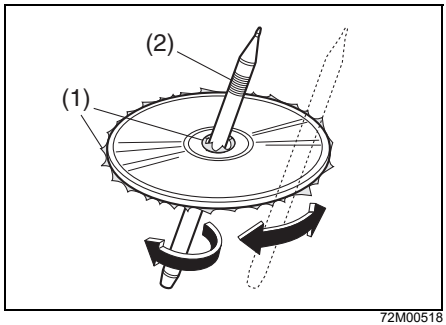
CDについて

下記マークのついた CD をご使用ください。ハート形や八角形など、特殊形状のCDは使用しないでください。



72M00518

- CD-R/CD-RWは、音楽用CD-R/CD-RWだけを使用してください。また、録音状態によっては再生できない場合があります。
- 各種コピーコントロールCDは、CD規格に合致しない特殊ディスクであり、再生できない場合があります。CD の発売元にお問い合わせください。
- 新しいディスクは、ディスクの周囲に「バリ」が残っていることがあります。このようなディスクを使用すると、再生できなかったり音飛びの原因となったりします。ディスクにバリがあるときは、ボールペンなどでバリを取り除いてからお使いください。



72M00518

(1) バリ　　(2) ボールペン

注 記

●CD-R/CD-RW は、通常の音楽 CD に比べて高温多湿の環境に弱く、車内に長時間放置すると再生できない場合があります。
●記録面に、傷、指紋、ほこり、汚れなどをつけないでください。
●レーベル面（印刷面）や記録面にシール、シート、テープなどを貼らないでください。
●テープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、はがしたあとがあったりするCDは使用しないでください。そのままCDプレーヤーに入れると、CDが取り出せなくなったり、故障の原因となったりします。
●8 cmシングルCDは再生できません。アダプターを付けた状態でも本機に挿入しないでください。

■ CDは次のような場所には保管しない

- 直射日光の当たる場所
- 湿気やほこりの多い場所
- 暖房の熱が直接当たる場所

■ お手入れ

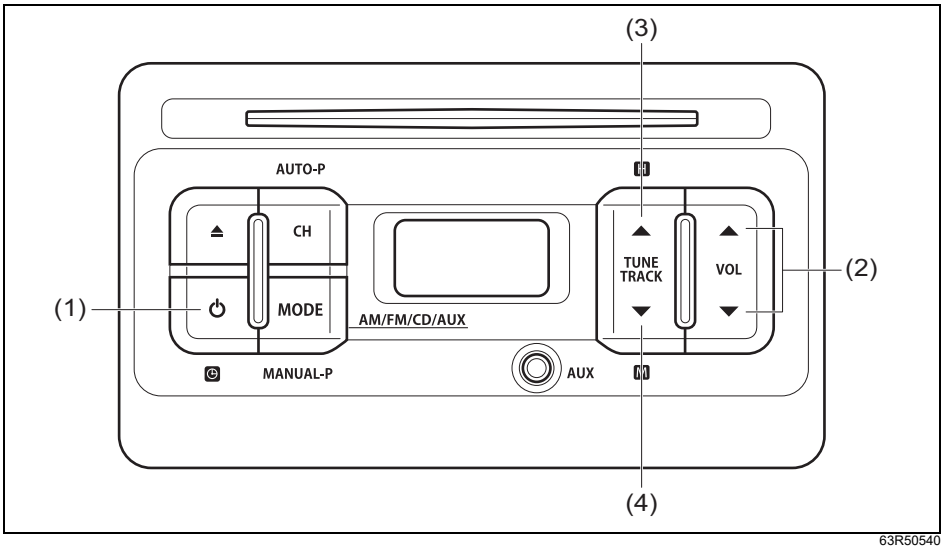
汚れたときは、内側から外側へ向かってやわらかい布でよくふいてください。

注 記

レコードクリーナー液やアルコールなどでふかないでください。

基本操作

※イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。

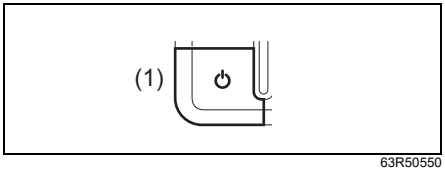


63R50540

(1) 電源ボタン　(2) 音量調節ボタン　(3) アップボタン
(4) ダウンボタン

■ 電源を入れる

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、電源ボタン（1）を押します。



63R50550

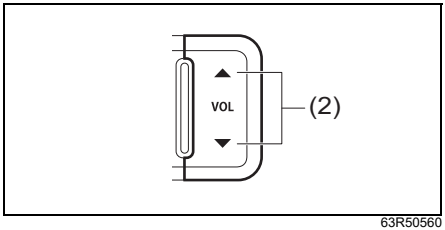
- 電源を入れると、前回の操作終了時のモードがディスプレイに表示されます。
- もう一度押すと、電源が切れます。

アドバイス

エンジンスイッチが ACC または ON のときは、オーディオの電源が切れていても時計は表示されます。

■ 音量を調節する

音量調節ボタン（2）を押します。



63R50560

- 上側のボタンを押すと大きくなり、下側のボタンを押すと小さくなります。
- 長押しすると、連続で調節できます。

⚠注意

●車外の音が聞こえる音量で使用してください。
●電源を切るときは、音量を小さくしてください。電源を入れたときに突然大きな音が出ると、聴力障害などの原因となります。

アドバイス

音量は0～40の範囲で調節できます。

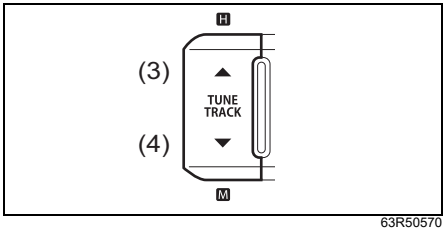
■ 時計をあわせる

初回電源投入時、時計は“12：00”が点滅表示します。

1 時計表示が点滅するまで、電源ボタン（1）を長押しします。

2 次の操作をして、時計をあわせます。

- 時をあわせるときは、アップボタン（3）を押します。押すごとに時が進み、12まで進むと1にもどります。
- 分をあわせるときは、ダウンボタン（4）を押します。押すごとに分が進み、59まで進むと00にもどります。
- ボタンを長押しすると、早送りされます。

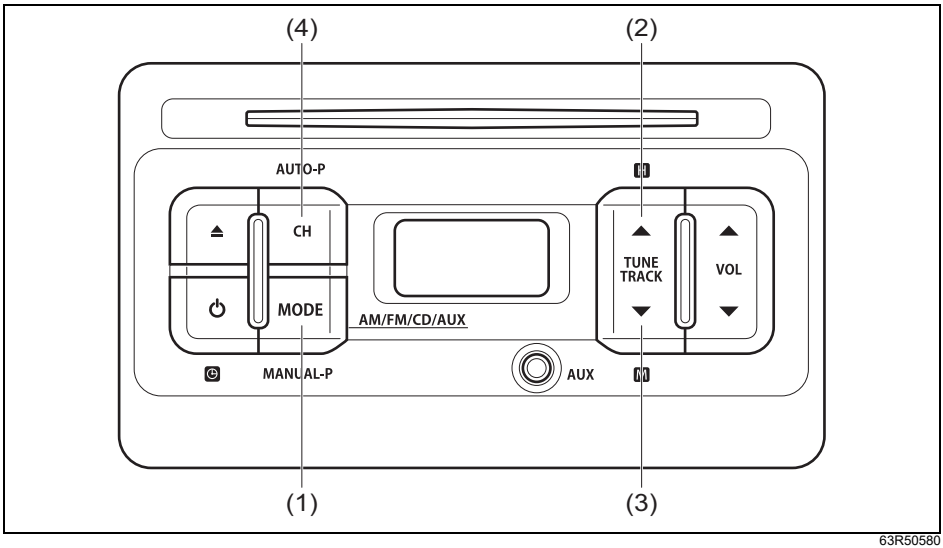


63R50570

3 アップ／ダウンボタン以外のいずれかのボタンを押すと、時計あわせを終了します。

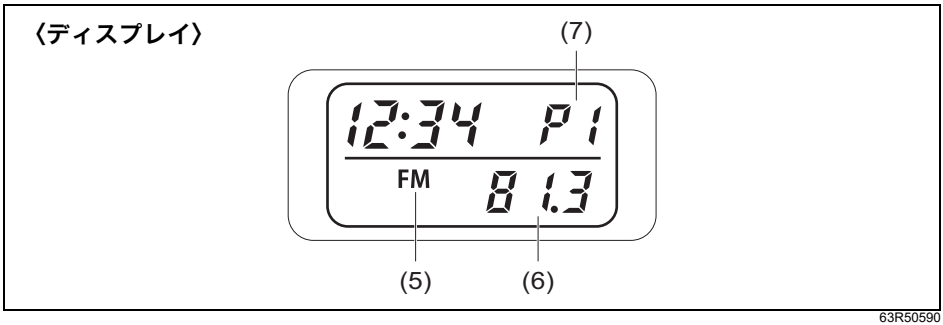
ラジオ放送を聴く

※イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



63R50580

(1) モードボタン　(2) アップボタン　(3) ダウンボタン
(4) CHボタン

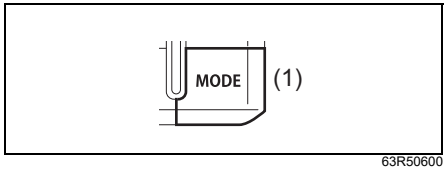


63R50590

(5) バンド表示　(6) 周波数
(7) プリセットチャンネル番号

■ バンドを選ぶ

モードボタン（1）を押します。



63R50600

- 押すたびに、ディスプレイの表示が次のように切り替わります。

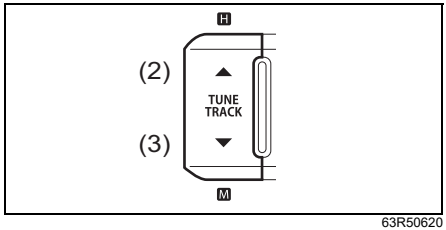
AM → FM → CD(※) → AUX(※)

アドバイス

※ 印のモードは、CD が入っていない、または外部機器が接続されていないときは表示されません。

■ 自動選局する（シーク選局）

アップ／ダウンボタンを約 1 秒間長押しします。



63R50620

(2) アップボタン　(3) ダウンボタン

- 放送局のあるところで、自動的に選局が止まります。
- 受信電波が弱いところでは、自動選局ができないことがあります。
- 自動選局を取り消したいときは、いずれかのボタンをもう一度押してください。

■ 手動選局する（マニュアル選局）

アップ／ダウンボタンを短押しします。

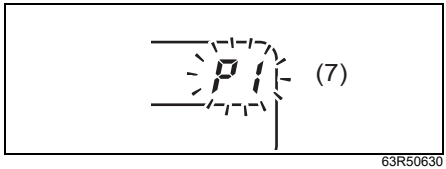
- 受信している周波数がディスプレイに表示されます。

■ 放送局をメモリーする（プリセットメモリー）

1 メモリーしたい放送局を選びます。

2 モードボタン（1）を約 2 秒間長押しします。

- ディスプレイのプリセットチャンネル番号が点滅します。

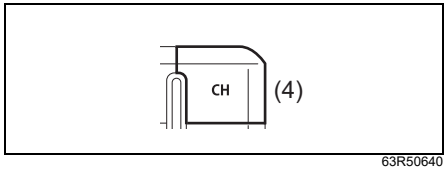


63R50630

(7) プリセットチャンネル番号

3 CH ボタン（4）を短押しして、登録したいチャンネル番号を選択します。

- チャンネル番号はP1～P6の6種類です。
- プリセットメモリーできるのは、AM、FM各6局、計12局です。



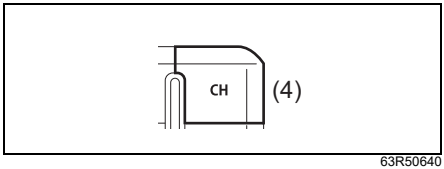
63R50640

4 メモリーしたいチャンネル番号が点滅しているときにモードボタン（1）を押すと、放送局がメモリーされます。

■ 放送局を自動的にメモリーする（オートストア）

自動受信した放送局を、自動的にプリセットメモリーします。

CH ボタン（4）を約 2 秒間長押しします。



63R50640

- ビープ音が鳴り、オートストアが開始します。
- オートストアをした場合、受信感度の良い 6 局が、周波数の低い順序にプリセットメモリーにメモリーされます。

5

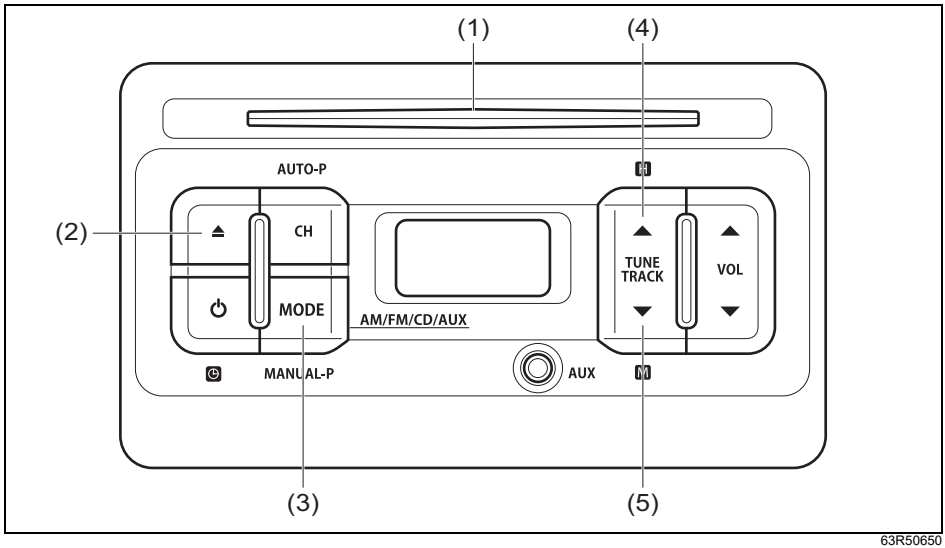
■ メモリーした放送局を聞く

CHボタン（4）を押します。

- 押すごとにチャンネル番号が P1…P6、P1…の順に切り替わります。

CDを聴く

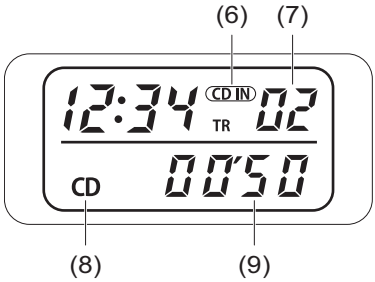
※イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



63R50650

(1) CD挿入口
(2) CDイジェクトボタン
(3) モードボタン
(4) アップボタン
(5) ダウンボタン

〈ディスプレイ〉



82M45120

(6) ディスクインジケーター
(7) トラック番号
(8) CDモード表示
(9) 演奏時間

■ ディスクを入れる

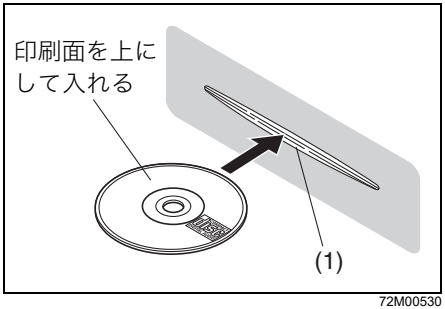
ディスク・イン・プレイ機能とは

本機の電源が入っていない状態でも、エンジンスイッチが ACC または ON であれば、CD を入れると自動的に電源が入って演奏が始まります。

⚠ 警告

CD 挿入口に手、指、異物を入れないでください。けがをしたり、火災や感電の原因となったりするおそれがあります。

CD 挿入口（1）に CD を図のようにして入れます。

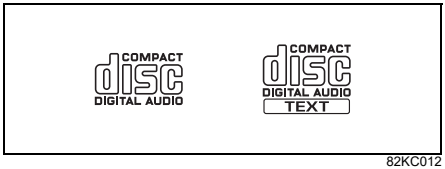


72M00530

- CDを入れると、自動的に演奏が始まります。

アドバイス

- CD-R、CD-RW、各種コピーコントロールCDは、再生できない場合があります。
- 下記マークのないCDやCD-ROMは、使用できません。
- CD-TEXT のタイトル表示はできません。

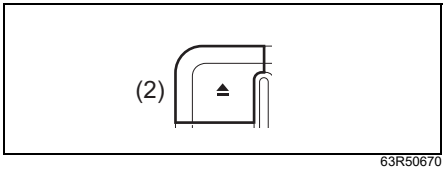


82KC012

■ ディスクを取り出す

本機の電源が入っていない状態でも、エンジンスイッチが ACC または ON のときは、イジェクトボタンを押すと、CD を取り出せます。

CDイジェクトボタン（2）を押します。



63R50670

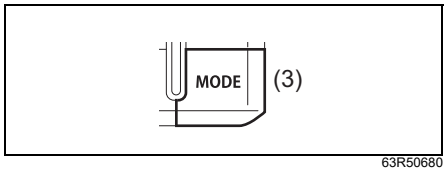
- CDがイジェクトされますので、取り出してください。

注 記

イジェクト中に無理にCDを押し込むと、ディスク表面に傷がつくおそれがあります。

■ すでに入っているディスクを聴く

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、モードボタン（3）を押します。



63R50680

- 押すたびに、ディスプレイの表示が次のように切り替わります。

AM → FM → CD → AUX(※)

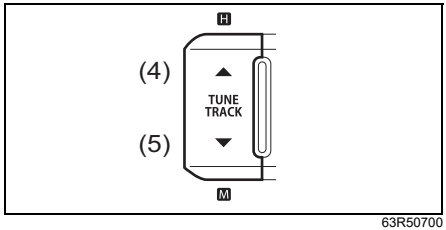
- CDモードになると、自動的に演奏が始まります。

アドバイス

※印のモードは、外部機器が接続されていないときは表示されません。

■ 曲を選ぶ

次の曲を聴くときは、アップボタンを押します。
前の曲を聴くときは、ダウンボタンを 2 回押します。



63R50700

(4) アップボタン(次の曲)
(5) ダウンボタン(前の曲)

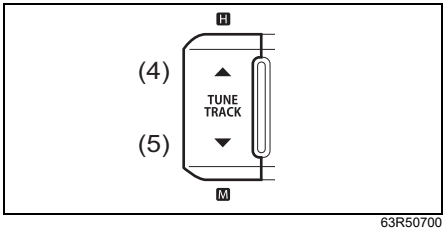
- アップボタンを 1 回押すと、次の曲が演奏されます。さらに押すと、押した回数だけ先の曲が演奏されます。
- ダウンボタンを 1 回押すと、演奏中の曲が最初から演奏されます。さらに押すと、押した回数だけ前の曲が演奏されます。

アドバイス

曲の頭部分が演奏されているときにダウンボタンを 2 回押すと、2 曲前の曲へもどることがあります。

■ 早送り、早戻しする

早送りするときは、アップボタンを押し続けます。
早戻しするときは、ダウンボタンを押し続けます。

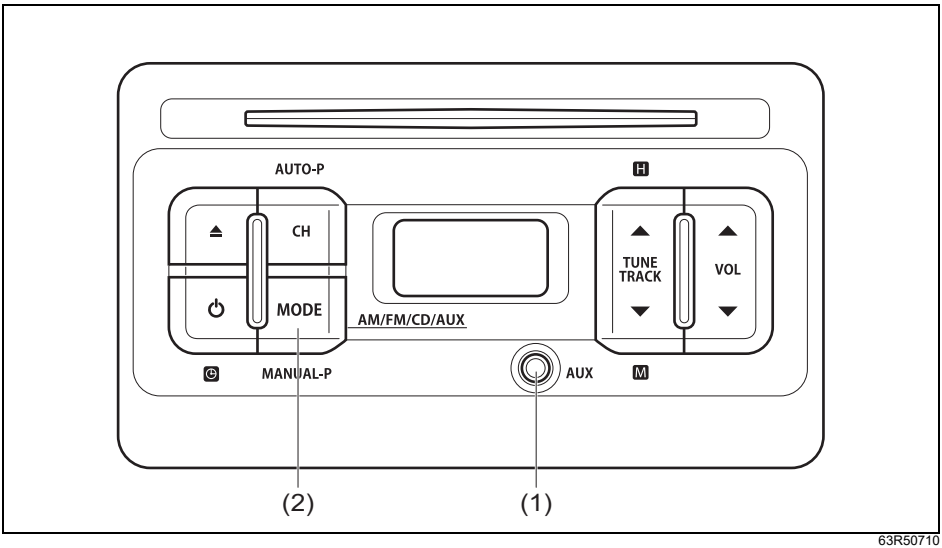


63R50700

(4) アップボタン(早送り)
(5) ダウンボタン(早戻し)

AUX端子を使用する

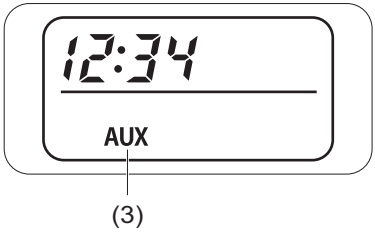
※イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



63R50710

(1) AUX端子　　(2) モードボタン

〈ディスプレイ〉



63R50720

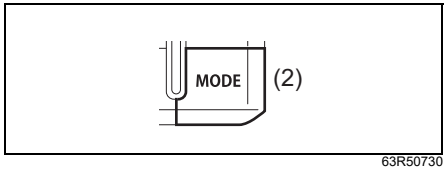
(3) AUXモード表示

■ 外部機器の音声を聞く

1 AUX端子（1）に外部機器（市販品）を接続します。

- 市販のステレオミニプラグ（端子部の直径 3.5 mm、抵抗なし）を使用してください。

2 モードボタン（2）を押します。



63R50730

- 押すたびに、ディスプレイの表示が次のように切り替わります。

AM → FM → CD(※) → AUX

- AUXモードにすると、接続した外部機器の音声を車のスピーカーで聞くことができます。
- AUXモード中の再生、停止、選曲などは、接続した外部機器で行なってください。
- 音量調節は、本機で行ないます。
  → **5-17ページ（音量を調節する）**

アドバイス

- 外部機器を接続していないと、モードボタン（2）を押しても AUX モードに切り替わりません。
- AUX モード中に外部機器を取り外すと、接続する前に選択していたモードに切り替わります。
- ※印のモードは、CDが入っていないときは表示されません。

故障かなと思ったら

次のような症状は、故障ではなく、次のような原因による場合があります。修理を依頼される前に、もう一度次のことをお調べください。

	症状	原因	処置
共通	電源が入らない/音が出ない	配線が不完全	スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください
ラジオ	雑音が多い	放送局の周波数にあっていない	正しい周波数にあわせてください
	自動選局で選局できない	受信電波が弱い	手動選局で選局してください
CD	音飛びする/ノイズなどが入る	CDが汚れている	CDをやわらかい布でふいてください
		CDに傷やソリがある	傷やソリのないCDと交換してください
	電源を入れた直後、音が良くない	湿気の多いところに駐車すると、内部のレンズに水滴がつくことがある	電源を入れた状態にして、約1時間乾燥させてください
	CDが入らない	本機の中にCDなどが入っている	イジェクトボタンを押して取り出してからCDを入れてください

エラー表示について

本機は、システム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。次のようなエラーが表示されたときは、それぞれの対処方法にしたがってください。

エラー表示		原因	対処方法
CD	E-02	機器側の異常が考えられます。	スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
	E-03	CD が汚れているか、傷やソリがあります。または、機器側の異常が考えられます。	汚れをやわらかい布でふき取ってください。傷やソリがあるときは、傷やソリのないCDと交換してください。交換してもエラーが表示される場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
	E-06	再生可能なトラックが存在しません。CD の向きが裏側の状態で挿入されている可能性などが考えられます。	CDの向きを確認し、印刷面を上にして挿入してください。正しい向きでもエラーが表示される場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

※上記の対処方法にしたがってもエラーが解消されない場合は、本機の電源を切り、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

燃料給油口

2-22 ページの「**給油するときは**」もあわせてお読みください。

⚠ 警告

●必ず次のことをお守りください。
- **エンジンを止めてください。**
- **給油中はドアや窓を閉めてください。**
- **ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。**

●フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
●燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
●給油後は、フューエルキャップをカチッという音が 2 回以上するまで閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
●指定のスズキ純正フューエルキャップ以外は使用しないでください。燃料漏れのおそれがあります。

フューエルキャップ

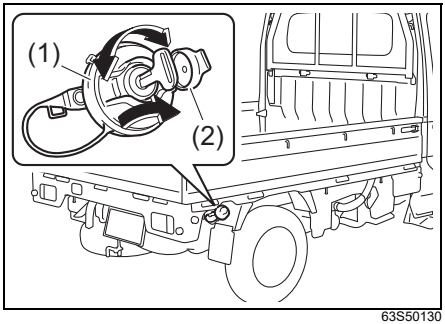
手でキャップ（1）のふた（2）を開けると、キーの差し込み口があります。

■ 解錠するときは

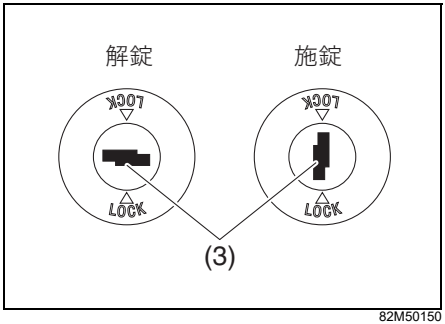
キャップを持ち、キーを奥まで確実に差し込んで反時計方向にまわします。

■ 施錠するときは

キャップを持ち、キーを奥まで確実に差し込んで時計方向にまわします。



63S50130



82M50150

(3) キーの差し込み口

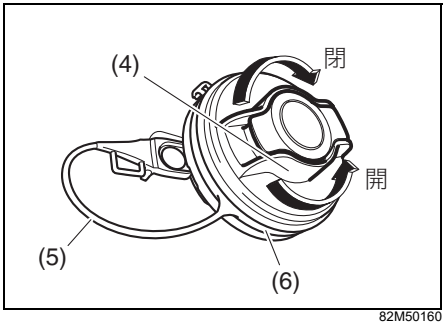
■ 開けるときは

解錠後キーを抜き、つまみ部（4）を持ってゆっくり反時計方向にまわします。

■ 閉めるときは

1 つまみ部を持ってカチッという音が2回以上するまで時計方向にまわします。

2 キーを奥まで確実に差し込んで施錠し、キーを抜き取ります。



82M50160

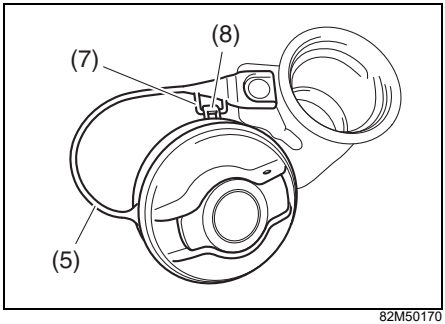
注 記

テザー（5）が破損するおそれがあります。フューエルキャップを開閉するときは、キャップとテザーが一緒にまわらないようにつまみ部を持ってください。また、テザーリング部（6）が泥や氷などで固着している場合は、事前に取り除いてください。

キャップホルダー

キャップホルダー（7）は、テザー（5）の給油口側にあります。

- 給油中は、外したキャップがじゃまにならないように、キャップのフック（8）をかけてください。



82M50170

5

エンジンルーム

前席シートを持ち上げると、エンジンルーム内の点検ができます。

⚠警告

●お子さまにはシートを開閉させないでください。シートは重いため、けがのおそれがあります。また、エンジンルーム内は高温になるため、やけどのおそれがあります。
●シートを開けているときは、お子さまを近づけないでください。
●点検や清掃に使用した工具や布などは、エンジンルーム内に置き忘れないでください。故障の原因となったり、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながったりするおそれがあります。

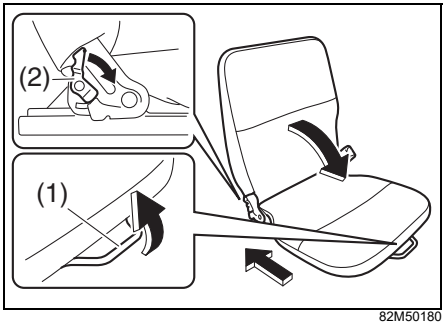
⚠注意

シートを動かすときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。

開けかた（キャリイ）

1 運転席は、スライドレバー（1）を引き上げ、後方へスライドさせます。

2 運転席は、レバー（2）を前方へ倒し、背もたれを前方へ倒します。



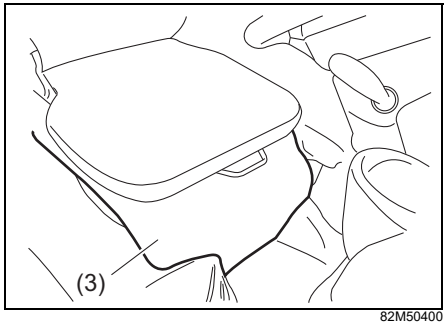
82M50180

⚠注意

運転席を後方へ動かすときは、背もたれを押すようにしてください。
背もたれの上部をつかんで動かすと、背もたれと後ろの壁に手などをはさまれ、けがのおそれがあります。

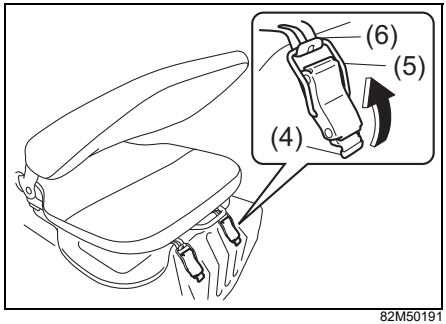
※助手席は、スライドレバーおよび背もたれのレバーがついていません。助手席シートを開閉するときは、手順 1 、 2 は省略して、 3 以降の操作をしてください。

3 シートライザーカーペット装備車は、シートライザーカーペット（3）をめくります。



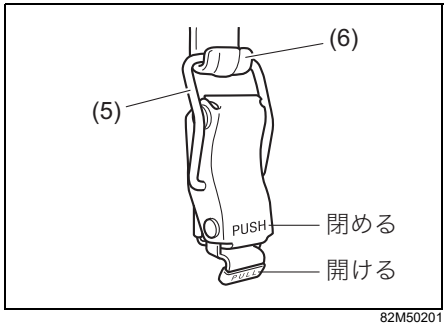
82M50400

4 シート前側下部のロックレバー（4）を引き起こして、ロックリング（5）をつめ（6）から外します。



82M50191

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。



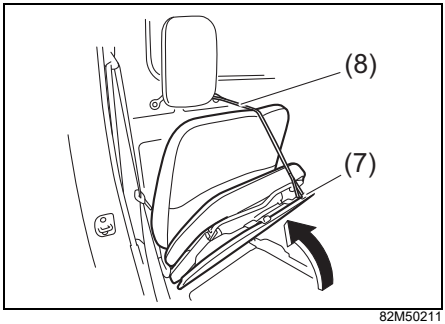
82M50201

アドバイス

助手席シートは、ロックレバーが1か所のみです。

5 シート前側を持ち上げて、シート固定ベルトの輪の部分を、シートのつめ（7）にひっかけてシートを固定します。

- 運転席の場合、中央側と外側につめがありますが、中央側のつめにシート固定ベルト（8）をひっかけます。



82M50211

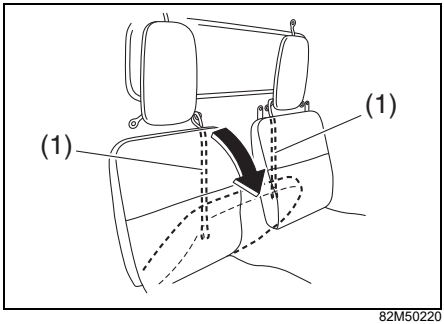
注 記

シート固定ベルトを使用した状態では、シートに無理な力をかけないでください。シート固定ベルトまたはシートのつめが破損するおそれがあります。また、運転席の場合、つめの上側にあるスライドレバーが変形するおそれがあります。

閉めかた（キャリイ）

「**開けかた（キャリイ）**」と逆の手順で行ないます。

- シートを固定するときは、ロックレバーの PUSH 側を押します。（**5-31 ページ**参照）
- シート固定後は、シートをゆすって、確実に固定されているか確認してください。
- シート固定ベルトは、図のように背もたれの裏側に収納します。
  - 運転席側は、背もたれを一度前倒しします



82M50220

(1) シート固定ベルト

⚠警告

シート固定ベルトは、所定の位置に収納してください。シート固定ベルトが身体に巻き付くと、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。

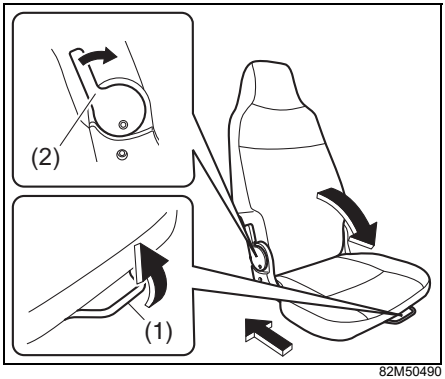
⚠注意

シートをもどすときは、手などをはさまないように気をつけてください。

開けかた（スーパーキャリイ）

1 スライドレバー（1）を引き上げ、シートを最も後ろの位置までスライドさせます。

2 リクライニングレバー（2）を前方に倒して、背もたれを手で支えながら前方に倒します。

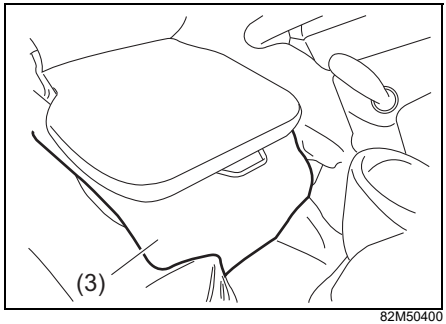


82M50490

注 記

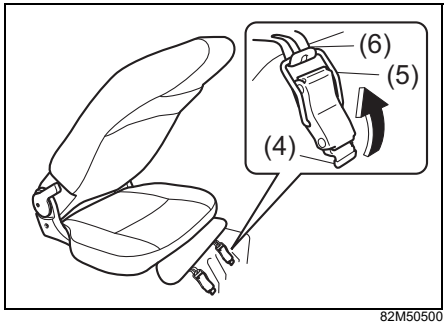
グローブボックスを開けたまま、助手席の背もたれを前方に倒さないでください。シート上部がグローブボックスに接触し、グローブボックスが破損するおそれがあります。

3 シートライザーカーペット装備車は、シートライザーカーペット（3）をめくります。

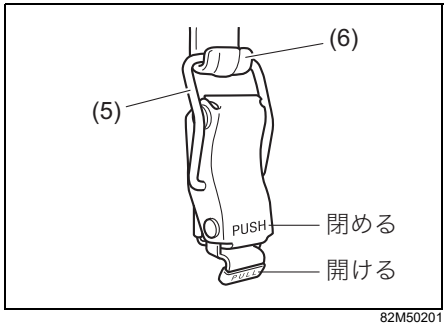


82M50400

4 シート前側下部のロックレバー（4）を引き起こして、ロックリング（5）をつめ（6）から外します。



82M50500



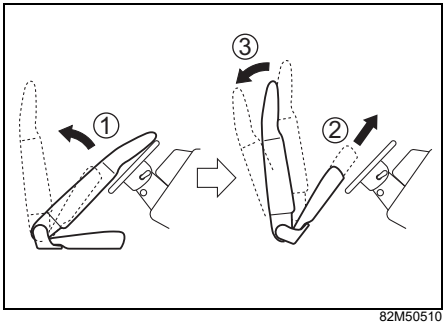
82M50201

5 シート前側を持ち上げます。

●運転席はハンドルに当たらないように持ち上げてからシートを最も前の位置までスライドさせます。

●助手席はシートを最も前の位置にしてからシートを持ち上げます。最も前の位置ではシートが固定されず動いてしまうため、背もたれを押さえながら持ち上げます。

シートを最も前の位置にしない場合、シートが干渉し、シート固定ベルトが届くところまで持ち上がりません。



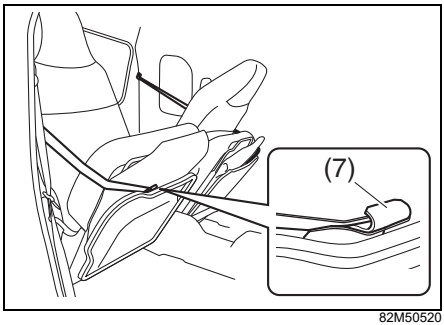
82M50510

⚠注意

●助手席のシート前側を持ち上げるときは、スライドレバーをしっかり握り、シート前側を支えながら、シートを持ち上げてください。
シートを持ち上げたとき、シート前側が急に下がり、怪我をするおそれがあります。

●シートを持ち上げるときは、シート全体が急に後方へ倒れることがあります。手などを添えて操作してください。

6 シート前側を持ち上げて、シート固定ベルトの輪の部分を、シート外側のつめ（7）にひっかけてシートを固定します。



82M50520

注 記

シート固定ベルトを使用した状態では、シートに無理な力をかけないでください。シート固定ベルトまたはシートのつめが破損するおそれがあります。また、運転席の場合、つめの上側にあるスライドレバーが変形するおそれがあります。

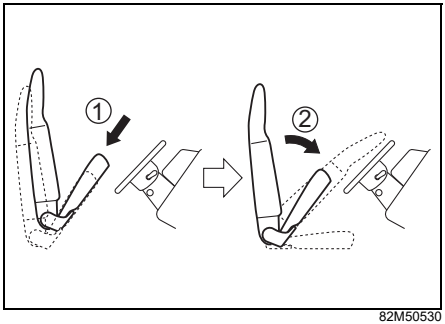
アドバイス

シート固定ベルトはシートバックスペース奥のバックパネルにあります。

閉めかた（スーパーキャリイ）

「**開けかた（スーパーキャリイ）**」と逆の手順で行ないます。

- 運転席はシート前側を一番後ろにスライドしてから、シート前側を下ろします。



82M50530

⚠注意

シートをもどすときは、手などをはさまないように気をつけてください。

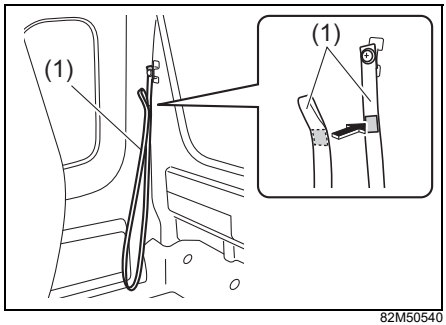
- 助手席はシートを下ろす前にグローブボックスを閉めてください。シート前側を一番後ろにスライドしてから、シート前側を下ろします。

注 記

- グローブボックスを開けたままでは背もたれが当たって損傷するおそれがあります。
- シートスライドが一番前のままでは背もたれがインストルメントパネルに当たって損傷するおそれがあります。

- シートを固定するときは、ロックレバーの PUSH 側を押します。（**5-31ページ**参照）

- シート固定後は、シートをゆすって、確実に固定されているか確認してください。
- シート固定ベルトを折って、貼り合わせます。



82M50540

(1) シート固定ベルト

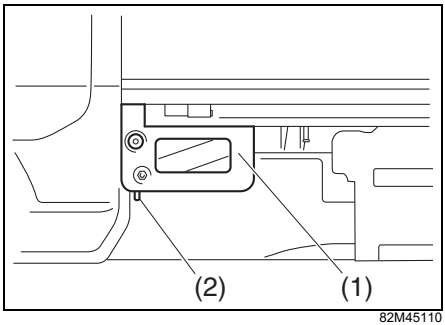
⚠ 警告

●シート固定ベルトを収納する際は、シートベルトとからまない様に注意してください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。
●シート固定ベルトをシート前側を固定する用途以外で使用しないでください。
●お子さまをシート固定ベルトで遊ばせないでください。シート固定ベルトが身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。
万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。

荷台ステップ

タイプ別装備

荷台への乗り降りをするときにご使用ください。



82M45110

(1) 荷台ステップ

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠ 警告

平シートフック（2）は平シート（別売り）の取付け以外には使用しないでください。荷物を固定するためにロープなどをかけて使用すると、フックが変形したり、ロープがゆるんだりして、荷物が走行中などに落下するおそれがあります。

⚠注意

- **荷台ステップには１人ずつ足をかけ乗り降りしてください。また、荷台ステップに高荷重をかけすぎないでください。荷台ステップが破損し、けがをするおそれがあります。**
- **雨天時、降雪時および洗車直後などはステップが滑りやすくなっています。荷台へ乗り降りするときはとくに注意してください。**
- **靴についた油やグリスなどは、よくふき取ってから乗り降りしてください。足を滑らせてけがをするおそれがあります。**
- **手に荷物などを持ったまま荷台へ乗り降りしないでください。**
- **荷台から降りるときは、飛び降りたりしないでください。転倒するなど、思わぬけがをするおそれがあります。**
- **リヤタイヤに足をかけて荷台へ乗り降りしないでください。足を滑らせてけがをするおそれがあります。**

サンバイザー

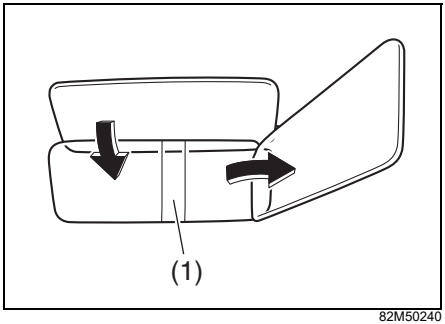
日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、サンバイザーを横にまわします。フックがある場合はフックから外して、横にまわします。

チケットホルダー

運転席側タイプ別装備

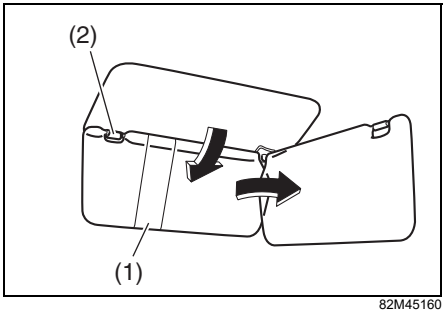
サンバイザーの裏側にあります。有料道路の通行券などがはさめます。

Aタイプ



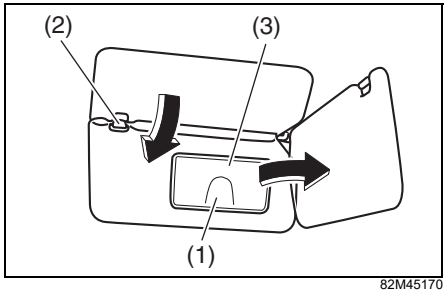
82M50240

Bタイプ



82M45160

Cタイプ



82M45170

(1) チケットホルダー
(2) フック
(3) ミラーカバー

注 記

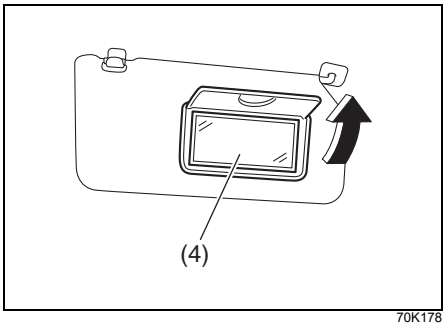
炎天下で駐車するときは、チケットホルダーなどにプラスチック素材のカードを放置しないでください。車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。

→ 2-22 ページ（ライターやメガネなどを放置しない）

バニティーミラー

タイプ別装備

ミラーカバーを開けた場所にあります。



70K178

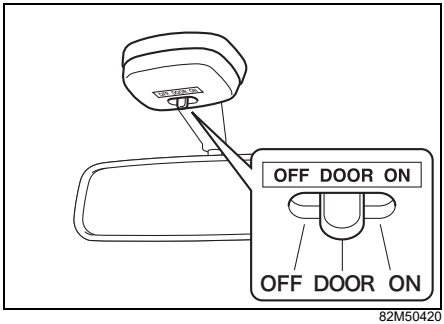
(4) バニティーミラー

⚠ 警告

- **走行中はバニティーミラーを使用しないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **バニティーミラーを使用するときは、SRS エアバッグの収納場所に近づいたり、寄りかかったりしないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受けるおそれがあります。**

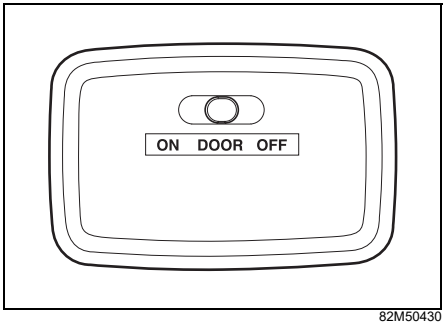
室内灯

室内灯



82M50420

後部ルームランプ(スーパーキャリイ)



82M50430

注 記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。バッテリーがあがる原因となります。

5

アドバイス

室内灯スイッチが DOOR 位置のときに、キーレスエントリーを作動させると、室内灯が点灯または点滅します。

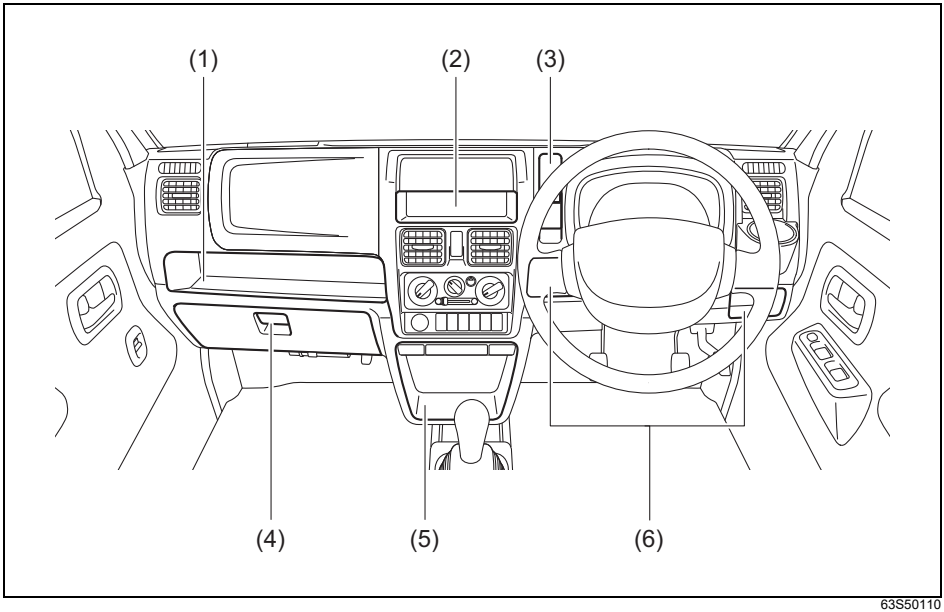
→ **3-6ページ（アンサーバック機能）**

スイッチの位置	室内灯
ON	ドアの開閉に関係なく点灯します。
DOOR	運転席ドアまたは助手席ドア（※）を開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	ドアの開閉に関係なく消灯します。

※お車のタイプによっては、助手席ドアの開閉に連動して点灯・消灯しません。

インパネ収納スペース

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



63S50110

(1) インパネトレー
(2) インパネボックス（タイプ別装備）
(3) ペンホルダー
(4) グローブボックス
(5) インパネアンダーポケット
(6) インパネポケット

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠ 警告

- **ふたがない収納スペースの場合、走行中に転がり落ちるようなものを入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにものがはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。**
- **インパネトレー（助手席）には、大きなものを載せないでください。運転視界の妨げとなったり、SRS エアバッグがふくらむ範囲にものがあると、ものが飛ばされたり、SRSエアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。**

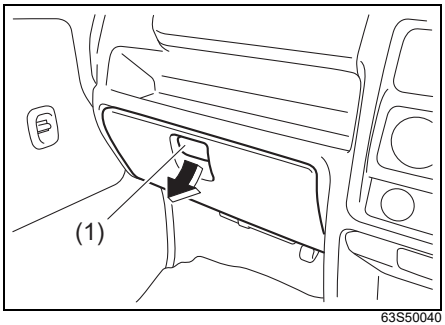
⚠ 注意

ふた付収納スペースの場合、ふたを開けたまま走行したり、走行中にふたを開けたりしないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、身体がふたに当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。

ふた付収納スペースの取扱い

● 次の図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ グローブボックス



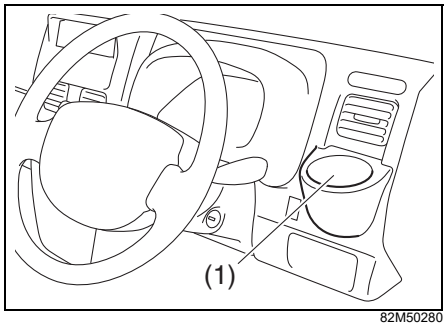
63S50040

● レバー（1）を手前に引いてふたを開けます。
● 閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

ドリンクホルダー

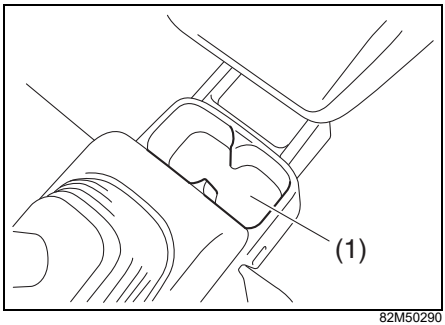
次の図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

インパネ



82M50280

コンソール



82M50290

(1) ドリンクホルダー

⚠ 警告

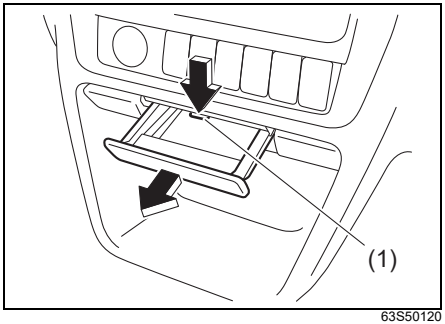
●飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物が次のような部品にかかると、火災や故障の原因になったり、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。
・ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類
・フロア下の配線、電気部品やセレクトレバーなどの可動部
・シートベルトバックル

●ドリンクホルダーに、缶ジュースやカップ以外のものを置かないでください。さらに、鋭利なものや硬いもの、割れやすいものを置かないでください。走行中に落ちてけがをしたり、運転のさまたげになったりするおそれがあります。
●運転席ドリンクホルダーには、背の高い飲料容器を置かないでください。視界の妨げとなって事故につながるおそれがあります。

そのほかの装備

カードケース

- 使うときは、手前に引き出します。
- カードケース全体を取り外すときは、レバー（1）を下に押さえながら引き抜きます。



63S50120

- 使用後は、押し込んで格納します。

⚠警告

灰皿としては絶対に使用しないでください。灰皿としての耐熱性はありません。火災や破損の原因となります。



68H50500

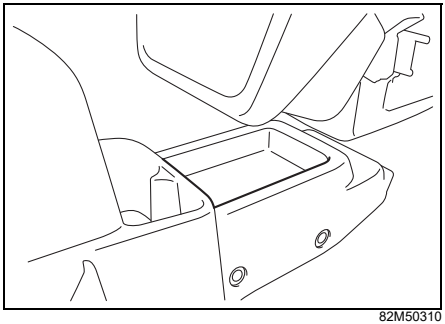
⚠注意

炎天下で駐車するときは、ケース内などにプラスチック素材のカードを放置しないでください。車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。

→ 2-22 ページ（ライターやメガネなどを放置しない）

フロアトレー

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



82M50310

⚠警告

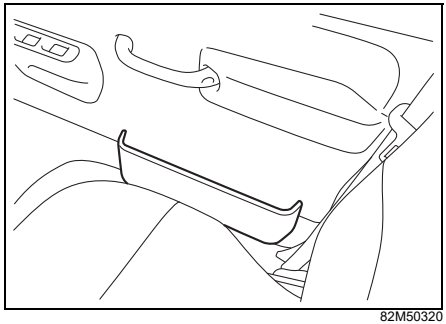
走行中にころがり落ちるようなものを入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにものがはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

ドアポケット

タイプ別装備

運転席、助手席ドアにあります。

- 手回り品や小物などの収納にご使用ください。

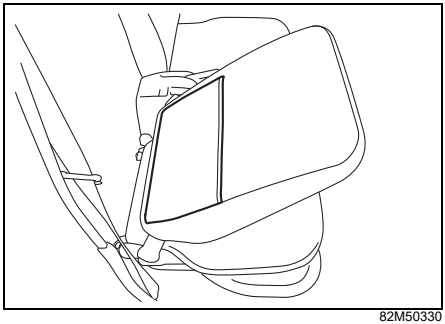


82M50320

シートバックポケット

雑誌や手荷物などの収納にご使用ください。

■ 運転席



82M50330

注記

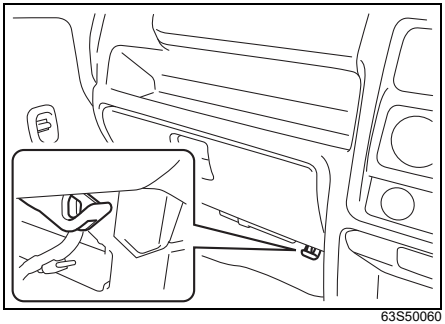
ポケットに収納するものは、合計3 kg以下としてください。また、ポケットを強く引いたり、かさばるものを入れたりしないでください。ポケットサイド部のマジックテープがはがれたり、シートバックをもとにもどしたときに、シートや収納物が破損したりするおそれがあります。

ショッピングフック

買い物袋などをひっかけるときにご使用ください。

注 記

フックにかけるものは、1 kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

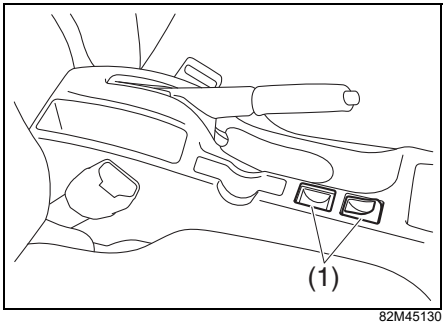


63S50060

コインホルダー

タイプ別装備

有料道路などを通行するとき、一時的な小銭置き場としてご使用ください。



82M45130

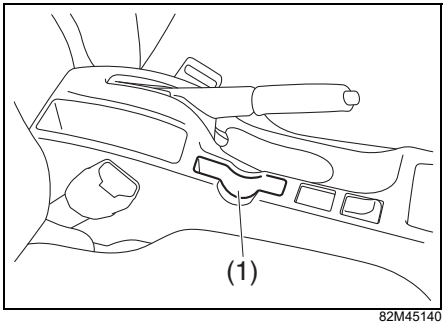
(1) コインホルダー

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

カードホルダー

タイプ別装備

カード類を収納できます。



82M45140

(1) カードホルダー

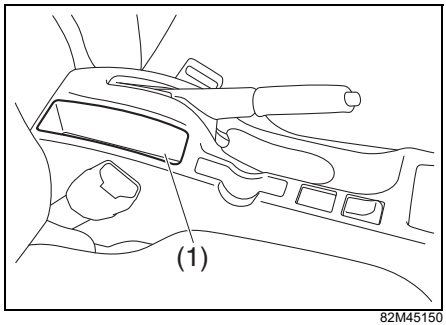
- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

注 記

炎天下で駐車するときは、カードホルダーなどにプラスチック素材のカードを放置しないでください。車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。

コンソールポケット

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



82M45150

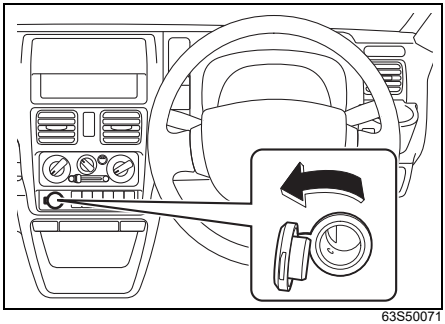
(1) コンソールポケット

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

アクセサリーソケット

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、電気製品の電源として使用できます。使用できる規定容量は12 V10 A（120 W）以下です。

- 使用するときは、ふたを開けます。



63S50071

⚠ 警告

使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。

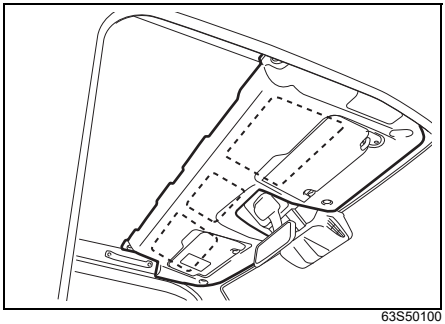
注 記

- **規定容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れることがあります。**
- **エンジン停止中に長時間使用すると、鉛バッテリーあがりの原因となります。また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。**
- **エンジンスイッチが LOCK （OFF）の状態で、オーディオまたはナビゲーション機器本体の電源が切れなかったり、キーレスエントリーが作動しなかったりする場合は、アクセサリーソケットに接続された機器が影響している可能性があります。アクセサリーソケットから機器を取り外して、状況が改善されるか確認してください。改善されない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**

オーバーヘッドシェルフ

スーパーキャリイ

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



63S50100

⚠注意

- **オーバーヘッドシェルフにぶら下がったり、体重をかけたりしないでください。中のものが落ちて、けがのおそれがあります。また、シェルフ破損の原因となります。**
- **ブレーキや加速、衝突のときなどに、中のものが飛び出すおそれがあるため、次のことをお守りください。**
  - **堅いものや鋭利なものを収納しない**
  - **本や雑誌などを重ねて収納しない**
  - **缶ジュースなどの転がりやすいものを収納しない**

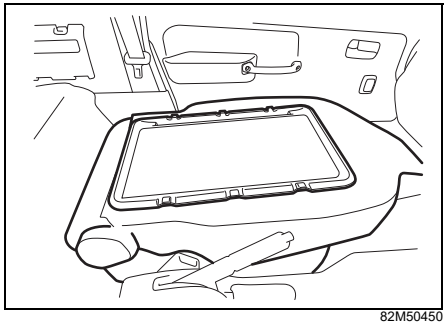
注 記

- **炎天下で駐車するときは、シェルフ内にプラスチック素材のメガネやカード、またはパソコンなどの精密機器を放置しないでください。車内が高温になるため、メガネやカードの変形やひび割れを起こしたり、パソコンなどが変形や故障したりするおそれがあります。**
  → 2-22ページ（ライターやメガネなどを放置しない）
- **シェルフに収納するものは、左右、中央の各位置でそれぞれ 500g 以下としてください。シェルフが破損するおそれがあります。**

助手席シートバックテーブル

スーパーキャリイ

助手席の背もたれを倒すとテーブルとして使用できます。



82M50450

⚠警告

前方へ倒した背もたれの上に、人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに投げ出されてけがのおそれがあります。また、シートが破損する原因となります。

⚠注意

走行中はテーブルとして使用しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどにものが落ちて思わぬ事故につながったり、熱い飲み物がこぼれてやけどしたりするおそれがあります。

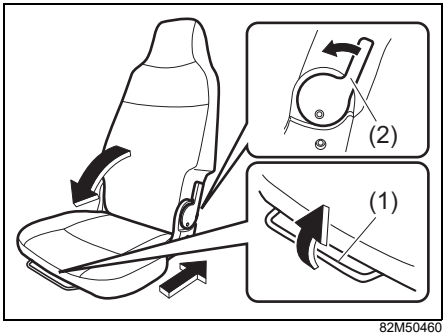
■ テーブルにするときは

1 助手席のスライドレバー（1）を引き上げて、シートを一番後ろまでスライドさせます。

2 リクライニングレバー（2）を前方に倒して、背もたれを手で支えながら前方へ倒します。

注 記

グローブボックスを開けたまま、助手席の背もたれを前方へ倒さないでください。シート上部がグローブボックスに接触しグローブボックスが破損するおそれがあります。

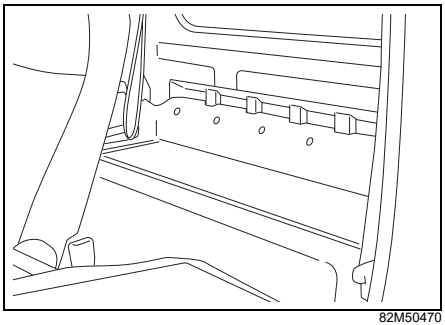


82M50460

シートバックスペース

スーパーキャリイ

手回り品や小物などを置いておくことができます。



82M50470

⚠警告

シートバックスペースに人を乗せないでください。シートバックスペースは人が乗る構造になっていません。急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。

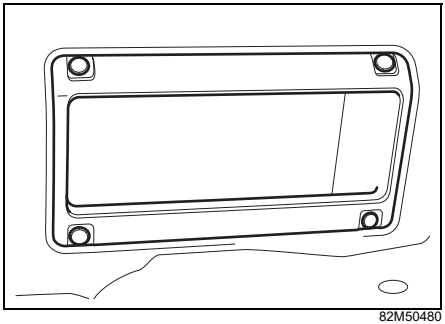
⚠注意

走行中に転がり落ちるようなものを置かないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどにものが転がりおちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートバックスペースポケット（運転席側）

スーパーキャリイ

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



82M50480

6. お車との上手なつきあいかた

● **お手入れ**
外装のお手入れ ····· 6-2
内装のお手入れ ····· 6-4
タイヤの交換 ····· 6-6
リモコンキーの電池交換 ····· 6-7
ワイパーブレードラバーの交換 ····· 6-9

● **寒冷時の取扱い**
冬期に入る前の準備 ····· 6-11
出発の前に ····· 6-13
雪道を走行するとき ····· 6-14
駐車するとき ····· 6-15
タイヤチェーンを装着するとき ····· 6-17

外装のお手入れ

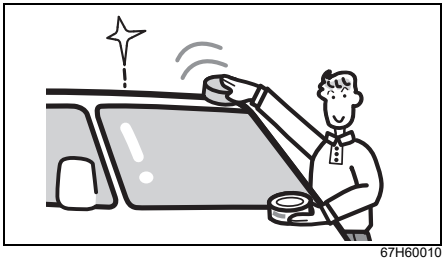
塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

- 駐車、車の保管は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。
  - 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールタールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。
  - ほこりや泥でひどく汚れたとき。
- ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明にしたがってください。

アドバイス

ワックスがけのときに塗装されていない樹脂部品にワックスを使わないでください。ワックスが付着すると白くなったりムラになったりするおそれがあります。



67H60010

- 飛び石の傷や、ひっかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

注 記

塗装面の傷を補修するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。不適切な塗料を使用すると、塗装がはがれる原因となります。

洗車のときのご注意

⚠注意

- **車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。**
- **洗車したあとはブレーキの効きが悪くなることがあります。**
  - **→ 2-17ページ（水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認）**

注 記

- **エンジンルームに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品が故障する原因となります。**

●洗車やワックスがけをするとき、車体に寄りかかったり強い力で押したりしないでください。
車体が変形するおそれがあります。

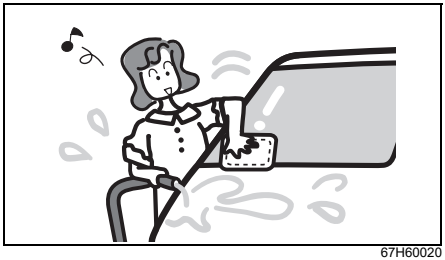


手洗い洗車をするときは

1 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のようなやわらかいものを使って汚れを洗い落とします。

2 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。

3 やわらかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。



自動洗車機を使うときは

注 記

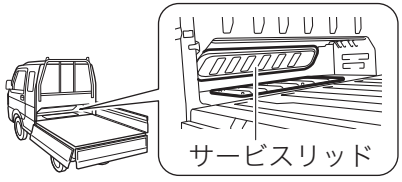
●ドアミラーを格納し、アンテナを収納してください。洗車機にひっかかり、ドアミラーやアンテナを損傷するおそれがあります。
●自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。

高圧洗浄機を使うときは

洗車ノズルを車体から十分に離してください。

注 記

●洗車ノズルを車体に近づけすぎたり、バンパーなどの開口部に向けたりすると、車体や部品の変形や損傷の原因となります。
●洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどの開閉部分、リヤガラス部分、シート背面のサービスリッドに向けると、車内に水が入るおそれがあります。



フロントガラスの手入れ

油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼったやわらかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

⚠警告

車内に水などをかけないでください。ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。また、万一アクセルケーブルの内部に水などが入ると、作動不良の原因となって思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

●次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。しみ、変色、変形、強度低下などの原因となります。
- **ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤**
- **酸性、アルカリ性の洗剤**
- **漂白剤や染料**

●エアコン、オーディオまたはナビゲーションなどの電装品や各種スイッチおよびこれら周辺の清掃にはシリコンを含むケミカル用品を使用しないでください。シリコンが付着した場合、故障の原因となるおそれがあります。

●色物の革製品・毛皮・ビニールなどを長時間、放置しないでください。内装の変色や変質の原因となります。

アドバイス

液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのもののご使用をおすすめします。

布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ

1 中性洗剤の水溶液をやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。

2 真水を含ませたやわらかい布で、残った洗剤分をふき取ります。

3 残った水分をふき取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

フロントガラスの室内側の手入れ

ステレオカメラ装備車の場合、フロントガラスの内側を清掃するときは、ステレオカメラのレンズ部にほこりやガラスクリーナーなどが付着しないように保護してください。

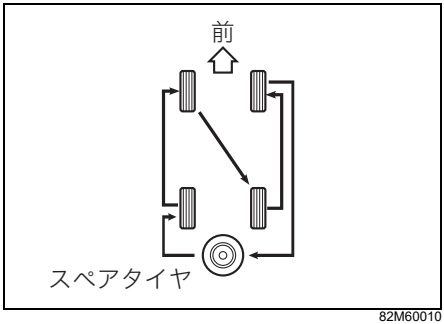
タイヤの交換

タイヤのローテーション

タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約**5,000 km**走行ごとに行なってください。（次の図参照）

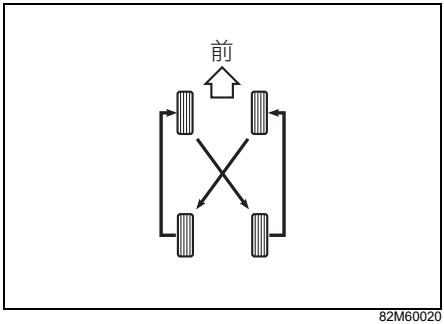
- 車載ジャッキでタイヤのローテーションを行なうときは、スペアタイヤなどを使用して1輪ずつ交換します。
  → **7-11ページ（ジャッキアップ）**

■ スペアタイヤをローテーションに入れるとき



82M60010

■ スペアタイヤをローテーションに入れないとき



82M60020

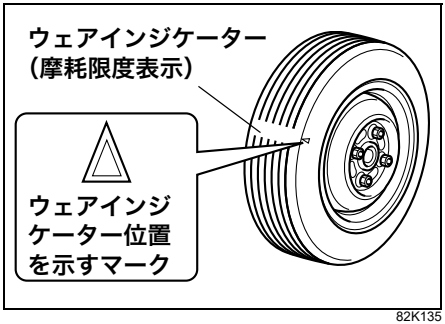
⚠注意

スペアタイヤのサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）がほかの4輪と異なる場合は、スペアタイヤをローテーションに入れないでください。この場合、スペアタイヤはパンクしたときに一時的に使用する応急タイプとなります。

→ **6-6ページ（タイヤ交換するときは）**

タイヤ交換するときは

- 指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出る場合は、タイヤのバランスを点検してください。
- 取り付ける前にタイヤの摩耗状態を点検してください。ウェアインジケーター（溝の深さが 1.6 mm 浅い部分）が現れて溝の一部が消えていたら、ほかのタイヤと交換してください。



82K135

⚠ 警告

指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。(冬用タイヤも同様です)

- **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。**
  - **ABS**
  - **ESP®**
  - **デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）（タイプ別装備）**
  - **誤発進抑制機能（タイプ別装備）**
  - **後方誤発進抑制機能（タイプ別装備）**
- **4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。**

リモコンキーの電池交換

タイプ別装備

⚠ 警告

電池および取り外した部品は、お子さまが誤って飲み込まないよう注意してください。

注 記

故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **濡れた手で電池交換をしない**
- **電池以外の端子や電子部品に触れない**
- **端子を曲げない**
- **油や異物を付着させない**

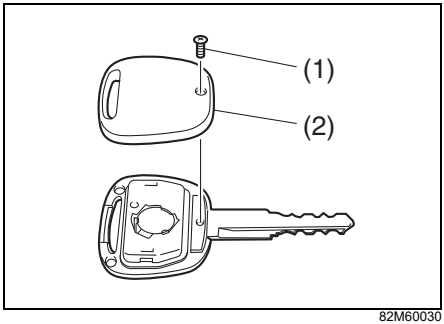
アドバイス

- 電池交換の際、リモコンキーを破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。
- 電池は、スズキ販売店や家電量販店・ホームセンターなどでご購入ください。

使用電池	リチウム電池CR1220

1 キーカバー（2）を外します。

- スクリュー（1）は、サイズの合ったプラスドライバー（市販品）で外します。



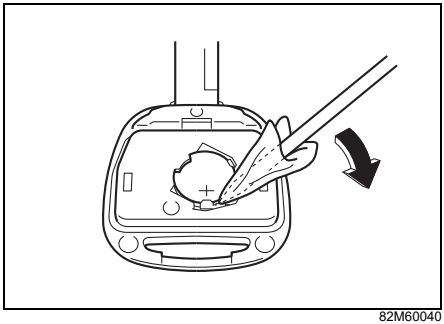
82M60030

注 記

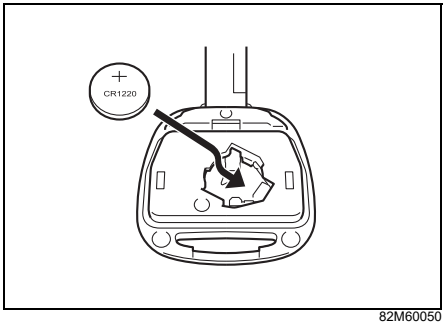
スクリューのサイズ・形状にあわないドライバーを使用すると、スクリューの頭がつぶれるおそれがあります。

2 電池を交換します。

- 古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。


82M60040

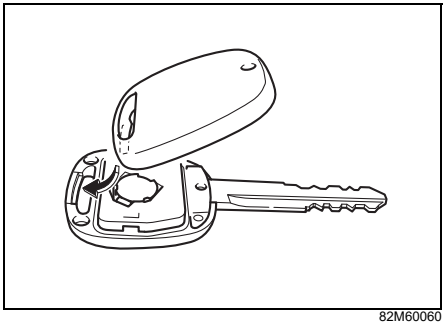
- 電池は、＋極を上にして取り付けます。



82M60050

3 キーカバーを組み付けます。

- 図のようにカバーの先端をあわせてから取り付けます。


82M60060

- スクリューを確実に締め付けます。

4 リモコンキーが正常に作動するか確認します。

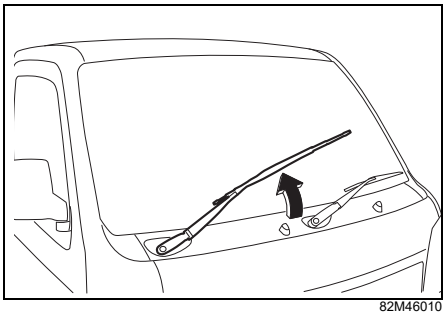
ワイパーブレードラバーの交換

注 記

- **ワイパーブレード、ブレードラバーはスズキ純正品の使用をおすすめします。スズキ純正品以外のものを使用すると適切に取り付けできないおそれがあります。**
- **ワイパーブレードラバーは傷んでいると、拭き取りがきれいにできなかったり、ガラスに傷が付くおそれがあります。定期的にワイパーブレードラバーを点検し、傷んでいる場合は交換してください。**
- **ワイパーブレード、ブレードラバーを交換するときはワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないようにしてください。ガラスに当たるとガラスが破損したり傷が付くおそれがあります。**

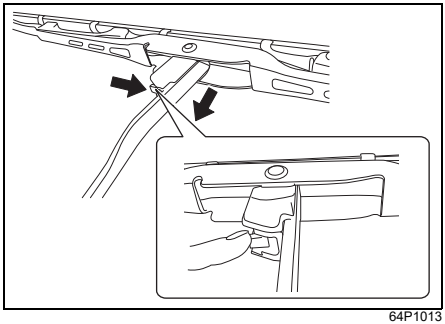
ワイパーブレードの交換

1 ワイパーアームを起こします。



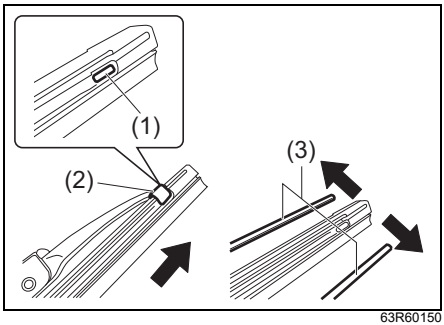
82M46010

2 ツメを押しながらワイパーブレードをワイパーアームから外します。



64P1013

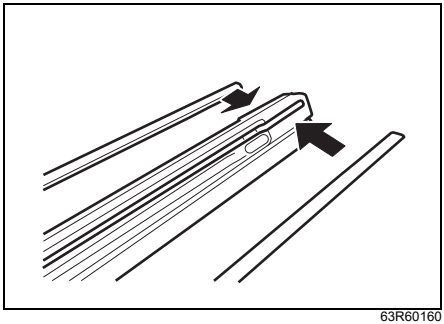
3 ブレードラバーのストッパー（1）がツメ（2）から外れるまで引っ張り出し、そのままブレードから引き抜きます。ブレードラバーからリテーナー（3）を引き抜きます。



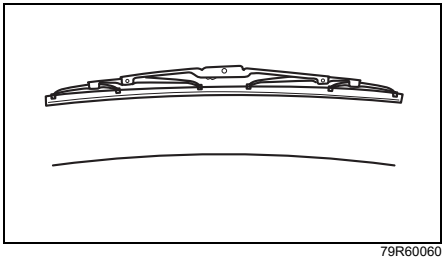
63R60150

(1) ストッパー　(2) ツメ
(3) リテーナー

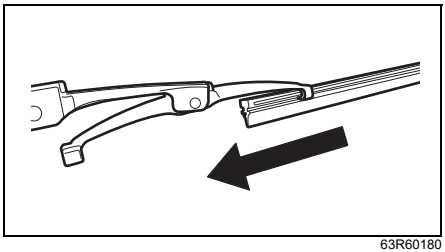
4 新品のブレードラバーにリテーナーを取り付けます。


63R60160

●リテーナーは、反りの向きを次の図のように合わせて取り付けてください。

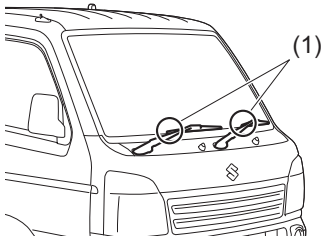

79R60060

5 ワイパーラバーをワイパーブレードに差し込みます。ワイパーラバーを取付けるときは、ストッパーのない方からワイパーブレードに差し込みます。


63R60180

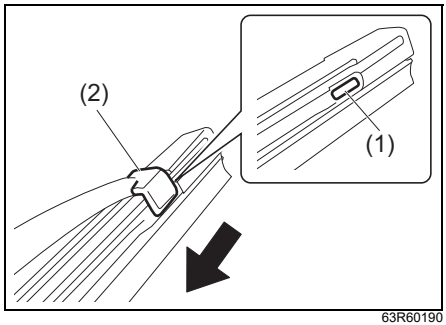
注 記

ブレードラバーは、ストッパー（1）のある側が運転席側になるように取り付けてください。ワイパーの作動中にブレードラバーがずれるおそれがあります。



63S60010

6 ブレードラバーを差し込んだあとは、ワイパーブレードーのツメ（2）をストッパー（1）に押し込んでブレードラバーを確実に固定します。



63R60190

(1) ストッパー　　(2) ツメ

7 ワイパーアームにワイパーブレードを取り外したときと逆の手順で取り付けます。ワイパーブレードがワイパーアームに確実に固定されていることを確認してください。そのあと、ワイパーアームをもどします。

冬期に入る前の準備

ウインドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

〈スズキエクスターウインドーウォッシャー液の場合〉

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通　常	原液1に水3	約−5℃
温暖地の冬期	原液1に水2	約−9℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	約−15℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約−40℃

バッテリー

バッテリーの液量や比重を点検してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーではエンジンがかかりにくくなります。

→ **2-3ページ**
（バッテリーの液面を点検する）

冷却水

エンジン内部の腐食および凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。

スノーブレード（別売り）

スノーブレード（降雪地用ワイパーブレード）は、金属部分をゴムで覆って雪の付着を少なくするものです。標準装備のワイパーブレードでは、降雪時に雪が付着し、ふき取りにくくなることがありますので、必要に応じて交換してください。

⚠注意

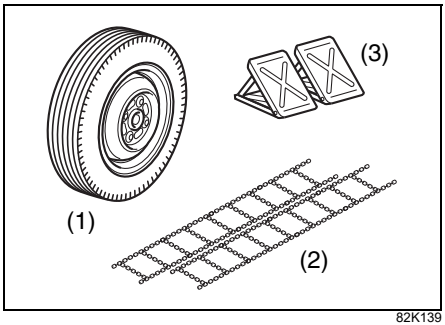
高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなることがあります。その場合には、車のスピードを落としてください。

アドバイス

- 雪の降らない時季は、通常のワイパーブレードのご使用をおすすめします。
- スノーブレードはスズキ純正品の使用をおすすめします。スズキ純正品以外のものを使用すると適切に機能しないおそれがあります。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

雪道や凍結路を走行するために必要です。



82K139

(1) 冬用タイヤ（市販品）　(2) タイヤチェーン（別売り）
(3) 輪止め（市販品）

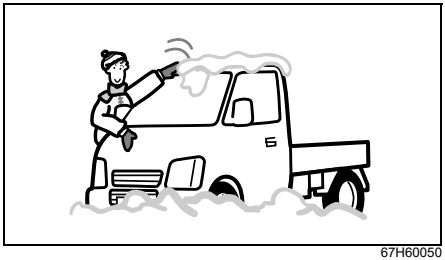
出発の前に

屋根に積もった雪

出発の前に取り除いてください。走行時に落下して、視界をさまたげるおそれがあります。

- ステレオカメラ装備車の場合、フロントガラスに雪や霜などが付着していると、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）が正常に作動しない場合があります。

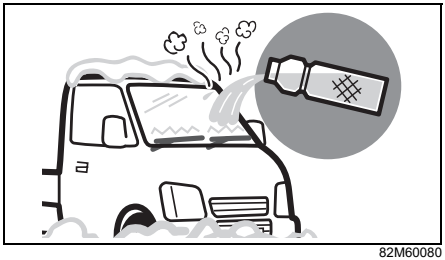
→ **4-41ページ（ステレオカメラ）**



67H60050

ワイパーの凍結

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にワイパーを作動させると、ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。



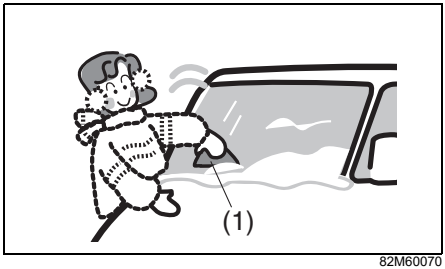
82M60080

ガラス面の雪や霜

プラスチックの板（1）を使うと、ガラスを傷つけずに落とせます。

- ステレオカメラ装備車の場合、フロントガラスに雪や霜などが付着していると、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）が正常に作動しない場合があります。

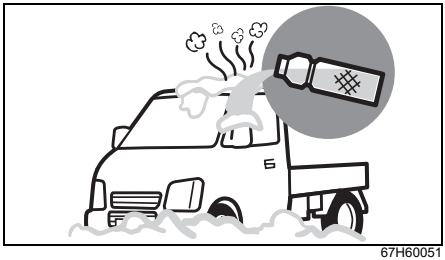
→ **4-41ページ（ステレオカメラ）**



82M60070

ドアミラーの凍結

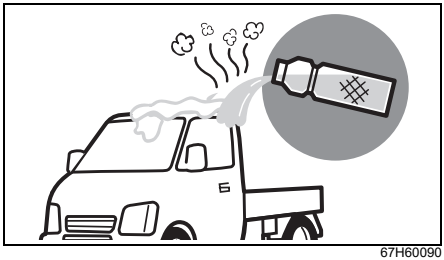
ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にドアミラーを動かそうとすると、故障するおそれがあります。



67H60051

ドアの凍結

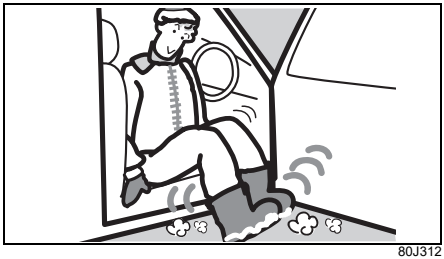
ぬるま湯をドアキーの穴を避けてかけます。ドアが開いたあとは水分をふき取ってください。凍結したまま無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、破損したりするおそれがあります。



67H60090

靴に付着した雪

乗車するときによく落としてください。そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。



80J312

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

⚠注意

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。



67H20220

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

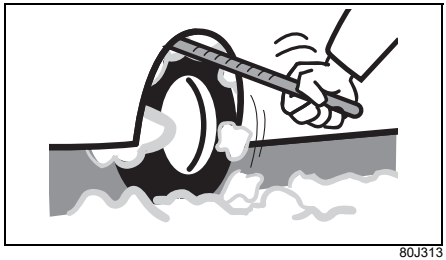
雪道や凍結路では、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

- 走行する地区の条例などにしたがって装着してください。
  → **6-6ページ(タイヤ交換するときは)**
  → **6-17 ページ（タイヤチェーンを装着するとき)**

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。



80J313

駐車するとき

パーキングブレーキ

パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

- 長時間駐車するときは、パーキングブレーキをかけずに輪止め（市販品）をしてください。
  - オートマチック車 は、セレクトレバーを P に入れます。
  - マニュアル車 は、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。

⚠警告

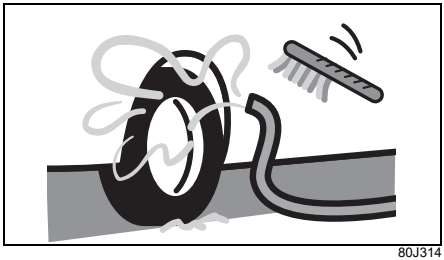
4WD 切替えレバー付車の場合、駐車中はレバーを（N）（ニュートラル）にしないでください。チェンジレバーをRまたは1速に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。

→ **4-25ページ（4WD切替えレバー）**

凍結防止剤が散布してある道を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。とくに車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。
凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。

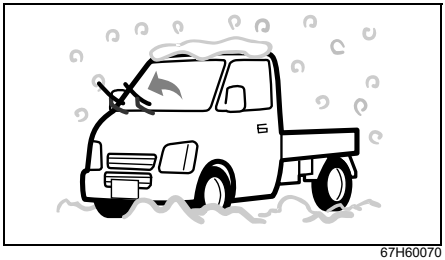


80J314

屋外に駐車するときは

注 記

●軒下や樹木の下には駐車しないでください。積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。
●駐車するときはワイパーアームを立ててください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）がガラスに凍結したりすることがあります。

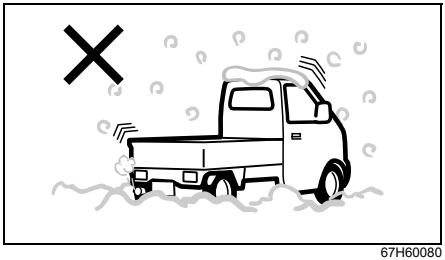


67H60070

排気管のまわりが雪でおおわれたときは

⚠ 警告

排気管のまわりが雪でおおわれたままエンジンを回転させないでください。排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



67H60080

タイヤチェーンを装着するとき

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠ 警告

- **適合品以外を装着しないでください。ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。**
- **走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検してください。タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体に当たると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。**

⚠ 注意

- **タイヤチェーンを装着して走行するときは、安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控えめ（30 km/h 以下）にし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転をしたり、突起や穴を乗り越えたりしないでください。**
- **タイヤチェーンを装着すると、タイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。**
  - **ABS**
  - **ESP®**
  - **デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）（タイプ別装備）**
  - **誤発進抑制機能（タイプ別装備）**
  - **後方誤発進抑制機能 (タイプ別装備)**

注 記

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、4WD車の場合、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。

タイヤチェーンを装着する前に

■ タイヤチェーンは後輪に装着

この車は後輪が駆動輪、または後輪が駆動輪ベースの 4WD です。前輪には装着しないでください。

■ ジャッキアップに適した安全な場所で装着

7-10 ページの「**タイヤ交換の準備**」の 1、2 をお読みください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

7. 万一のとき

● **パンク**
工具、ジャッキの収納場所 …… 7-2
工具の取り出しかた …… 7-2
ジャッキの取り出しかた …… 7-4
スペアタイヤ …… 7-5
タイヤ交換の準備 …… 7-10
ジャッキアップ …… 7-11
タイヤの取り付け・取り外し …… 7-15
タイヤを交換したあとは …… 7-17

● **バッテリーあがり**
バッテリーあがりとは …… 7-18
バッテリーカバーの外しかた …… 7-18
バッテリーあがりのときは …… 7-18
バッテリーあがりを防ぐためには …… 7-20

● **ヒューズ切れ**
ヒューズが切れたときは …… 7-21
ヒューズの点検と交換 …… 7-24

● **電球切れ**
電球の点検 …… 7-25
電球を交換するときは …… 7-25

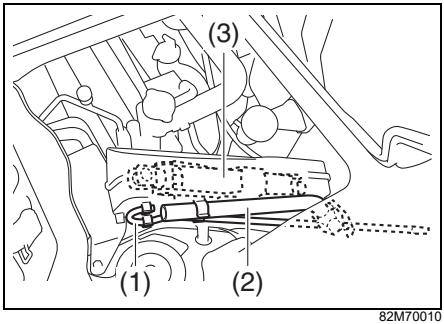
● **オーバーヒート**
オーバーヒートとは …… 7-38
オーバーヒートしたときは …… 7-39

● **そのほか**
発炎筒 …… 7-40
故障したときは …… 7-40
ロープけん引 …… 7-43
水没したときは …… 7-45
万一、事故が起きたときは …… 7-46

工具、ジャッキの収納場所

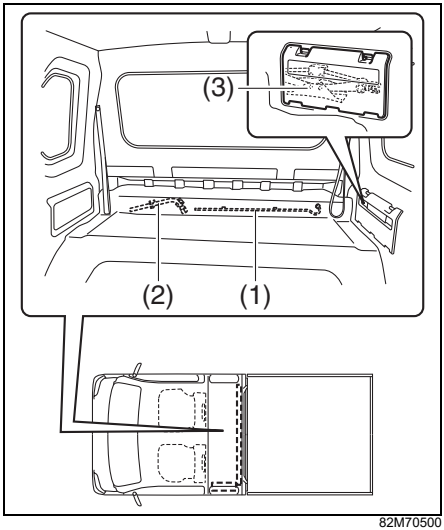
キャリイは助手席シート下のエンジンルーム内、スーパーキャリイはシートバックスペースに収納されています。

キャリイ



82M70010

スーパーキャリイ



82M70500

(1) ジャッキバー
(2) ホイールナットレンチ
(3) ジャッキ

- 使用後は所定の位置に収納し、しっかりと固定してください。

⚠注意

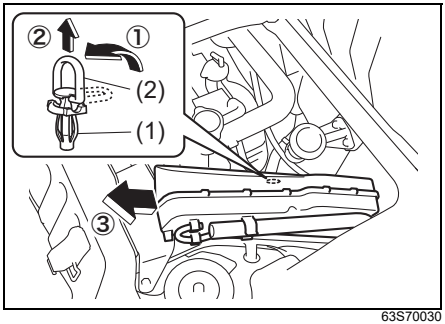
キャリイの場合、エンジン回転中や停止直後は、工具（ホイールナットレンチ、ジャッキバー）やジャッキが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、使用する前に確認してください。

工具の取り出しかた

キャリイ

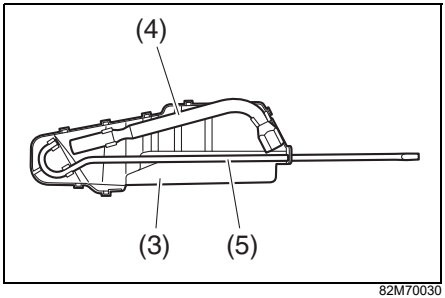
1 ジャッキカバーを固定しているクリップ1個を外します。

- クリップ（1）は、とっ手（2）を引き起こしてからそのまま引き抜きます。



63S70030

2 ジャッキカバー（3）を取り外し、カバーに取り付けられているホイールナットレンチ（4）およびジャッキバー（5）を取り外します。



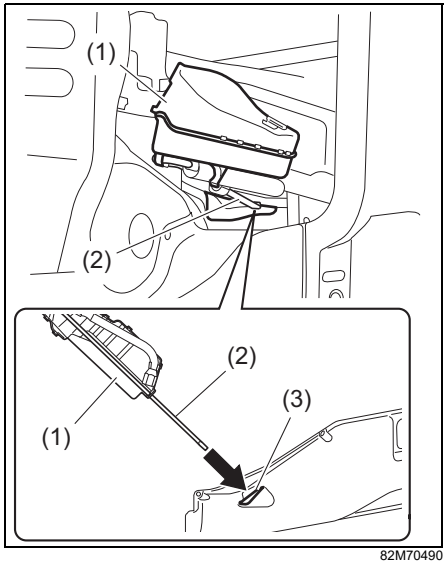
82M70030

■ 収納するときは

1 ホイールナットレンチおよびジャッキバーをジャッキカバーに取り付けます。

2 ジャッキカバー（1）をジャッキへかぶせるように取り付けます。

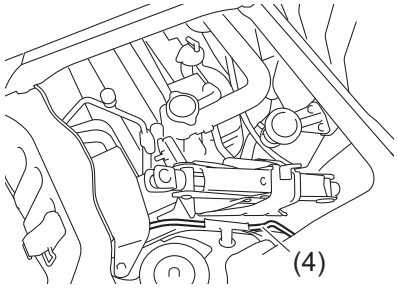
- ジャッキカバーをかぶせるときは、図のようにジャッキカバーをかぶせたあとスライドさせ、ジャッキバー（2）の先端を荷台下にあるカバーの開口部（3）の中に差し込んでください。



82M70490

注 記

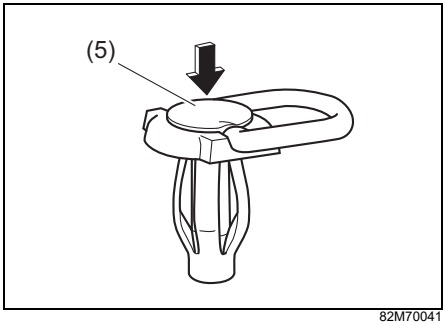
ジャッキカバーを収納するときは、取り付けられたジャッキバーでハーネス（4）などを傷つけないでください。



63S70160

3 車体側の穴へ、ジャッキカバーの穴をあわせてから、クリップを差し込みます。

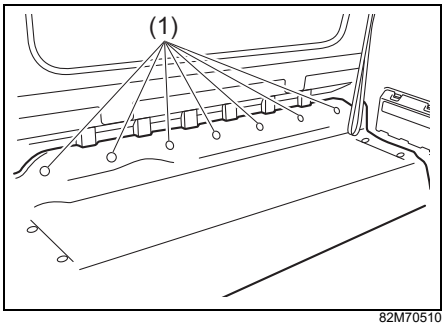
- クリップは、とっ手を倒してから中央部（5）をカチッと音がするまで押し込みます。



82M70041

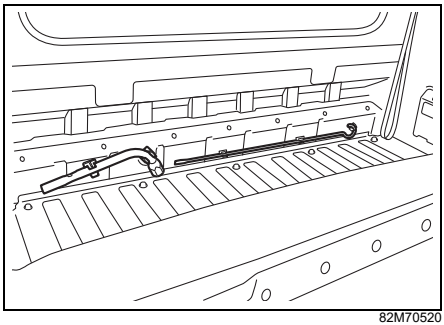
スーパーキャリイ

1 シートバックスペースのフロアカーペットを固定しているクリップ（1）を外します。



82M70510

2 フロアカーペットを前方へ巻き、ジャッキバー、ホイールナットレンチを取り出します。



82M70520

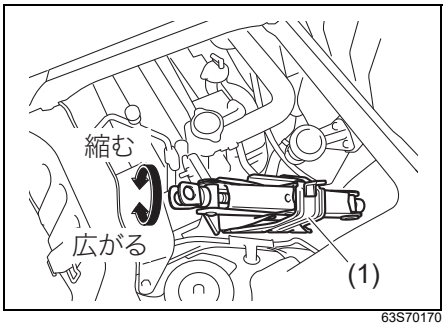
ジャッキの取り出しかた

キャリイ

1 ジャッキカバーを外します。（**7-2ページ**参照）

2 ジャッキを縮めて取り出します。

- 縮めにくいときは、ホイールナットレンチを使ってください。



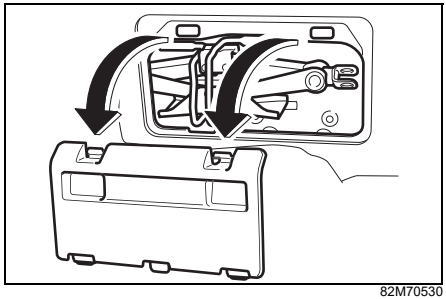
63S70170

注 記

格納するときに、ホイールナットレンチなどで無理にジャッキを広げないでください。ジャッキホルダー（1）が変形するおそれがあります。

スーパーキャリイ

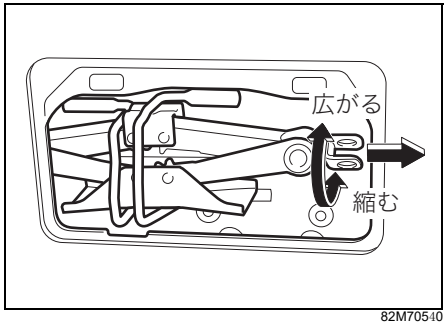
1 シートバックスペースの助手席側にあるふたの上部の２つのつめを押さえながら、カバーを手前に引きます。下側のつめを外すようにカバーを持ち上げて外します。



82M70530

2 ジャッキを縮めて取り出します。

- 縮めにくいときは、ジャッキバーを使ってください。



82M70540

注 記

収納するときに、ジャッキバーなどで無理にジャッキを広げないでください。ジャッキホルダーが変形するおそれがあります。

スペアタイヤ

荷台下に収納されています。

- 使用後は所定の位置に収納し、しっかり固定してください。

⚠注意

●スペアタイヤの空気圧や摩耗状態を定期的に点検してください。空気圧不足やタイヤの摩耗した状態での使用は、思わぬ事故につながるおそれがあります。

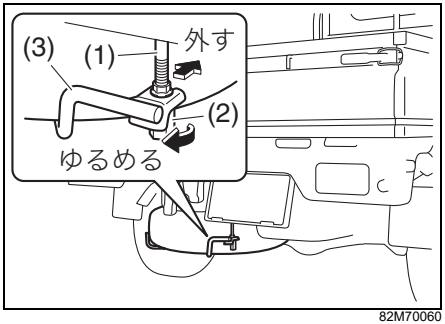
●スペアタイヤのサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）がほかの4輪と異なる場合、スペアタイヤはパンクしたときに一時的に使用する応急タイプとなります。パンクしたタイヤをただちに修理または交換し、できるだけ早く４輪とも同じタイヤを装着してください。

→ 6-6ページ（タイヤ交換するときは）

取り出しかた

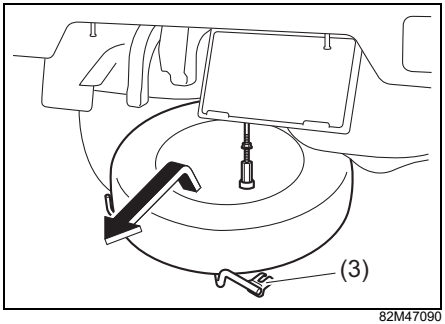
1 ホイールナットレンチで、ボルト（1）の先端にある取り付けナット（2）をゆるめます。

2 タイヤキャリア（3）を持ち上げながら、ボルトをタイヤキャリアから外します。



82M70060

3 タイヤをしっかり持って取り出します。



82M47090

パンクしたタイヤの収納のしかた

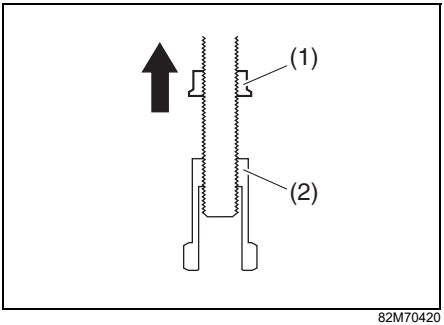
パンクして空気の抜けたタイヤを収納するときは、次の手順で行なってください。

- パンクしたタイヤを収納したときは、できるだけ早く修理または交換してください。

注 記

ホイールだけの状態になった場合、落下する可能性がありますので、スペアタイヤの収納場所には収納しないでください。

1 ロックナット（1）をまわして、上方向へ移動させておきます。

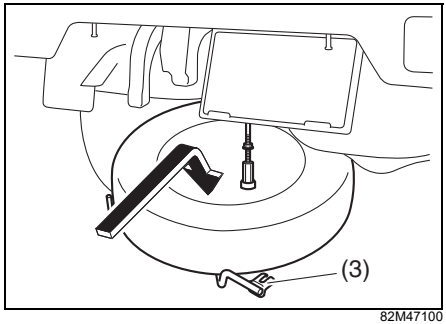


82M70420

アドバイス

ロックナットおよび取り付けナット（2）は、下からみて時計方向にまわすと上方向に移動します。

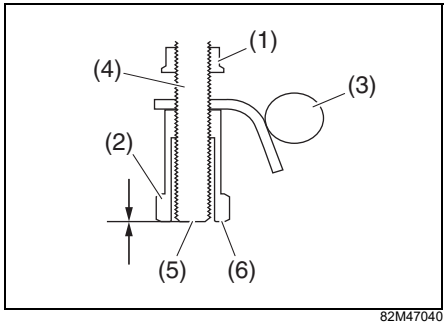
2 ホイール表面を上にしてタイヤをタイヤキャリア（3）に載せます。



82M47100

3 タイヤキャリア（3）を持ち上げながらボルト（4）へひっかけ、取り付けナット（2）を締めます。

- 取り付けナットを締めるとき、次の図のようにボルト部先端（5）と取り付けナット下面（6）の高さを合わせます。

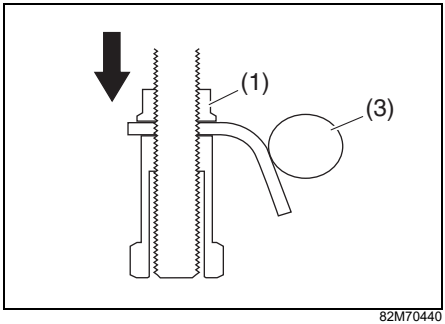


82M47040

注 記

取り付けナット下面とボルト部先端を合わせず締めすぎると、燃料タンクが変形するおそれがあります。

4 ロックナット（1）を手でまわし、タイヤキャリア（3）に当たるまで下方向に移動させます。



82M70440

5 ホイールナットレンチを使用して、取り付けナットを確実に締め付けます。

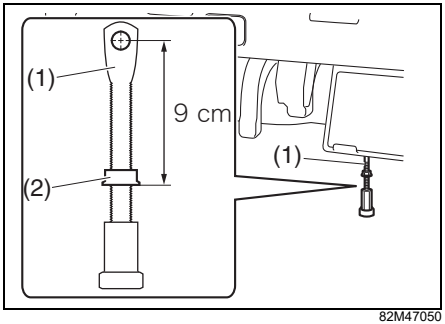
⚠注意

取り付けナットを締め付けたあと、タイヤを前後にゆすってガタつきがあるときは、タイヤキャリアでの固定はしないでください。
ガタつきがない場合でも、走行時に車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

空気が充填されたスペアタイヤの収納のしかた

空気がしっかり充填されたスペアタイヤを収納するときは、次の手順で行なってください。

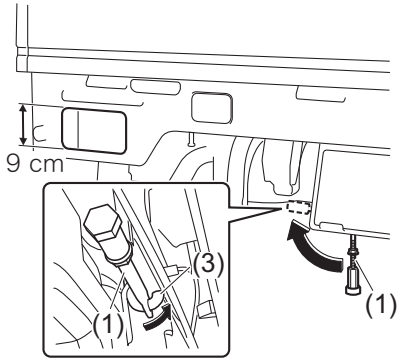
1 ボルト（1）の上部にある穴の中心から、ロックナット（2）下面までの寸法を9 cm に調節します。



82M47050

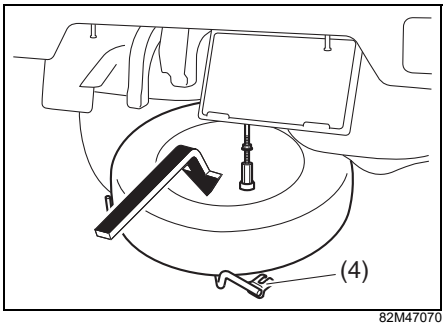
アドバイス

- 目安として、リヤコンビネーションランプの高さが 9 cm です。寸法を測定する工具などがない場合は、ボルト（1）を取り外してリヤコンビネーションランプの高さに合わせてください。
- ボルト（1）を取り外すときは、ボルトを図のように横に持ち上げ、車両後方に向かって動かし、フック（3）から取り外します。



82M47060

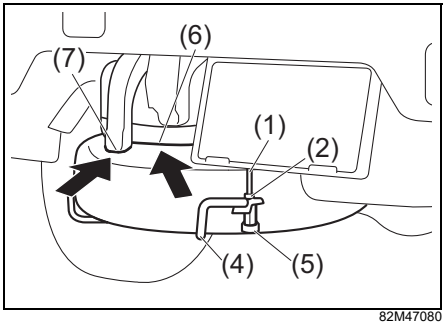
2 ボルトを取り外した場合はフックへ取り付け、ホイール表面を上にしてタイヤをタイヤキャリア（4）に載せます。



82M47070

3 タイヤキャリア（4）を持ち上げながらボルト（1）へひっかけ、取り付けナット（5）を締めます。

4 タイヤキャリア（4）がロックナット（2）に当たるまで締め付けたとき、タイヤと燃料タンク（6）、およびストッパー（7）とのすきまがなくなることを確認します。
ただし、ストッパーとの間にわずかなすきまがあっても、タイヤを前後にゆすってガタつきがなければ問題ありません。



82M47080

⚠注意

ストッパー（7）とタイヤの位置が前後方向で合わないときは、タイヤキャリア（4）が変形しているおそれがあります。この場合、タイヤキャリアを使用せずに、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

5 ホイールナットレンチを使用して、取り付けナットを確実に締め付けます。

⚠注意

取り付けナットを締め付けたあと、スペアタイヤを前後にゆすってガタつきがないことを確認してください。ガタつきがある状態で走行すると、燃料タンクを損傷したり、思わぬ事故の原因となります。
ガタつきがない場合でも、走行時に車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

アドバイス

手順どおりに取り付けてもタイヤ上面と燃料タンク、およびストッパーとのすきまがあるときは、ロックナットの寸法（9 cm）をもう一度確認してください。

タイヤ交換の準備

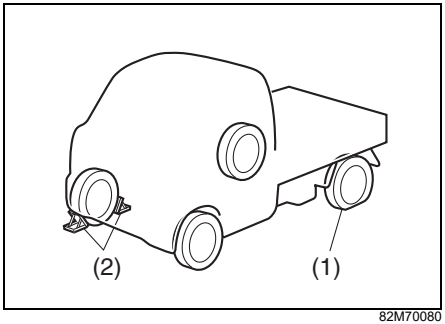
1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

- オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めます。
- マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。
- 4WD切替えレバー付車は、レバーを〔N〕以外にします。
  → **4-25ページ（4WD切替えレバー）**

必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

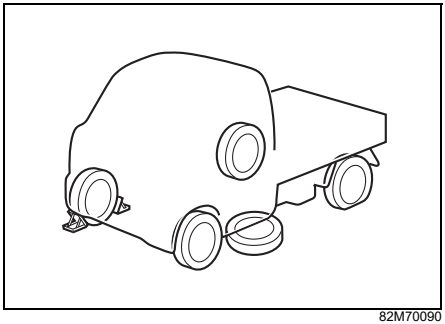
3 交換するタイヤ（1）と対角線の位置にあるタイヤの前後に、輪止め（2）（市販品）を置きます。



82M70080

4 工具、ジャッキ、スペアタイヤを取り出します。同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。

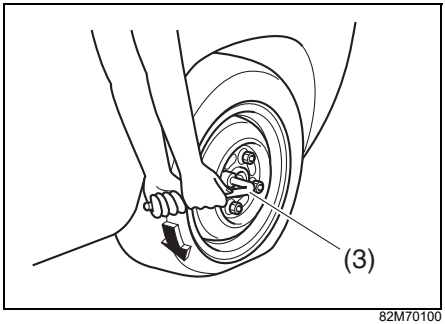
- 万一ジャッキが外れたときに足などをはさまないために、取り出したスペアタイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。


82M70090

アドバイス

スペアタイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

5 ホイールナットレンチ（3）でホイールナット4個を反時計方向にまわし、手でナットが軽くまわるくらいまでゆるめます。



82M70100

ジャッキアップ

ジャッキアップする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。

- オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めてください。
- マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れてください。
- 4WD切替えレバー付車は、レバーを〔N〕以外にしてください。

→ **4-25ページ（4WD切替えレバー）**

⚠警告

万一ジャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

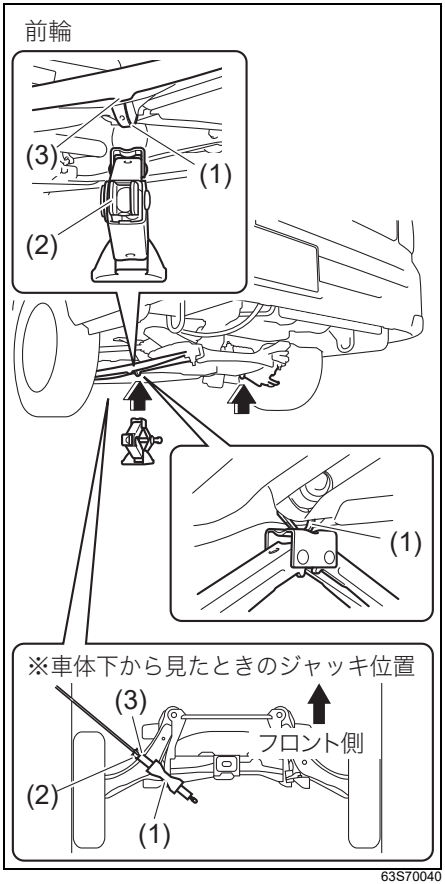
- **地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。**
- **ジャッキは、タイヤ交換だけに使用してください。**
- **ジャッキはこの車に付属のものを使用し、ほかの車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキをほかの車に使用しないでください。**
- **ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。特に、エンジンマウントメンバーには絶対にかけないでください。エンジンマウントメンバーが変形・破損し、場合によってはエンジンが脱落するおそれがあります。**

→ **7-14ページ（ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは）**

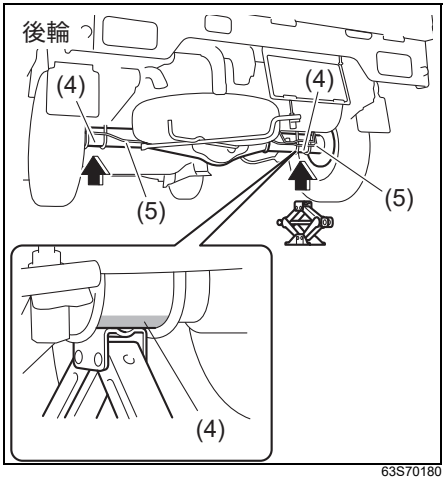
- **ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。**
- **ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。**
- **ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下にものをはさまないでください。**
- **複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。**

1 ジャッキバー取り付け部を手でまわしてジャッキを広げ、ジャッキ頭部を車載ジャッキ指定位置（1）に軽く接触させます。

- 前輪は図のように、ジャッキバー取り付け部（2）がロアアームにある合いマーク（3）と車載ジャッキ指定位置（1）の延長線上にくるようにします。



63S70040



63S70180

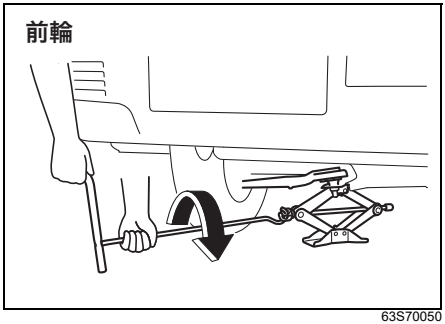
⚠警告

後輪をジャッキアップするときは、車載ジャッキ指定位置（車軸）（4）の中心とジャッキ頭部の中心が確実にあっているか確認してください。中心がずれていると、ジャッキが外れて重大な傷害を受けるおそれがあります。また、ブレーキ配管（5）などの部品が損傷する原因となります。

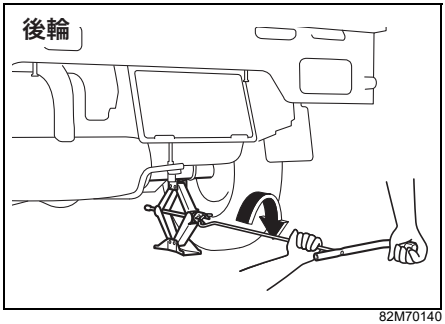
⚠注意

左側後輪をジャッキアップするときは、顔や手などを排気管に当てないでください。走行直後の排気管は高温になるため、やけどのおそれがあります。

2 ホイールナットレンチをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。



63S70050



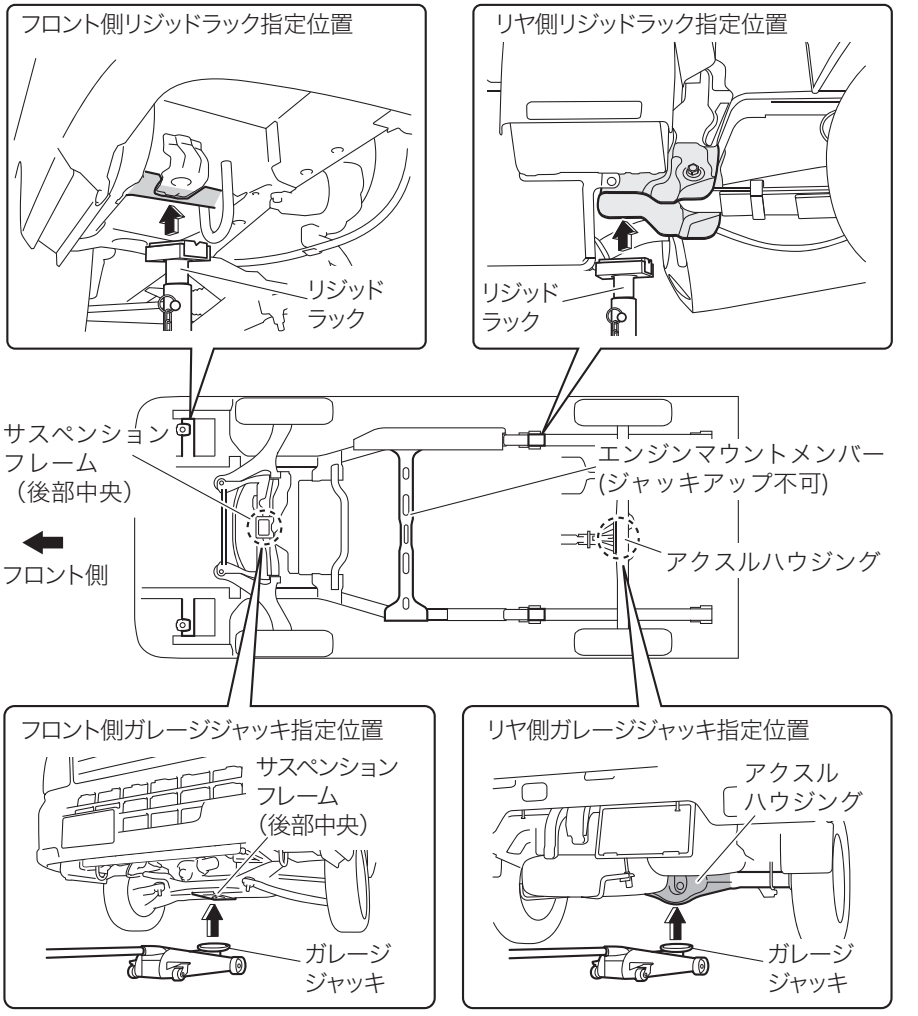
82M70140

⚠注意

ホイールナットレンチをまわすとき、車体の縁に手などを当てないように注意してください。けがのおそれがあります。また、車体に当てると傷がつくおそれがあります。

ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは

ガレージジャッキおよびリジッドラック（市販品）の指定位置を下図に示します。詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



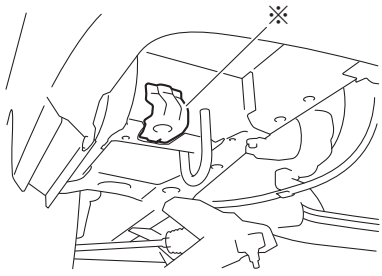
63S70060

⚠警告

- **必ず図に示す指定位置を守ってください。**
- **ジャッキアップした車体を保持する際は、必ずリジッドラックに掛け替えてください。**
- **フロント側またはリヤ側のみをジャッキアップする際は、必ず接地側のタイヤの前後に輪止め（市販品）を置いてください。**

注記

- **車体が変形するおそれがありますので、リジッドラックの頭は平らなものを使用してください。**
- **次の部分（※）のみにリジッドラックをかけると変形するおそれがあります。**



82M70470

タイヤの取り付け･取り外し

1 ホイールナットを外して、タイヤを取り外します。外したタイヤは、車体の下に置きます。

⚠注意

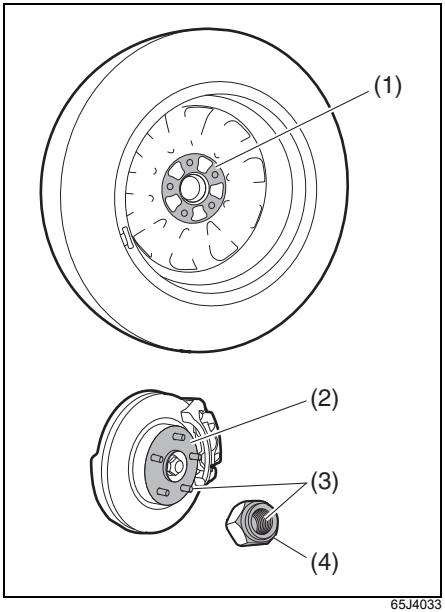
走行直後のホイール、ホイールナット、ブレーキまわりは高温になっていることがあるため、やけどのおそれがあります。
走行直後のホイール、ホイールナット、ブレーキまわりなどには触れないでください。

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

2 次の場所の汚れや異物を取り除きます。

- 交換するホイールの取り付け面（1）
- 車体側の取り付け面（ハブ面）（2）
- ボルトやホイールナットのネジ部（3）
- ホイールナットのテーパー面（4）



65J4033

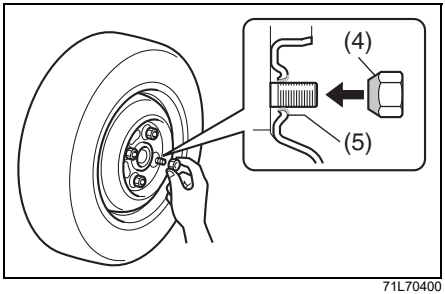
- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

- このとき、ボルトやナットのネジ部、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

●前記の場所に汚れや異物、つぶれや亀裂などの異常があると、走行中にホイールナットがゆるむことがあります。
●ナットやボルトに、オイルやグリスを付着させないでください。必要以上にナットを締めすぎて、ボルトが折れるおそれがあります。

3 ホイールナットのテーパー面（4）が、ホイール穴のテーパー面（5）に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。



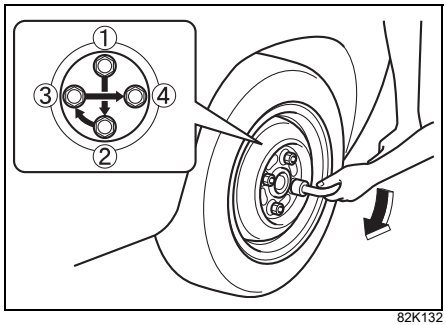
71L70400

4 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。

5 ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットを次の図の順序で2～3回に分けて締め付けます。

締め付けトルク：85 N・m (870 kgf・cm)

- ホイールナットレンチの柄の先端にかかる力は350 N（36 kgf）を目安にしてください。
- すべてのホイールナットが確実に締まっていることを確認してください。



82K132

⚠ 警告

●ホイールナットが確実に締まっていないと、ボルトやブレーキ部品を損傷したり、ホイールが外れたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。トルクレンチ（市販品）を使用せずにタイヤ交換した場合は、できるだけ早くスズキサービス工場で締め付けトルクの点検を受けてください。

●ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプや棒などを追加して締め付けたりすると、ナットを締めすぎてボルトが損傷し、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

既定の締め付けトルクで締める場合は、トルクレンチ（市販品）のご使用をおすすめします。

タイヤを交換したあとは

- 工具とジャッキを所定の位置に収納してください。
- パンクしたタイヤは、スペアタイヤの収納場所に収納してください。
- タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないか確認してください。

⚠ 警告

タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

注記

ホイールだけの状態になった場合、落下する可能性がありますので、スペアタイヤの収納場所には収納しないでください。

バッテリーあがりとは

次のようなときは、バッテリーがあがっています。

- エンジンをかけようとしてもスターターがまわらない。または、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ヘッドライトが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

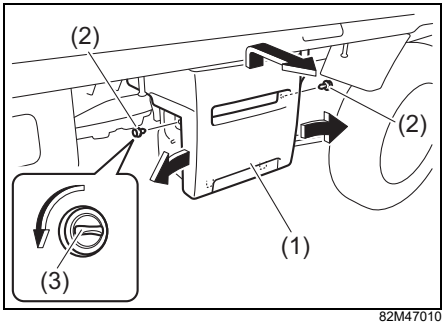
バッテリーカバーの外しかた

1 バッテリーカバー（1）を固定している左右のクリップ（2）を外します。

- クリップは、ノブ（3）を反時計方向にまわして外します。

2 バッテリーカバーを外します。

- カバーを上方にスライドさせてから、カバー上部を左右に広げて手前に引きます。



82M47010

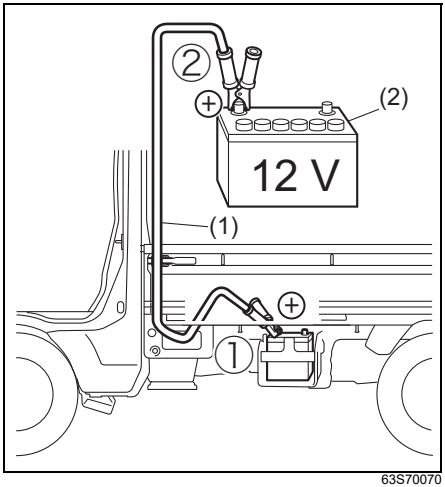
- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと、12 Vバッテリーを使用しているほかのバッテリー正常車があれば、エンジンの始動ができます。

1 1 本目のブースターケーブル（1）を①→②の順序で接続します。

①バッテリーあがり車の ⊕ 端子
②バッテリー正常車の ⊕ 端子



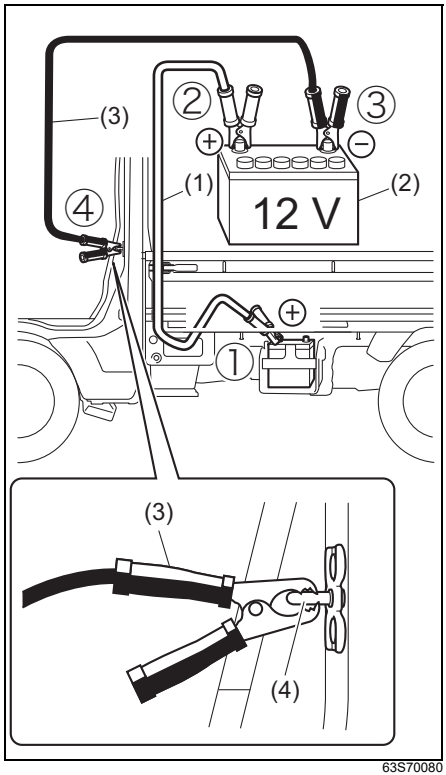
63S70070

(2) 正常車のバッテリー

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

2 2本目のブースターケーブル（3）を③→④の順序で接続します。

③バッテリー正常車の⊖端子
④バッテリーあがり車のドアラッチストライカー（4）



63S70080

(2) 正常車のバッテリー

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

3 バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。

4 バッテリーあがり車のエンジンを始動します。

5 アイドリングストップシステム装備車は、アイドリングストップシステムOFFスイッチを押して、アイドリングストップシステムを停止します。

→ **4-6ページ**
（アイドリングストップシステム）

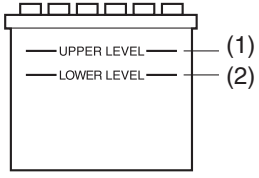
6 取り付けたときと逆の順序で、ブースターケーブルを外します。

7 お近くのスズキ販売店またはスズキ代理店でバッテリーを完全充電します。

⚠ 警告

●バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。

• バッテリーを充電するときやブースターケーブルをつなぐときは、必ずバッテリー液面を確認してください。バッテリー液面が下限（2）以下のままで充電などすると、バッテリーが発熱して爆発のおそれがあります。また、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。
バッテリー補充液を上限（1）まで補充してから、充電などを行なってください。



82K209

• 充電は火気のない風通しの良いところで、すべてのバッテリーキャップ を外して行なってください。

●④の接続のときに、バッテリーがあがった車の ⊖ 端子につながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発のおそれがあります。バッテリーから離れたドアラッチストライカーに接続してください。
●乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火のおそれがあります。
●バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

⚠注意

●ブースターケーブルは確実に接続してください。エンジン始動時の振動などでブースターケーブルが外れると、バッテリー正常車のドライブベルトや冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。
●ショート防止のため、ブースターケーブルの ⊕ 端子は、バッテリーの ⊕ 端子以外の部分（⊖ 端子、ボデー、ブラケットなど）と接触させないでください。
● オートマチック車 は押しがけができません。
マニュアル車 も安全のため、押しがけをしないでください。

注記

アイドリングストップシステム装備車：ブースターケーブルのマイナス側は、必ずドアラッチストライカーに接続してください。誤ってバッテリーのマイナス端子に接続すると、充電が不十分でもアイドリングストップシステムが作動し、エンジン停止後に再始動できなくなる恐れがあります。

バッテリーあがりを防ぐためには

- 1か月に一度は連続して30分以上走行して充電する必要があります。
- エンジンを停止したままライトをつけたり、長時間ナビゲーションやオーディオなどを使用したりしないようにしましょう。
- 渋滞などで長時間アイドリングを続けている場合は、電装品の使用を極力避けてください。

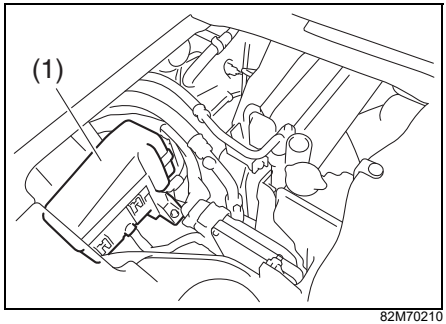
→ 2-3ページ
（バッテリーの液面を点検する）

ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

- ヒューズは、エンジンルーム内（運転席シートの下）と運転席足元にあります。
- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

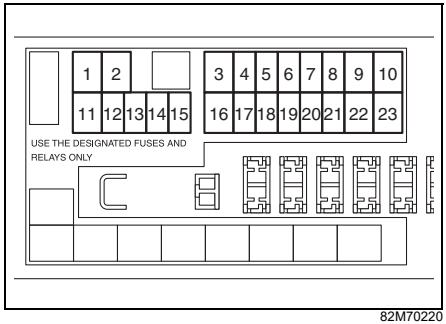
エンジンルーム内（運転席シートの下）のヒューズ



82M70210

(1) ヒューズボックス

ヒューズの表は、ボックスのふたの裏側にあります。



82M70220

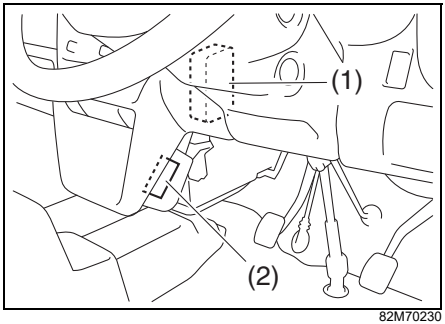
- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	BTRY	40A	室内ヒューズボックス
2	BTRY2	30A	室内ヒューズボックス
3	RDTR	30A	ラジエーターファン
4	4WD	10A	4WD
5	CPRSR	10A	エアコンコンプレッサー
6	ABS2	30A	ABSソレノイド
7	BACK UP	20A	室内ヒューズボックス
8	ST	30A	スターター
9	IGN2	20A	エンジンスイッチ
10	IGN	30A	エンジンスイッチ
11	—	—	—
12	FI	15A	燃料噴射装置
13	TAIL	10A	尾灯
14	STOP	10A	制動灯
15	DCDC1	30A	DCDCコンバーター※1
	T/M	15A	トランスミッション※2
16	P/S	40A	パワーステアリング
17	DCDC2	30A	DCDCコンバーター※1

位置	表示	容量	接続先名称
18	H/L L	15A	ヘッドランプ(左)
19	H/L HI	10A	ハロゲンヘッドランプ※3
	H/L HI L	7.5A	LEDヘッドランプ(左)※4
20	H/L R	15A	ヘッドランプ(右)
21	H/L HI R	7.5A	LEDヘッドランプ(右)※4
22	BLW	25A	ブロワーファン
23	ABS	40A	ABS モーター

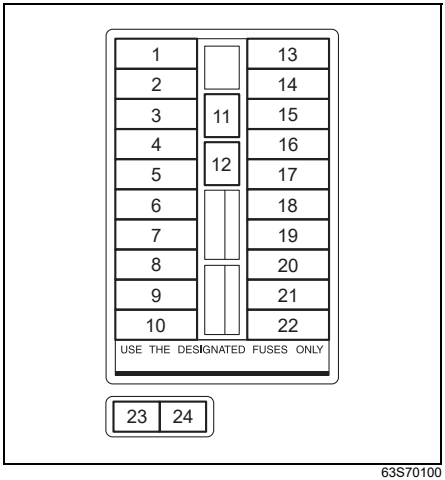
※1 アイドリングストップシステム装備車
※2 アイドリングストップシステム非装備車の4AT車
※3 ハロゲンヘッドランプ装備車
※4 LEDヘッドランプ装備車

運転席足元のヒューズ



82M70230

(1) ヒューズボックス
(2) ヒューズの表



63S70100

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	WIP	20A	ワイパー
2	IG2 SIG	7.5A	パワーウインドー/ブロワーファン
3	T/M3	15A	トランスミッション※5
4	HORN	10A	ホーン
5	HAZ	10A	非常点滅表示灯
6	RADIO	15A	ラジオ
7	DOME2	7.5A	室内灯
8	DOME	7.5A	室内灯
9	IG1 SIG2	7.5A	トランスミッション
10	IG1 SIG	7.5A	トランスミッション
11	D/L	15A	ドアロック
12	P/W	20A	パワーウインドー
13	ACC2	7.5A	アクセサリー
14	ACC	15A	ラジオ/アクセサリー
15	DECK LP	7.5A	作業灯
16	CONT	7.5A	コントローラー※6
17	METER	7.5A	メーター
18	BACK	10A	後退灯
19	ABS	7.5A	ABS
20	ST SIG	7.5A	スターター
21	A/B	10A	エアバッグ
22	IG COIL	15A	イグニッションコイル
23	DUMP	15A	ダンプ
24	FOG	15A	フォグランプ

※5 アイドリングストップシステム装備車の4AT車
※6 ハイビームアシスト装備車

ヒューズの点検と交換

ヒューズの点検・交換には、ヒューズ抜き（低背ヒューズ用、市販品）および交換用ヒューズ（別売り）が必要となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

点検・交換のしかた

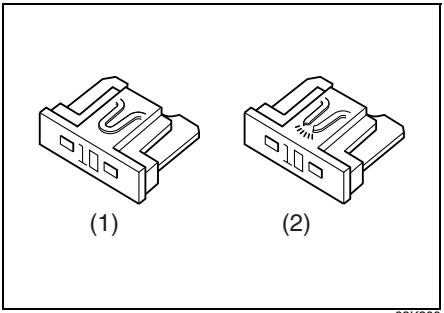
1 エンジンスイッチを LOCK (OFF) にします。

2 エンジンルーム内のヒューズボックスはカバーを外します。

3 故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズの表で確認します。ヒューズ抜き（市販品）をヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。

4 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

- 交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。



82K208

(1) 正常なヒューズの例
(2) 切れたヒューズの例

⚠警告

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

電球の点検

ライトやランプ、方向指示器／非常点滅表示灯などを点灯または点滅させて、電球切れがないか点検してください。

アドバイス

- 制動灯はほかの人に見てもらうか、壁などを利用して点検してください。
- メーター内の方向指示器表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

ヘッドランプなどのレンズ内面のくもり

ヘッドランプやリヤコンビネーションランプなどは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が曇ることや結露することがあります。これは、ランプ内外の温度差により一時的に起こる現象です。（雨天時などに窓ガラスが曇るのと同じ現象です。）
また、レンズの縁に水滴が付着しランプ内に水が入っているように見えることがあります。これは、ランプの外側に水が付着することで一時的に起こる現象です。
これらは機能上の問題はありません。
ただし、ランプ内に水がたまっているときやレンズ内面に大粒の水滴がついているときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

電球を交換するときは

電球が切れているときは、ワット数および型式が同一の電球と交換してください。電球のワット数および型式は、サービスデータ（**8-4ページ**）をご覧ください。

- 電球を交換しても点灯しない、またはすぐ切れるときは電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠注意

電球を交換するときは、次のことをお守りください。

- **安全で平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。**
- **エンジンを止め、各ランプを消灯させ、エンジンや排気管、電球などが十分に冷えてから行なってください。やけどのおそれがあります。**
- **ハロゲン電球は高圧ガスを封入しているため、とくに慎重に扱ってください。割れるとガラスが飛散して、けがのおそれがあります。**
- **車両の部品などで手や腕などをけがしないよう、長袖の上着と手袋を着用してください。**



82M70250

注 記

ハロゲン電球を扱うときは、油脂類が付着していない、きれいな手袋をはめてください。使用時電球が高温になるため、素手で扱ってガラス部分に油などが付着すると、発熱による早期電球切れのおそれがあります。

非分解式ランプ

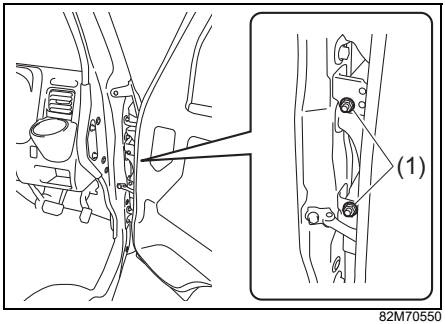
次のランプは非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- LEDヘッドランプ（タイプ別装備）
- LEDヘッドランプ車の車幅灯

ハロゲンヘッドランプ

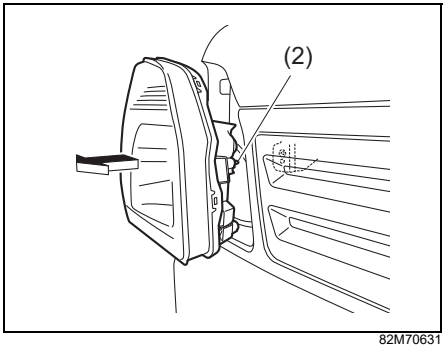
タイプ別装備

1 交換する側のドアを開け、ドア開口部のナット（1）2か所をスパナ（市販品）などで外します。



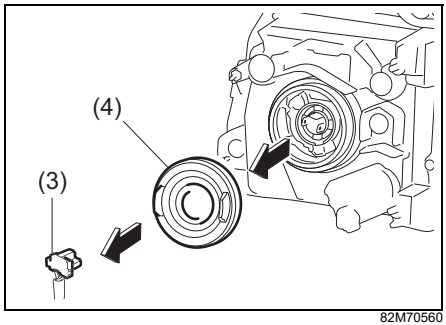
82M70550

2 ランプ本体を車両の前方へまっすぐ引いてクリップ (2) 1 か所を引き抜いて外します。
クリップが固く、外しにくい場合は、バンパーのすきまからマイナスドライバー（市販品）などを差し込んでクリップを外してください。



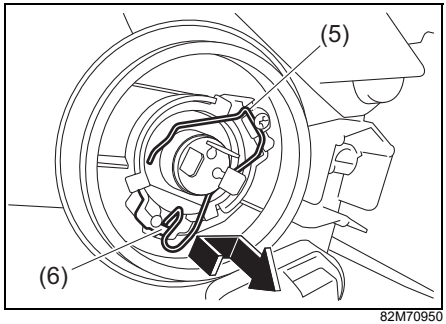
82M70631

3 カプラー（3）は、カプラー本体をしっかり持って外します。ゴムカバー（4）を引いて外します。



82M70560

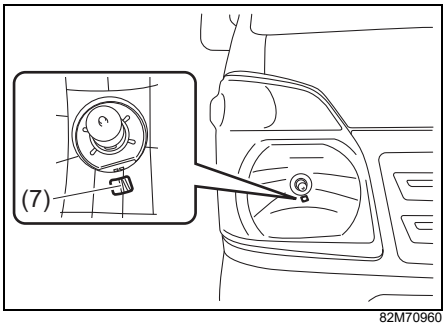
4 止め金（5）を図の矢印のように、押しながらずらして固定フック（6）から外します。



82M70950

アドバイス

止め金の固定状態は、電球近くの穴（7）を通して車両前方からも確認できます。

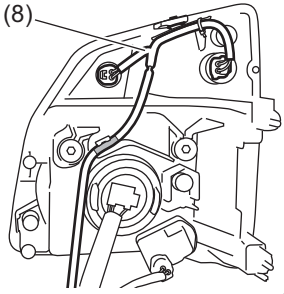


82M70960

5 電球を外します。交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

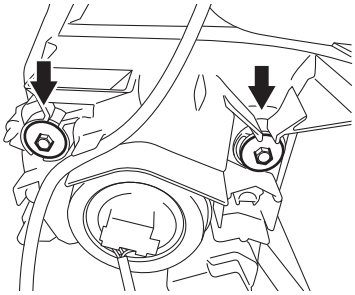
⚠注意

●配線(8)を元の位置に取り付けてください。配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。



82M70980

●ヘッドランプの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用のネジに触れないでください。



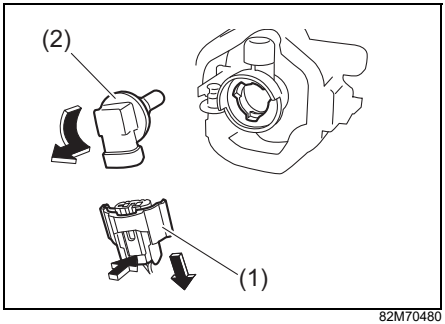
82M70580

●電球を交換したあとは、スズキサービス工場にて、ヘッドランプの光軸の点検を受けてください。

フォグランプ

タイプ別装備

- バンパーの裏側から交換します。
  - カプラー（1）は、ツメを押しながら外します。
  - カプラーを外したあとに電球（ソケット一体式）（2）を反時計方向にまわして外します。



82M70480

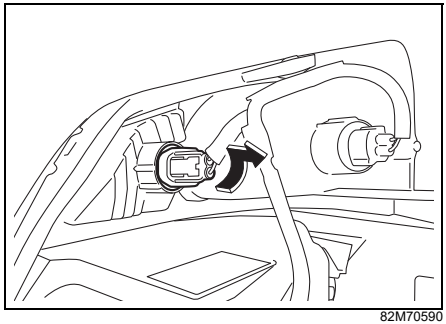
- 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

ハロゲンヘッドランプ車の車幅灯

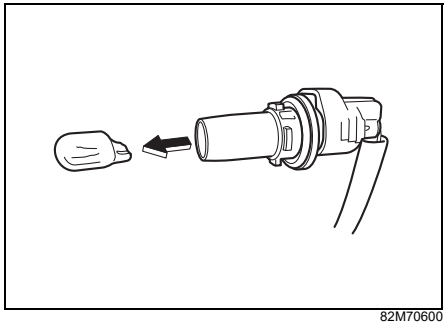
タイプ別装備

1 **ハロゲンヘッドランプ**（**7-26 ページ**参照）の手順 1 ～ 2 を参考にしてライト本体を外します。

2 ソケットを反時計回りに回して外します。


82M70590

3 ソケットから古い電球を引き抜いて、新しい電球を差し込みます。


82M70600

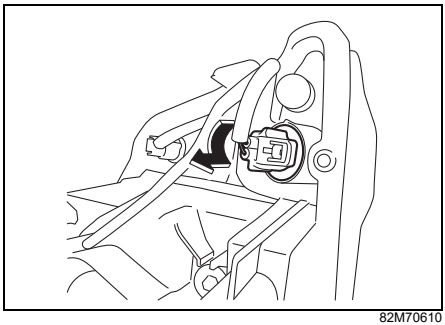
4 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

ハロゲンヘッドランプ車の前面方向指示器／非常点滅表示灯

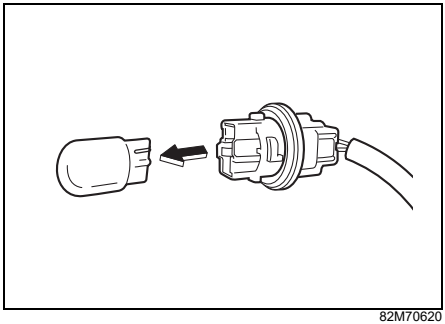
タイプ別装備

1 **ハロゲンヘッドランプ**（**7-26 ページ**参照）の手順 1 ～ 2 を参考にしてライト本体を外してから交換します。

2 ソケットを反時計回りに回して外します。


82M70610

3 ソケットから古い電球を引き抜いて、新しい電球を差し込みます。


82M70620

4 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

LED ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け

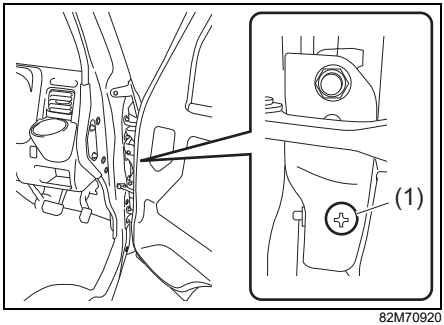
タイプ別装備

LEDヘッドランプ車の以下の電球を交換するときは、ヘッドランプ本体を取り外します。

- 前面方向指示灯/非常点滅灯
- 側面方向指示灯/非常点滅灯

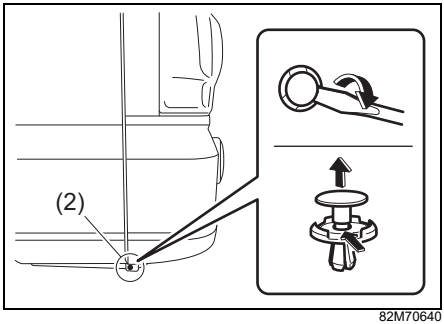
■ LED ヘッドランプ本体の取り外し

1 両側のドア開口部のネジ（1）1か所をプラスドライバー（市販品）で外します。



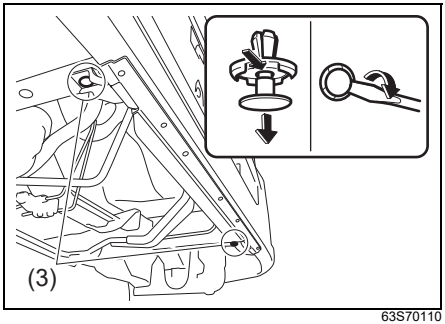
82M70920

2 バンパー両側面下部のクリップ（2）1か所をマイナスドライバー（市販品）でこじって外します。



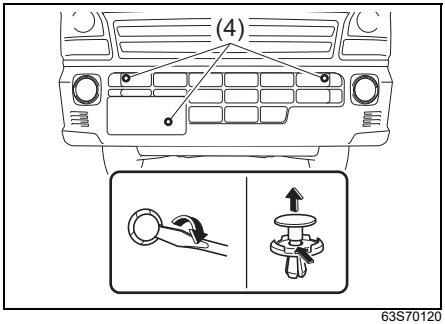
82M70640

3 バンパー底部のクリップ（3）2か所をマイナスドライバー（市販品）でこじって外します。



63S70110

4 バンパー正面のクリップ（4）3か所をマイナスドライバー（市販品）でこじって外します。

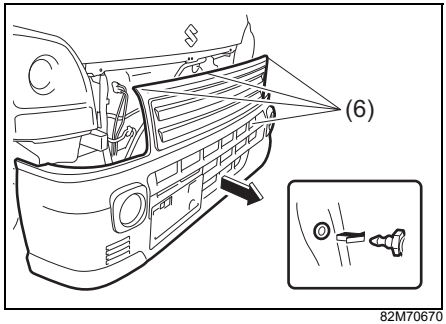


63S70120

5 フォグランプ装着車はフォグランプのカプラーを外します。

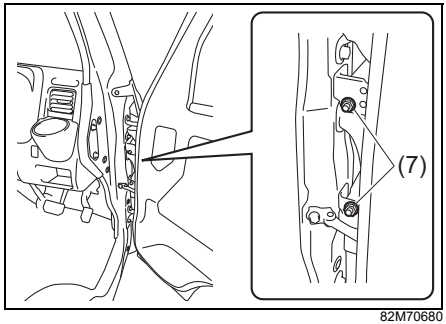
→ **7-28ページ（フォグランプ）**

6 フロントバンパー本体を車両の前方へまっすぐ引いてクリップ（6）4か所を取り外します。



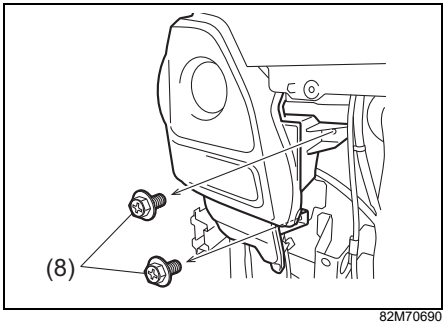
82M70670

7 ヘッドランプ本体を取り外す側のドアを開け、ドア開口部のナット (7) 2 か所をスパナ（市販品）などで外します。



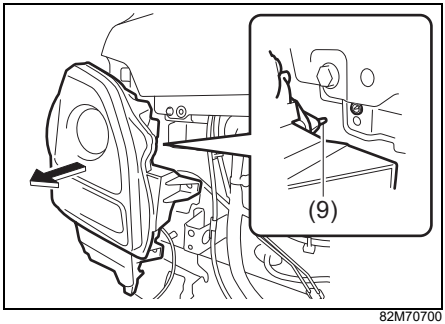
82M70680

8 ヘッドランプ本体を固定しているボルト (8) 2 か所をプラスドライバー（市販品）などで外します。



82M70690

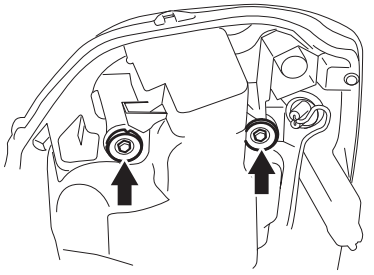
9 ライト本体を車両の前方へまっすぐ引いてクリップ (9) 1 か所を引き抜いて外します。



82M70700

⚠注意

ヘッドランプの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用のネジに触れないでください。

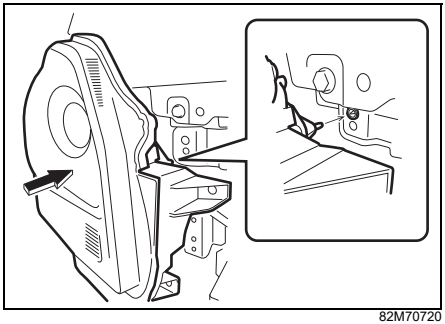


63S70130

■ LED ヘッドランプ本体の取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順でもとにもどします。

- ヘッドランプ本体をもとにもどすときは、クリップを車体側の穴にあわせて押し込みます。



82M70720

- ヘッドランプ本体を固定しているボルト（2 個）の再利用はできません。新しいボルトの入手はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

⚠注意

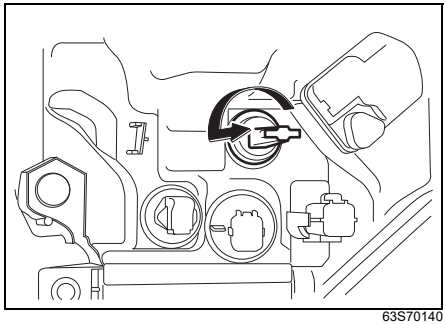
- **電球を交換したあとは、スズキサービス工場にて、ヘッドランプの光軸の点検を受けてください。**
- **超音波センサー装着車（タイプ別装備）は、電球を交換したあと、スズキサービス工場にて、超音波センサー取付角度測定の点検を受けてください。**

LED ヘッドランプ車の前面方向指示器/非常点滅表示灯

タイプ別装備

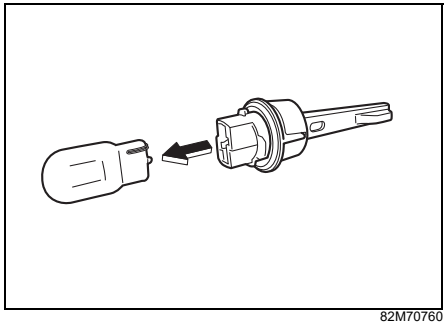
1 ヘッドランプ本体を取り外します。
→ **7-30 ページ（LED ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け）**

2 ソケットを反時計回りに回して外します。



63S70140

3 ソケットから古い電球を引き抜いて、新しい電球を差し込みます。



82M70760

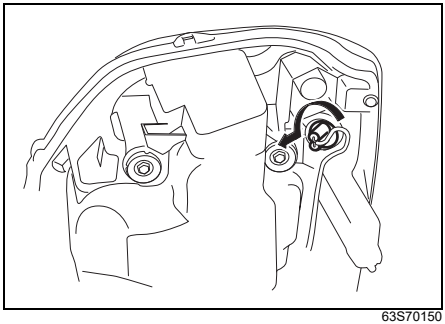
4 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

LED ヘッドランプ車の側面方向指示器/非常点滅表示灯

タイプ別装備

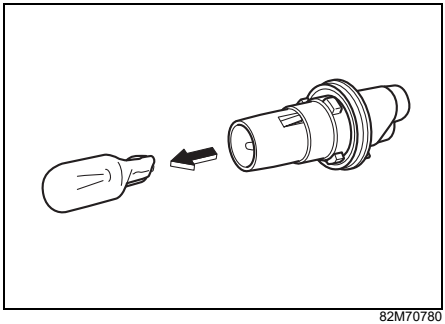
1 ヘッドランプ本体を取り外します。
→ **7-30 ページ（LED ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け）**

2 ソケットを反時計回りに回して外します。



63S70150

3 ソケットから古い電球を引き抜いて、新しい電球を差し込みます。



82M70780

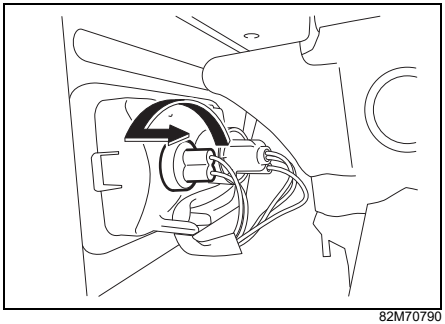
4 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

リヤコンビネーションランプ

■ 後面方向指示器/非常点滅表示灯

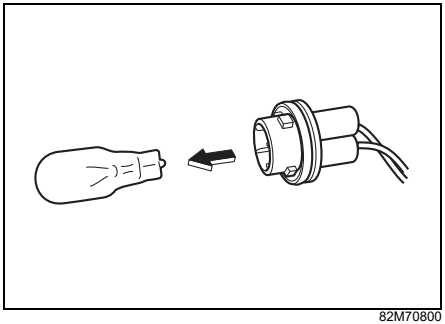
リヤコンビネーションランプの裏側から交換します。

1 ソケットを反時計回りに回して外します。



82M70790

2 ソケットから古い電球を引き抜いて、新しい電球を差し込みます。



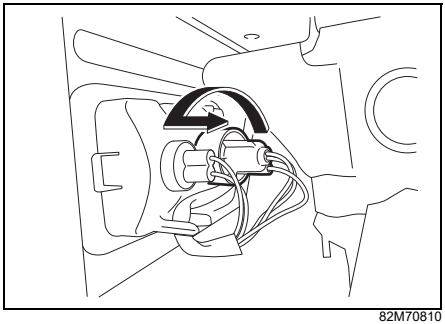
82M70800

3 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

■ 制動灯/尾灯

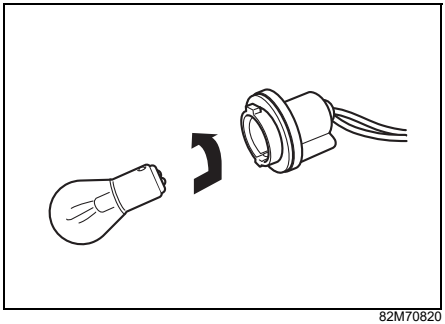
リヤコンビネーションランプの裏側から交換します。

1 ソケットを反時計回りに回して外します。



82M70810

2 ソケットから古い電球を押しながら反時計方向に回して外し、新しい電球と取り替えます。



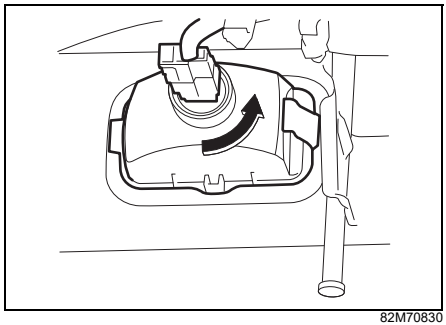
82M70820

3 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

後退灯

後退灯の裏側から交換します。

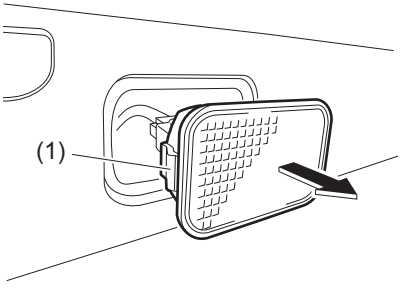
1 ソケットを反時計回りに回して外します。



82M70830

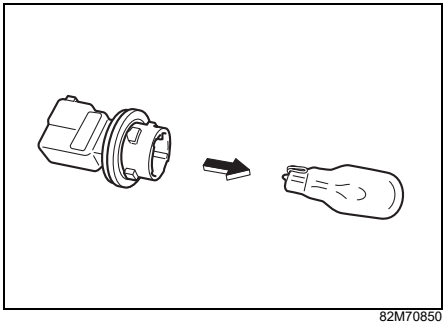
アドバイス

電球ソケットが取り外しにくいときは、後退灯本体を手前に引き出してください。後退灯裏側のツメ（1）を押すと、引き出せます。



82M70840

2 ソケットから古い電球を引き抜いて、新しい電球を差し込みます。

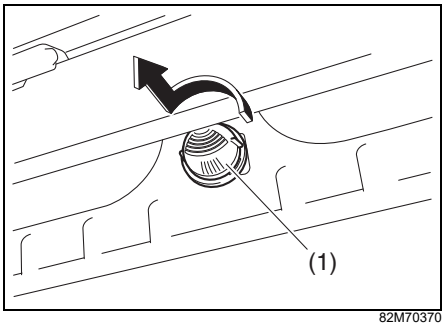


82M70850

3 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

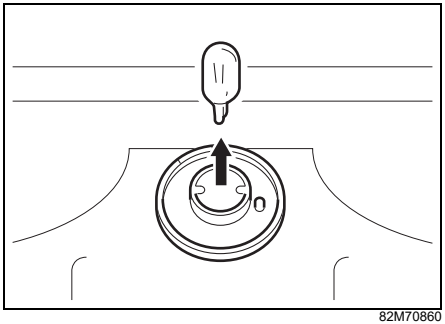
番号灯

1 レンズ（1）を反時計方向にまわして外します。



82M70370

2 ソケットから古い電球を引き抜いて、新しい電球を差し込みます。

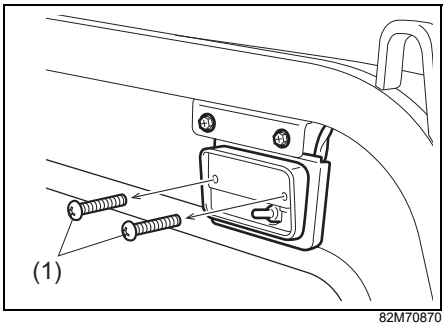

82M70860

3 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

荷台作業灯

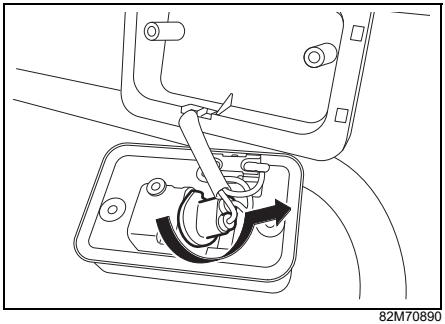
タイプ別装備

1 ネジ（1）2 か所をプラスドライバー（市販品）で外します。

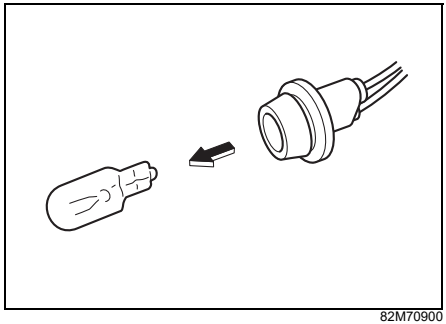


82M70870

2 ソケットを反時計回りに回して外します。


82M70890

3 ソケットから古い電球を引き抜いて、新しい電球を差し込みます。



82M70900

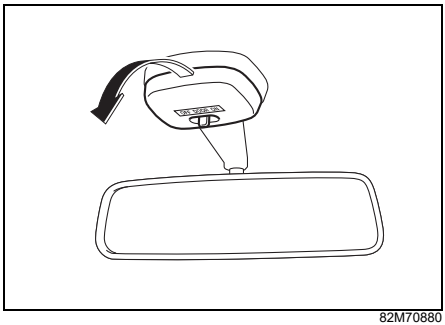
4 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

注 記

もとにもどすときは、ゴムパッキンが確実にはまっていることを確認してください。ゴムパッキンが損傷するおそれがあります。ゴムパッキンが確実にはまっていなかったり損傷したりすると、故障するおそれがあります。

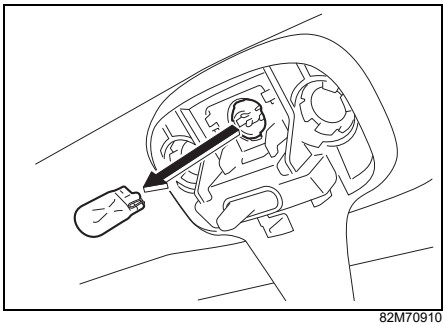
室内灯

1 レンズを矢印の方向に引いて取り外します。



82M70880

2 電球を引き抜いて、新しい電球を差し込みます。



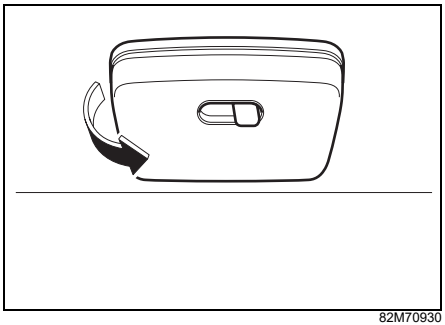
82M70910

3 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

後部ルームランプ

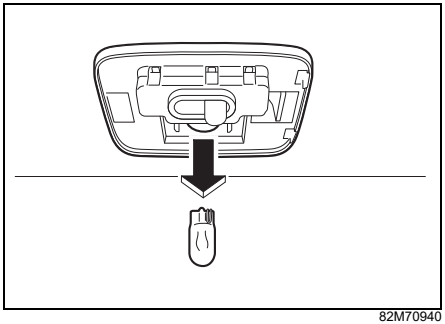
スーパーキャリイ

1 レンズを矢印の方向に引いて取り外します。



82M70930

2 電球を引き抜いて、新しい電球を差し込みます。



82M70940

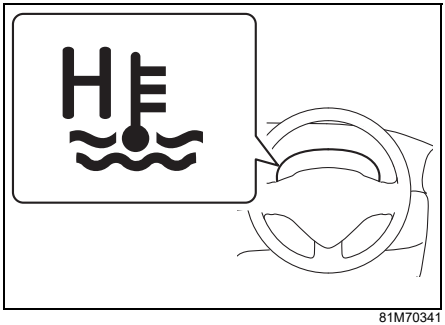
3 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

オーバーヒートとは

ラジエーターなどの冷却システムによるエンジンの冷却が間に合わなくなり、冷却水を適温に保てなくなった状態をオーバーヒートといいます。
次のようなときは、オーバーヒートです。

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている
- エンジンの力が急に落ちた
- エンジン冷却水温が異常に高くなって、メーターパネル内の水温警告灯が赤色に点灯または点滅している

水温警告灯



81M70341

メータパネル内にあります。

- エンジン回転中に、エンジン冷却水温が異常に高くなったときは赤色に点灯または点滅します。
  → **1-10ページ（警告灯）**

オーバーヒートしたときは

1 車を安全な場所に止めます。
- 必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

2 エンジンをかけたままでドアおよびエンジンルームを開けて、エンジンルーム内の風通しをよくします。
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、エンジンルームを開けずに次の手順を行なってください。
→ **5-30ページ（エンジンルーム）**

⚠ 警告

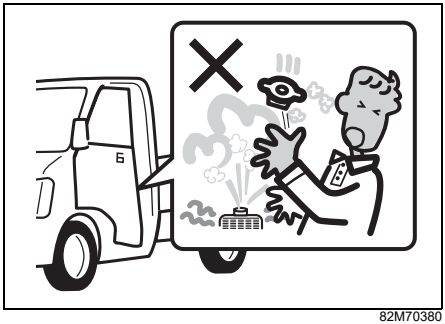
エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、エンジンルームを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどのおそれがあります。

3 冷却ファンの作動を確認し、水温警告灯が消灯するのを待ってエンジンを止めます。
- 冷却ファンが作動していないときや、水温警告灯が消灯しないときは、ただちにエンジンを止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れを点検します。

⚠ 警告

ラジエーターキャップは、エンジンが十分に冷えてから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。

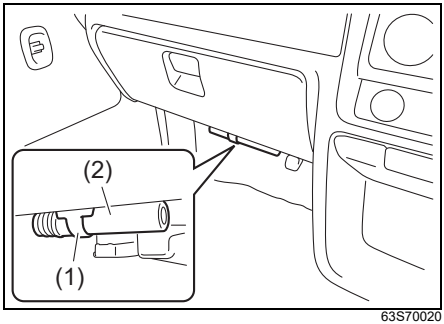


82M70380

5 冷却水の量が不足しているときは補充します。
- 水漏れなどの異常があるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
- 冷却水がなく、やむをえず水だけを補充したときは、できるだけ早くスズキサービス工場で冷却水の点検または交換をしてください。

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元のホルダーに取り付けています。
- 点火すると約 5 分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。発炎筒はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。



63S70020

(1) ホルダー　　(2) 発炎筒

⚠ 警告

●お子さまにはさわらせないでください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。
●必ずホルダーに保管してください。
●点火するときは、筒先を顔や身体に向けないでください。やけどのおそれがあります。
●ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因となります。
●トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅表示灯をご使用ください。

故障したときは

故障したときの連絡先は

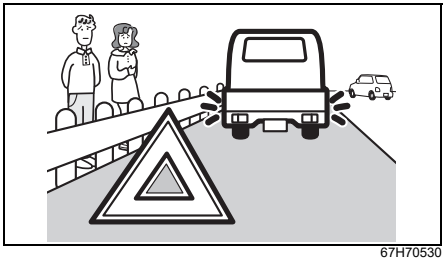
お買い求めのスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。スズキ代理店および JAF の連絡先は、別冊の「**スズキ 4 輪車サービスネットワーク**」をご覧ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

車を路肩などに止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。

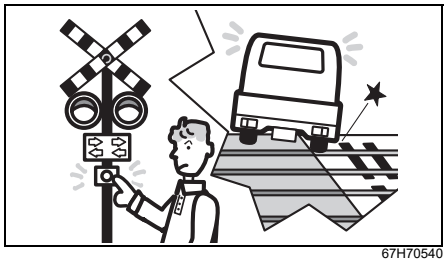


67H70530

全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

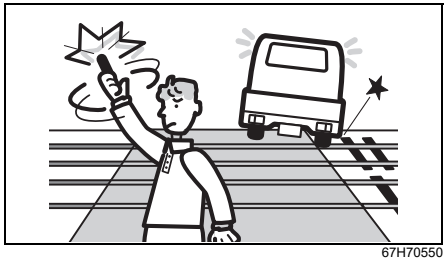
踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



67H70540

踏切の非常ボタンがわからないときは、発炎筒で列車に合図してください。



67H70550

エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などでエンストして動けなくなったときは、付近の人に押してもらって、車を安全な場所まで移動させてください。
このとき、次のようにします。

- オートマチック車 はセレクトレバーを N に入れます。
- マニュアル車 はチェンジレバーを N（ニュートラル）に入れます。



67H70560

アドバイス

- マニュアル車、 オートマチック車 ともエンジンスイッチを START の位置で保持して緊急避難的に車を動かすことはできません。
- オートマチック車 の場合、エンジンスイッチを ON にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーを P からほかの位置へ動かせないときは、**4-16ページ**の手順でシフトロックを解除してください。

けん引してもらうときは

- レッカー車でけん引するとき、4 輪または駆動輪である後輪を持ち上げてください。
- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- エンジンがかかっていても車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置の故障が考えられます。けん引する前に、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

⚠ 警告

ステレオカメラ装備車をけん引する場合は、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF スイッチを操作して、作動停止の状態にしてください。急に DCBS が作動して思いがけない事故につながるおそれがあります。

→ 4-65 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF スイッチ）

■ パートタイム4WD車

後輪だけを持ち上げてけん引するときは、安全や駆動装置の保護のため、必ずけん引の前に2WDに切替えてください。



67H70570

→ **4-25ページ（4WD切替えレバー）**
→ **4-29ページ（4WDスイッチ）**

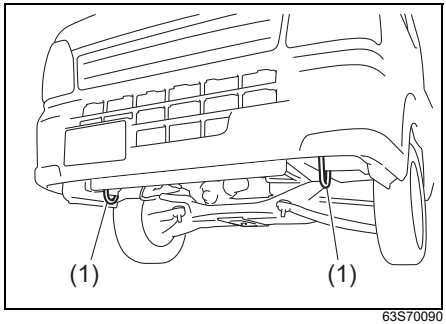
⚠ 警告

パートタイム 4WD 車は、4WD のままで前輪だけまたは後輪だけを台車に載せた（車輪が回転できない）状態で絶対にけん引しないでください。車が台車から飛び出すなどの思いがけない事故につながるおそれがあります。また、駆動装置が破損する原因となります。

ロープけん引

ロープをかける位置は

ロープは、けん引フック（1）にかけます。



63S70090

注 記

この車で他車をけん引することはできません。

ロープでけん引してもらうときは

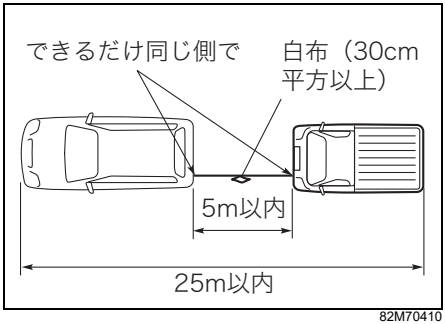
1 けん引フックにロープをかけます。

- ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平にかけてください。

注 記

けん引中に、ロープがバンパーを傷つけるおそれがあるときは、あらかじめバンパーを外してください。

2 ロープの中間に白い布（30 cm平方以上）を付けます。



82M70410

3 エンジンはかけたままにします。

- エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを LOCK (OFF) 以外の位置にします。
- ハンドルを左右にまわして、ハンドルロックが解除されているか確認します。
- デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）装備車の場合、エンジンがかかっているときは、デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFF スイッチを操作して作動停止の状態にします。
  → **4-65 ページ（デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ）**
- 4WD車は、駆動状態を2WDにします。
  → **4-25ページ（2WD⇆4WDの切替え操作）**
- デフロック装備車は、デフロックスイッチを切ります。
  → **4-29ページ（デフロックスイッチ）**

⚠警告

エンジンがかからない車の運転は

- **キーを抜いたりエンジンスイッチを LOCK（OFF）の位置にしたりしないでください。ハンドルがロックされてまわせなくなります。**
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、いつもより強めにブレーキペダルを踏んでください。**
- **パワーステアリング装置（タイプ別装備）が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。**

⚠注意

故障やバッテリーあがりなどでハンドルロックが解除できないときは、ロープでけん引しないでください。

4 オートマチック車 はセレクトレバーを N に入れます。

マニュアル車 はチェンジレバーをN（ニュートラル）に入れます。

⚠注意

N（ニュートラル）にできないときは、ロープけん引できません。スズキ代理店や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。

アドバイス

オートマチック車 の場合、故障やバッテリーあがりなどで、エンジンスイッチを ON にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーを P からほかの位置へ動かせないときは、**4-16 ページ**の手順でシフトロックを解除してください。

5 けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。

- 後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅表示灯を点滅させてください。

⚠警告

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープけん引をせず、レッカー車を依頼してください。エンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

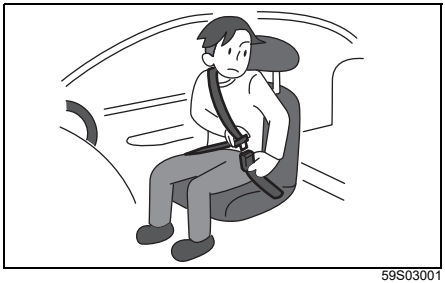
注記

- **けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。**
- **オートマチック車 を、やむをえずロープでけん引してもらうときは、トランスミッション保護のため、速度30 km/h以下、走行距離30 km以内にしてください。**

水没したときは

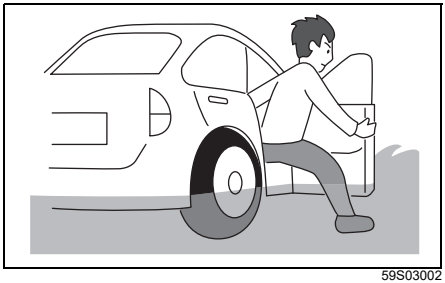
万一、お車が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。



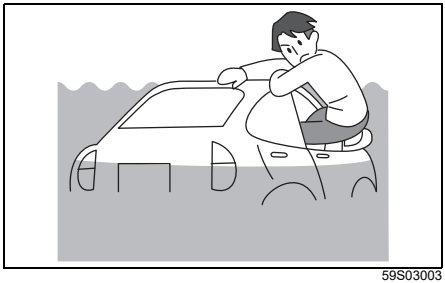
59S03001

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。



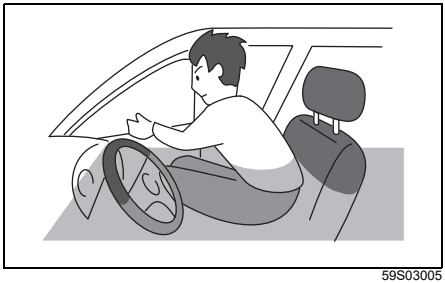
59S03002

- パワーウインドー装備車はパワーウインドースイッチでウインドーガラスを開けてください。手動ウインドー装備車はドアにあるハンドルをまわして、ウインドーガラスを開けてください。ドアを開けることができない場合、窓から車外に出てください。



59S03003

- パワーウインドー装備車は、パワーウインドースイッチでウインドーガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差が無くなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。



59S03005

⚠ 警告

●水没した後、時間が経過するとパワーウインドーが動作しなくなります。（パワーウインドー装備車）
●この車のドアガラス・リヤガラスは緊急脱出用ハンマー（別売り）で割ることができますが、フロントガラスは合わせガラスのため緊急脱出用ハンマー（別売り）で割ることができません。
●着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

アドバイス

車内外の水位差に応じた方法で対処してください。
●水位差がある場合は窓から避難してください。
●水位差がない場合はドアを開けて避難してください。

万一、事故が起きたときは

処置のしかた

1 事故の続発を防ぐため、ほかの交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、エンジンを止めます。

2 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。

3 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。

4 相手方、事故の状況をメモします。

5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

外傷がなくても医師の診断を受けましょう

後遺症が出るおそれがあります。

項　　目		データ	
燃料	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	タンク容量	34 L	
エンジンオイル（※）	グレード	エクスターF SN 0W-16プラス エクスターF SN 0W-20	
	規定量	オイル交換時	2.7 L
		オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8 L
トランスミッションオイル（MT車）	グレード	スズキ4輪ギヤオイル　75W　シンセティック	
	規定量	2WD車	1.4 L
		4WD車	2.6 L
トランスミッションフルード（AT車）	グレード	スズキATF 3317	
	規定量	5.5 L	
トランスファーオイル（4WD/AT車）	グレード	スズキ4輪ギヤオイル　75W-80	
	規定量	1.2 L	
デファレンシャルオイル	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル　75W-85	
	規定量	フロント（4WD車）	0.58 L
		リヤ	0.95 L

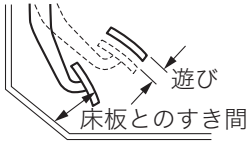
※適切なオイルのご使用方法については、**2-31 ページ**の「**エンジンオイルの規格／粘度**」をお読みください。0W-16は燃費性能に優れたオイルです。

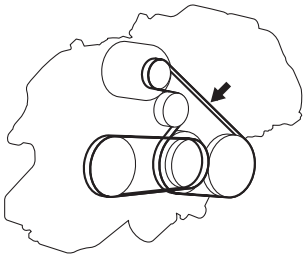
- 油脂類などの交換時期は、「**メンテナンスノート**」をご覧ください。
- 指定外のトランスミッションフルードは絶対に入れないでください。

項目		データ		
冷却水	グレード	スズキ純正スーパーロングライフクーラント（青色）		
	規定量	MT車		3.7 L
		AT車		3.8 L
ウォッシャー液	グレード	スズキエクスターウインドーウォッシャー液		
	タンク容量	1.4 L		
ブレーキ液	グレード	スズキ純正ブレーキフルード（DOT-3）		
スパークプラグ	タイプ	NGK：SILKR7F11		
	電極のすきま	1.0〜1.1 mm		
バッテリー	タイプ	鉛バッテリー	アイドリングストップシステム非装備車	38B19R
			アイドリングストップシステム装備車	K-42R
フロントブレーキ	ディスク厚さ（※）	基準値（新品時）		12.0 mm
		限度値		10.0 mm
リヤブレーキ	ドラム内径（※）	キャリイ／スーパーキャリイ	基準値（新品時）	180 mm
			限度値	182 mm
		特装車シリーズ	基準値（新品時）	220 mm
			限度値	220.9 mm
ブレーキペダル	遊び	1〜8 mm		
	床板とのすきま（水平方向）	84 mm以上〔踏込力 300 N （31 kgf）〕		

- 油脂類などの交換時期、規定の冷却濃度は、「**メンテナンスノート**」をご覧ください。
- 指定外のブレーキ液は絶対に入れないでください。

※ 点検して限度値に達していたら、ディスクやドラムを新品に交換してください。なお、点検するには、ブレーキ装置の分解とマイクロメーターやキャリパーゲージによる測定が必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

<table>
<tr><th colspan="2">項　　目</th><th colspan="3">デ　　ー　　タ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">クラッチペダル</td><td>遊び</td><td colspan="3">10～20 mm</td></tr>
<tr><td>床板とのすきま</td><td colspan="3">52～74 mm（クラッチが切れたとき）</td></tr>
<tr><td colspan="4"> 

68H80040</td></tr>
<tr><td rowspan="2">パーキングブレーキレバー</td><td rowspan="2">引きしろ</td><td>キャリイ／スーパーキャリイ</td><td colspan="2">6～9 ノッチ
〔操作力 200 N (20 kgf)〕</td></tr>
<tr><td>特装車シリーズ</td><td colspan="2">5～8 ノッチ
〔操作力 200 N (20 kgf)〕</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ドライブベルト</td><td rowspan="3">たわみ量〔100 N (10 kgf)で押したとき〕</td><td rowspan="2">発電機側</td><td>新品時</td><td>8.5～9.6 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>10.5～11.9 mm</td></tr>
<tr><td colspan="3"> 
82M80010</td></tr>
<tr><td>ハンドル</td><td>遊び</td><td colspan="3">0～30 mm（ホイール外周）</td></tr>
<tr><td>タイヤ</td><td>ローテーション時期</td><td colspan="3">5,000 km走行ごと</td></tr>
</table>

■ 電球の容量

名　　称			ワット数（型式）	
ヘッドライト	ハロゲン仕様車		60/55 W(H4)	
	LED仕様車		—	※
フォグランプ			19 W(H16)	
車幅灯	ハロゲン仕様車		5 W(W5W)	
	LED仕様車		—	※
方向指示器／非常点滅表示灯	前面		21 W(WY21W)	
	側面	LED 仕様車（ヘッドライト）	5 W(WY5W)	
	後面		16 W(W16W)	
制動灯／尾灯			21/5 W(P21/5W)	
後退灯			16 W(W16W)	
番号灯			5 W(W5W)	
室内灯			8 W	
後部ルームランプ			8 W	
荷台作業灯			5 W	

- 表に記載されている次の電球の場合、点検・交換の際はスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
  ※ 非分解式のランプのため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。

■ タイヤ／ホイール

指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。

タイヤの空気圧

機種	タイヤサイズ	積載条件	空気圧	
			前輪	後輪
キャリイ/スーパーキャリイ	145/80R12 80/78N LT	軽積載（※）	200 kPa (2.0 kgf/cm^2)	240 kPa (2.4 kgf/cm^2)
		定積載	280 kPa (2.8 kgf/cm^2)	350 kPa (3.5 kgf/cm^2)

※軽積載とは、2名以下乗車で積載量100 kg以下を示します。

ホイールのサイズ

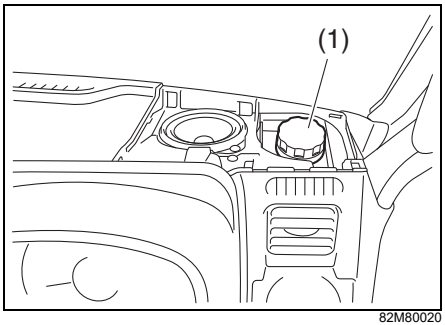
タイヤ	適合ホイール		
	リムサイズ	インセット	取り付けピッチ円直径（PCD）
145/80R12 80/78N LT	12×3.50B	45 mm	100 mm

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

運転席から

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



82M80020

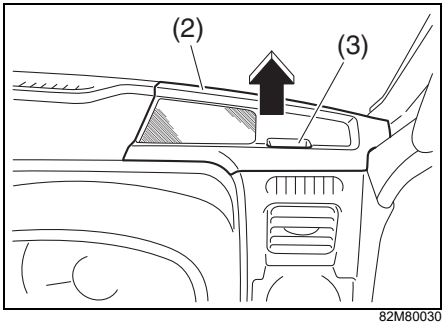
太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

(1) **ブレーキフルードリザーバータンク**

■ リザーバータンクを確認するときは

リザーバータンクは運転席側のインパネ上面にあるカバー（2）を取ると確認できます。

- カバーはとっ手（3）を持って上に引き上げて取り外します。

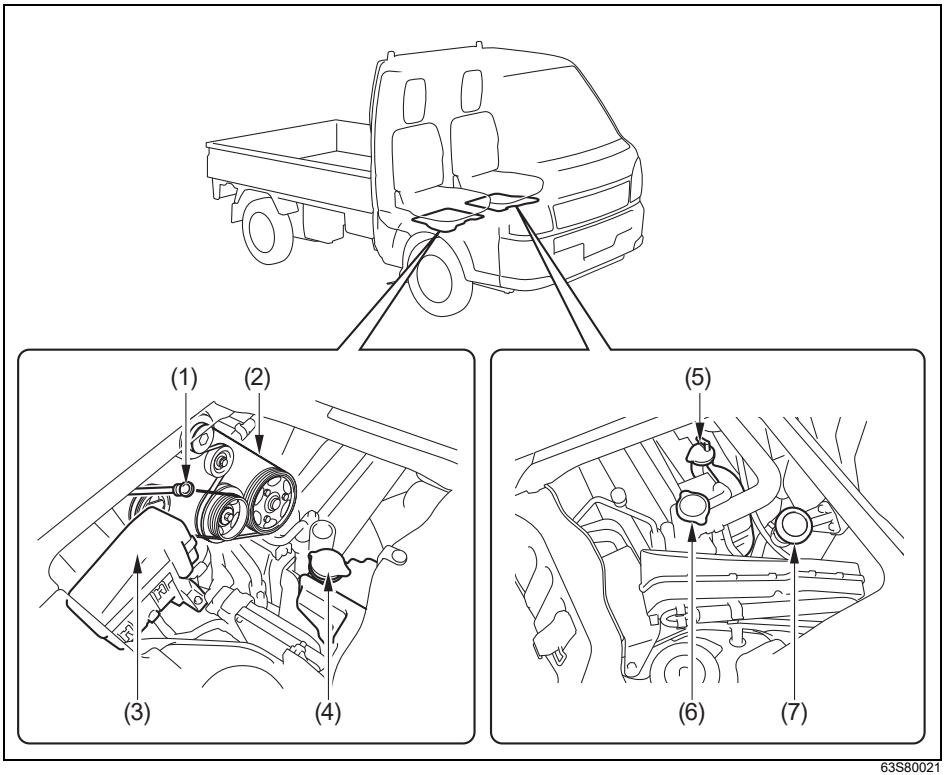


82M80030

8

エンジンルームをのぞいて

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



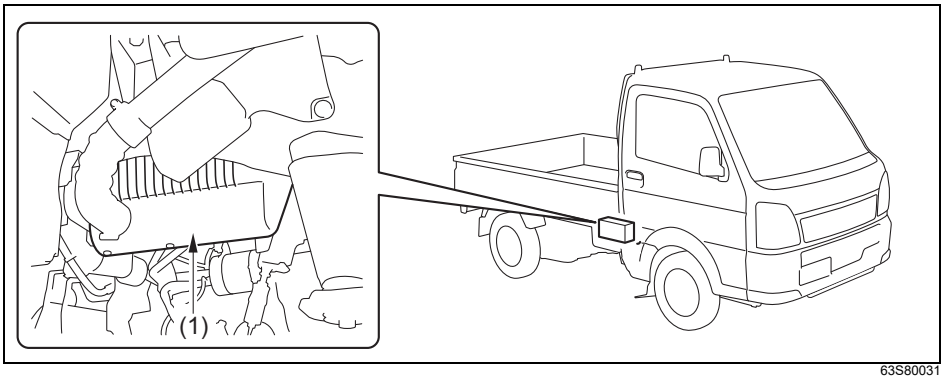
63S80021

太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

(1) **エンジンオイルレベルゲージ**
(2) ドライブベルト
(3) ヒューズボックス
(4) **ウォッシャータンク**
(5) **冷却水リザーバータンク**
(6) ラジエーターキャップ
(7) エンジンオイルフィラーキャップ

お車の右側から見て

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。

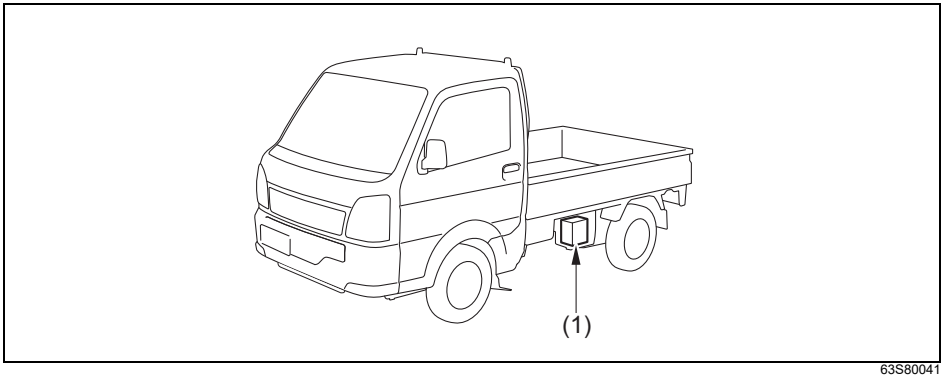


63S80031

(1) エアクリーナー

お車の左側から見て

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



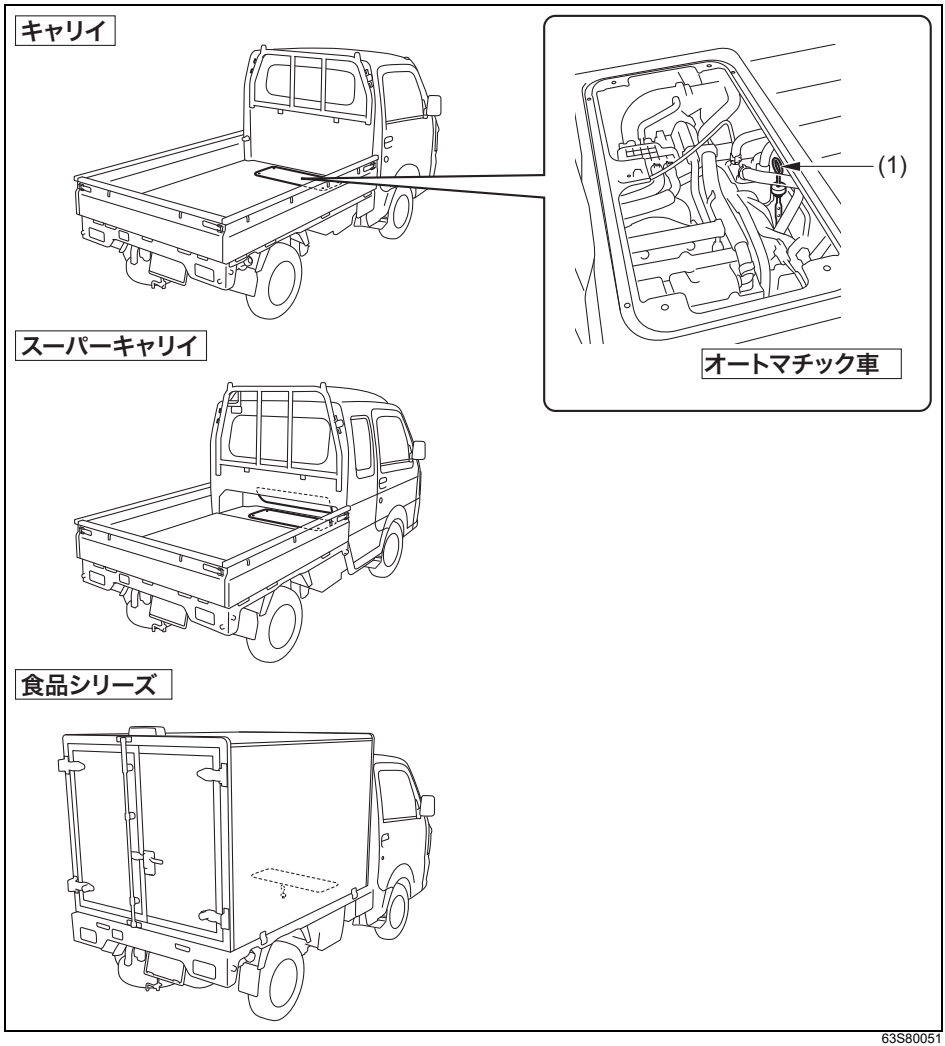
63S80041

太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

(1) **バッテリー**

サービスリッドをのぞいて

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



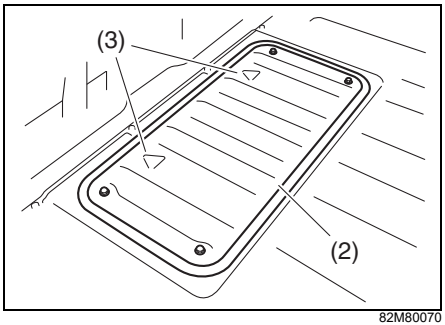
(1) ATフルードレベルゲージ(※1)

※1　食品シリーズの点検についてはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ ATフルードレベルゲージのオイルレベルを確認するときは

ATフルードレベルゲージはサービスリッド（2）を外すと確認できます。

- リッドの取り付けボルトは、12 mmスパナ（市販品）などでゆるめます。
- リッドを取り付けるときは、図のようにマーク（3）を車の前方向にします。



82M80070

こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます

設定切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

項目	機能	初期設定（工場出荷時）	設定切替え時
アンサーバック機能 → **3-6ページ**	非常点滅表示灯／室内灯による合図	非常点滅表示灯/室内灯	室内灯のみ
ハイビームアシスト機能（タイプ別装備） → **4-61ページ**	ヘッドライトの上向きと下向きを自動的に切り替える機能	あり	なし

数字

4WD切替えレバー ····· 4-25
4WD車の運転 ····· 2-28
4WDスイッチ ····· 4-29
4WD表示灯 ····· 4-31
4WDへの切替え操作 ····· 4-25

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)
　警告灯 ····· 3-48、4-38
　装置 ····· 4-35
AM/FMラジオ ····· 5-9
AUX端子 ····· 5-24

C

CDプレーヤー ····· 5-14
CDを聴く ····· 5-21

D

DCBS(デュアルカメラ
　ブレーキサポート) ····· 4-50

E

ESP® ····· 4-31
ESP® OFFスイッチ ····· 4-33
ESP® OFF表示灯 ····· 3-56、4-34
ESP®作動表示灯 ····· 3-56、4-32

L

LEDヘッドライト ····· 7-26、8-4

R

R(リバース)ポジション警告ブザー
　····· 2-24、4-19

S

SRSエアバッグ警告灯
　····· 3-20、3-35、3-47
SRSエアバッグシステム ····2-26、3-28

ア

アイドリングストップシステム ···· 4-6
アイドリングストップシステム
　OFFスイッチ ····· 4-11
アイドリングストップシステム
　OFF表示灯 ····· 3-60
アイドリングストップ表示灯 ····· 3-60
アクセサリーソケット ····· 5-45
アンサーバック機能 ····· 3-6
アンテナ ····· 5-8

イ

インパネトレー ····· 5-39
インパネボックス ····· 5-39

ウ

ウインドー ····· 3-6
　ウインドーロックスイッチ ····· 3-7
　運転席、助手席での開閉 ····· 3-10
　パワーウインドー ····· 3-6
　フロントガラスの手入れ ····· 6-4
　フロントガラスの
　　室内側の手入れ ····· 6-5
ウェアインジケーター ····· 6-6
ウォッシャー液 ·····6-11、8-2、8-7
ウォッシャースイッチ ····· 3-67

エ

エアコン、ヒーター
　吹出し口 ····· 5-2
エアフィルター ····· 5-7
エコドライブ ····· 2-32
エンジンオイル ····· 2-31、3-51、8-1
エンジンオイル交換
　インジケーター ····· 3-42、3-55
エンジンキー ····· 3-2
エンジン警告灯 ····· 3-49
エンジンスイッチ ····· 4-2
エンジンのかけかた ····· 4-3
エンジンの止めかた ····· 4-4
エンジンブレーキ ····· 2-15
エンジンルームをのぞいて ····· 8-7
エンジンを止めるときは ····· 4-4
エンスト ····· 7-41

オ

オートマチック車
　運転 ····· 4-20
　セレクトレバー ····· 4-14
オーバードライブOFF表示 ····· 3-54
オーバーヒート ····· 7-38
オーバードライブ(O/D)スイッチ
　OFF表示 ····· 4-17
　装置 ····· 4-17
オイル(エンジンオイル)
　····· 2-31、3-51、8-1
オーディオ ····· 5-8
オーバーヘッドシェルフ ····· 5-46
お子さまを乗せるときは ····· 2-5
オドメーター(積算距離計) ····· 3-38
音楽(CD)を聴く ····· 5-21

カ

カードケース ····· 5-42
外気導入 ····· 5-6
外装のお手入れ ····· 6-2
外部入力(AUX)端子 ····· 5-24
ガソリン(燃料) ····· 2-24、8-1
仮眠するときは ····· 2-21
ガレージジャッキ ····· 7-14
冠水した場所 ····· 2-17
寒冷時の取扱い ····· 6-11

キ

キー(エンジンキー) ····· 3-2
キーインターロック ····· 4-18
キースイッチ(エンジンスイッチ) ··· 4-2
キーナンバープレート ····· 3-2
キー抜き忘れ警告ブザー ····· 4-5
キーレスエントリー ····· 3-5
キーを抜くときは ····· 4-5
キックダウン ····· 4-18
キャップホルダー ····· 5-29
給油 ····· 2-22、5-28、8-1

ク

空気圧 ····· 8-5
くもり取り(デフロスター) ····· 5-2
クラッチスタートシステム ····· 4-4
クリープ現象 ····· 2-24、4-18
車のお手入れ ····· 6-2
グローブボックス ····· 5-40

ケ

警告灯 …… 1-10
警告灯・表示灯の見かた …… 3-46
警告ブザー
R(リバース)ポジション警告ブザー
…… 2-24、4-19
キー抜き忘れ警告ブザー……4-5
警告ブザー(室内ブザー)が
鳴ったときは…… 1-18
ライト消し忘れ警告ブザー…… 3-64
携帯電話 …… 2-13
けん引 …… 7-42

コ

工具、ジャッキの収納場所……7-2
光軸調整ダイヤル…… 3-65
後退灯 …… 7-35
後方誤発進抑制機能…… 4-70
後方誤発進抑制機能作動表示灯… 3-59
後方誤発進抑制機能をOFFにするには
…… 4-73
故障したときは…… 7-40
誤発進抑制機能…… 4-55

サ

サービスデータ……8-1
サイドアンダービューミラー…… 3-15
サイドゲート…… 3-12
作業灯スイッチ…… 3-69
サンバイザー…… 5-36

シ

シート …… 3-15
シートバックポケット(運転席)… 5-43
シートベルト …… 3-17
シートベルト警告灯 …… 3-47
シートベルトフォース
リミッター …… 3-21
シートベルトプリテンショナー… 3-20
シートバックスペース …… 5-48
シートバックスペース
ポケット(運転席側) …… 5-48
事故が起きたときは …… 7-46
室内灯 …… 5-38
シフトダウンの上限速度 …… 4-13
シフトロック …… 4-15
車線逸脱警報 …… 4-58
車線逸脱警報OFFスイッチ …… 4-66
車線逸脱警報OFF表示灯 …… 3-58
車線逸脱警報作動表示灯 …… 3-58
ジャッキアップ
(タイヤチェーン) …… 6-18
ジャッキアップ(パンクしたとき)
…… 7-11
車幅灯 …… 7-26
集中ドアロック
(パワードアロック) …… 3-4
充電警告灯 …… 3-51
樹脂部品などの手入れ …… 6-5
出発の前に …… 2-2
手動ウインドー …… 3-10
ジュニアシート …… 3-24
助手席シートバックテーブル …… 5-47

ス

水温警告灯 ····· 3-49、7-38
水没したときは ····· 7-45
スズキ セーフティ サポート ····· 4-40
後方 ····· 4-66
誤発進抑制機能 ····· 4-55
車線逸脱警報 ····· 4-58
車線逸脱警報OFFスイッチ ····· 4-66
ステレオカメラ ····· 4-41
先行車発進お知らせ機能 ····· 4-60
前方 ····· 4-41
デュアルカメラブレーキサポート（DCBS） ····· 4-50
デュアルカメラブレーキサポート（DCBS）OFFスイッチ ····· 4-65
ハイビームアシスト ····· 4-61
ふらつき警報 ····· 4-59
スタック（立ち往生） ····· 2-18
ステレオカメラ ····· 4-41
スノーブレード ····· 6-12
スピードメーター（速度計） ····· 3-37
スペアタイヤ
空気が充填されたスペアタイヤの収納のしかた ····· 7-8
取り出しかた ····· 7-6

セ

セレクトレバー
操作 ····· 4-14
セレクトレバー位置表示 ····· 3-61
先行車発進お知らせ機能 ····· 4-60
洗車 ····· 6-2
前照灯（ヘッドライト） ····· 8-4

ソ

走行中の注意 ····· 2-12
速度計（スピードメーター） ····· 3-37

タ

タイマーロック機能 ····· 3-6
タイヤ
空気圧 ····· 8-5
交換したあとは ····· 7-17
交換するときは ····· 6-6
交換の準備 ····· 7-10
チェーン ····· 6-17、8-5
パンクしたタイヤの収納のしかた ····· 7-6
冬用タイヤ ····· 6-15
ホイールサイズ ····· 8-5
ローテーション ····· 6-6
輪止め ····· 2-20、6-12
立ち往生（スタック） ····· 2-18
暖機運転 ····· 2-33

チ

チェーン（タイヤチェーン） ··· 6-17、8-5
チケットホルダー（サンバイザー） ····· 5-36
チャイルドシート ····· 3-24
駐車するときは ····· 2-19、4-23、6-15
超音波センサー ····· 4-66

テ

停止表示板 ····· 7-40
デフロスター ····· 5-2
デフロックスイッチ ····· 4-29
デュアルカメラブレーキサポート
(DCBS)OFF表示灯 ····· 3-57
デュアルカメラブレーキサポート
(DCBS)作動表示灯 ····· 3-57
デュアルカメラブレーキサポート
(DCBS) ····· 4-50
デュアルカメラブレーキサポート
(DCBS)OFFスイッチ ····· 4-65
電球
電球の交換(ランプ類) ····· 7-25
電球の点検 ····· 7-25
ワット数(ランプ類) ····· 8-4
点検 ····· 2-2、8-1
電池交換(リモコンキー) ····· 6-7

ト

ドア ····· 3-3
ドアの開閉 ····· 3-2
ドアポケット ····· 5-43
ドアミラー ····· 3-14
凍結防止剤 ····· 6-2、6-16
凍結路 ····· 6-14
時計(時計あわせ) ····· 5-13、5-17
登坂変速制御 ····· 4-18
トランスミッション警告灯 ····· 3-52
トリップメーター(区間距離計) ··· 3-38
ドリンクホルダー ····· 5-41

ナ

内気循環 ····· 5-6
内装のお手入れ ····· 6-4

ニ

荷台作業灯 ····· 7-36
荷台ステップ ····· 5-35
日常点検 ····· 2-2

ネ

燃料 ····· 2-24、8-1
燃料給油口 ····· 5-28
燃料計 ····· 3-37
燃料残量警告灯 ····· 3-48
燃料タンク容量 ····· 8-1

ハ

パーキングブレーキ
　寒冷時の取扱い ……6-15
　操作 ……4-12
　ブレーキ警告灯 ……3-46
ハイドロプレーニング現象 ……2-17
ハイビームアシスト ……4-61
ハイビームアシスト警告灯 ……3-53
ハイビームアシスト作動表示灯 …3-59
はさみ込み防止機構 …… 3-8
発炎筒 ……7-40
バックウインドーガラス
　室内側の手入れ …… 6-5
バックブザー ……4-13
バックミラー(ルームミラー) ……3-14
バッテリー …… 2-3
バッテリーあがり ……7-18
バッテリーカバー ……7-18
バニティーミラー
　(サンバイザー) ……5-37
ハロゲンヘッドライト ……7-26、8-4
パワーウインドー …… 3-6
パワーステアリング警告灯 ……3-50
パワードアロック …… 3-4
パンク
　タイヤ交換 ……7-10
番号灯 ……7-36
ハンドルロックが
　解除できないときは …… 4-3

ヒ

ヒーター(エアコン) …… 5-2
非常点滅表示灯 …… 8-4
非常点滅表示灯スイッチ ……3-67
必読！ …… 2-2
ヒューズ切れ ……7-21
日よけ(サンバイザー) ……5-36
ヒルホールドコントロール ……4-38

フ

ブースターケーブル…… 7-18
フォグランプスイッチ…… 3-65
フューエルキャップ…… 5-28
ふらつき警報…… 4-59
ブレーキ
　ブレーキ液……8-2
　ブレーキ警告灯…… 3-46
　ブレーキ倍力装置…… 2-15、4-4、7-44
ブレーキペダル……8-2
フロアトレー…… 5-42

ヘ

ヘッドライト(前照灯)……8-4
ヘッドライト上向き(ハイビーム)
　表示灯…… 3-54
ベビーシート…… 3-24

ホ

ホイールサイズ……8-5
方向指示器……8-4
方向指示器スイッチ…… 3-66
方向指示器表示灯…… 3-54
ホーンスイッチ…… 3-69

マ

マスターウォーニング…… 3-52
万一のとき……7-1

ミ

ミラー
サイドアンダービューミラー… 3-15
ドアミラー…… 3-14
ルームミラー…… 3-14
バニティーミラー
（サンバイザー）…… 5-37

メ

メーターの照明…… 3-39
メーターの見かた…… 3-36

ユ

油圧警告灯…… 3-51
雪道を走行するとき…… 6-14

ヨ

よくあるご質問…… 1-21
横風が強いときは…… 2-16

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー…… 3-64
ライト自動消灯システム…… 3-64
ライトスイッチ…… 3-62
ラジエーターキャップ…… 7-39、8-7
ラジオ…… 5-9、5-18
ランプ
後退灯…… 7-35
室内灯…… 5-38
電球の交換（ランプ類）…… 7-25
番号灯…… 7-36
非常点滅表示灯…… 3-67、8-4
フォグランプ…… 3-65
ヘッドライト……8-4
方向指示器…… 3-66、8-4
リヤコンビネーションランプ… 7-34
ワット数、型式（ランプ類）……8-4

リ

リジッドラック …… 7-14
リバース（R）ポジション警告ブザー
……2-24、4-19
リモコンキーの電池交換 …… 6-7
リヤゲート …… 3-11
リヤゲートガター …… 3-13
リヤゲートチェーン …… 3-13
リヤコンビネーションランプ …… 7-34

ル

ルームミラー …… 3-14
ルームランプ（室内灯） …… 5-38

レ

冷却水（ラジエーター液）
オーバーヒート …… 7-39
寒冷時の取扱い …… 6-11
規定水量 …… 8-2

ワ

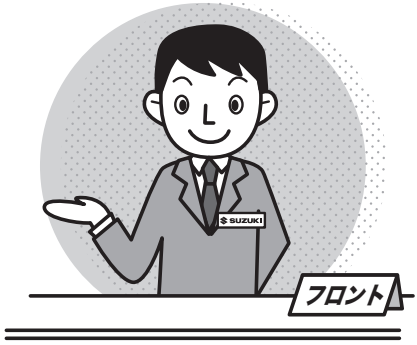
ワイパー
寒冷時の取扱い …… 6-12、6-13、6-16
ワイパースイッチ …… 3-68
ワイパーブレードラバーの交換 …… 6-9
ワックス …… 6-2

MEMO

お問い合わせ、ご相談は

お車のことや、車検・点検などのアフターサービスについてのお問い合わせやご相談がございましたら

まずは、お買い求めいただきましたスズキ販売店またはスズキ代理店にお尋ねください。



スズキ代理店にお問い合わせやご相談をいただくときは、別冊の「**スズキ4輪車サービスネットワーク**」に記載してありますお近くの代理店にお気軽にご連絡ください。**お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするため、あらかじめ、お手元に車検証をご準備いただき、次の事項をご確認のうえ、ご連絡願います。**

①車名、車台番号、ナンバープレートの番号など
②ご購入年月日
③走行距離
④ご相談内容
⑤お客様のご住所、お名前、お電話番号